

平成28年度
内航船員の雇用動向及び船員教育内容
に関するニーズ調査報告書

平成29年3月

公益財団法人 海技教育財団

まえがき

この報告書は、平成28年度公益財団法人海技教育財団の事業として、公益財団法人日本海事センターの補助を受けて実施した「内航船員の雇用動向及び船員教育内容に関するアンケート調査」及び「若年船員に対するアンケート調査」を取りまとめたものです。

内航海運業界では、高齢化の進展と後継者不足が進み、50歳以上の内航船員が占める割合は、半数以上の55.4%となっています。わが国にとって、内航船員の確保・育成は、重要な施策であり、物資の安全かつ安定的な輸送を求められる内航海運業界のニーズにふさわしい有能な船員に育て、かつ、定着を確実なものにしていくため、海運関係者は、これまでにも、船員確保・育成のための様々な取組を進めてきています。

独立行政法人海技教育機構は、内航船員養成のための学科教育と練習船による航海訓練を通じた一貫教育を実施する基幹的な教育機関です。今後とも内航海運業界のニーズに応え、その教育体制、教育内容の改善を図りつつ内航海運の中核となるべき船員を養成する必要があるものと思われまます。

このような状況から、当財団は、これまでも海技教育支援事業の一環として、内航海運業界のニーズを把握するために、内航海運業者の船員の採用状況や就業実態、船員職業への定着、習得させたい職務能力等についてアンケート調査をさせていただいてまいりましたが、今回の調査は、平成23年度以来5年ぶりに実施するものであり、これにより現下の内航海運業界の船員教育に対する要望やニーズを把握し、独立行政法人海技教育機構の内航船員の教育内容の改善に資することを目的とするものであります。

当調査の実施及び報告書の取りまとめに当たっては、国土交通省海事局海技・振興課船員教育室、独立行政法人海技教育機構及び日本内航海運組合総連合会を初め関係者の皆様から多大なるご協力をいただきました。ここに報告書として取りまとめ皆様方に深く感謝申し上げますとともに、皆様方の事業推進のお役に立ていただければ幸いです。

平成29年3月

公益財団法人海技教育財団
理事長 中西基員

平成28年度
内航船員の雇用動向及び船員教育内容
に関するニーズ調査報告書

目 次

A	調査の概要	
1	調査の目的	1
2	調査対象と配布数	1
3	調査時期	1
4	回収状況	1
5	調査票	1
6	集計・分析	1
B	船会社調査結果	
1	調査対象船会社の状況	2
2	雇用船員の状況	6
3	採用見通し	13
4	(独)海技教育機構の学校教育	17
5	(独)海技教育機構の学校卒業者の採用と職業履歴	20
6	教育内容に関する自由記述回答	23
	まとめ	24
C	若年船員調査結果	
1	若年船員の実態	25
2	若年船員の職業経歴と定着意識	28
3	(独)海技教育機構卒業生の学校教育の評価	32
4	練習船の実習	36
5	内航船員教育に関する自由記述回答	38
	まとめ	38
資料A	アンケート調査票	40
資料B	船会社調査集計及び記述回答	52
資料C	若年船員調査集計表及び記述回答	108

A 調査の概要

1 調査の目的

国内で就業する船員の雇用動向と若年船員の就業実態及び船員教育についての意識を把握し、今後の船員教育の改善のための資料を得る。

2 調査対象と配布数

① 船会社調査

平成 24 年度～27 年度に（独）海技教育機構の海上技術学校及び海上技術短期大学の卒業生を採用した実績のある船会社 286 社と、海技教育機構が平成 28 年度に求人依頼をした会社と船舶明細書から無作為に抽出した 314 社の合計 600 社を調査対象会社とし、（公財）海技教育財団が調査票を郵送で配布し、回答を記入後に当財団へ郵送で回収した。

② 若年船員調査

船会社調査の対象会社に、30 歳未満の船員に対する若年船員調査票を各社 3 名分（但し 30 歳未満船員が 3 名以上在籍とは限らない）、総数 1,800 名分を当財団から送付し、会社から船員に配布してもらい、記入後に直接に当財団へ郵送で回収した。

3 調査時期

平成 28 年 10 月 11 日に調査票を発送し、11 月末日を締切日とした。

4 回収状況

最終的に、同年 12 月下旬をもって締め切ったところ、船会社は 600 通の配布に対して、231 社から回収（回収率 38.5%）し、221 社が有効回答（有効回答率 36.5%）であった。採用・退職の実績（問 6）により海技教育機構の 3 種の学校卒業生の採用有無で分けると、採用会社は 121 (+ α) 社、無採用会社は 66 (- α) 社であった（ここで α は採用・退職が無記入で採用の弁別不能な 34 社のうち採用会社数）。若年船員は、1,800 通の配布に対して、529 名から回収し（回収率 29.4%）、517 通が有効回答（有効回答率 28.7%）であった。

5 調査票

船会社調査票は資料 A-1、若年船員調査票は資料 A-2 のとおりである。

6 集計・分析

各調査票の質問について、回答番号の度数集計を行い、本文のグラフに示し、その集計表を資料編に示す。船会社の所在地域や、若年船員の出身学校別に、各質問間の度数集計（クロス集計）を行い、資料編の付表に示す。また記述回答は整理して資料編に一覧表で示す。

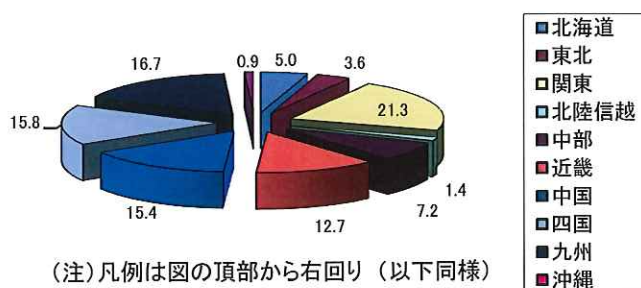
B 船会社調査結果

1 調査対象船会社の状況

(1) 船会社の所在地と業種

① 船会社の所在地（問1、図B1-1-1） [B1-1-1]（前回調査報告書の表番号と同じ、以下同様）
 本調査に回答した船会社の所在地を運輸局ごとにみると、「関東」21.3%（+2.7%：前回との差、以下同様）、「九州」16.7%（+0.2%）、「四国」15.8%（-0.7%）、「中国」15.4%（-3.6%）、「近畿」12.7%（-0.7%）の順に多い。「北海道」と「東北」8.6%（+1.3%）、「関東」と「北陸信越」22.7%（+2.8%）、「中部」と「近畿」19.9%（+0.9%）、「九州」と「沖縄」17.6%（-0.6%）を各1ブロックにすると、「中国」、「四国」と合わせて、「東北」と「北海道」以外の5ブロックに20%弱ずつ所在している。（表B1-1-1参照）

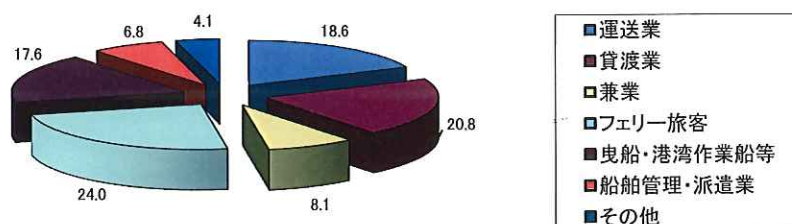
図 B 1 - 1 - 1 船社所在地（運輸局）



② 船会社の業種（問2、図B1-1-2） [B1-1-2]

業種を旧内航2法の分類と業態の分類による会社数は、最も多いのが「フェリー・旅客船」24.0%（+0.6%）、次いで「貸渡業」20.8%（-6.9%）、「曳船・港湾作業船等」17.6%（+1.6%）、「運送業」18.6%（+4.3%）、「兼業」8.1%（-3.2%）、「船舶管理・派遣業」6.8%（+3.1%）の順であり、「その他」4.1%には「防災船」などが含まれる。「船舶管理・派遣業」は会社数としては少ないが船員数は多い。前回の調査に比べ「貸渡業」の変化が大きい。（表B1-1-2参照）

図 B 1 - 1 - 2 業種別船社数



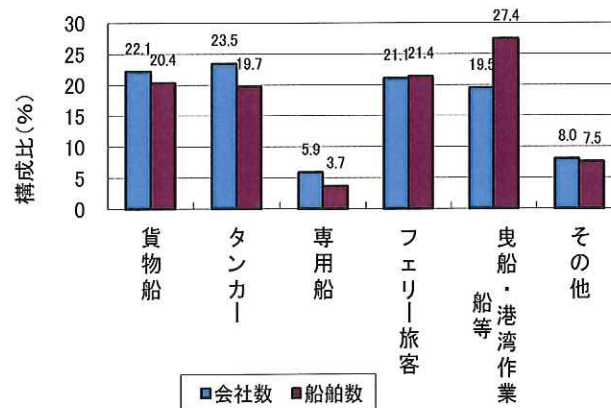
(2) 船会社の所有船舶数

① 船種別会社数・船舶数 (問3、図 B1-2-1) [B1-2-1.2.3.4.5]

220社が回答し、所有船種別(隻数の多い船種)の会社数は延べ375社であり、これに対する各船種別の会社数の比率は、「タンカー」23.5%(+2.5%)、「貨物船」22.1%(-0.8%)、「フェリー・旅客船」21.1%(-3.2%)、「曳船・港湾作業船等」19.5%(+0.9%)である。

所有船の船舶総数は1,007隻であり、これに対する各船種の船舶数の比率は、「曳船・港湾作業船等」27.4%(-1.3%)、「フェリー・旅客」21.4%(+3.7%)、「貨物船」20.4%(+3.6%)、「タンカー」19.7%(+2.8%)である。(表B1-2-1・2・3・4・5参照)

B1-2-1 業種別船社数・船舶数

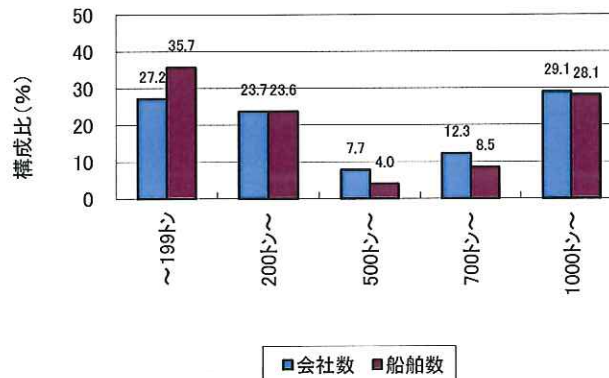


② トン数別会社数・船舶数 (問3、図 B1-2-2) [B1-2-1.2.3.4.5]

同様に総トン数階級別(多い隻数のトン数階級、ただし大型船を2倍の隻数として分類)に集計した延べ会社数は375社であり、これに対する各トン数階級別の会社数の比率は大型と小型に分かれ、それぞれ30%前後である。

所有船の船舶総数は1,007隻であり、これに対する各階級の船舶数の比率は「200総トン未満」35.7%(-4.9%)、「200~499総トン」23.6%(-0.1%)で全体のそれぞれ1/3を占めている。(表B1-2-1・2・3・4・5参照)

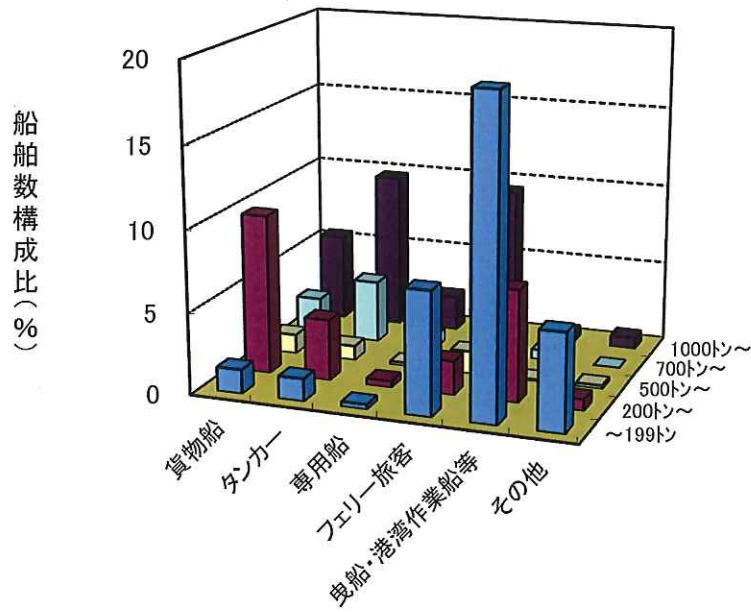
図 B1-2-2 総トン数別会社数・船舶数



③ 船種と船型（問3、図B1-2-3） [B1-2-1.2.3.4.5]

それぞれの船種と船型に含まれる船舶数の船舶数全体に対する頻度は、「～199総トン」の「曳船・港湾作業船等」が最も多く 19.3%（-1.2%）であり、10%に近いのは「200総トン～」の「貨物船」及び「1000総トン」以上の「タンカー」と「フェリー・旅客船」、「～199総トン」の「フェリー・旅客船」と「その他」である。（表B1-2-1・2・3・4・5参照）

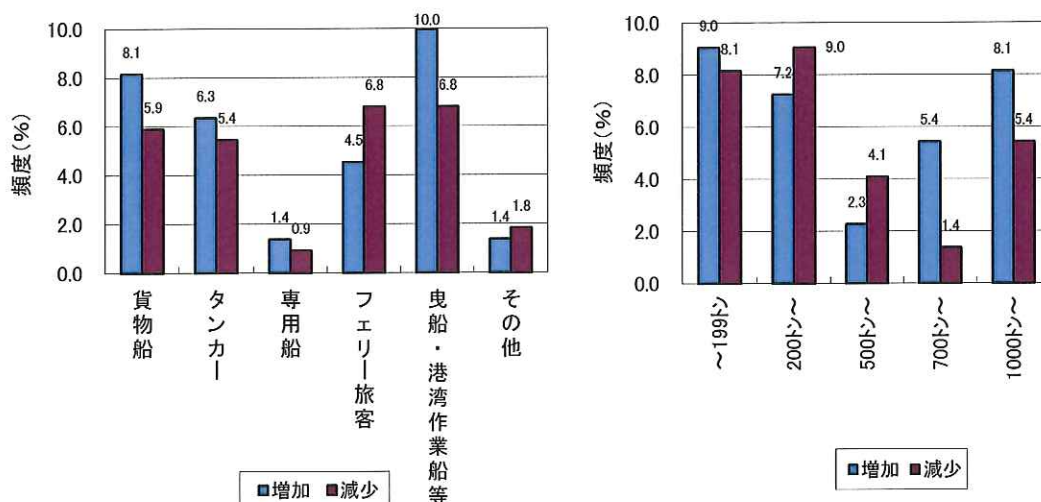
図 B1-2-3 総トン数別船舶数の割合



④ 船舶数増減の会社数（問3、図B1-2-4）

所有船の増減があった会社の発生頻度（延べ会社数に対する比率）を船種別、船型別に求めた。同じ会社で同じ船型階級に増加隻数と減少隻数が記入してあるケースはリプレイスまたは売買であり、増加と減少のそれぞれに集計した。増加した会社は「曳船・港湾作業船等」がもっとも多く10.0%（+3.9%）、「専用船」と「その他」を除いて、増加、減少とも6%前後である。（表B1-2-1・2・3・4・5参照）

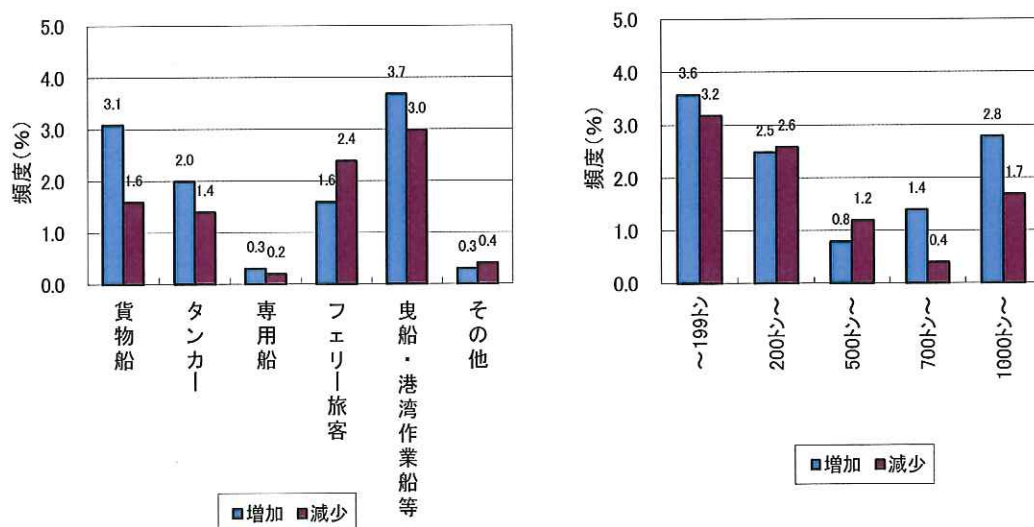
図 B 1 - 2 - 4 船舶数の増減会社頻度



⑤ 船舶数の増減（図 B 1 - 2 - 5） [B 1-2-1.2.3.4.5]

現在の所有船舶数全体に対する増加隻数の比率は2%前後であり、船種別では「フェリー・旅客船」のみが減少しており、総トン数別では「200総トン～」と「500総トン～」が減少している。（表B1-2-1・2・3・4・5参照）

図 B 1 - 2 - 5 船舶数



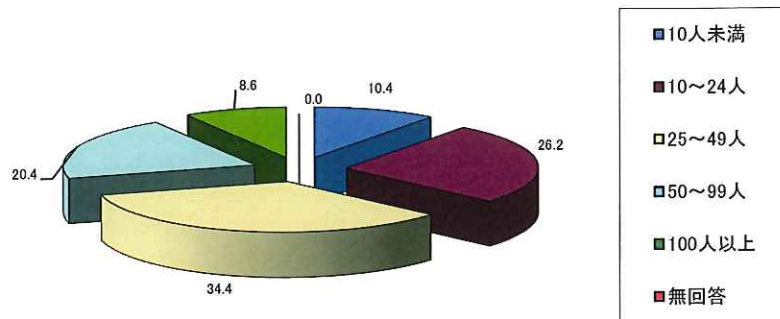
2 雇用船員の状況

(1) 雇用船員

① 雇用船員数別会社数（問4、図B2-1-1） [B 2-1-1]

各社が雇用している総船員数は9,335名（無回答の5社を除く216社、前回調査は同様に無回答13社を除く218社で8,575名）である。雇用船員数階級別の会社数の構成比は、「10人未満」が10.4%（-2.2%）に対して「10～24人」が26.2%（-5.0%）、「25～49人」が34.4%（+7.1%）であり、「50～99人」が20.4%（+4.4%）を占め、内航船社全体では中小船主の比率が高いのに比べ、この調査対象会社では低い比率であり、内航船社全体より大手の船主が多い可能性がある。（表B2-1-1参照）

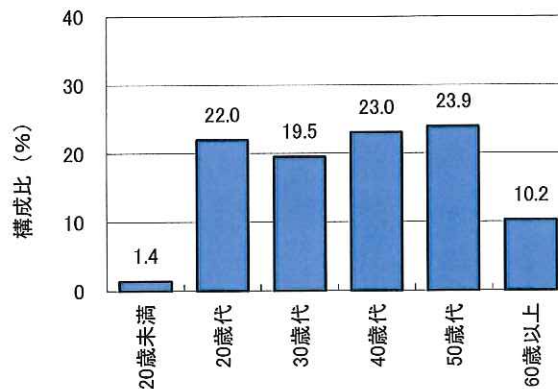
図 B 2 - 1 - 1 雇用船員数



② 雇用船員の年齢分布（問4、図B2-1-2） [B 2-1-2]

年齢階級別の船員数は「20歳未満」1.4%（±0.0%）、「20歳代」から「50歳代」まで大差なく19.5%～23.9%（前回は19.0%～31.0%）であり、50歳代の23.9%（-7.1%）は前回より大幅に減っている。この年齢別人数分布に年齢階級の重み付けをして算出した平均年齢は42.4歳（-0.8歳）であり、若返っており、内航船員全体より10歳ほど若い船員を雇用している。（表2-1-2参照）

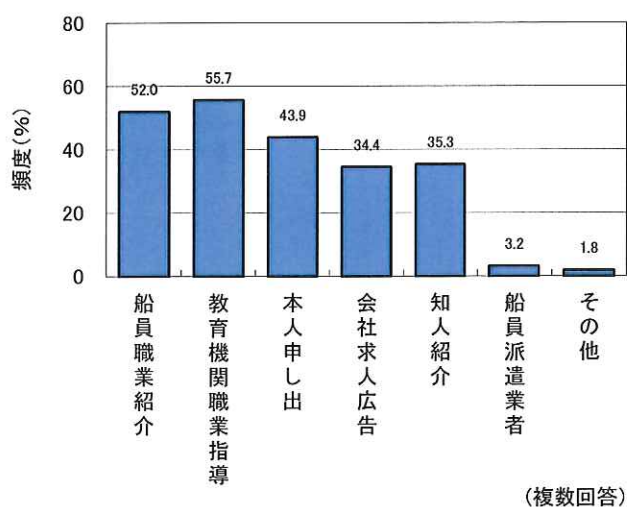
図 B 2 - 1 - 2 雇用船員の年齢構成



③ 雇用船員の採用経緯（問5、図B2-1-3） [B2-1-3]

採用の経緯についての複数回答の頻度は、船員教育機関の「就職指導」55.7% (+0.3%)で最も多く、次いで「船員職業紹介」52.0% (+8.7%)、「本人申し出」43.9% (+7.5%)、「知人紹介」35.3% (+8.5%)、「会社求人広告」34.4% (+10.6%)である。船員教育機関の卒業生を比較的多く採用している会社の特長を示している。いずれも前回に比べて増加しており、募集活動の方法を多くしていることがうかがえる（表B2-1-3参照）

図 B2-1-3 雇用船員の採用経緯



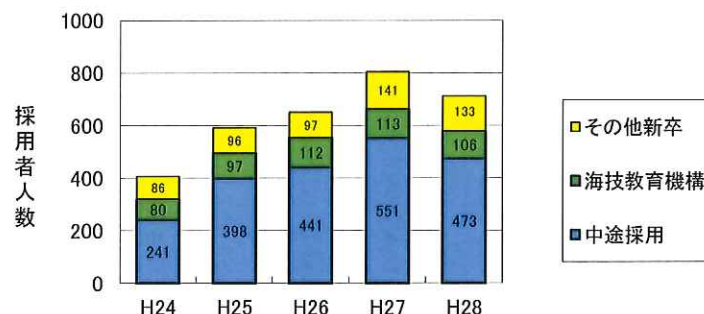
(2) 船員採用の実態

採用・退職の保存記録がない場合や回答を省略した会社 32 社を除く 189 社(雇用船員 7,669 名)の集計であり、一方、短期間雇用を増やした会社などが含まれている。

① 新卒採用及び中途採用の実績 (問 6、図 B 2-2-1) [B 2-2-1.2]

満 1 年の採用実績である 25 年～27 年は、年間約 600～800 名で毎年 100 名ほどずつ増加している。陸上職からの転職を含む「中途採用者」が多く約 2/3 であり、海上技術学校、海上技術短期大学校及び海技大学校卒の「海技教育機構卒」は 100 名前後で一定しており、「その他新卒」は 100 名強 (前は 60 名前後) で少しずつ増えている。(表 B 2-2-1・2)

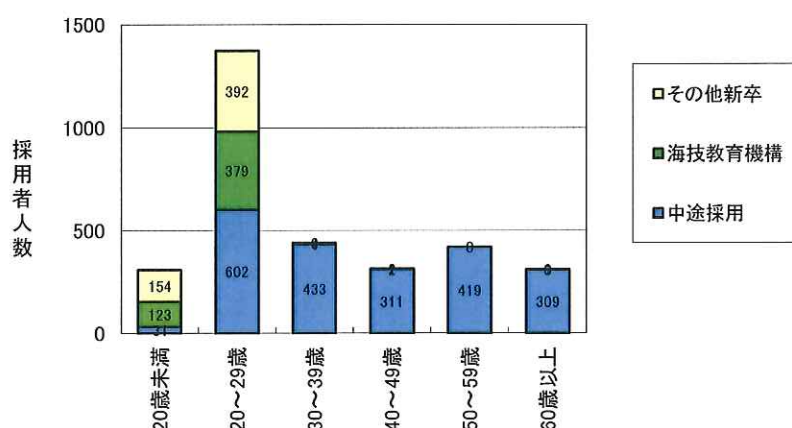
図 B 2-2-1 船員採用の推移



② 採用者の年齢 (問 6、図 B 2-2-2) [B 2-2-1.2]

「中途採用」は 2,109 名、「海技教育機構」と「その他新卒」は、ほぼ同じで 509 名と 522 名である。年齢別では 30 歳未満が半数以上であり、中途採用は各年代とも約 300～600 名である。(表 B 2-2-1・2 参照)

図 B 2-2-2 船員の採用時年齢

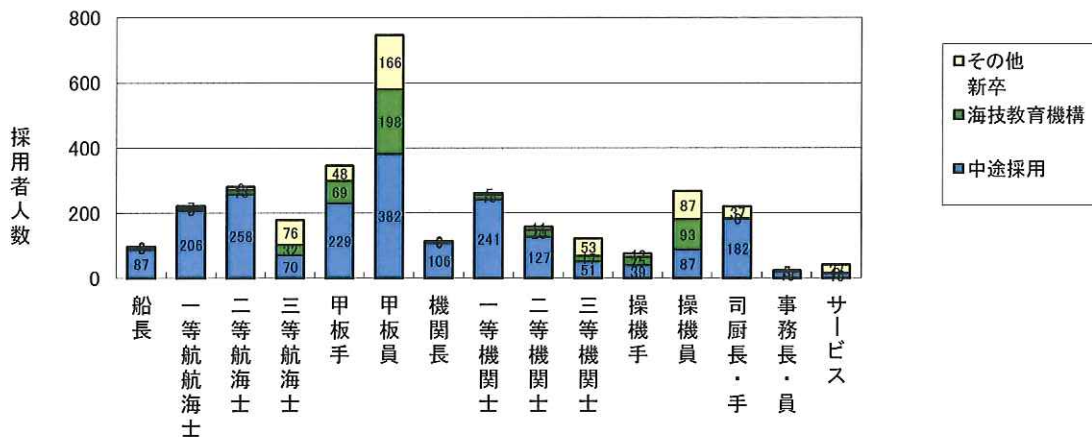


注) 派遣会社では、大量の移動があったケースがある。

③ 採用者の職務（問6、図B2-2-3） [B 2-2-3]

採用者の職務は、甲板員を含む「甲板手」が1/3弱で、その内訳は「中途採用」、「海技教育機構」、「その他新卒」の順である。次いで操機員を含む「操機手」であり、「甲板手」の約1/3で、その内訳は「海技教育機構」が「中途採用」よりやや多く、「その他新卒」は87名である。他は、大半が「中途採用」であるが、「三等航海士」、「三等機関士」及び「サービス」は「その他新卒」が多く、前回調査とほぼ同様である（ただし甲板長、操機長を別集計）。（表B2-2-3参照）

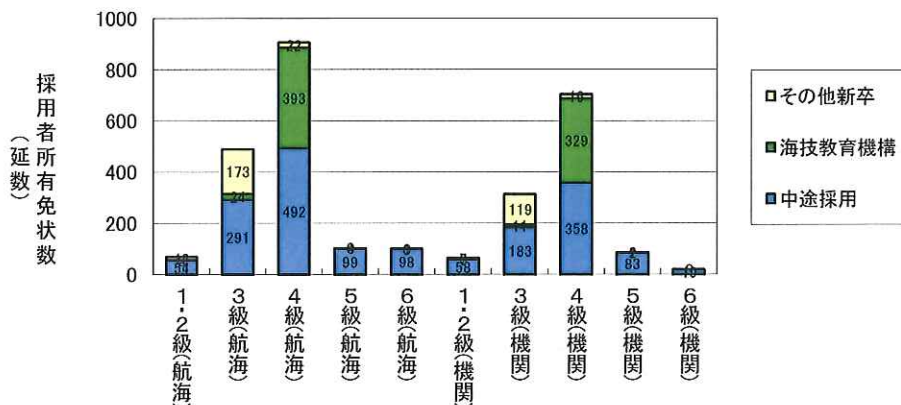
図 B 2 - 2 - 3 採用者の職務



④ 採用者の海技免状（問6、図B2-2-4） [B 2-2-4]

採用者が所有する海技免状（第1）所有者は2,425名で複数（第2）所有者は434名、複数所有者を重複して集計した延べ人数は2,859名である。総数の内、約1/3が「4級（航海）」、約1/4が「4級機関」であり、これらを組み合わせた複数所有者が「海技教育機構」に多く、その大勢を占めている。「中途採用」は各免状の人数分布を構成しているが、「その他新卒」は「3級（航海）」と「3級（機関）」が多かった。（表B2-2-4参照）

図 B 2 - 2 - 4 採用者の海技免状



(3) 船員退職の実態

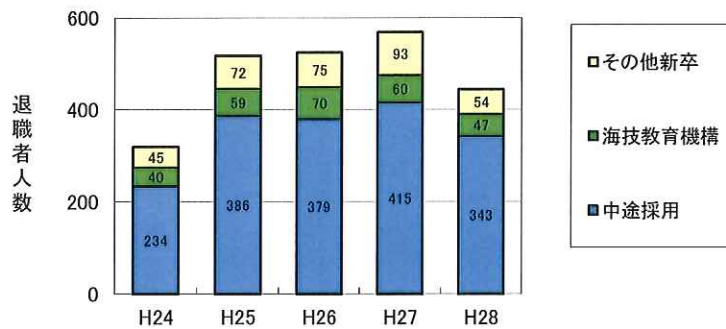
集計対象は採用者と同様で 189 社（雇用船員 7,669 名）である。

① 船員退職の推移（問 6、図 B 2-3-1） [B 2-3-1.2.3]

平成 25 年度から 27 年度の退職者は 500 名前後であり、満 1 年の採用実績である 25 年～27 年は漸増している（ほぼ同期間である 24 年と 28 年を比較すると、後者は約 1.5 倍弱）。27 年度の採用者は 805 名に対し退職者は 568 名であり、採用が増えてきている（前回の 22 年は採用者 397 名に対し退職者 408 名でありほぼ均衡している）。

退職者の内訳は「中途採用」が約 3/4 を占め、「海技教育機構」11.6% (-1.5%)、「その他新卒」14.3% (-0.1%) であり、「その他新卒」の方がやや多かった。（表 2-3-1・2・3 参照）

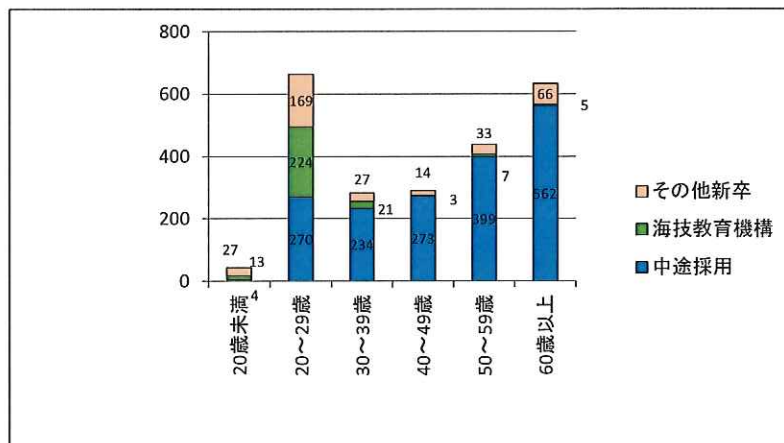
図 B 2-3-1 船員退職の推移



② 退職者の年齢（問 6、図 B 2-3-2） [B 2-3-1.2.3]

20 歳代が最も多く、「中途採用」、「海技教育機構」、「その他新卒」の順で多い。30 歳代と 40 歳代は 300 名弱、それ以上は年齢が高くなるにつれて約 150 名ずつ多い。学卒後に継続して勤務しなかった人の転社が 40 歳以上の退職者を占め、50 歳以上では定年による退職が加わっていたとみられる。（表 B 2-3-1・2・3 参照）

図 B 2-3-2 船員の退職時年齢



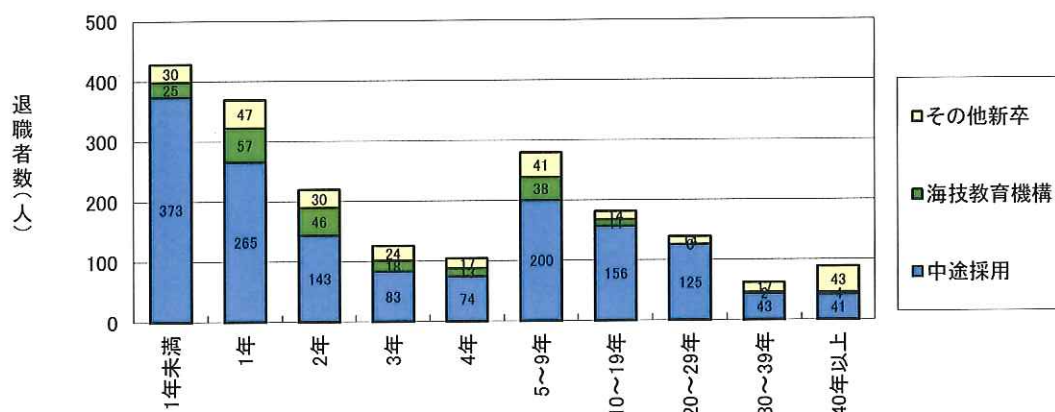
注) 派遣会社は、1社で退職 200 名以上の大量の移動があったケースがある。

③ 退職者の在社年数（問6、図B2-3-3）

退職者の勤続年数は、退職時年齢と採用時年齢の差から求めた。なお、採用時年齢の記述がない回答が多く、これを「無回答」としたため、無回答は382名である。

短期の雇用が含まれる「1年未満」と「1年」が428名と369名であり、その後4年までは漸減し、「5年～9年」で279名と増加している。（表B2-3-1・2・3参照）

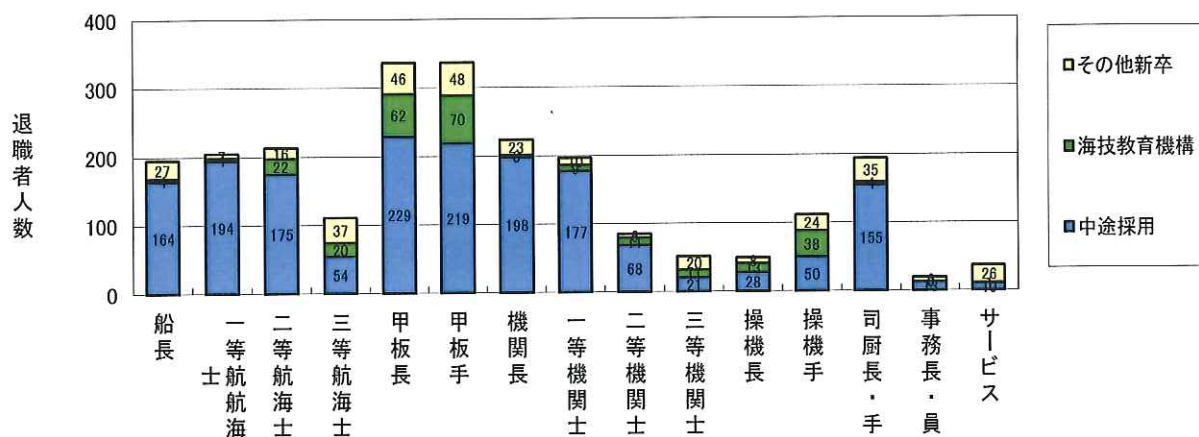
図 B 2 - 3 - 3 退職者の在社年数



④ 退職者の職務（問6、図B2-3-4） [B2-3-4]

退職者は「甲板長」と「甲板手」が同数の337名で多く、前回と比べると「甲板長」は268名増加している。（表B2-3-4参照）

図 B 2 - 3 - 4 退職者の職務

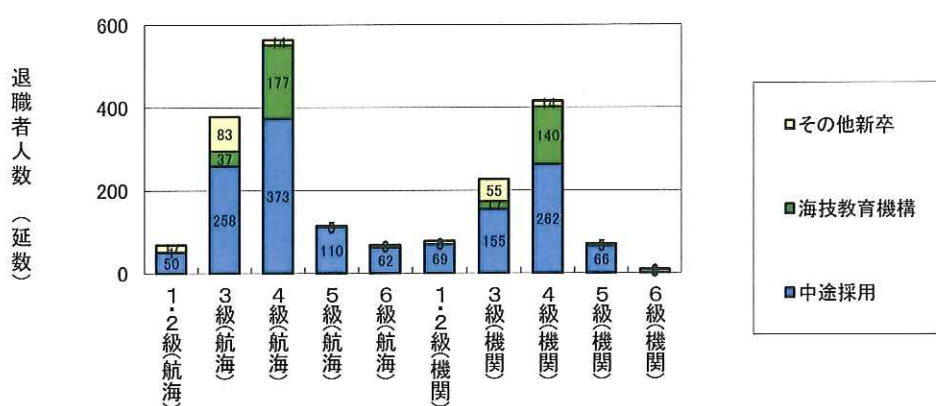


⑤ 退職者の海技免状（問6、図B2-3-5） [B2-3-5]

退職者の海技免状所有者数は1,785名で、複数の所有者数は215名であった。複数所有者を重複して集計した延べ人数は、航海が「4級（航海）」564名と「3級（航海）」378名、機関が「4級（機関）」416名と「3級（機関）」227名であり、航海と機関はそれぞれの級で約10%に相当する40名ほど機関の方が少ない。

内訳はそれぞれ「中途採用」が最も多く、それぞれ3級には「その他新卒」が加わり、4級には「海技教育機構」が加わる。（表B2-3-5参照）

図 B 2 - 3 - 5 退職者の海技免状



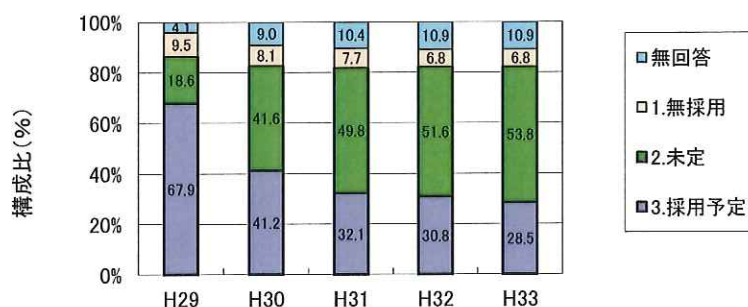
3 採用見通し

(1) 採用予定

① 採用予定（問7、図B3-1-1） [B3-1-1.2.3]

将来の採用は、平成29年度には67.9%（+9.9%、平成22年度との差）が予定している。その先は未定が多くなるため、予定する会社は少なくなるが、採用しないとする会社「無採用」は10%以下である。（表B3-1-1・2・3参照）

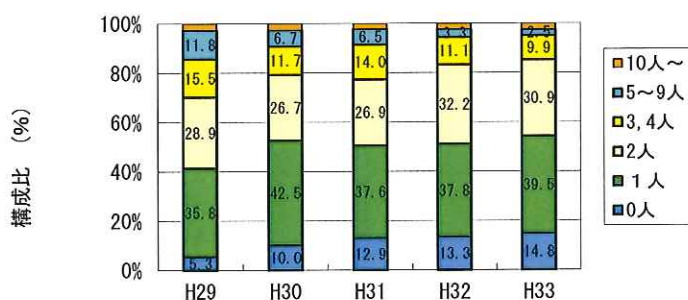
図 B 3 - 1 - 1 船員採用見通し



② 採用予定人数（問7、図B3-1-2） [B3-1-1.2.3]

採用予定を明らかにした会社は、平成29年度に新規学卒採用が371名（133社、22年との差+95名）、その他が105名（+34名）の合計476名（+129名）である。「新規学卒」の各社の採用予定人数別内訳は、年間毎の変動は小さく、「1名」が34.6~48.1%（前回は39.8~45.8%、以下同様）、「2名」が25.9~36.5名（16.9~27.5%）、「3~4名」が7.9~16.5名（8.5~18.6%）、「5名以上」は13.5%以下（9.8%以下）である。（表B3-1-1・2・3参照）

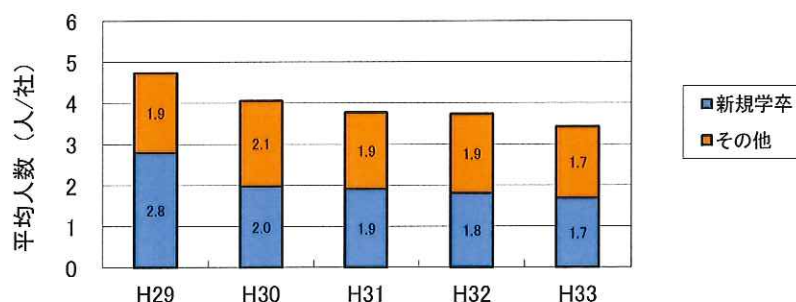
図 B 3 - 1 - 2 採用予定会社の人数



③ 採用予定平均人数（問7、図B3-1-3） [B3-1-1.2.3]

採用を予定している1社あたり平均人数は、新規学卒者が1.7～2.8名（2.1～2.4名）、その他が1.7～2.1名（1.4～1.8名）である。（表B3-1-1・2・3参照）

図 B3-1-3 採用予定平均人数

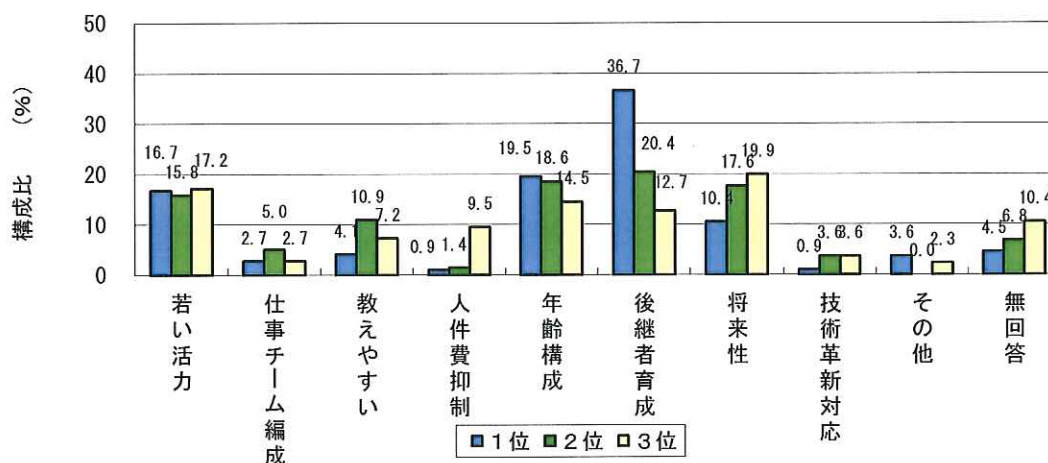


(2) 若年者の採用の背景と給源

① 若年者採用の理由（問8、図B3-2-1） [B3-2-1]

第1位の理由で多いのは「後継者育成」の36.7%（-4.0%）、次いで「年齢構成」が19.5%（-4.3%）、「若い活力」16.7%（-1.5%）である。第2位でも「後継者育成」が最も多く20.4%（-0.4%）である。第3位では「将来性」19.9%（+6.0%）であり、全般的な長いスパンを見据えた理由が多いといえる。（表B3-2-1参照）

図 B3-2-1 若年者採用理由

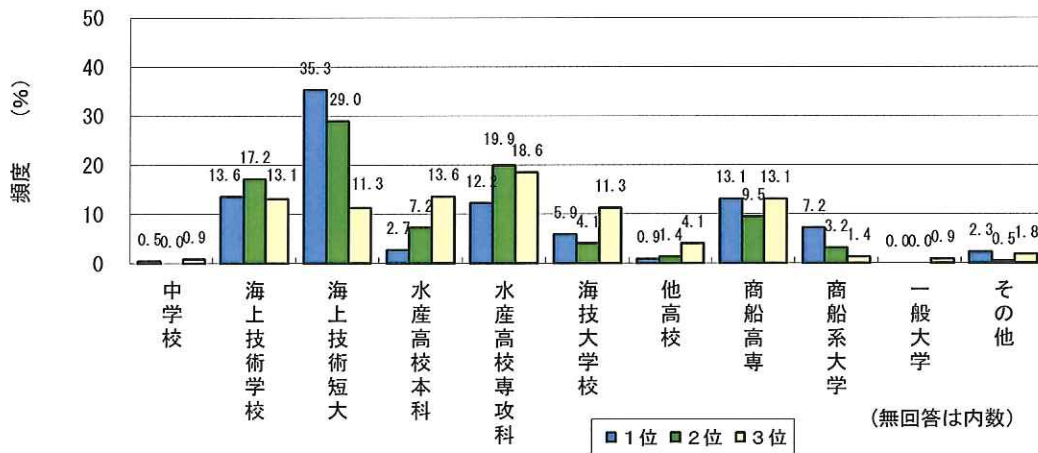


採用理由の記述回答は72件あった。半数近い29件が退職者の補充、10件が高齢化対策、9件が後継者育成としている。（資料編 資料B 問7 採用理由 95～96頁）

② 採用で優先する学校（問9、図B3-2-2） [B3-2-2]

優先する学校の第1位は、「海上技術短期大学校」35.3% (-2.8%)、次いで「海上技術学校」13.6% (-3.3%)、「水産高校専攻科」12.2% (-0.4%)、本科と専攻科を合わせ14.9%、前回より-0.7%)、「商船高専」13.1% (+3.6%)である。第2位は最も多いのは同じであるが、「水産高校専攻科」が「海上技術学校」より僅かに多く19.9% (+1.7%)である。第3位は各学校に分散するが、「水産高校専攻科」がやや多い。(表B3-2-2参照)

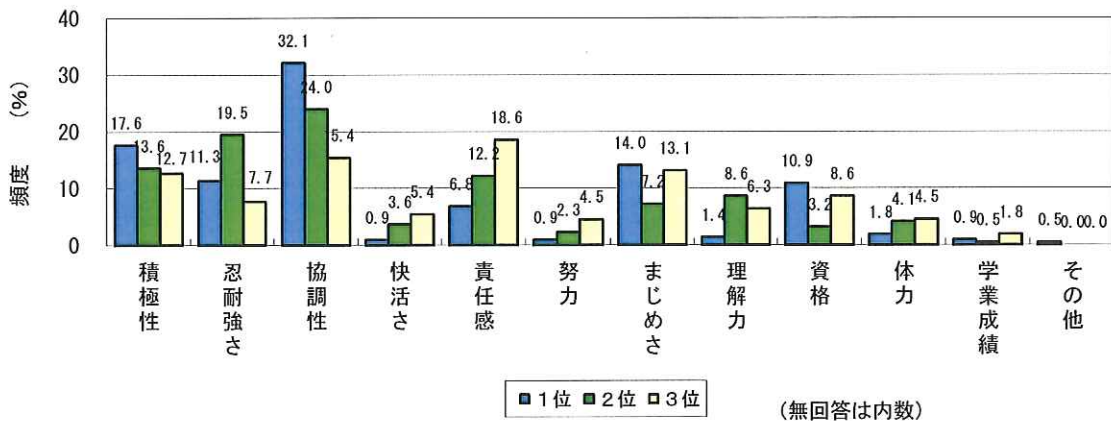
図 B 3 - 2 - 2 優先学校



③ 採用で重視する事項（問10、図B3-2-3） [B3-2-3]

重視する事項は、第1位が「協調性」32.1% (+11.3%)、次いで「積極性」17.6% (+1.6%)、「まじめさ」14.0% (+1.9%)であり、前回2番目だった「資格」は10.9% (-6.8%)と減少している。第2位では「協調性」に次いで「忍耐強さ」19.5% (+6.1%)である。第3位は分散しているが、第1位でも多かった「まじめさ」が13.1% (+2.6%)である。(表B3-2-3参照)

図 B 3 - 2 - 3 採用時の重視事項

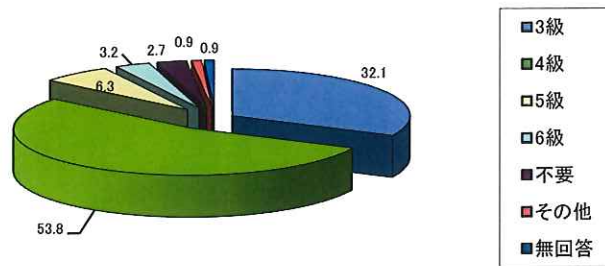


(3)採用予定者の海技免状

① 採用予定者に希望する免状（問 1 1、図 3-3-1・2） [B 3-3-1.2]

採用予定の有無にかかわらず、採用者が所持する海技免状についての希望は、半数以上が「4級海技士免状」53.8%（+5.7%）であり、次いで「3級海技士免状」32.1%（+1.4%）、この2種類がほとんどであり、「その他」には2級海技士免状などがある。（表B 3-3-1・2参照）

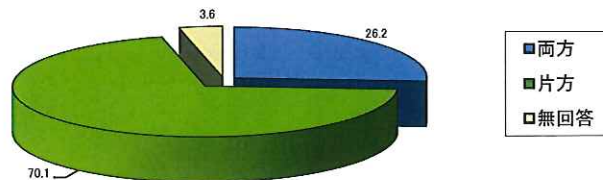
図 B 3-3-1 採用者に希望する海技免状のクラス



② 航海・機関海技士免状の両用（問 1 2、図B 3-3-1・2） [B 3-3-1.2]

航海と機関の海技士免状を共に所持する「両方」を希望する会社は、221社中58社26.2%（-9.7%）であり、「片方」でよいとする会社は、155社の70.1%（+12.1%）よりかなり少ない。（表B 3-3-1・2参照）

図 B 3-3-2 採用者の複数海技免状の希望



4 (独)海技教育機構の学校教育

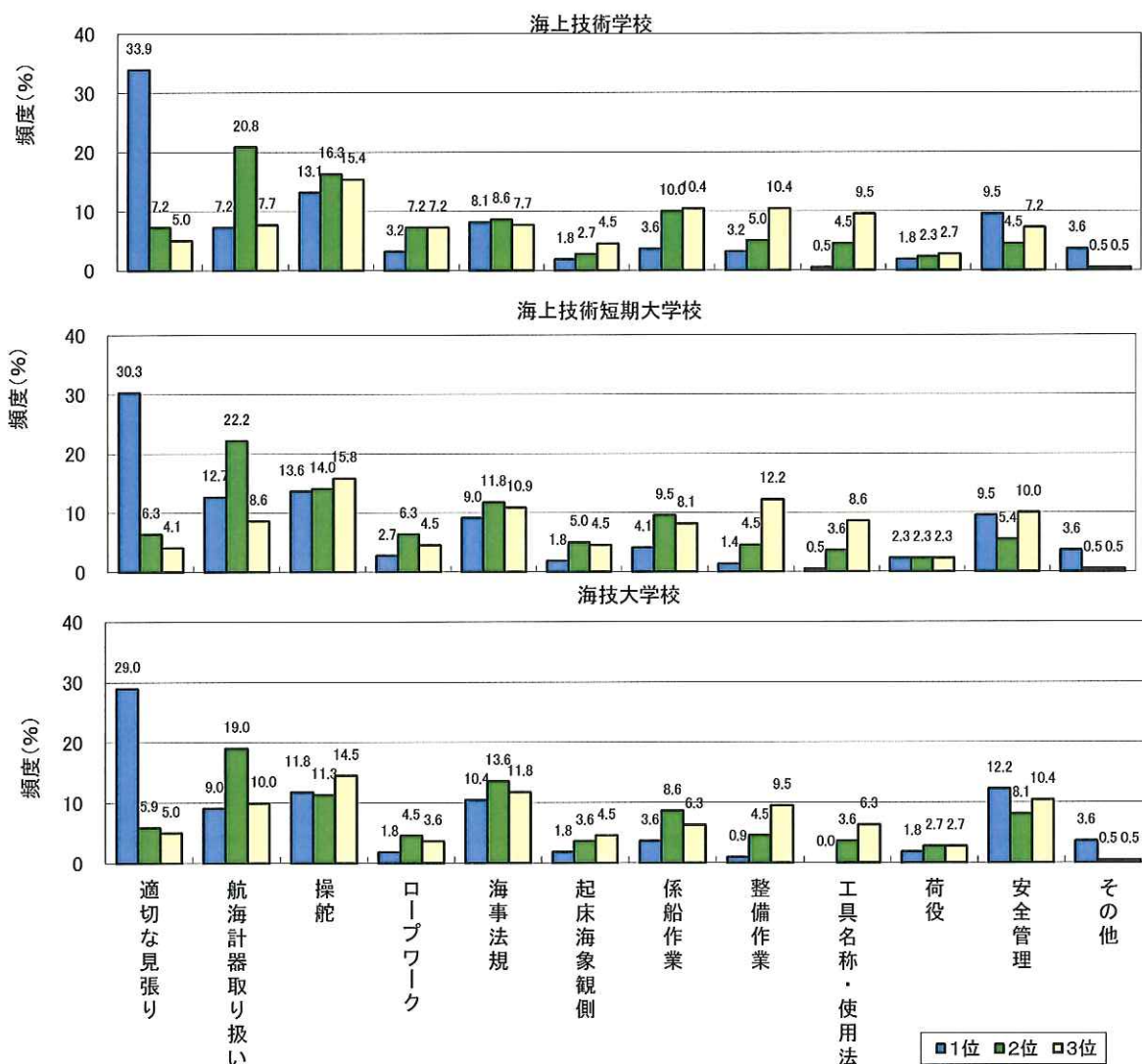
(1) 重視する教育内容

① 航海系教科での重視内容 (問14、図B4-1-1 a、b、c) [B4-1-1]

海上技術学校で重視する内容は、第1位で多いのは「適切な見張り」33.9% (+9.2%)、次いで「操舵」13.1% (-4.6%)、「安全管理」9.5% (±0.0%) が続く。第2位は「航海計器取り扱い」20.8% (+6.9%) が最も多く、次いで「操舵」16.3% (+3.3%)、「係船作業」10.0% (+1.8%) の順である。第3位はこれらの他に「整備作業」10.4% (-0.4%) が加わる。

海上技術短期大学校と海技大学校は、大半が同じ傾向だが、第2位で海上技術短期大学校は「航海計器取り扱い」22.2%、海技大学校が19.0%、第3位で「海事法規」がそれぞれ10.9%、11.8%となっている。(表B4-1-1参照)

図 B4-1-1 重視する航海関係教科

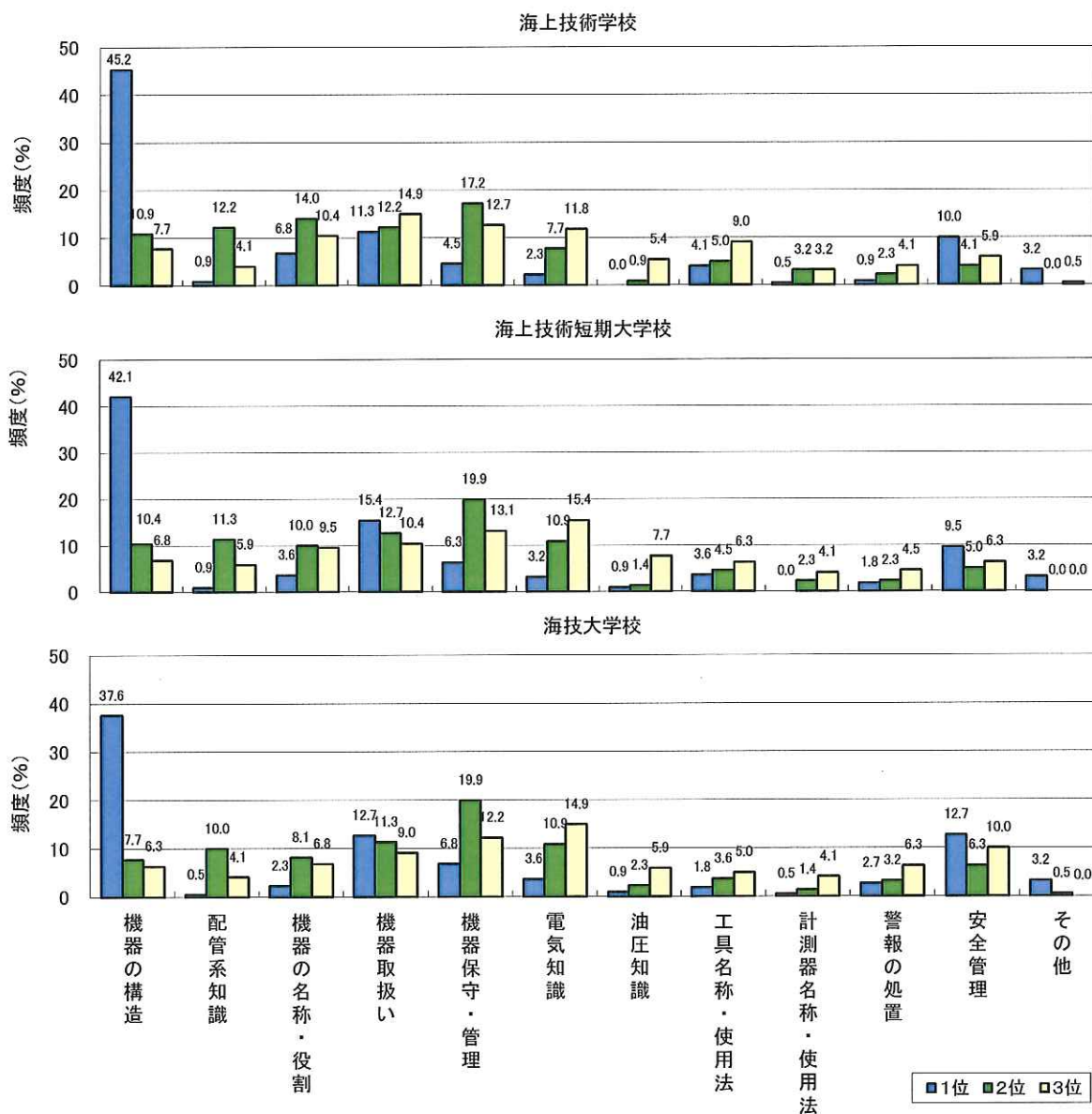


② 機関係教科での重視内容（問15、図B4-1-2 a、b、c） [B4-1-2]

海上技術学校で重視する内容は、第1位で群を抜いて多いのは「機器の構造」45.2% (+1.9%) であり、次いで「機器取扱い」11.3% (+3.5%) と「安全管理」10.0% (+1.8%) であった。第2位では「機器の保守・管理」17.2% (+5.1%)、「機器の名称・役割」14.0% (+2.7%)、「配管系知識」と「機器取扱い」が12.2% (+5.3%、+0.1%) であった。第3位では、これらの他に「電気知識」11.8% (+0.2%) が加わる。

海上技術短期大学校も海上技術学校と同様の傾向であるが、海技大学校の第1位で「機器の構造」37.6% (+4.3%) が少ない分、「安全管理」12.7% (+1.0%) 等に分散している。(表B4-1-2参照)

図 B4-1-2 重視する機関係教科

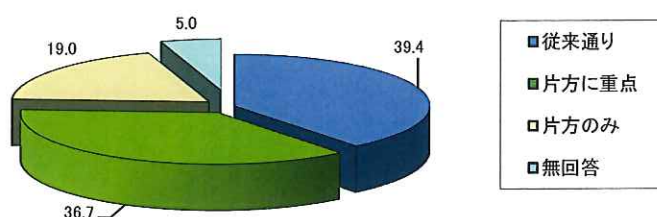


(2) 船員教育機関の両用教育及び定員

① 両用教育 (問16、B4-2-1) [B4-2-1]

航海系教科と機関係教科の両方を実施しているこれまでの教育について、「従来通り」39.4% (+2.6%) とほぼ同じく「片方に重点」36.7% (+0.3%) であり、「片方のみ」19.0% (-2.2%) と合わせると「従来通り」を上回る。無回答 5.0% (-0.6%) で判断を保留する姿勢もある。(表B4-2-1参照)

図 B4-2-1 両用教育

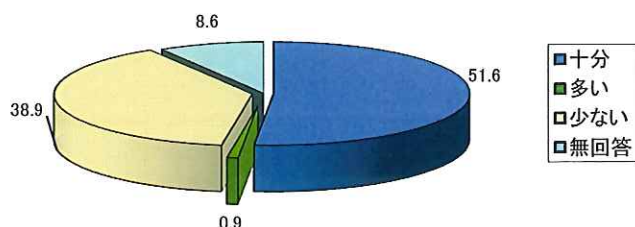


記述回答は131件 (+28件) あった。両用教育を必要とするのは、「広範な能力」が20件、「船員減少対策」が24件 (+4件)、「配乗の柔軟性」が24件 (+10件)、「緊急対応」が4件であった。不必要とするのは、「各部専門の就労」が31件 (+12件)、「専門性の深化」が22件 (+4件)、「中途半端を避ける」が14件 (+6件) であった。(資料編 資料B 問12 両方・片方海技免状の理由 98~101頁)

② 養成規模 (問17、図B4-2-2) [B4-2-2]

養成定員は「十分」51.6% (-10.7%) が多く、「少ない」38.9% (+13.4%) を上回っているが前回より「少ない」が大幅に増えている。無回答は 8.6% (-2.2%) で判断を保留する姿勢は減っている。(表B4-2-2参照)

図 B4-2-2 養成規模



記述回答は81件 (+28件) あり、大半の理由は「船員不足」で54件 (+35件)、「高齢化」が10件 (-3件)、「定着の問題」が11件 (-3件) である。(資料編 資料B 問17 海技教育機構の定員 102~103頁)

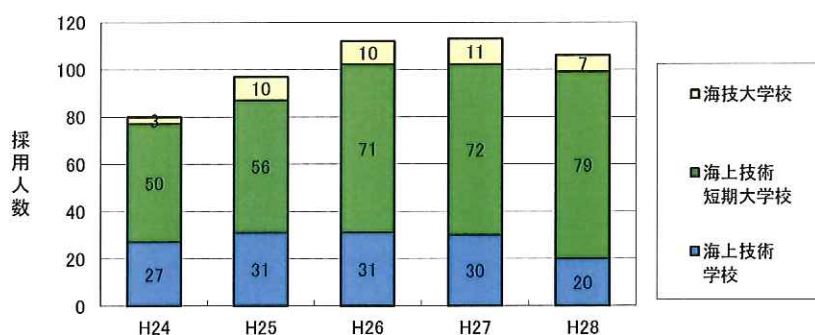
5（独）海技教育機構の学校卒業者の採用と職業履歴

（1）卒業者の採用

① 採用の推移（問6、図B5-1-1） [B5-1-1]

「海技教育機構」の学校卒業者の採用は、平成24年は少なく80名だが、それ以降は100名前後であり合計508名（前は1年間少ない4年間で300名）であり、毎年微増している。28年は中途であり年度末までの6カ月分がこれに加わる。（表B5-1-1参照）

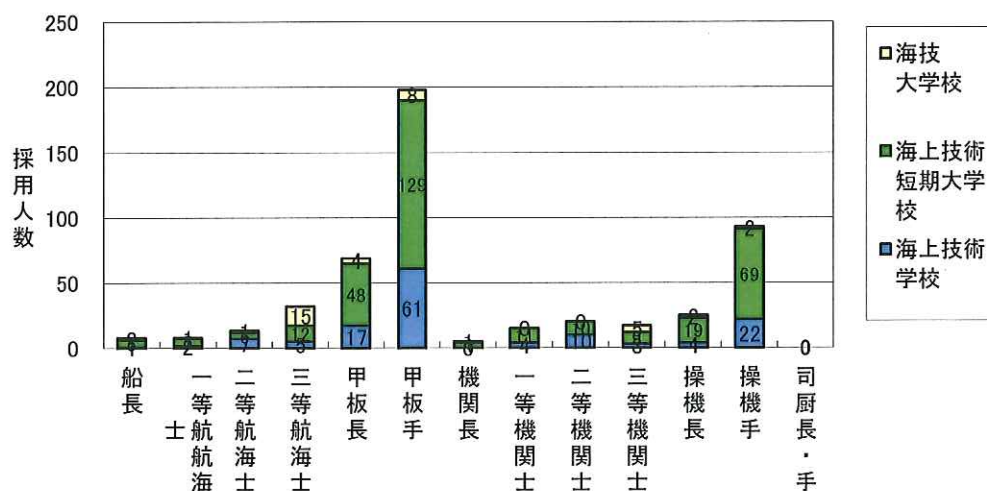
図 B 5 - 1 - 1 （独）海技教育機構関係学校新卒者の採用



② （独）海技教育機構の学校卒業者の職務（問6、図B5-1-2・3） [B5-1-2.3]

「甲板手」と「操機手」がほとんどを占め、それらの人数比は約2：1であり、海上技術学校卒は「甲板手」がやや多く人数比は約3：1の比である。（表B5-1-2・3参照）

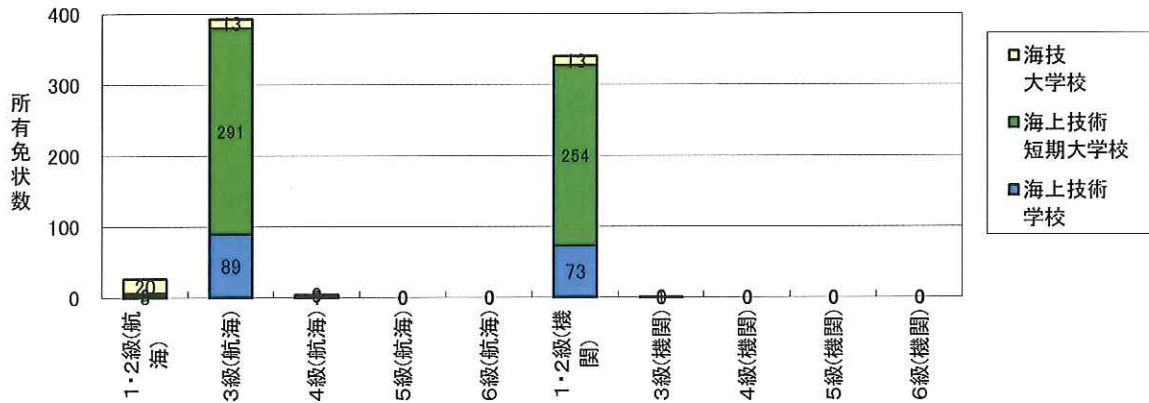
図 B 5 - 1 - 2 （独）海技教育機構関係学校新卒者の職務



③ (独) 海技教育機構の学卒者の免状 (問6、図B5-1-3) [B5-1-2.3]

学卒者の 2/3 が航海か機関の4級免状を持ち、1/2 は両方を持っており、一部が3級免状をもつ。海上技術短期大学校も同様であるが所持するものが多くなり 4/5 が航海と機関両方の4級免状をもっている。(表B5-1-2・3参照)

図 B5-1-3 (独) 海技教育機構関係学校新卒者の免状



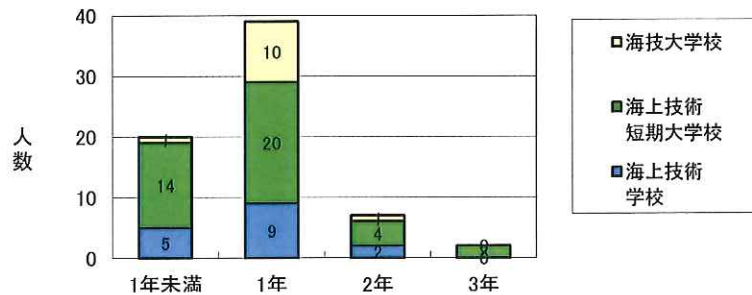
(2) 採用された新卒者の定着

① 「海技教育機構」卒業者の在社年数 (問6、図 B5-2-1) [B5-2-1.2]

調査期間の採用者 508 名の内、この間に退職した人の数は 68 名 (13.4%) である。ここで、退職年度のない場合は調査年度から採用年度を減じ、退職年度の記入があった場合は退職時年齢から採用時年齢を減じて在社年数とした。

在社年数「1年未満」は 20 名、在社年数「1年」は 39 名である。2年以上は採用人数が漸減することもあるが、明らかに減少している。(表B5-2-1・2参照)

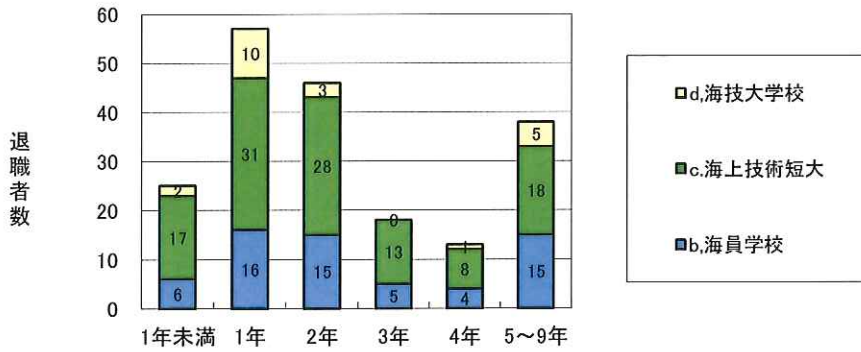
図 B5-2-1 (独) 海技教育機構関係学校新卒採用者の退職者在社年数の退職者在社年数



② 退職者の在社年数（問6、図B5-2-2） [B 5-2-1.2]

調査対象期間に「海技教育機構」卒業者の採用者で退職した者の在社年数「1年未満」が25名であり、1年、2年は50名前後であり、長くなるほど減少する。（表B5-2-1・2参照）

図 B 5 - 2 - 2 （独）海技教育機構関係学校卒業者の退職

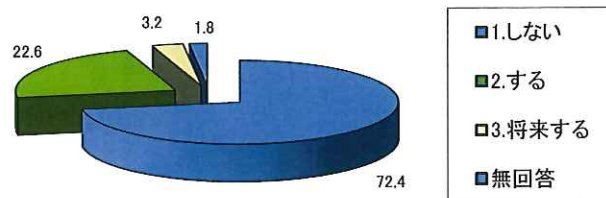


(3) 甲板部機関部の反対職就労

① 反対職就労の実施状況（問13、図B5-3-1） [B 5-3-1]

調査対象会社全社のうち反対職就労を実施について「しない」が72.4% (+7.0%)、「する」が22.6% (-4.2%)である。（表B5-3-1参照）

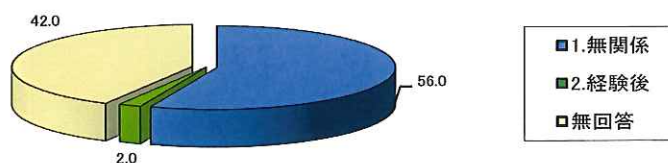
図 B 5 - 3 - 1 甲板部または機関部と反対の職部就労の実施



② 反対職就労までの経験（問13-2、図B5-3-2） [B 5-3-2]

反対職就労を進めている会社が専門の職部（以下、現職）に就いてから反対職に就くまでに現職の経験を考慮するかどうかについては、「無関係」が56.0% (+7.6%)であり、「無回答」が42.0%と多い。（表B5-3-2参照）

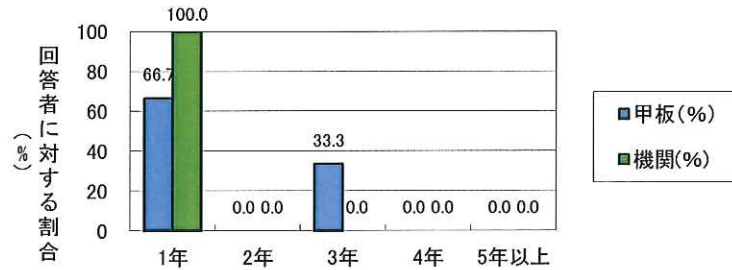
図 B 5 - 3 - 2 反対の職部就労までの経験



③ 反対職就労までの経験年数（問13-2、図B5-3-3） [B5-3-3]

「反対職就労を経験したとする」回答は少なく、現職と経験年数については、経験年数は1年と3年に1～2件の回答があった。（表B5-3-3参照）

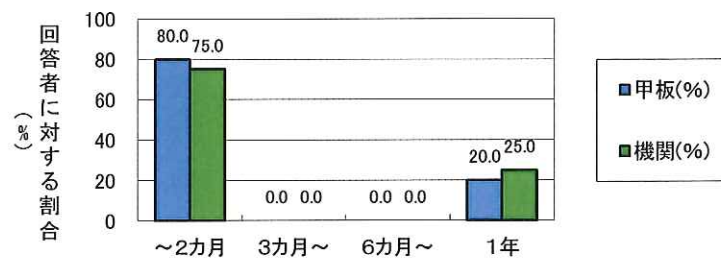
図 B 5 - 3 - 3 反対の職部就労までの経験年数



④ 反対職就労の期間（問13-3、図B5-3-4） [B5-3-4]

「反対職就労を経験したとする」回答は少なく、従事月数については、反対職が甲板部と機関部は、それぞれ年間「～2カ月」に数件の回答があった。（表B5-3-4参照）

図 B 5 - 3 - 4 反対の職部就労の期間（年間あたり）



5 教育内容に関する自由記述回答

自由記述回答は45件(-21件)66件あった。「教育内容」が13件、「教育定員など」が12件と「教育関係」が合わせて25件(+1件)、「定着率」や「仕事姿勢など」が16件(+4件)、「高齢化」が4件、その他、職場での実践力など現場における仕事能力についてなどである。（資料編 資料B 問18 海技教育機構教育への要望 104～107頁）

まとめ

船会社の所在地を①北海道・東北、②関東・北信越、③中部・近畿、④中国、⑤四国、⑥九州・沖縄の6ブロックに分けると、その割合は①が9%、他は20%前後である。この割合は前回と同様である。業種は「フェリー・旅客船」やや多く、「運送業」、「貸渡業」、「曳船・港湾作業船等」が約1/5ずつである。船舶数は大型の「専用船」と「フェリー・旅客船」、小型の「曳船・港湾作業船等」と「フェリー・旅客船」が多く、小型船が減少している。

雇用船員数の規模は「25～49名」が1/3を占め、規模が少ない会社の割合は前回より数パーセント減り、その割合だけ規模の大きい会社が増えている。船員の平均年齢は「42.4歳」で前回より1歳近く若くなり、内航船員全体より10歳ほど若い船員を雇用している。

雇用船員の採用経緯は「船員教育機関の職業指導」が最も多く、次いで「船員職業紹介」であり、前回よりいずれの方法も増えており、船社は多くの求人活動方法を駆使して求人している。採用人数は、平成25年の約600名から毎年150名ほど増えている。採用者の年齢は「30歳未満」が半数以上であり、中途採用は20歳代から50歳代まで幅広く分散している。海技教育機構の学校からの新卒は毎年100名ほどであり、採用者全体の約1/6強であり、30歳未満の採用者は全体の1/3を占めている。職種は「甲板手」「甲板員」としての採用が多く、4級海技免状と3級海技免状との比は2:1である。退職は毎年500名ほどで、20歳代が多く、30歳代と40歳代の300名弱から50歳代及び60歳以上はそれぞれ150名ほどずつ増えていく。海技教育機構からの新卒採用船員の退職者は、毎年50名ほどで「在社年数1年」が最も多く、60名ほどで、在社年数が長くなるほど次第に少なくなる。

採用を予定していない会社は少なく、2/3以上は具体的に採用予定人数を決めている。29年採用予定人数は「新規学卒者」が371名、「その他」が105名であり、前回(23年:276名と71名)より増えており、1社あたり平均3名強である。採用理由は「後継者育成」が1/3強を占めており、全般的な長いスパンで考えている。採用で優先する学校は「海上技術短期大学校」が最も多く、次いで「海上技術学校」だが、「水産高校」はそれに近い。採用で重視するのは「協調性」が32%であり、「積極的」18%、「まじめ」14%、「忍耐強い」12%となっている。採用予定者に期待する海技免状は、半分強が4級海技士免状であり、その半分が3級海技士免状であり、この2種類がほとんどを占める。航海と機関の海技士免状を共に所持することを希望する会社は1/4でそれほど多くない。

(独)海技教育機構の学校教育で重視する内容は、航海系教科では「適切な見張り」と「操舵」であり、機関系教科では「機器の構造」、「機器取り扱い」、「安全管理」となっている。

両用教育は「従来どおり」と「片方に重点」がそれぞれ1/3強で拮抗しており、「片方のみ」は1/5である。海技教育機構の船員養成の定員については「十分」としているのが半数以上である。反対職の就労は「しない」と「する」との比は7:2である。

教育内容に関する自由記述回答の内容は、各社の業務内容、経営方針、経営環境、労務管理などの多様さを反映して両極端な意見などが含まれて様々であったが、人格形成や実践力の強化などが多い。

C 若年船員の調査結果

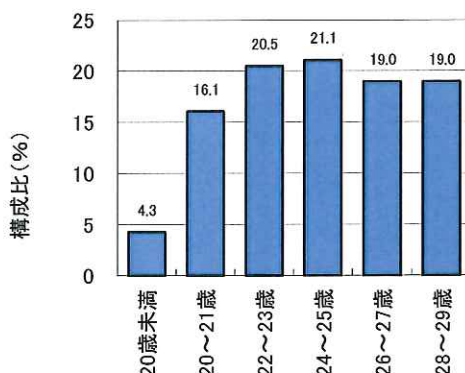
1 若年船員の実態

(1) 若年船員の年齢と出身学校

① 年齢分布 (問1、図 C1-1-1) [C1-1-1]

20歳未満と20歳以上を2歳毎に集計した結果、22歳以上は約20%ずつであり、最近は同じように採用してきたといえる。20歳未満は多くが就学者中であり、20～21歳も就学があつてやや少ない。(表C1-1-1参照)

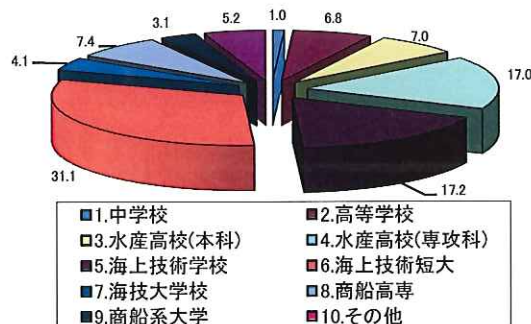
図 C1-1-1 年齢分布



② 出身学校 (問2、図C1-1-2) [C1-2-2]

最も多いのは「海上技術短期大学校」31.1% (+2.0%) を占め、次いで「海上技術学校」17.2% (-5.7%)、水産系高校は「水産高校本科」7.0% (+0.3%) と「水産高校専攻科」17.0% (+2.3%) と合わせて24.0% (+2.6%)、「商船高専」と「商船系大学」10.7% (+1.7%) である。(表C1-1-2参照)

図 C1-1-2 出身学校



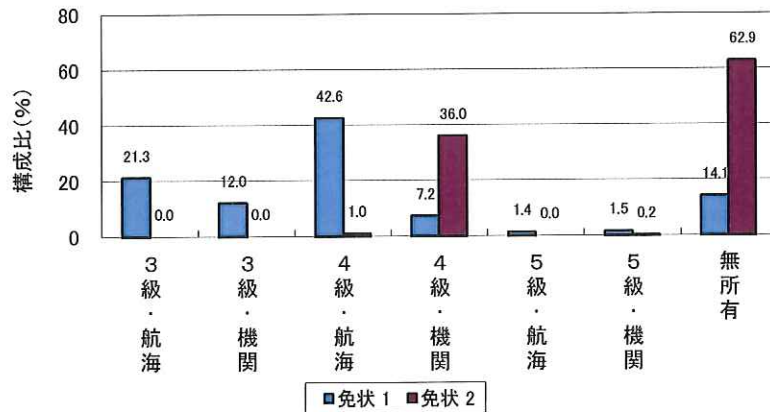
(凡例は図の頂部から右回り、以下同様)

(2) 若年船員の職業的背景

① 海技免状 (問3、図C1-2-1) [C1-2-1]

所持している海技免状は、半数近くが「4級航海」43.6% (-4.0%)、同程度に両用免状として「4級機関」43.2% (+2.4%) を所持している。3級の免状は優先する方を記している
とみてよいが、「3級航海」21.3% (+2.1%) と「3級機関」12.0% (+1.2%) であり、これ
ら以外は僅少である。(表C1-2-1参照)

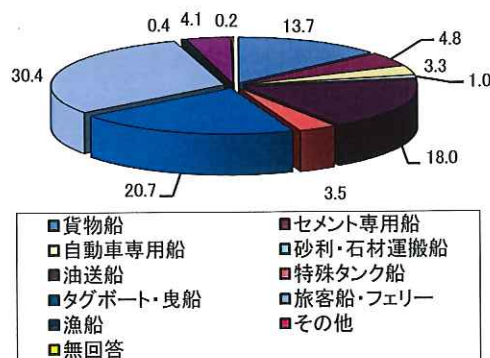
図 C1-2-1 海技免状



② 乗船船種 (問4、図C1-2-2) [C1-2-2]

最も多いのは「旅客船・フェリー」30.4% (+2.1%) であり、次いで「タグボート・曳船」
20.7% (-0.5%)、「油送船」18.0% (+3.1%)、「貨物船」13.7% (+0.2%) である。(表C1-
2-2参照)

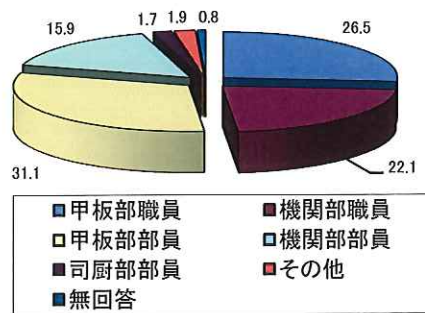
図 C1-2-2 乗船船種



③ 職種（問5、図C1-2-3） [C1-5]

現在の職務は、「甲板部部員」31.1%（-5.9%）、次いで「甲板部職員」26.5%（+0.8%）であり、これらを合わせて2/3にあたる57.6%（-5.1%）が甲板部である。機関部は「機関部部員」15.9%（+3.9%）と「機関部職員」22.1%（+3.8%）で、合計38.0%（+7.7%）あり、甲板部と機関部は2:1から3:2の比率に変わっている。「司厨部部員」1.7%（-1.3%）は、ほとんどいない。（表C1-2-3参照）

図 C 1 - 2 - 3 職種



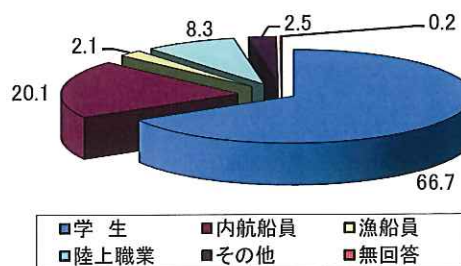
2 若年船員の職業経歴と定着意識

(1) 若年船員の職業経歴

① 前職 (問6、図C2-1-1) [C2-1-1]

現在の会社に採用されたとき、ほとんどが新規採用の「学生」66.7% (-3.2%) であり、そのまま同じ会社にいたことになる。学卒者以外の転職者は「内航船員」20.1% (+5.0)、「陸上産業」8.3% (-0.9%) であり、「漁船員」2.1% (+0.6%) はわずかである。(表C2-1-1・2参照)

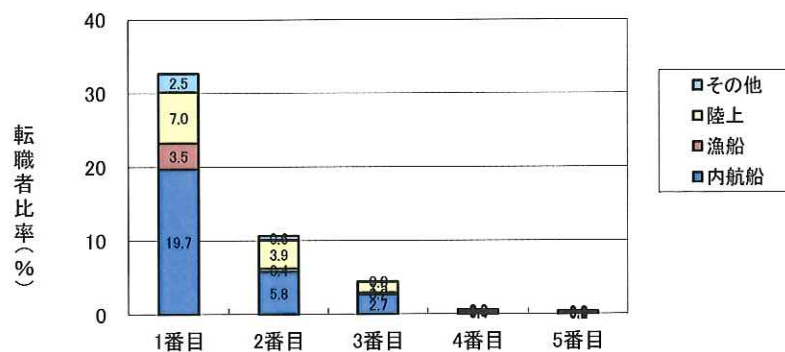
図 C2-1-1 調査対象者の前職



② 転職回数と前職 (問6-2、図C2-1-2) [C2-1-2.3.4]

30歳未満の船員の転職は回答者全体の32.9% (+6.0%) であった。転職回数は、「1回」が32.9% (+25.4%)、「2回」は10.6% (-1.7%) であり、回数が増える毎に1/3ずつに漸減する。転職の順番毎の職種は、一番目には「内航船」102名 (+3名) 19.7% (+2.7%)、「陸上」36名 (-2名) 7.0% (+0.5%) であり、3回以上は急減していく。1番目で「陸上」とした人は陸上職場から船員になった人である。2番目で「陸上」とした人は少ないことから、内航船から内航船、陸上職から内航船への転職がほとんどである。但し、内航船から陸上職への転職状況は分からない。(表C2-1-1・2・3・4参照)

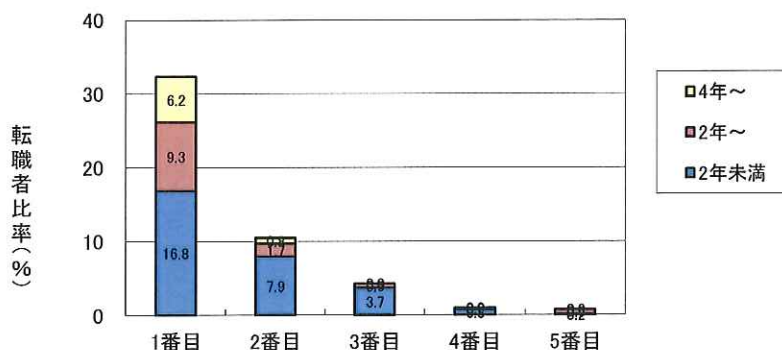
図 C2-1-2 転職回数別・前職別の転職者率



③ 転職者の在籍年数（問6-2、図C2-1-4） [C 2-2]

転職者の転職順番ごとの在籍年数別人数の全体に占める比率は、1番目で「2年未満」87名（+7名）16.8%（+3.0%）、「2年～」48名（+10名）9.3%（+2.8%）であり、2番目以降は急減している。（表C2-1-1・2・3・4参照）

図 C 2 - 1 - 3 転職者の在籍年数（無回答を含む比率）

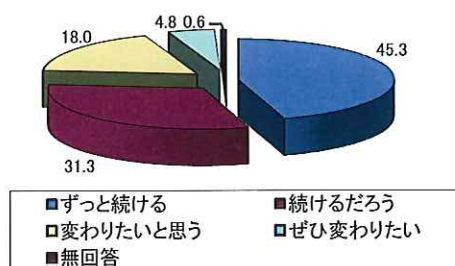


(2) 若年船員の職業継続意識

① 職業継続意識（問7-1、図C2-2-1） [C 2-2-1]

半数近くは将来もこの会社で「ずっと働きたい」45.3%（+1.5%）、「変わりたいと思うこともあるが続けるだろう」31.3%（+2.0%）と合わせると76.6%（+3.5%）であり、現在の会社で働くことになるという継続意識を持っている。（表C2-2-1参照）

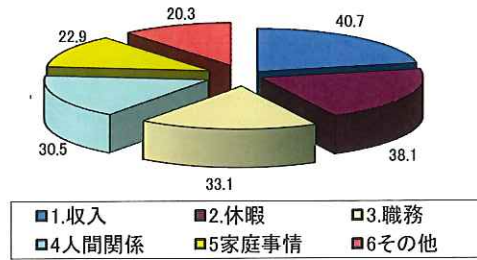
図 C 2 - 2 - 1 職業継続意識



② 転社・転職希望の理由（問7-2、図C2-2-2） [C 2-2-2]

会社を「変わりたい」または「ぜひ変わりたい」とした人の変わりたい理由（複数回答）は、「収入」40.7%、（-9.3%）であり、次いで「休暇」38.1%（+5.4%）と「職務」33.1%（+15.1%）である。「収入」が減り、「休暇」と「職務」の割合が多くなっている（表C2-2-2参照）

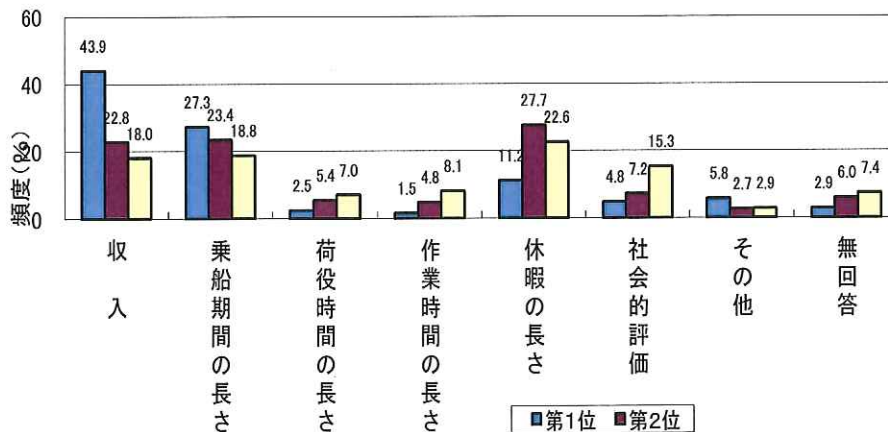
図 C 2 - 2 - 2 転社・転職希望の理由



③ 職場改善希望 (問 8、図 C 2 - 2 - 3) [C 2-2-3]

第1位で多いのは「収入」43.9% (-8.7%) であるが前回より減っている。次いで「乗船期間の長さ」27.3% (+10.9%) であり、大きく増している。第2位で多いのは「休暇の長さ」27.7% (-0.4%)、次いで「乗船期間の長さ」23.4% (-1.9%)、「収入」22.8% (+3.1%) である。第3位に多いのはこれら以外に「社会的評価」15.3% (+0.1%) である。これらに比べて「荷役時間」や「作業時間」は少ない。(表 C 2 - 2 - 3 参照)

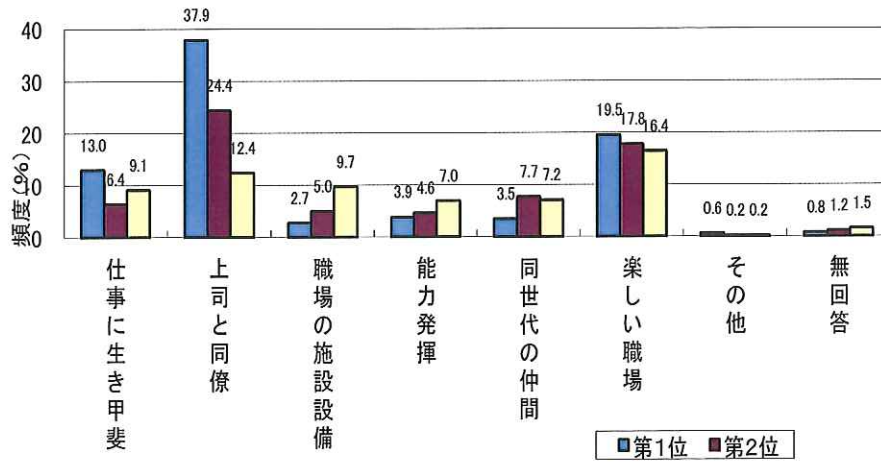
図 C 2 - 2 - 3 職場での改善希望



④ 職場で重視する事項 (問 9、図 C 2 - 2 - 4) [C 2-2-4]

第1位では「上司と同僚」37.9% (-0.3%)、「楽しい職場」19.5% (-2.6%)、「仕事に生きがい」13.0% (-3.8%) が多い。第2位も第1位と同様で「上司と同僚」24.4% (+0.3%)、「楽しい職場」17.8% (-5.5%) であり、次いで「同世代の仲間」7.7% (-1.0%) であった。第3位では「楽しい職場」16.4% (+2.4%) が最も多い。(表 C 2 - 2 - 4 参照)

図 C 2 - 2 - 4 職場で重視する事項



3 (独) 海技教育機構卒業生の学校教育の評価

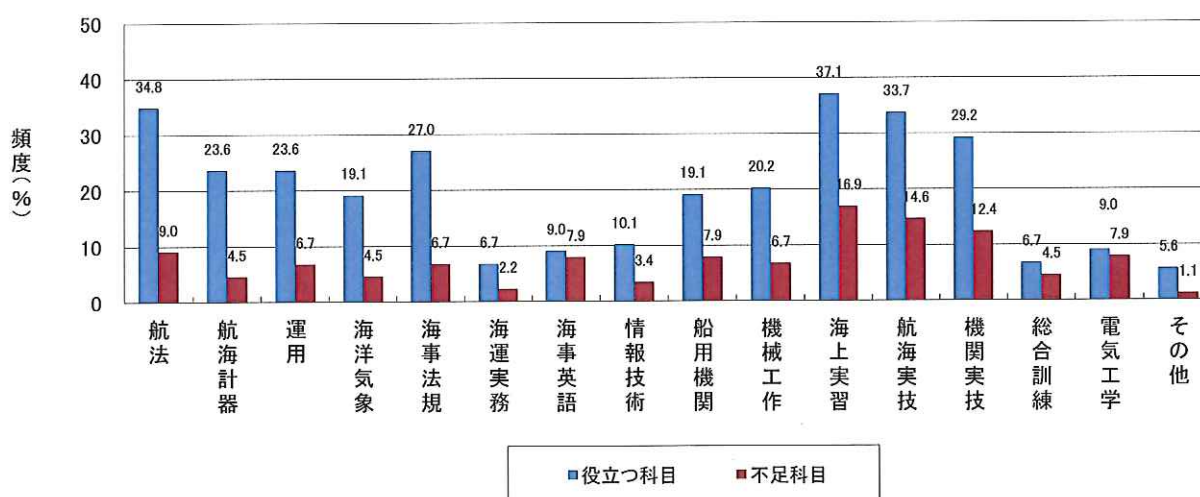
(1) 教科の評価

① 海上技術学校 (問10、図C3-1-1-2) [C3-1-1.2]

実務を経験して学校で習った授業で役立っていると思われる教科で最も多いのは、「海上実習」37.1% (+3.5%)、次いで「航法」34.8% (-2.5%)、「航海実技」33.7% (-7.3%)、「機関実技」29.2% (+11.3%)、「海事法規」27.0% (-2.1%)、「航海計器」と「運用」が23.6% (-0.3%、+5.7%)、「機械工作」20.2% (+4.5%)、「海洋気象」と「舶用機関」が19.1% (+1.2%、+1.9%)の順で多い。逆に「海運実務」6.7% (+1.5%)、「総合訓練」6.7% (+2.3%)、「海事英語」9.0% (+3.8%)、「電気工学」9.0% (+5.3%)の順で少ない。

不足の指摘が多いのは「海上実習」16.9% (+5.0%)、次いで「航海実技」14.6% (+0.4%)、「機関実技」12.4% (-1.0%)であり、他は一桁台で、「航海計器」4.5% (-8.9%)と「海事英語」7.9% (-8.5%)の減少が著しい。(表C3-1-1-2参照)

図3-1-1 教科内容評価 (海上技術学校)

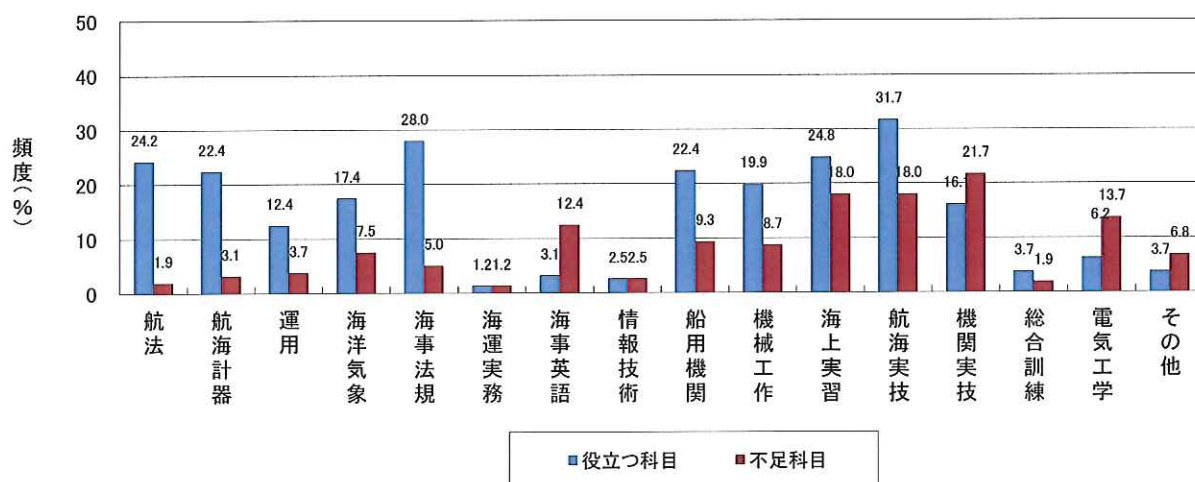


② 海上技術短期大学校 (問10、図C3-1-1-2) [C3-1-1.2]

実務を経験して学校で習った授業で役立っていると思われる教科で最も多いのは「航海実技」31.7% (-9.3%)、次いで「海事法規」28.0% (-8.5%)、「海上実習」24.8% (-3.4%)、「航法」24.2% (-9.9%)、「舶用機関」22.4% (-7.6%)、「航海計器」22.4% (-4.1%)の順で多く、逆に「海運実務」1.2% (-4.1%)、「情報技術」2.5% (-3.4%)、「海事英語」3.1% (-4.5%)、「総合訓練」3.7% (-4.5%)の順で少ない。

不足の指摘が多いのは「機関実技」21.7% (+6.4%)、「航海実技」18.0% (+0.4%)、「海上実習」18.0% (+5.1%)、「電気工学」13.7% (+3.7%)、「海事英語」12.4% (-2.3%)であり、比較的多かった「航海計器」3.1% (-8.1%)の減少が著しい。なお「海事英語」の指摘はタグボート船員に多い。(表C3-1-1-2参照)

図 C3-1-2 海上技術短期大学校



「役立っている」指摘が多く「不足」指摘が少ない「海事法規」や「航法」などの場合は、十分な教育がなされ実務で活かされている。「役立っている」指摘も「不足」指摘も多い「航海実技」や「海上実習」などの場合は、よい教育がなされ実務で活かされているが、さらに教育の充実が求められている。「役立っている」指摘が少なく「不足」指摘が多い「電気工学」などの場合は、現場で活かされるように教育を充実することが求められる。いずれの指摘も少ない「海運実務」や「総合訓練」などの場合は、教育が実際に生きていないか、実務に直接関係ない教科で成果がわかりにくいものである。

③ 記述回答(役に立つ科目)

役に立つ科目の具体的内容の記述回答は、「航法」は33件(+1件)で船位や海図が多く、「航海計器」は35件(+5件)でレーダー、「運用」は21件(-1件)で船体構造、「海洋気象」は20件(+1件)で天気図、「海事法規」は36件(+2件)で衝突予防法が多く、「海運実務」は2件(+1件)、「海事英語」は5件(-1件)でVHF、「情報技術」8件(±0件)である。「船用機器」は26件(+5件)で基礎や構造、「機械工作」は23件(-23件)で工具や溶接、「海上実習」は29件(+29件)で操船や実務、「航海実技」は30件(+30件)でほとんどがロープワーク、「機関実技」は21件(+10件)で溶接が多かい。「総合訓練」は1件、「電気工学」は8件(+2件)である。(資料編 資料C 問10-1 役だった科目126~131頁)

その詳細についての記述は42件(-50件)あり、就職してすぐに役立つロープワークや工具など実習有効性を指摘するケースと、逆に基礎知識の理解や応用を指摘するケースがあり、個人あるいは職場による違いとみられる。(資料編 資料C 問10-1 役だった科目132~133頁)

④ 記述回答(不足科目)

不十分と思う科目の具体的内容の記述回答は、「航法」は2件(-3件)、「航海計器」は3件(±0件)で計器、「運用」は7件(+4件)でコンディションなど、「海洋気象」は3件(-3件)、「海事法規」は6件(+5件)で交通法、「海事英語」は多く18件(+4件)でVHFなど、「情報技術」3件(-1件)でパソコン、「舶用機器」は7件(+6件)で機器の理解、「機械工作」は4件(±0件)で工作など、「海上実習」は19件(+10件)で実際の各種船内作業、「航海実技」は24件(+10件)でほとんどがロープワーク17件で他に整備など、「機関実技」は21件(+8件)で整備と電気知識などであった。「海運実務」と「総合訓練」は無かった。

(資料編 資料C 問10-2 不足科目134~136頁)

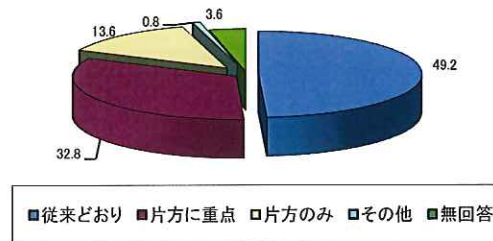
その詳細についての記述は76件(-14件)あり、改善への期待がうかがえる。内容は主に、社船の実態に即した教育、実務教育、英語教育などである。(資料編 資料C 問10-2 不足科目137~139頁)

(2) 航海・機関両用教育

① 両用教育の必要性(問12、図C3-2-1) [C3-2-1]

実務を経験してからの両用教育の必要性については、両用教育が「従来どおり」49.2%(+3.9%)、「片方に重点」32.8%(+9.3%)、「片方のみ」13.6%(+5.2%)であった。(表C4-2参照)

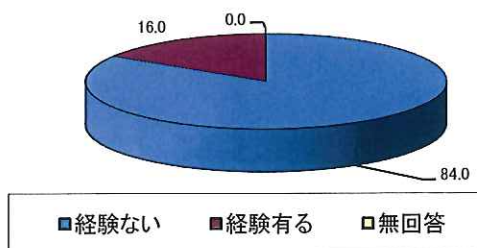
図 C 3 - 2 - 1 両用教育の必要性



② 反対職の経験(問11、図C3-2-2) [C3-2-2]

実際に経験した反対職については、「ない」84.0%(+24.1%)、「ある」16.0%(+0.2%)であり、「無回答」は0.0%(-24.3%)であった。(表C4-1-1参照)

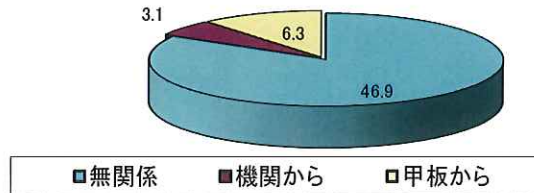
図 C 3 - 2 - 2 反対職就労の実施



③ 反対職までの経験（問11-2、図C3-2-3） [C3-2-3]

反対職の経験があった場合に、最初に就いた職部（以下、現職）の経験期間とは、「無関係」46.9%（-4.1%）、ある期間経験を積んでからの場合は「甲板部」6.3%（-14.5%）、「機関部」3.1%（-19.8%）であった。（表C3-2-3参照）

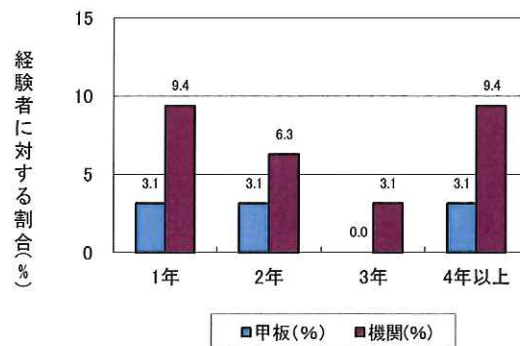
図 C3-2-3 反対職までの経験



④ 反対職までの経験（図 C3-2-4） [C3-2-4]

現職の経験を積んでから反対職に就いた場合にそれに要した期間は、甲板部では「3年」以外は3.1%、機関部では「1年」9.4%、「4年以上」9.4%であった。（表C3-2-4参照）

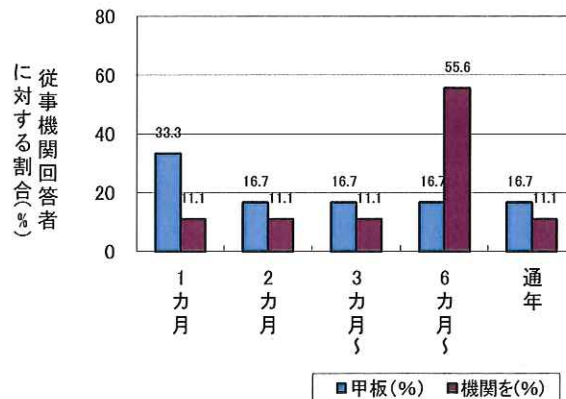
図 C3-2-4 反対職までの経験年数



⑤ 反対職への従事期間（問11-3、図C3-2-5） [C3-2-5]

反対職に従事した年間あたりの日数は、反対職が甲板部では「1カ月」33.8%、機関部では「6カ月～」55.6%が多い。（表C3-2-5参照）

図 C3-2-5 反対職への従事期間



4 練習船の実習

(1) 実習の習得度と重要度

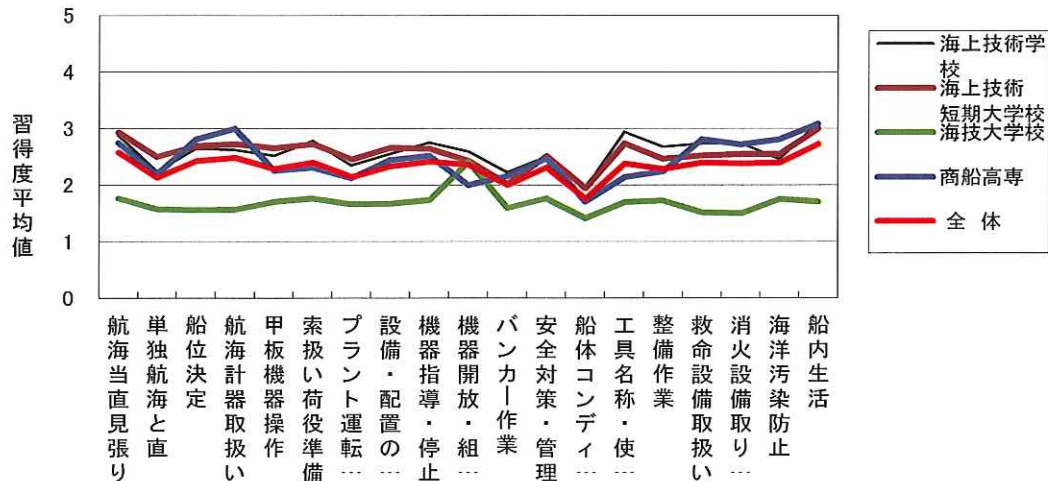
① 習得度 (問13、図C4-1)

海技教育機構の学校と商船高専の学生が受けた練習船実習を本人が修得した自覚の程度(習得度)を4段階評価した結果を、それぞれの学校別に平均値を求めた。

海技大学校以外はレベル2~3に分布しており、評価が高いのは「航海当直・見張り」、「航海計器取扱い」、「工具名称・使用法」、「船内生活」であり、評価が低いのは「船体コンディション」、「バンカー作業(補油)」、「単独航海当直」、「プラント運転・維持」である。

海技大学校は「機器開放・組み立て」以外全てで他の学校に比べて1ポイントほど低い。商船高専では「航海計器取扱い」、海上技術学校と海上技術短期大学校では「索扱い荷役準備」、「工具名称・使用法」が他の学校に比べて高い評価である。

図C4-1 練習船実習の習得度

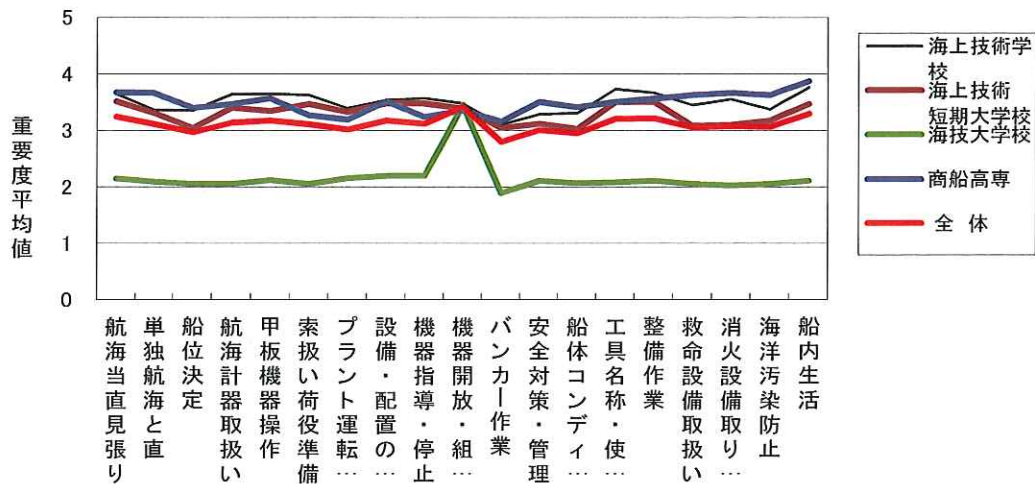


② 重要度 (問13、図C4-2)

海技教育機構の学校と商船高専の学生が受けた練習船実習を本人が重要と思う程度(重要度)を4段階評価した結果を、それぞれの学校別に平均値を求めた。

海技大学校以外はレベル3~4に分布しており、評価が高いのは「船内生活」、「工具名称・使用法」、「整備作業」である。学校別では、海技大学校は「機器開放・組み立て」以外全てで1ポイントほど低く、海上技術学校と商船高専は「船位決定」、「安全対策・管理」、「船体コンディション」、「救命設備取扱い」、「消火設備取扱い」がやや高い評価である。

図C 4-2 練習船実習の重要度

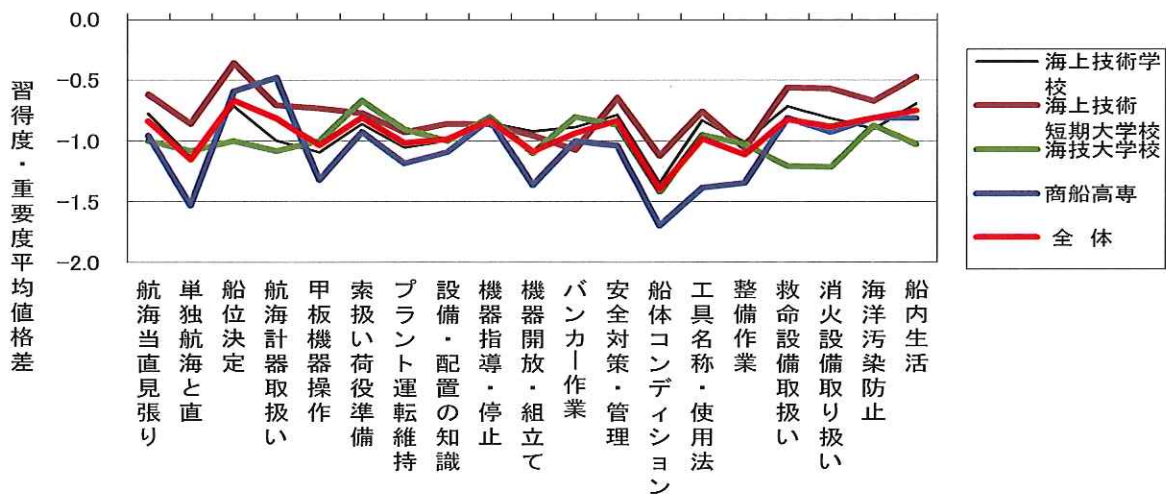


③ 習得度と重要度の格差 (問13、図C 4-3)

海技教育機構の学校と商船高専の学生が受けた練習船実習の習得度と重要度の学校別平均値の差(格差)を求めた。

重要度より習得度が低く、格差はマイナス1前後である。格差が大きいのは「船体コンディション」、「単独航海当直」、「整備作業」、「機器開放・組立て」であり、格差が小さいのは「船位決定」、「索扱い荷役準備」、「機器始動・停止」、「安全対策・管理」、「救命設備取扱い」、「消火設備取扱い」、「海洋汚染防止」、「船内生活」である。学校別では、商船高専で格差が大きい内容が多く、海上技術短期大学校で「船位決定」や安全にかかわる各項目で格差が小さい。

図C 4-2 練習船実習の習得度と重要度の格差



(2) 選択実習

① 役立った実習内容

役立った選択実習の指摘は、航海系では75件（複数を含む）あり、最も多いのは「単独航海当直」24件、次いで「操船シミュレータ実習」16件、「ロープワーク」12件、「係留索」8件、「ワイヤー扱い」5件である。

機関係では、24件あり、最も多いのは「機器開放実習」22件、次いで「配管調査」6件、「清浄機整備」5件である。

（資料編 資料C 問14-1 役立った選択実習 140～141頁）

② 改善を要する実習

改善を要する選択実習の指摘は、航海系では51件（複数を含む）あり、最も多いのは「単独航海当直」17件、次いで「ワイヤー扱い」9件、「係留索」6件、「操船シミュレータ実習」4件、「ロープワーク」4件である。

機関係では、16件あり、最も多いのは「機器開放実習」11件、他「計測器」などである。

（資料編 資料C 問14-2 改善要する選択実習 142頁）

5 内航船員教育に関する自由記述回答

船員教育に関する自由記述回答（個人的な記述は除く）は95件（-13件）あった。この内訳は、練習船教育内容や方法の改善、教育システムのあり方について最も多く40件（+23件）、実技教育の充実について17件（+2件）、学校教育や教科について17件（-3件）、その他船員職業を学生時代に理解すること、社会が船員職業を理解すること、船内人間関係や仕事と生活の改善、社船実習や社船に対する理解などがある。（資料編 資料C 問15 海技教育に関する自由記述 143～147頁）

まとめ

30歳未満の若年船員は、前回は24歳以上がやや少なかったが、今回は22歳代以上がほぼ同じ人数であることから、新卒者の採用が順調に推移していることを示している。出身学校は海上技術短期大学校が最も多く、次いで海上技術学校であり、そのほかの学校も前回と同様の比率である。

所有海技免状は「4級（航海）」が最も多く、海技教育機構の卒業生は、同程度に両用免状として「4級（機関）」を所持している。「3級（航海）」及び「3級（機関）」の所持は、前回と同様の割合である。

乗船している船種は、「旅客船・フェリー」が最も多く、次いで「タグボート・曳船」、「油送船」の順で、その割合は前回と同様である。職種は前回同様、甲板部が多く（57.6%）、職員と部員は半々である。

現在の会社に採用されたとき、採用の2/3は新規学卒者であり、内航船員を経由した者は

その1/3弱、漁船員の経験者はほとんどいない。この状況は前回とほとんど同じである。

転職経験者は前回と同様約1/3であるが、その在社年数の平均年数は1~2年であり、転職回数が多い人ほど平均在社年数は短くなった。「ずっと働きたい」と思うものは半数に近く、「続けるだろう」と合わせると大半が継続意識をもっていた。これらの状況は前回と同様であった。退職の理由は「収入」とするのが前は半数であったが約2/5に減り、「職務」が大きく増えた。改善の希望は昨年と同様であった。職場で重視することは「上司と同僚との関係」と「楽しい職場」と「仕事に生きがい」であった。退職理由と改善の希望は生活の側面が強いが、職場についての重視事項は心理的側面が強い。

役だっている海技教育は、「航海実技」と「海上実習」と「海事法規」と「航法」の指摘は多かったが、「海運実務」と「総合訓練」の指摘は少なかった。不足していると思う科目は役立つ科目より全体的に指摘は少なく、実務に関する科目では依然として不足の指摘が多い。今回も曳船の船員が多かったこともあって、現場で使える英語教育の指摘が多かった。

両用教育は、前回と同様、「従来どおり」が半数近く、「片方に重点」は約1/4と「片方のみ」は1/10以下で、船会社側の調査結果と大きく異なっていた。

自由記述回答は、学校教育と社船の実態との乖離、実習の有効性など実務重視の意見、学生の職業理解や生活態度、会社や船内の人間関係や育成姿勢など参考になる建設的意見が多かった。

練習船実習の習得度は、「船橋作業関係（「単独航海当直」除く。）」、「機器開放組み立て」、「船内生活」が高かった。重要度は、習得度と項目にあまり差がないが「船内生活」、「工具名称・使用法」、「整備作業」など基本的内容でやや高かった。習得度と重要度の格差は、習得度が1ポイント前後低く、「船体コンディション」、「単独航海当直」、「整備作業」、「機器開放・組み立て」で差が大きかった。

役だった選択実習は、航海系では「単独航海当直」、「操船シミュレータ実習」、「ロープワーク」、「係留索」、「ワイヤー扱い」であり、機関係では「機器開放実習」、「配管調査」、「清浄機整備」である。改善を要する選択実習は、航海系では「単独航海当直」、「ワイヤー扱い」、「係留索」、「操船シミュレータ実習」、「ロープワーク」であり、機関係では「機器開放実習」、「計測器」などであった。

船員教育に関する自由記述回答は、船員職業を学生時代に理解すること、社会が船員職業を理解することを促す内容が最も多く、次いで教育姿勢や方法の改善や教育システムのあり方、実技教育の充実、船内人間関係や仕事と生活の改善、社船実習や社船に対する理解を促すこと、両用教育の賛否や資格取得の促進など建設的な意見が多かった。

資料編

資料A-1 船会社アンケート調査票

内航船員の雇用動向及び教育内容に関するアンケート

本アンケートには、次の要領でご回答ください。

表中の空欄や【 】内にはあてはまる数や語句を、選択肢には番号に○を記入してください。

ご記入後、11月30日(水)までに同封の返信用封筒にて返送してください。データは集団として扱い、会社や個人に関する内容は一切あきらかにいたしませんので、率直なご回答をお願い申し上げます。

なお、ご回答は平成28年11月1日現在でお答えください。

問1 貴社の所在地はどこですか。郵便番号(上3桁) →

--	--	--

問2 貴社は次のように分けるとどれにあたりますか。

1. 運送業 2. 貸渡業者 3. 運送業・貸渡業兼業 4. フェリー旅客運送業

5. 曳船、港湾作業船業 6. 船舶管理・船員派遣事業 7. その他【 】

問3 貴社の雇用船員が乗り組む船舶はトン数別・船種別に何隻ですか。

また、この4年半(平成24年4月1日～平成28年10月1日)の増減は何隻ですか。

下表の該当欄にお答えください。

総トン数		200トン未満	200～499	500～699	700～999	1,000トン以上
現在隻数	貨物船	隻	隻	隻	隻	隻
	タンカー	隻	隻	隻	隻	隻
	専用船	隻	隻	隻	隻	隻
	フェリー旅客	隻	隻	隻	隻	隻
	曳船・港湾作業船	隻	隻	隻	隻	隻
	その他()	隻	隻	隻	隻	隻
4年半の増加隻数		隻	隻	隻	隻	隻
4年半の減少隻数		隻	隻	隻	隻	隻

その他は通船等をいう。

問4 貴社が現在雇用している船員数を年齢別にお答えください。ただし、臨時船員は含みません。

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
人	人	人	人	人	人

問5 この4年半の船員の採用の方法は何ですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 船員職業紹介 2. 教育機関の就職指導 3. 本人の申し出 4. 会社の求人広告
 (船員就業フェアなど)
5. 親せき等知人の紹介 6. 船員派遣業者 7. その他【 】

問6 この4年半(平成24年4月1日～平成28年10月1日)に採用、退職した船員についてお答えください。
 (欄が不足の場合、この頁をコピーして追加してください。)

例→
例→

採用・退職時期 (年度)	採用時 年齢	退職時 年齢	前職の区分 (*注を参照)	現在の職位 (退職者は退職当時)	現在の海技免状 (退職者は退職当時)
H. 26 採・退	18		b	甲板員	4級(航、機)
H. 26 採・退	23	45	3	一航士	3級(航)
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					
H. 採・退					

*注 前職の区分

社会人の場合→	1. 内航船員	2. 外航船員	3. 漁船員	4. 陸上	5. その他
新卒者の場合→	a. 中学校	b. 海上技術学校	c. 海上技術短期大学校	d. 海技大学校	
	e. 水産高校本科	f. 水産高校専攻科	g. 他高校	h. 商船高専	i. 商船系大学

問7 来年度から向こう5年間の自社船員の採用計画はいかがですか。該当する項目の理由や採用予定者別人数もお分かりでしたらお答えください。

平成 29 年度	1. 採用しない 2. 未定 3. 採用予定→新規学卒者 【 】人 その他 【 】人
	理由:
平成 30 年度	1. 採用しない 2. 未定 3. 採用予定→新規学卒者 【 】人 その他 【 】人
	理由:
平成 31 年度	1. 採用しない 2. 未定 3. 採用予定→新規学卒者 【 】人 その他 【 】人
	理由:
平成 32 年度	1. 採用しない 2. 未定 3. 採用予定→新規学卒者 【 】人 その他 【 】人
	理由:
平成 33 年度	1. 採用しない 2. 未定 3. 採用予定→新規学卒者 【 】人 その他 【 】人
	理由:

問8 船員として新規学卒者の採用を希望する場合、その理由は何ですか。主な理由を順番に3つ選び、番号を【 】内に記入してください。

1. 若い活力注入 2. 仕事のチームを組みやすい 3. 仕事を教えやすい
 4. 人件費抑制 5. 年齢構成のバランス 6. 後継者育成
 7. 将来性がある 8. 技術革新への対応 9. その他【 】
 第1位【 】 第2位【 】 第3位【 】

問9 船員として新規学卒者の採用を希望する場合、どの学校を優先しますか、優先する順番に3つ選び、番号を【 】内に記入してください。

1. 中学校 2. 海上技術学校(本科) 3. 海上技術短期大学校(専修科)
 4. 水産高校本科 5. 水産高校専攻科 6. 海技大学校(海上技術コース)
 7. 他高校 8. 商船高専 9. 商船系大学 10. 一般大学
 11. その他
 第1位【 】 第2位【 】 第3位【 】

問 14 航海関係教育で身につけてほしいことは何ですか。重要な順に3つ選び番号を【 】内に記入してください。

海上技術学校(本科) → 第1位【 】 第2位【 】 第3位【 】

海上技術短期大学校(専修科)→ 第1位【 】 第2位【 】 第3位【 】

海技大学校(海上技術コース) → 第1位【 】 第2位【 】 第3位【 】

1. 見張り
2. 航海計器の取り扱い
3. 操舵
4. ロープワーク
5. 海事法規
6. 気象海象の観測
7. 係船作業
8. 整備作業
9. 工具の名称・使用法
10. 荷役
11. 安全管理
12. その他【 】

問 15 機関関係教育で身につけてほしいことは何ですか。重要な順に3つ選び番号を【 】内に記入してください。

海上技術学校(本科) → 第1位【 】 第2位【 】 第3位【 】

海上技術短期大学校(専修科)→ 第1位【 】 第2位【 】 第3位【 】

海技大学校(海上技術コース) → 第1位【 】 第2位【 】 第3位【 】

1. 機関の構造知識
2. 配管系等の知識
3. 機器の名称・役割
4. 機器取り扱い・操作
5. 機器の保守・管理
6. 電気に関する知識
7. 油圧に関する知識
8. 工具の名称・使用法
9. 計測機器の名称・使用法
10. 警報に対する処置
11. 安全管理
12. その他【 】

問 16 海上技術学校(本科)、海上技術短期大学校(専修科)が行っている両用教育についてどのようにお考えですか。ここで「片方」とは、航海または機関の一方を専門職とした場合を示します。

1. 従来どおりでよい
2. 両用教育は行うが、どちらか片方の教育に重点を置く
3. 片方だけの教育に取り組み、その充実を図る
4. その他【 】

問 17 海上技術学校及び海上技術短期大学校の養成定員は十分であると思われますか。お答えください。

- 1. 十分である
- 2. 多い 【理由: _____】
- 3. 少ない 【理由: _____】

参考:平成 24～28 年度の養成定員は、次のとおりです。

学校	年度・定員				備考 (28 年度学校別定員)
	24～25 年度 定員	26 年度 定員	27 年度 定員	28 年度 定員	
海上技術学校(本科)	120	140	140	140	小樽校 30、館山校 40、 唐津校 40、口之津校 30
海上技術短期大学校(専修科)	230	230	240	250	宮古校 45、清水校 115、 波方校 90
合計	350	370	380	390	

問 18 海上技術学校・海上技術短期大学校及び海技大学校等の船員教育機関の教育内容について、ご意見・ご要望がありましたら記入してください。

ご意見・ご要望

ご協力ありがとうございました。

公益財団法人 海技教育財団
 会長 武藤 光一
 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-4 海運ビル 8F
 電話 03-3288-0991 FAX 03-3288-0992
 E-mail: ship@macf.jp 担当 教育振興事業課長 加藤

資料A-2 若年船員アンケート調査票

若年船員に対するアンケート

若年船員の皆様へ

公益財団法人海技教育財団

会長 武藤光一

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-4 海運ビル8階

電話 03-3288-0991 FAX 03-3288-0992

E-mail ship@macf.jp

担当 教育振興事業課長 加藤

お 願 い

当財団は、独立行政法人海技教育機構等の学生・生徒募集支援や船員を志望する学生・生徒への奨学金の貸与等の事業を行っている公益財団法人です。

この度、当財団の海技教育支援事業の一環として、平成23年度の調査に引き続き、30歳未満の船員の方に対して、本アンケートを実施することになりました。

前回の調査から5年が経過し、時系列調査を維持するためや内航業界や船員教育機関を取り巻く環境の変化に対応するため、前回と同様な調査を実施することになりました。

ご承知のとおり、内航海運では船員不足が危惧されて久しく、特に若年者の内航海運への就職と定着を確実なものとしていくことが必要であると考えられます。

また、船員教育機関においても、内航海運界のニーズに応えるためには、内航船員教育の内容の改善・見直しを図って行かなければなりません。

本アンケートは、そういった問題を検討するための基礎材料となるものです。また、回答内容については、皆様にご迷惑がかかるようなことは一切ありませんので、ご安心ください。

以上の趣旨をご理解いただき、何かとご多用とは存じますが、アンケートの記入にご協力くださいますようお願い申し上げます。

誠に勝手ではございますが、このアンケートは入手後2週間以内にご記入いただき、ご記入後、アンケート用紙を同封の返信用封筒に入れ、そのまま投函ください。

なお、不明な点は、上記担当者に加藤までご連絡ください。

以上

本アンケートは、30歳未満の方のみ、平成28年11月1日現在についてご記入ください。

各質問で選択する場合には、該当する番号に○印をお付けください。また、()内には、該当する数又は語句で、ご意見・ご要望欄には率直なご回答をお願いします。

Q1 現在の年齢をご記入ください。()歳

Q2 最後にご卒業された学校は、以下のどれですか。○印を1つつけてください

1. 中学校
2. 高等学校
3. 水産高校 本科
4. 水産高校 専攻科
5. 海上技術学校
6. 海上技術短期大学校
7. 海技大学校
8. 商船系高等専門学校
9. 商船系大学
10. その他 ()

Q3 現在所有している海技免状は、次のどれですか。

1. 3級海技士(航海)
2. 3級海技士(機関)
3. 4級海技士(航海)
4. 4級海技士(機関)
5. 5級海技士(航海)
6. 5級海技士(機関)
7. 6級海技士(航海)
8. 6級海技士(機関)
9. その他 ()

Q4 現在乗船している、又は最後に乗船した船は、以下のどれですか。○印を1つつけてください。

- | | | |
|---------------|---------------|-----------|
| 1. 貨物船 | 2. セメント専用船 | 3. 自動車専用船 |
| 4. 砂・砂利・石材専用船 | 5. 油送船 | 6. 特殊タンク船 |
| 7. タグボート・曳船 | 8. 旅客船・カーフェリー | 9. 漁船 |
| 10. その他 () | | |

Q5 あなたの現在の職務は以下のどれですか。○印を1つつけてください。

- | | | |
|----------|----------|------------|
| 1. 甲板部職員 | 2. 機関部職員 | 3. 甲板部部員 |
| 4. 機関部部員 | 5. 司厨部部員 | 6. その他 () |

Q6 現在の会社に入社する前の職業は、以下のどれですか。○印をつけてください。

- | | | |
|---------|------------|---------|
| 1. 学生 | 2. 内航船員 | 3. 漁船船員 |
| 4. 陸上職業 | 5. その他 () | |

Q6-2 補足質問 Q6で、2、3、4、5のいずれかに○印をつけられた方にお尋ねします。

(Q6で、1を選ばれた方は、次のQ7に進んでください。)

現在の会社を含めて、最後に学校を卒業されて、現在までに何社に籍を置かれましたか。

現在の会社に至るまで、順にご記入ください。

【最終学校卒業後】

* 内航船社には旅客船、カーフェリー、タグを含みます。

※ その他は官庁です。

* (在籍期間)は0.5年は1年に、2.3年は3年のように端数は繰り上げてください。

	いずれかを○で囲んでください				在職期間*
1番目に就職した会社	内航船社*	漁船	陸上	その他※	()年
2番目に就職した会社	内航船社	漁船	陸上	その他	()年
3番目に就職した会社	内航船社	漁船	陸上	その他	()年
4番目に就職した会社	内航船社	漁船	陸上	その他	()年
5番目に就職した会社	内航船社	漁船	陸上	その他	()年
6番目に就職した会社	内航船社	漁船	陸上	その他	()年
7番目に就職した会社	内航船社	漁船	陸上	その他	()年
8番目に就職した会社	内航船社	漁船	陸上	その他	()年
9番目に就職した会社	内航船社	漁船	陸上	その他	()年
10番目に就職した会社	内航船社	漁船	陸上	その他	()年

※該当するところまでお書きください。最後の記入箇所が現在の会社になります。

Q7 今後も現在の会社でずっと働きたいと思いますか。○印を1つつけてください。

1. ずっと続けたいと思う
2. 変わりたいと思うこともあるが、このまま続けることになると思う
3. 機会があつたら、変わりたいと思う
4. どうしても変わりたいと思う

Q7-2 補足質問 Q7で、3又は4を選んだ方は、「変わりたい理由」は何でしょうか。
(あてはまるもの全てに○をつけてください)

1. 収入
2. 休暇
3. 職務
4. 人間関係
5. 家庭事情
6. その他 ()

Q8 内航船員として長く続けることを考えた場合、どのような点の改善を強く望まれますか。
優先順位の第1位から第3位まで、番号を1つずつ、ご記入ください。

- 第1位 () 第2位 () 第3位 ()
1. 賃金などの収入
 2. 乗船期間の長さ
 3. 荷役時間の長さ
 4. メンテ等作業時間の長さ
 5. 休暇の長さ
 6. 内航船員の社会的評価
 7. その他 ()

Q9 あなたが職場生活で重要だと感じられるのは、どのような点についてでしょうか。
優先順位の第1位から第3位まで、番号を1つずつ、ご記入ください。

- 第1位 () 第2位 () 第3位 ()
1. 仕事自体に生きがいがあること
 2. よい上司や同僚に恵まれること
 3. 職場の施設や設備が十分であること
 4. 自分の能力を発揮できる場があること
 5. 同年代の仲間がいること
 6. 職場が楽しいこと
 7. 労働時間や休暇の長さ
 8. 収入の多さ
 9. 携帯が圏外にならないこと
 10. その他 ()

【海上技術学校・海上技術短期大学校卒業の方】対象

Q10 Q2で、5又は6と答えられた卒業生の方にお尋ねします。

会社の船に乗ってみて、学校で習った授業で役に立ったと感じた教科目はどれでしょうか。
また、どんな内容でしょうか。該当する科目に○印をつけ、()にどんな内容のことが、
記入してください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 航法 () | 2. 航海計器 () |
| 3. 運用 () | 4. 海洋気象 () |
| 5. 海事法規 () | 6. 海運実務 () |
| 7. 海事英語 () | 8. 情報技術 () |
| 9. 船用機関 () | 10. 機械工作 () |
| 11. 海上実習 () | 12. 航海実技 () |
| 13. 機関実技 () | 14. 総合訓練 () |
| 15. 電気工学 () | 16. 計測制御 () |
| 17. その他 () | |

該当する内容の詳細について

[]

Q10-2 Q10 で回答された方にお尋ねします。

会社の船に乗ってみて、学校で習った授業で不足していると感じた教科目はどれでしょうか。
また、どんな内容でしょうか。該当する科目に○印をつけ、()にどんな内容のことが、
記入してください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 航法 () | 2. 航海計器 () |
| 3. 運用 () | 4. 海洋気象 () |
| 5. 海事法規 () | 6. 海運実務 () |
| 7. 海事英語 () | 8. 情報技術 () |
| 9. 船用機関 () | 10. 機械工作 () |
| 11. 海上実習 () | 12. 航海実技 () |
| 13. 機関実技 () | 14. 総合訓練 () |
| 15. 電気工学 () | 16. 計測制御 () |
| 17. その他 () | |

該当する内容の詳細について

[]

Q14 乗船実習後半に行った選択実習について、役に立った実習、改善が必要な実習を教えてください。
(役に立った実習): (改善が必要な実習):

※ 選択実習：志望別（航海系、機関係）で分かれて行った実習

(例) 単独航海当直、操船シミュレータ実習、係留索・ワイヤー取扱実習、機器開放実習（油
清浄機、空気圧縮機、ポンプ他）等

Q15 最後に、海技教育機構(旧航海訓練所)の練習船実習及び内航船員教育に対するご意見、ご要望等
があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。ご安航をお祈り申し上げます。

資料B 船会社調査集計及び記述回答

表 B1-1-1 船社所在地(運輸局)

問1	運輸局別	会社数	(%)
	北海道	11	5.0
	東北	8	3.6
	関東	47	21.3
	北陸信越	3	1.4
	中部	16	7.2
	近畿	28	12.7
	中国	34	15.4
	四国	35	15.8
	九州	37	16.7
	沖縄	2	0.9
	無回答		
	合計	221	100.0

付表 B1-1-1 船社所在地(運輸局)

問1 地域 分類	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	合計 %
地域											
北海	57.9	42.1									100.0
東北			94.0	6.0							100.0
関東					36.4	63.6					100.0
北陸信越							100.0				100.0
中部								100.0			100.0
近畿									94.9	5.1	100.0
中国											100.0
四国											100.0
九州											100.0
沖縄											100.0
業種											
運送業		2.4	34.1		4.9	9.8	19.5	9.8	14.6	4.9	100.0
貸渡業		2.2	4.3		4.3	8.7	23.9	41.3	15.2		100.0
兼業			44.4		5.6	16.7	22.2	5.6	5.6		100.0
フェリー旅客	7.5		9.4	5.7	9.4	18.9	7.5	17.0	24.5		100.0
曳船等	17.9	7.7	15.4		12.8	15.4	10.3	5.1	15.4		100.0
管理・派遣			60.0			6.7	20.0		13.3		100.0
その他		33.3	33.3		11.1				22.2		100.0
主船型											
700総トン未満	8.7	5.8	15.5	1.9	11.7	16.5	13.6	9.7	16.5		100.0
700総トン以上	1.7	1.7	25.6	0.9	3.4	9.4	17.1	21.4	17.1	1.7	100.0
主船種											
貨物			19.0		11.9	16.7	23.8	14.3	11.9	2.4	100.0
タンカー			28.6			7.1	21.4	28.6	12.5	1.8	100.0
専用と大型		18.2	18.2			9.1	27.3	9.1	18.2		100.0
フェリー	10.3	1.7	12.1	5.2	8.6	15.5	6.9	15.5	24.1		100.0
曳船等	12.5	10.0	17.5		12.5	15.0	12.5	5.0	15.0		100.0
その他		7.7	46.2		7.7	7.7		7.7	23.1		100.0
雇用規模											
10人未満	4.3		26.1	4.3	8.7	8.7	13.0	17.4	17.4		100.0
10～24人	12.1	6.9	15.5	1.7	10.3	12.1	19.0	10.3	12.1		100.0
25～49人	2.6	3.9	17.1		6.6	13.2	14.5	23.7	18.4		100.0
50～99人		2.2	28.9		4.4	15.6	11.1	13.3	22.2	2.2	100.0
100人以上	5.3		31.6	5.3	5.3	10.5	21.1	5.3	10.5	5.3	100.0
採用者履歴											
海技教育機構	5.0	3.3	28.9	1.7	5.8	14.9	8.3	19.0	11.6	1.7	100.0
その他	4.5	3.0	9.1	1.5	7.6	12.1	22.7	15.2	24.2		100.0

表 B1-1-2 業種別船社数

問2	業種	会社数 (%)	
	運送業	41	18.6
	貸渡業	46	20.8
	兼業	18	8.1
	フェリー旅客	53	24.0
	曳船・港湾作業船等	39	17.6
	船舶管理・派遣業	15	6.8
	その他	9	4.1
	合計	221	100.0

付表 B1-1-2 業種別船社数

問2	業種	運送業	貸渡業	兼業	客フェリー 旅客	作曳船 業船・港 湾	派船舶 遣船管 理・	その他	合計 %
地域									
	北海東北	5.3	5.3		21.1	52.6		15.8	100.0
	関東北信越	28.0	4.0	16.0	16.0	12.0	18.0	6.0	100.0
	中部近畿	13.6	13.6	9.1	34.1	25.0	2.3	2.3	100.0
	中国	23.5	32.4	11.8	11.8	11.8	8.8		100.0
	四国	11.4	54.3	2.9	25.7	5.7			100.0
	九州沖縄	20.5	17.9	2.6	33.3	15.4	5.1	5.1	100.0
業種									
	運送業	100.0							100.0
	貸渡業		100.0						100.0
	兼業			100.0					100.0
	フェリー旅客				100.0				100.0
	曳船等					100.0			100.0
	管理・派遣						100.0		100.0
	その他							100.0	100.0
主船型									
	700総トン未満	14.6	12.6	7.8	18.4	36.9	3.9	5.8	100.0
	700総トン以上	22.2	28.2	8.5	29.1	0.9	8.5	2.6	100.0
主船種									
	貨物	28.6	45.2	21.4			4.8		100.0
	タンカー	35.7	42.9	10.7			10.7		100.0
	専用と大型	27.3	27.3	18.2			27.3		100.0
	フェリー	3.4			89.7	5.2	1.7		100.0
	曳船等	5.0			2.5	82.5		10.0	100.0
	その他	15.4		7.7		23.1	15.4	38.5	100.0
雇用規模									
	10人未満	30.4	17.4	13.0	13.0	13.0	8.7	4.3	100.0
	10～24人	12.1	13.8	8.6	32.8	24.1	1.7	6.9	100.0
	25～49人	17.1	30.3	3.9	18.4	17.1	9.2	3.9	100.0
	50～99人	17.8	24.4	11.1	20.0	17.8	6.7	2.2	100.0
	100人以上	31.6		10.5	42.1	5.3	10.5		100.0
採用者履歴									
	海技教育機構	22.3	20.7	5.0	24.8	18.2	6.6	2.5	100.0
	その他	12.1	18.2	12.1	25.8	21.2	6.1	4.5	100.0

表 B1-2-1・2・3・4・5 業種・総トン数別船社数・船舶数

問3	船種 構成比(%)	～199トン	200トン～	500トン～	700トン～	1000トン～	船舶数	会社数
船舶数	貨物船	1.5	9.8	1.2	2.4	5.5	20.4	22.1
	タンカー	1.4	3.8	0.9	3.9	9.7	19.7	23.5
	専用船	0.3	0.4	0.2	0.8	2.2	3.7	5.9
	フェリー旅客	7.5	2.1	1.4	0.9	9.4	21.4	21.1
	曳船・港湾作業船等	19.3	6.9	0.1	0.6	0.6	27.4	19.5
	その他	6.0	0.7	0.2		0.7	7.5	8.0
	合計(隻数)	35.7	23.6	4.0	8.5	28.1	100.0	
	会社(延数)	27.2	23.7	7.7	12.3	29.1	100.0	100.0
増加	貨物船	0.5	1.3	0.6	0.4	0.5	3.1	8.1
	タンカー	0.1	0.2		0.4	1.3	2.0	6.3
	専用船				0.1	0.4	0.3	1.4
	フェリー旅客	0.2	0.3		0.4	0.7	1.6	4.5
	曳船・港湾作業船等	2.9	0.6	0.1	0.1		3.7	10.0
	その他	0.1	0.1			0.1	0.3	1.4
	合計(隻数)	3.6	2.5	0.8	1.4	2.8	11.0	
	会社(延数)	9.0	7.2	2.3	5.4	8.1		32.1
減少	貨物船		0.9	0.3	0.2	0.2	1.6	5.9
	タンカー	0.1	0.2	0.5	0.2	0.4	1.4	5.4
	専用船					0.2	0.2	0.9
	フェリー旅客	0.7	0.5	0.4		0.8	2.4	6.8
	曳船・港湾作業船等	2.1	0.9				3.0	6.8
	その他	0.3	0.1				0.4	1.8
	合計(隻数)	3.2	2.6	1.2	0.4	1.7	9.0	
	会社(延数)	8.1	9.0	4.1	1.4	5.4		28.1
船種 (実数)								
船舶数	貨物船	15	99	12	24	55	205	83
	タンカー	14	38	9	39	98	198	88
	専用船	3	4	2	8	22	37	22
	フェリー旅客	76	21	14	9	95	215	79
	曳船・港湾作業船等	194	69	1	6	6	276	73
	その他	60	7	2		7	76	30
	合計(隻数)	360	238	40	86	283	1007	
	会社(延数)	102	89	29	46	109	375	375
	無回答(社)							1
増加隻数	貨物船	5	13	6	4	5	31	18
	タンカー	1	2		4	13	20	14
	専用船				1	4	3	3
	フェリー旅客	2	3		4	7	16	10
	曳船・港湾作業船等	29	6	1	1		37	22
	その他	1	1			1	3	3
	合計(隻数)	36	25	8	14	28	111	
	会社(延数)	20	16	5	12	18		71
	無回答(社)							150
減少隻数	貨物船		9	3	2	2	16	13
	タンカー	1	2	5	2	4	14	12
	専用船					2	2	2
	フェリー旅客	7	5	4		8	24	15
	曳船・港湾作業船等	21	9				30	15
	その他	3	1				4	4
	合計(隻数)	32	26	12	4	17	91	
	会社(延数)	18	20	9	3	12		62
	無回答(社)							159

付表 B1-2-1・2・3・4・5 業種・総トン数別船社数・船舶数

問3 分類	総トン					合計 %	船種						合計 %	
	1 9 9	2 0 0 5	5 0 0 5	7 0 0 5	1 0 0 0		貨物船	タンカー	専用船	客フェリー 旅	曳船等	その他		
地域														
北海東北	58.0	23.2			18.8	100.0	0.7		2.6	15.2	25.2	2.0	100.0	
関東北信越	32.8	17.2	2.9	4.6	42.4	100.0	7.4	10.9	1.0	6.2	9.9	4.5	100.0	
中部近畿	48.9	27.0	2.1	3.0	19.0	100.0	7.0	2.4	0.8	13.0	16.6	4.9	100.0	
中国	20.0	40.0	3.4	13.7	22.9	100.0	17.6	10.2	3.3	2.4	7.6	0.5	100.0	
四国	17.9	17.9	8.5	16.2	39.3	100.0	6.8	16.8	1.3	10.0	1.9	1.0	100.0	
九州沖縄	42.0	14.9	6.9	14.4	21.8	100.0	6.6	5.9	1.2	10.6	13.2	3.5	100.0	
業種														
運送業	18.4	20.7	2.9	10.3	47.7	100.0	35.6	46.0	4.6	3.4	6.9	3.4	100.0	
貸渡業	7.3	31.1	7.3	20.5	33.8	100.0	43.7	49.7	6.6				100.0	
兼業	11.5	40.2	8.0	13.8	26.4	100.0	69.0	17.2	5.7		1.1	6.9	100.0	
フェリー旅客	34.8	10.5	5.2	4.3	45.2	100.0	1.0			91.9	6.2	1.0	100.0	
曳船等	71.8	23.8	0.4	2.2	1.8	100.0		0.7		4.3	83.8	11.2	100.0	
管理・派遣	4.7	42.2	4.7	15.6	32.8	100.0	23.4	40.6	21.9	6.3		7.8	100.0	
その他	74.5	10.6	4.3		10.6	100.0					44.7	55.3	100.0	
主船型														
700総トン未満	58.9	34.4	4.0	1.2	1.4	100.0	17.4	9.1	0.4	16.3	45.4	11.4	100.0	
700総トン以上	6.1	9.5	3.9	18.0	62.5	100.0	24.1	33.2	8.0	27.7	4.5	2.5	100.0	
主船種														
貨物	6.8	41.0	6.8	14.3	31.1	100.0	96.3	1.2	1.2		0.6	0.6	100.0	
タンカー	5.8	22.3	4.9	18.0	49.0	100.0	7.8	89.8	1.9			0.5	100.0	
専用と大型	3.9	33.3	3.9	19.6	39.2	100.0	23.5	13.7	60.8			2.0	100.0	
フェリー	35.1	9.8	6.2	4.0	44.9	100.0	1.8			94.2	1.8	2.2	100.0	
曳船等	65.9	28.9	0.4	2.6	2.2	100.0	4.4	0.7		0.4	91.2	3.3	100.0	
その他	84.0	8.5	2.1		5.3	100.0	6.4	2.1		2.1	26.6	62.8	100.0	
雇用規模														
10人未満	46.3	14.8	5.6	7.4	25.9	100.0	13.0	22.2	1.9	27.8	33.3	1.9	100.0	
10～24人	60.2	25.4	2.8	3.9	7.7	100.0	12.2	10.5	1.1	34.8	30.9	10.5	100.0	
25～49人	35.7	25.8	3.9	11.1	23.4	100.0	18.0	24.9	4.5	16.5	29.7	6.3	100.0	
50～99人	35.4	18.1	3.9	7.9	34.6	100.0	18.1	21.3	4.3	11.4	32.3	12.6	100.0	
100人以上	10.6	27.7	4.8	9.6	47.3	100.0	37.2	16.0	4.3	28.2	12.8	1.6	100.0	
採用者履歴														
海技教育機構	39.1	17.9	2.8	8.0	32.2	100.0	16.2	21.9	2.8	21.0	31.8	6.3	100.0	
その他	36.8	35.6	7.1	7.1	13.4	100.0	25.7	14.2	3.2	26.5	22.9	7.5	100.0	

表 B2-1-1 雇用船員数

問4 雇用船員数	会社数	(%)
10人未満	23	10.4
10～24人	58	26.2
25～49人	76	34.4
50～99人	45	20.4
100人以上	19	8.6
無回答		
合計	221	100.0

表 B2-1-2 雇用船員の年齢構成

問4 年齢	船員数	(%)
20歳未満	130	1.4
20歳代	2051	22.0
30歳代	1822	19.5
40歳代	2150	23.0
50歳代	2231	23.9
60歳以上	955	10.2
合計(人数)	9335	100.0
無回答(社)	5	
平均年齢(概数)	42.4	

付表 B2-1-1 海技教育機構関係学校卒業生採用会社

問6-1 採用者(H24-H28)	(社)	(%)
海技教育機構	121	54.8
その他	66	29.9
無回答・無採用	34	15.4
合計	221	100.0

付表 B2-1-1・2 雇用船員数・年齢

問4 雇用船員 分類	2	2	3	4	5	6	合計 %
	0 歳 未 満	0 歳 代	0 歳 代	歳 代	歳 代	歳 以上	
地域							
北海東北	1.8	20.5	16.0	18.7	21.5	2.6	100.0
関東北信越	1.1	22.4	17.3	17.3	17.3	5.2	100.0
中部近畿	1.1	15.7	15.6	24.0	17.0	4.6	100.0
中国	0.7	12.5	10.3	13.3	21.2	18.7	100.0
四国	1.2	16.0	15.0	16.9	21.2	11.0	100.0
九州沖縄	1.1	16.3	17.4	18.1	19.1	7.1	100.0
業種							
運送業	1.1	21.5	16.1	20.7	23.9	8.4	100.0
貸渡業	1.1	15.5	13.7	14.6	24.3	21.9	100.0
兼業	1.5	17.9	16.3	18.9	20.7	14.9	100.0
フェリー旅客	1.9	21.1	19.9	28.0	20.6	1.4	100.0
曳船等	0.3	20.2	21.6	19.4	16.5	4.3	100.0
管理・派遣	0.2	20.1	15.8	15.0	23.8	17.1	100.0
その他	3.6	21.9	14.0	10.4	21.9	11.2	100.0
主船型							
700総トン未満	0.7	16.9	17.5	17.6	20.0	11.8	100.0
700総トン以上	1.6	21.4	17.6	22.5	22.5	7.9	100.0
主船種							
貨物	1.2	17.2	15.4	18.0	21.1	18.3	100.0
タンカー	1.0	20.3	15.2	16.8	25.3	12.8	100.0
専用と大型	1.0	18.3	15.6	20.0	25.0	11.9	100.0
フェリー	1.9	21.1	19.8	27.4	20.4	2.5	100.0
曳船等	0.4	19.0	19.3	19.8	18.4	6.0	100.0
その他	1.8	22.4	19.0	12.7	19.2	9.7	100.0
雇用規模							
10人未満	1.5	7.8	15.1	11.2	18.0	20.0	100.0
10～24人	1.5	16.1	18.1	18.0	19.9	9.8	100.0
25～49人	0.9	18.0	15.5	18.8	23.5	12.0	100.0
50～99人	1.3	22.2	18.2	20.1	22.4	7.6	100.0
100人以上	1.4	21.3	19.1	25.0	19.6	7.3	100.0
採用者履歴							
海技教育機構	1.2	22.0	18.2	21.8	21.1	6.7	100.0
その他	1.1	13.8	16.7	18.6	20.8	16.8	100.0

表 B2-1-3 雇用船員の採用経緯

問5 採用経緯 (複数回答)	会社数	(%)
船員職業紹介	115	52.0
教育機関職業指導	123	55.7
本人申し出	97	43.9
会社求人広告	76	34.4
知人紹介	78	35.3
船員派遣業者	7	3.2
その他	4	1.8
無回答	11	5.0
合計	221	231.2

表 B2-2-1-2 船員採用の推移

	卒業学校	採用経緯			合計 (%)	採用経緯			合計 (%)
		中途採用	海技教育 機構	その他新 卒		中途採用	海技教育 機構	その他新 卒	
問6-1 採用年	H24	241	80	86	407	59.2	19.7	21.1	100.0
	H25	398	97	96	591	67.3	16.4	16.2	100.0
	H26	441	112	97	650	67.8	17.2	14.9	100.0
	H27	551	113	141	805	68.4	14.0	17.5	100.0
	H28	473	106	133	712	66.4	14.9	18.7	100.0
	無回答	5	1		6	83.3	16.7		100.0
	合計	2109	509	552	3170	66.5	16.1	17.4	100.0
年齢	20歳未満	31	123	154	308	10.1	39.9	50.0	100.0
	20～29歳	602	379	392	1373	43.8	27.6	28.6	100.0
	30～39歳	433	4	3	440	98.4	0.9	0.7	100.0
	40～49歳	311	1	2	314	99.0	0.3	0.6	100.0
	50～59歳	419			419	100.0			100.0
	60歳以上	309		1	310	99.7		0.3	100.0
	無回答	4	2		6	66.7	33.3		100.0
	合計	2109	509	552	3170	66.5	16.1	17.4	100.0
回答会社数					189				
回答会社の雇用船員数					7669				

表 B2-2-3 採用者の職務

問6-1 採用者職務	採用経緯			合計 (人)	採用経緯			合計 (%)
	中途採用	海技教育 機構	その他 新卒		中途採用	海技教育 機構	その他 新卒	
船長	87	8	2	97	4.1	1.6	0.4	3.1
一等航海士	206	8	7	221	9.8	1.6	1.3	7.0
二等航海士	258	13	9	280	12.2	2.6	1.6	8.8
三等航海士	70	32	76	178	3.3	6.3	13.8	5.6
甲板長	229	69	48	346	10.9	13.6	8.7	10.9
甲板手	382	198	166	746	18.1	38.9	30.1	23.5
機関長	106	5	3	114	5.0	1.0	0.5	3.6
一等機関士	241	15	5	261	11.4	2.9	0.9	8.2
二等機関士	127	20	11	158	6.0	3.9	2.0	5.0
三等機関士	51	17	53	121	2.4	3.3	9.6	3.8
操機長	39	25	12	76	1.8	4.9	2.2	2.4
操機手	87	93	87	267	4.1	18.3	15.8	8.4
司厨長・手 事務長・員	182		37	219	8.6		6.7	6.9
サービス	18		5	23	0.9		0.9	0.7
無回答	15		27	42	0.7		4.9	1.3
	12	6	4	23	0.6	1.2	0.7	0.7
合計	2109	509	552	3170	100.0	100.0	100.0	100.0

表 B2-2-4 a 採用者の免状（取得状況）

問6-1 採用時免状		中途採用	海技教育 機構	その他 新卒	合計 (人)
(人)	航海	1091	423	215	1729
	機関	1152	379	344	1875
	両方	134	293	7	434
	片方	1476	179	338	1993
	なし/無回答	499	37	207	743
	合計	2109	509	552	3170
(%)	航海	51.7	83.1	38.9	54.5
	機関	54.6	74.5	62.3	59.1
	両方	6.4	57.6	1.3	13.7
	片方	70.0	35.2	61.2	62.9
	なし/無回答	23.7	7.3	37.5	23.4
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表 B2-2-4 b 採用者の免状（種類）

問6-1 採用時免状	第一				第二				延べ数			
	中途採 用	海技教 育機構	その他 新卒	合計	中途採 用	海技教 育機構	その他 新卒	合計	中途採 用	海技教 育機構	その他 新卒	合計
1・2級(航海)	54	2	12	68					54	2	12	68
3級(航海)	291	24	173	488					291	24	173	488
4級(航海)	459	275	19	753	33	118	3	154	492	393	22	907
5級(航海)	99	3		102		1		1	99	4		103
6級(航海)	97		1	98	1			1	98		1	99
1・2級(機関)	57		7	64	1			1	58		7	65
3級(機関)	181	11	118	310	2		1	3	183	11	119	313
4級(機関)	265	156	13	434	93	173	3	269	358	329	16	703
5級(機関)	78		2	80	5	1		6	83	1	2	86
6級(機関)	19			19					19			19
小型 通信	4			4					4			4
無回答	5			5					5			5
無回答	500	38	207	745	1975	216	545	2736	2475	254	752	3481
合計	2109	509	552	3170	2109	509	552	3170	4218	1018	1104	6340
1・2級(航海)	2.6	0.4	2.2	2.1					1.3	0.2	1.1	1.1
3級(航海)	13.8	4.7	31.3	15.4					6.9	2.4	15.7	7.7
4級(航海)	21.8	54.0	3.4	23.8	1.6	23.2	0.5	4.9	11.7	38.6	2.0	14.3
5級(航海)	4.7	0.6		3.2		0.2		0.0	2.3	0.4		1.6
6級(航海)	4.6		0.2	3.1	0.0			0.0	2.3		0.1	1.6
1・2級(機関)	2.7		1.3	2.0	0.0			0.0	1.4		0.6	1.0
3級(機関)	8.6	2.2	21.4	9.8	0.1		0.2	0.1	4.3	1.1	10.8	4.9
4級(機関)	12.6	30.6	2.4	13.7	4.4	34.0	0.5	8.5	8.5	32.3	1.4	11.1
5級(機関)	3.7		0.4	2.5	0.2	0.2		0.2	2.0	0.1	0.2	1.4
6級(機関)	0.9			0.6					0.5			0.3
小型 通信	0.2			0.1					0.1			0.1
無回答	0.2			0.2					0.1			0.1
無回答	23.7	7.5	37.5	23.5	93.6	42.4	98.7	86.3	58.7	25.0	68.1	54.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 B2-3-1・2・3 船員退職の推移・年齢・在社年数

問6-1	前職・卒業学校	中途採用	海技教育機構	その他新卒	合計(人)	中途採用	海技教育機構	その他新卒	合計(%)
退職年	H24	234	40	45	319	73.4	12.5	14.1	100.0
	H25	386	59	72	517	74.7	11.4	13.9	100.0
	H26	379	70	75	524	72.3	13.4	14.3	100.0
	H27	415	60	93	568	73.1	10.6	16.4	100.0
	H28	343	47	54	444	77.3	10.6	12.2	100.0
	無回答	1			1	100.0			100.0
合計		1758	276	339	2373	74.1	11.6	14.3	100.0
退職者年齢	20歳未満	4	13	27	44	9.1	29.5	61.4	100.0
	20～29歳	270	224	169	663	40.7	33.8	25.5	100.0
	30～39歳	234	21	27	282	83.0	7.4	9.6	100.0
	40～49歳	273	3	14	290	94.1	1.0	4.8	100.0
	50～59歳	399	7	33	439	90.9	1.6	7.5	100.0
	60歳以上	562	5	66	633	88.8	0.8	10.4	100.0
	無回答	16	5	3	25	64.0	20.0	12.0	100.0
合計		1758	278	339	2376	74.0	11.7	14.3	100.0
退職者在社年	1年未満	373	25	30	428	87.1	5.8	7.0	100.0
	1年	265	57	47	369	71.8	15.4	12.7	100.0
	2年	143	46	30	219	65.3	21.0	13.7	100.0
	3年	83	18	24	125	66.4	14.4	19.2	100.0
	4年	74	13	17	104	71.2	12.5	16.3	100.0
	5～9年	200	38	41	279	71.7	13.6	14.7	100.0
	10～19年	156	11	14	181	86.2	6.1	7.7	100.0
	20～29年	125		14	139	89.9		10.1	100.0
	30～39年	43	2	17	62	69.4	3.2	27.4	100.0
	40年以上	41	4	43	88	46.6	4.5	48.9	100.0
	無回答	255	64	62	382	66.8	16.8	16.2	100.0
合計		1758	278	339	2376	74.0	11.7	14.3	100.0

表 B2-3-4 退職者の職務

問6-1 退職者職務	中途採用	海技教育機構	その他新卒	合計(人)	中途採用	海技教育機構	その他新卒	合計(%)
船長	164	4	27	195	84.1	2.1	13.8	100.0
一等航海士	194	4	7	205	94.6	2.0	3.4	100.0
二等航海士	175	22	16	213	82.2	10.3	7.5	100.0
三等航海士	54	20	37	111	48.6	18.0	33.3	100.0
甲板長	229	62	46	337	68.0	18.4	13.6	100.0
甲板手	219	70	48	337	65.0	20.8	14.2	100.0
機関長	198	3	23	224	88.4	1.3	10.3	100.0
一等機関士	177	9	10	196	90.3	4.6	5.1	100.0
二等機関士	68	11	6	85	80.0	12.9	7.1	100.0
三等機関士	21	11	20	52	40.4	21.2	38.5	100.0
操機長	28	13	8	49	57.1	26.5	16.3	100.0
操機手	50	38	24	112	44.6	33.9	21.4	100.0
司厨長・手	155	4	35	194	79.9	2.1	18.0	100.0
事務長・員	13		6	19	68.4		31.6	100.0
サービス	10	1	26	37	27.0	2.7	70.3	100.0
無回答	3	6		9	33.3	66.7		100.0
合計	1758	278	339	2375	74.0	11.7	14.3	100.0

表 B2-3-5 退職者の免状

問6-1 採用免状	中途	海技教	その他	合	中途	海技教	その他	合計	中途	海技教	その他	合計
	採用 第一	育機構	新卒		計	採用 第二	育機構		新卒	延べ数	採用	
1・2級(航海)	50	1	17	68					50	1	17	68
3級(航海)	258	37	83	378					258	37	83	378
4級(航海)	346	132	13	491	27	45	1	73	373	177	14	564
5級(航海)	108		5	113	2			2	110		5	115
6級(航海)	60	3	3	66	2			2	62	3	3	68
1・2級(機関)	69		8	77					69		8	77
3級(機関)	155	17	55	227					155	17	55	227
4級(機関)	209	64	12	285	53	76	2	131	262	140	14	416
5級(機関)	60		4	64	6		1	7	66		5	71
6級(機関)	8		1	9					8		1	9
小型	3			3					3			3
通信	4			4					4			4
無回答	428	24	138	590	1668	157	335	2160	2096	181	473	2750
合計(人)	1758	278	339	2375	1758	278	339	2375	3516	556	678	4750
1・2級(航海)	2.8	0.4	5.0	2.9					1.4	0.2	2.5	1.4
3級(航海)	14.7	13.3	24.5	15.9					7.3	6.7	12.2	8.0
4級(航海)	19.7	47.5	3.8	20.7	1.5	16.2	0.3	3.1	10.6	31.8	2.1	11.9
5級(航海)	6.1		1.5	4.8	0.1			0.1	3.1		0.7	2.4
6級(航海)	3.4	1.1	0.9	2.8	0.1			0.1	1.8	0.5	0.4	1.4
1・2級(機関)	3.9		2.4	3.2					2.0		1.2	1.6
3級(機関)	8.8	6.1	16.2	9.6					4.4	3.1	8.1	4.8
4級(機関)	11.9	23.0	3.5	12.0	3.0	27.3	0.6	5.5	7.5	25.2	2.1	8.8
5級(機関)	3.4		1.2	2.7	0.3		0.3	0.3	1.9		0.7	1.5
6級(機関)	0.5		0.3	0.4					0.2		0.1	0.2
小型	0.2			0.1					0.1			0.1
通信	0.2			0.2					0.1			0.1
無回答	24.3	8.6	40.7	24.8	94.9	56.5	98.8	90.9	59.6	32.6	69.8	57.9
合計(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 B3-1-1・2・3 採用予定会社の人数

問7	採用予定	1. 無採用	2. 未定	3. 採用予定	回答数	無回答	合計		
構成比 (%)	H29	9.5	18.6	67.9	95.9	4.1	100.0		
	H30	8.1	41.6	41.2	91.0	9.0	100.0		
	H31	7.7	49.8	32.1	89.6	10.4	100.0		
	H32	6.8	51.6	30.8	89.1	10.9	100.0		
	H33	6.8	53.8	28.5	89.1	10.9	100.0		
	人数	0人	1人	2人	3,4人	5~9人	10人~	回答会社数	平均人数
新規学卒	H29	3.8	34.6	28.6	16.5	13.5	3.0	100.0	2.8
	H30	7.4	48.1	25.9	11.1	4.9	2.5	100.0	2.0
	H31	9.5	39.7	28.6	14.3	6.3	1.6	100.0	1.9
	H32	9.5	41.3	36.5	7.9	3.2	1.6	100.0	1.8
	H33	10.9	40.0	36.4	9.1	1.8	1.8	100.0	1.7
その他	H29	9.3	38.9	29.6	13.0	7.4	1.9	100.0	1.9
	H30	15.4	30.8	28.2	12.8	10.3	2.6	100.0	2.1
	H31	20.0	33.3	23.3	13.3	6.7	3.3	100.0	1.9
	H32	22.2	29.6	22.2	18.5	3.7	3.7	100.0	1.9
	H33	23.1	38.5	19.2	11.5	3.8	3.8	100.0	1.7
学卒+他	H29	5.3	35.8	28.9	15.5	11.8	2.7	100.0	2.5
	H30	10.0	42.5	26.7	11.7	6.7	2.5	100.0	2.0
	H31	12.9	37.6	26.9	14.0	6.5	2.2	100.0	1.9
	H32	13.3	37.8	32.2	11.1	3.3	2.2	100.0	1.8
	H33	14.8	39.5	30.9	9.9	2.5	2.5	100.0	1.7
問7	会社数	1. 無採用	2. 未定	3. 採用予定	回答数	無回答	合計		
	H29	21	41	150	212	9	221		
	H30	18	92	91	201	20	221		
	H31	17	110	71	198	23	221		
	H32	15	114	68	197	24	221		
	H33	15	119	63	197	24	221		
		0人	1人	2人	3,4人	5~9人	10人以上	回答会社	合計人数
新規学卒	H29	5	46	38	22	18	4	133	371
	H30	6	39	21	9	4	2	81	160
	H31	6	25	18	9	4	1	63	120
	H32	6	26	23	5	2	1	63	114
	H33	6	22	20	5	1	1	55	93
その他	H29	5	21	16	7	4	1	54	105
	H30	6	12	11	5	4	1	39	81
	H31	6	10	7	4	2	1	30	56
	H32	6	8	6	5	1	1	27	52
	H33	6	10	5	3	1	1	26	45
学卒+他	H29	10	67	54	29	22	5	187	476
	H30	12	51	32	14	8	3	120	241
	H31	12	35	25	13	6	2	93	176
	H32	12	34	29	10	3	2	90	166
	H33	12	32	25	8	2	2	81	138

表 B3-2-1 若年者採用理由

問8	順位	1位	2位	3位
若年者採用理由	若い活力	16.7	15.8	17.2
	仕事チーム編成	2.7	5.0	2.7
	教えやすい	4.1	10.9	7.2
	人件費抑制	0.9	1.4	9.5
	年齢構成	19.5	18.6	14.5
	後継者育成	36.7	20.4	12.7
	将来性	10.4	17.6	19.9
	技術革新対応	0.9	3.6	3.6
	その他	3.6		2.3
	無回答	4.5	6.8	10.4
合計 (%)		100.0	100.0	100.0

付表 B3-2-1 若年者採用理由

(1/3)

問8 分類	第1位 若年者採用理由									合計 %
	若い活力	編成チーム	教えやすい	人件費抑制	年齢構成	後継者育成	将来性	技術革新対応	その他	
地域										
北海東北	11.1		5.6	5.6	44.4	27.8	5.6			100.0
関東北信越	12.2	4.1	2.0		26.5	40.8	10.2	2.0	2.0	100.0
中部近畿	26.8		4.9		12.2	36.6	9.8	2.4	7.3	100.0
中国	15.6	9.4	9.4		12.5	34.4	15.6		3.1	100.0
四国	17.6	2.9	5.9		5.9	44.1	14.7		8.8	100.0
九州沖縄	18.9			2.7	29.7	40.5	8.1			100.0
業種										
運送業	15.0	2.5	2.5		15.0	40.0	20.0		5.0	100.0
貸渡業	27.9	4.7	9.3		7.0	39.5	7.0	2.3	2.3	100.0
兼業	17.6				11.8	58.8	5.9	5.9		100.0
フェリー旅客	15.4	1.9	5.8		25.0	34.6	11.5		5.8	100.0
曳船等	19.4	5.6	2.8	2.8	33.3	22.2	8.3		5.6	100.0
管理・派遣	6.7			6.7	20.0	53.3	13.3			100.0
その他					50.0	50.0				100.0
主船型										
700総トン未満	17.3	4.1	2.0	2.0	26.5	36.7	6.1		5.1	100.0
700総トン以上	17.9	1.8	6.3		15.2	39.3	15.2	1.8	2.7	100.0
主船種										
貨物	28.2	2.6			7.7	43.6	10.3	2.6	5.1	100.0
タンカー	14.8	3.7	9.3	1.9	14.8	40.7	11.1	1.9	1.9	100.0
専用と大型	9.1				18.2	45.5	27.3			100.0
フェリー	17.9	1.8	5.4		25.0	33.9	10.7		5.4	100.0
曳船等	15.8	5.3	2.6	2.6	36.8	23.7	7.9		5.3	100.0
その他	8.3				16.7	66.7	8.3			100.0
雇用規模										
10人未満	28.6				9.5	47.6	4.8	4.8	4.8	100.0
10~24人	18.0		6.0	2.0	32.0	34.0	6.0		2.0	100.0
25~49人	21.1	5.3	6.6	1.3	13.2	35.5	13.2	1.3	2.6	100.0
50~99人	11.1	2.2	2.2		28.9	35.6	11.1		8.9	100.0
100人以上	5.3	5.3			10.5	57.9	21.1			100.0
採用者履歴										
海技教育機構	11.9	2.5	5.1		19.5	46.6	9.3	0.8	4.2	100.0
その他	27.0	1.6	4.8	3.2	19.0	30.2	11.1		3.2	100.0

問 8 分類	第2位 若年者採用理由									
	若い 活力	ム仕 編事 成チ !	い教 えや す	制人 件費 抑	年 齢 構 成	成後 継者 育	将来 性	対技 術革 新	そ の 他	合 計 %
地域										
北海道	16.7	5.6	16.7		22.2	33.3	5.6			100.0
関東北信越	16.7		16.7		25.0	22.9	16.7	2.1		100.0
中部近畿	9.8	7.3	12.2		19.5	22.0	24.4	4.9		100.0
中国	19.4	6.5	3.2	3.2	16.1	22.6	22.6	6.5		100.0
四国	21.9	3.1	9.4	3.1	12.5	18.8	28.1	3.1		100.0
九州沖縄	19.4	11.1	11.1	2.8	22.2	16.7	11.1	5.6		100.0
業種										
運送業	13.2	2.6	7.9	2.6	21.1	28.9	15.8	7.9		100.0
貸渡業	22.0	2.4	14.6	4.9	14.6	12.2	26.8	2.4		100.0
兼業	17.6	5.9	11.8		23.5	23.5	11.8	5.9		100.0
フェリー旅客	15.7	9.8	11.8		23.5	17.6	21.6			100.0
曳船等	11.1	5.6	11.1		19.4	33.3	16.7	2.8		100.0
管理・派遣	26.7	6.7	20.0		13.3	13.3	13.3	6.7		100.0
その他	25.0				25.0	25.0	12.5	12.5		100.0
主船型										
700総トン未満	19.1	4.3	12.8	2.1	23.4	20.2	16.0	2.1		100.0
700総トン以上	14.4	6.3	10.8	0.9	17.1	23.4	21.6	5.4		100.0
主船種										
貨物	21.6	5.4	16.2		13.5	16.2	24.3	2.7		100.0
タンカー	17.0	1.9	11.3	3.8	18.9	20.8	18.9	7.5		100.0
専用と大型	9.1	9.1		9.1	18.2	27.3	18.2	9.1		100.0
フェリー	14.5	9.1	12.7		23.6	20.0	20.0			100.0
曳船等	16.2	5.4	10.8		18.9	32.4	16.2			100.0
その他	16.7		8.3		33.3	16.7	8.3	16.7		100.0
雇用規模										
10人未満	26.3	5.3	5.3	5.3	15.8	10.5	31.6			100.0
10～24人	22.0	12.0	14.0		16.0	14.0	20.0	2.0		100.0
25～49人	18.9	2.7	9.5	2.7	20.3	21.6	18.9	5.4		100.0
50～99人	4.5	4.5	18.2		22.7	29.5	13.6	6.8		100.0
100人以上	15.8		5.3		26.3	36.8	15.8			100.0
採用者履歴										
海技教育機構	18.1	6.0	9.5		21.6	20.7	19.8	4.3		100.0
その他	18.3	5.0	11.7	3.3	20.0	18.3	20.0	3.3		100.0

問 8 分類	第3位 若年者採用理由									合計 %	
	若い 活力	編 成	仕 事 チ ーム	教 え や す い	人 件 費 抑 制	年 齢 構 成	後 継 者 育 成	将 来 性	応 技 術 革 新 対		そ の 他
地域											
北海道	27.8			5.6	27.8	16.7	5.6	16.7			100.0
関東北信越	31.9	4.3		8.5	8.5	10.6	14.9	17.0	2.1	2.1	100.0
中部近畿	17.5	5.0			7.5	25.0	7.5	27.5	7.5	2.5	100.0
中国	18.5	3.7		18.5	11.1	11.1	11.1	25.9			100.0
四国	16.1			12.9	9.7	16.1	19.4	9.7	6.5	9.7	100.0
九州沖縄	2.9	2.9		5.7	8.6	17.1	22.9	34.3	5.7		100.0
業種											
運送業	13.9			13.9	8.3	22.2	13.9	27.8			100.0
貸渡業	13.2			13.2	13.2	7.9	18.4	21.1	13.2		100.0
兼業	35.3	5.9			17.6	5.9		29.4	5.9		100.0
フェリー旅客	15.7	3.9			3.9	29.4	23.5	15.7	2.0	5.9	100.0
曳船等	22.2	2.8		8.3	19.4	13.9	5.6	19.4	2.8	5.6	100.0
管理・派遣	30.8	15.4		15.4	7.7		7.7	23.1			100.0
その他	28.6			14.3			14.3	42.9			100.0
主船型											
700総トン未満	18.9	3.3		10.0	13.3	15.6	8.9	21.1	4.4	4.4	100.0
700総トン以上	19.6	2.8		6.5	8.4	16.8	18.7	22.4	3.7	0.9	100.0
主船種											
貨物	17.6	2.9			5.9	14.7	11.8	29.4	17.6		100.0
タンカー	16.0	2.0		18.0	16.0	10.0	16.0	22.0			100.0
専用と大型	40.0	10.0			10.0	10.0	10.0	20.0			100.0
フェリー	14.5	3.6		1.8	3.6	27.3	21.8	20.0	1.8	5.5	100.0
曳船等	24.3	2.7		10.8	18.9	10.8	5.4	18.9	2.7	5.4	100.0
その他	27.3			18.2	9.1	18.2	9.1	18.2			100.0
雇用規模											
10人未満	5.3			5.3	15.8	5.3	21.1	31.6	15.8		100.0
10～24人	16.3	4.1		6.1	20.4	22.4	10.2	16.3		4.1	100.0
25～49人	20.0	4.3		8.6	7.1	10.0	15.7	25.7	4.3	4.3	100.0
50～99人	26.2	2.4		9.5	7.1	16.7	19.0	16.7	2.4		100.0
100人以上	22.2			11.1		33.3		27.8	5.6		100.0
採用者履歴											
海技教育機構	21.2	3.5		9.7	7.1	16.8	12.4	23.0	3.5	2.7	100.0
その他	17.2	3.4		5.2	15.5	13.8	17.2	19.0	5.2	3.4	100.0

表 B3-2-2 優先学校

問9	順位	1位	2位	3位
優先学校	中学校	0.5		0.9
	海上技術学校	13.6	17.2	13.1
	海上技術短大	35.3	29.0	11.3
	水産高校本科	2.7	7.2	13.6
	水産高校専攻科	12.2	19.9	18.6
	海技大学校	5.9	4.1	11.3
	他高校	0.9	1.4	4.1
	商船高専	13.1	9.5	13.1
	商船系大学	7.2	3.2	1.4
	一般大学			0.9
	その他	2.3	0.5	1.8
	無回答	6.3	8.1	10.0
	合計 (%)		100.0	100.0

付表 B3-2-2 優先学校

(1/3)

問9 第1位 分類	優先学校										合計 %	
	中学校	(海上技術学校 本科)	(海上技術短大 専修科)	(水産高校 本科)	(水産高校 専攻科)	海技大学校	他高校	商船高専	商船系大学	その他		
地域												
北海東北	27.8	22.2		27.8	5.6	5.6	5.6	5.6				100.0
関東北信越	10.9	43.5		6.5	6.5		8.7	19.6		4.3		100.0
中部近畿	7.1	47.6	4.8	9.5			23.8	7.1				100.0
中国	6.7	33.3	3.3	6.7	10.0	3.3	26.7	3.3		6.7		100.0
四国	11.4	48.6	5.7	17.1			14.3	2.9				100.0
九州沖縄	31.4	20.0	2.9	20.0	17.1		2.9	2.9		2.9		100.0
業種												
運送業	13.2	36.8	2.6	7.9	5.3		15.8	13.2		5.3		100.0
貸渡業	18.2	45.5	2.3	13.6	4.5		13.6	2.3				100.0
兼業	5.9	23.5	5.9	17.6	11.8		11.8	17.6		5.9		100.0
フェリー旅客	10.0	32.0	4.0	16.0	4.0	2.0	20.0	8.0		4.0		100.0
曳船等	19.4	47.2		13.9	5.6	2.8	8.3	2.8				100.0
管理・派遣	28.6	35.7			7.1		14.3	14.3				100.0
その他		28.6	14.3	28.6	28.6							100.0
主船型												
700総トン未満	17.5	45.4	4.1	13.4	5.2	1.0	6.2	3.1		4.1		100.0
700総トン以上	12.0	31.5	1.9	13.0	7.4	0.9	20.4	12.0		0.9		100.0
主船種												
貨物	20.0	32.5	7.5	7.5	5.0		20.0	5.0		2.5		100.0
タンカー	13.5	44.2		11.5	5.8		9.6	11.5		3.8		100.0
専用と大型		36.4		18.2	18.2		18.2	9.1				100.0
フェリー	13.2	32.1	3.8	15.1	3.8	1.9	17.0	9.4		3.8		100.0
曳船等	18.4	42.1		13.2	10.5	2.6	10.5	2.6				100.0
その他	9.1	45.5	9.1	27.3				9.1				100.0
雇用規模												
10人未満	19.0	33.3			9.5		9.5	14.3		14.3		100.0
10～24人	19.2	44.2	1.9	7.7	5.8	3.8	9.6	5.8		1.9		100.0
25～49人	16.0	37.3	4.0	21.3	5.3		13.3	2.7				100.0
50～99人	9.5	38.1	2.4	14.3	9.5		19.0	4.8		2.4		100.0
100人以上		25.0	6.3	6.3			25.0	37.5				100.0
採用者履歴												
海技教育機構	10.5	47.4	0.9	11.4	4.4	0.9	15.8	7.0		1.8		100.0
その他	19.4	25.8	8.1	17.7	8.1	1.6	9.7	6.5		3.2		100.0

(2/3)

問9 第2位 分類	優先学校										合計 %
	中学校	海上技術学校 (本科)	海上技術短大 (専修科)	水産高校 (本科)	水産高校 (専攻科)	海技大学校	他高校	商船高専	商船系大学	その他	
地域											
北海東北	5.6	61.1	5.6	22.2			5.6				100.0
関東北信越	20.0	15.6	13.3	24.4	2.2	2.2	17.8	4.4			100.0
中部近畿	17.5	30.0		27.5	5.0	2.5	12.5	2.5	2.5		100.0
中国	16.7	26.7	6.7	23.3	6.7		13.3	6.7			100.0
四国	28.6	40.0	2.9	20.0	2.9		5.7				100.0
九州沖縄	17.1	34.3	17.1	11.4	8.6	2.9	2.9	5.7			100.0
業種											
運送業	28.9	18.4	10.5	21.1	5.3		10.5	5.3			100.0
貸渡業	28.9	33.3	2.2	15.6	6.7		11.1		2.2		100.0
兼業	17.6	29.4	5.9	23.5	5.9		17.6				100.0
フェリー旅客	8.7	41.3	8.7	17.4		6.5	10.9	6.5			100.0
曳船等	13.9	30.6	8.3	33.3	5.6		8.3				100.0
管理・派遣	7.1	21.4	21.4	21.4	7.1		7.1	14.3			100.0
その他	14.3	57.1		28.6							100.0
主船型											
700総トン未満	18.1	31.9	8.5	28.7	4.3	1.1	7.4				100.0
700総トン以上	19.4	31.5	7.4	15.7	4.6	1.9	13.0	5.6	0.9		100.0
主船種											
貨物	25.0	30.0	5.0	22.5	2.5		12.5		2.5		100.0
タンカー	24.5	20.8	9.4	22.6	9.4		9.4	3.8			100.0
専用と大型	27.3	36.4	9.1		9.1		9.1	9.1			100.0
フェリー	8.2	40.8	10.2	16.3		6.1	12.2	6.1			100.0
曳船等	10.5	34.2	5.3	36.8	5.3		7.9				100.0
その他	36.4	36.4	9.1	9.1			9.1				100.0
雇用規模											
10人未満	30.0	15.0	20.0	5.0	10.0		10.0	5.0	5.0		100.0
10～24人	14.3	44.9		30.6	4.1	2.0	2.0	2.0			100.0
25～49人	22.4	32.9	7.9	21.1	3.9	1.3	9.2	1.3			100.0
50～99人	11.9	28.6	11.9	23.8	2.4	2.4	11.9	7.1			100.0
100人以上	18.8	12.5	6.3	12.5	6.3		37.5	6.3			100.0
採用者履歴											
海技教育機構	22.3	26.8	5.4	26.8	2.7	2.7	9.8	3.6			100.0
その他	16.1	41.9	12.9	16.1	4.8		8.1				100.0

問9 第3位 分類	優先学校										合計 %
	中学校	海上技術学校 (本科)	海上技術短大 (専修科)	水産高校 (本科)	水産高校 (専攻科)	海技大学校	他高校	商船高専	商船系大学	その他	
地域											
北海道	5.6	5.6	33.3	33.3	16.7		5.6				100.0
関東信越	20.9	14.0	4.7	25.6	14.0	7.0	11.6	2.3			100.0
中部近畿	12.8	12.8	17.9	17.9	7.7	10.3	12.8	2.6	2.6	2.6	100.0
中国	17.2	17.2	17.2	13.8	17.2		13.8			3.4	100.0
四国	8.8	5.9	17.6	26.5	14.7	5.9	20.6				100.0
九州沖縄	17.6	17.6	11.8	11.8	8.8		20.6	2.9	2.9	5.9	100.0
業種											
運送業	13.2	18.4	13.2	23.7	13.2		15.8	2.6			100.0
貸渡業	18.6	9.3	16.3	16.3	18.6	2.3	14.0			4.7	100.0
兼業	37.5	18.8	12.5	12.5	12.5	6.3					100.0
フェリー-旅客	7.0	14.0	11.6	32.6	4.7	11.6	11.6		4.7	2.3	100.0
曳船等	13.9	8.3	13.9	19.4	13.9	2.8	19.4	5.6		2.8	100.0
管理・派遣	7.1	7.1	21.4	7.1	21.4	7.1	28.6				100.0
その他	14.3	14.3	42.9	14.3			14.3				100.0
主船型											
700総トン未満	14.0	9.7	15.1	19.4	15.1	5.4	16.1	2.2	1.1	2.2	100.0
700総トン以上	15.5	14.6	15.5	22.3	10.7	3.9	13.6	1.0	1.0	1.9	100.0
主船種											
貨物	26.3	13.2	10.5	13.2	21.1	2.6	5.3	2.6		5.3	100.0
タンカー	9.6	15.4	17.3	23.1	15.4	3.8	15.4				100.0
専用と大型	27.3	9.1	27.3	9.1			27.3				100.0
フェリー	6.5	10.9	10.9	32.6	10.9	10.9	10.9		4.3	2.2	100.0
曳船等	15.8	10.5	15.8	21.1	10.5		18.4	5.3		2.6	100.0
その他	18.2	9.1	27.3			9.1	36.4				100.0
雇用規模											
10人未満	20.0	15.0	15.0	25.0	10.0	5.0	10.0				100.0
10～24人	10.6	4.3	17.0	27.7	19.1	2.1	12.8	2.1	2.1	2.1	100.0
25～49人	9.7	15.3	15.3	18.1	9.7	5.6	22.2			4.2	100.0
50～99人	26.2	14.3	11.9	16.7	7.1	7.1	11.9	2.4	2.4		100.0
100人以上	12.5	18.8	18.8	18.8	25.0			6.3			100.0
採用者履歴											
海技教育機構	15.5	12.7	12.7	23.6	10.0	4.5	15.5	2.7	0.9	1.8	100.0
その他	15.0	15.0	21.7	13.3	13.3	5.0	13.3		1.7	1.7	100.0

表 B3-2-3 採用時の重視事項

問10	順位	1位	2位	3位
採用での重視事項	積極性	17.6	13.6	12.7
	忍耐強さ	11.3	19.5	7.7
	協調性	32.1	24.0	15.4
	快活さ	0.9	3.6	5.4
	責任感	6.8	12.2	18.6
	努力	0.9	2.3	4.5
	まじめさ	14.0	7.2	13.1
	理解力	1.4	8.6	6.3
	資格	10.9	3.2	8.6
	体力	1.8	4.1	4.5
	学業成績	0.9	0.5	1.8
	その他	0.5		
	無回答	0.9	1.4	1.4
	合計 (%)		100.0	100.0

付表 B3-2-3 採用時の重視事項

(1/3)

問10 第1位 分類	採用での重視事項												合計 %
	積極性	忍耐強さ	協調性	快活さ	責任感	努力	まじめさ	理解力	資格	体力	学業成績	その他	
地域													
北海東北	21.1	21.1	10.5				15.8		26.3	5.3			100.0
関東北信越	24.0	12.0	28.0	2.0	8.0	2.0	6.0		14.0	2.0	2.0		100.0
中部近畿	15.9	6.8	34.1		6.8		15.9	4.5	9.1	2.3	2.3	2.3	100.0
中国	12.1	15.2	42.4		6.1	3.0	15.2		6.1				100.0
四国	5.7	11.4	37.1	2.9	8.6		25.7		5.7	2.9			100.0
九州沖縄	26.3	7.9	34.2		7.9		10.5	2.6	10.5				100.0
業種													
運送業	17.5	22.5	22.5	2.5	5.0	2.5	10.0	2.5	12.5			2.5	100.0
貸渡業	6.5	10.9	39.1		8.7		21.7	2.2	8.7	2.2			100.0
兼業	11.1	16.7	22.2		5.6		11.1	5.6	22.2	5.6			100.0
フェリー旅客	21.2	3.8	36.5	1.9	9.6		11.5		11.5	1.9	1.9		100.0
曳船等	30.8	10.3	28.2		2.6		15.4		7.7	2.6	2.6		100.0
管理・派遣	13.3	13.3	40.0		13.3	6.7	13.3						100.0
その他	22.2		44.4				11.1		22.2				100.0
主船型													
700総トン未満	18.6	8.8	31.4		8.8		15.7	1.0	11.8	2.0	2.0		100.0
700総トン以上	17.2	13.8	32.8	1.7	5.2	1.7	12.9	1.7	10.3	1.7		0.9	100.0
主船種													
貨物	14.6	17.1	34.1		7.3		17.1	2.4	7.3				100.0
タンカー	5.4	17.9	32.1	1.8	3.6	1.8	17.9	3.6	14.3	1.8			100.0
専用と大型	18.2	18.2	27.3		9.1	9.1				9.1		9.1	100.0
フェリー	21.1	5.3	35.1	1.8	8.8		14.0		10.5	1.8	1.8		100.0
曳船等	30.0	7.5	27.5		2.5		12.5		15.0	2.5	2.5		100.0
その他	30.8		30.8		23.1		7.7		7.7				100.0
雇用規模													
10人未満	13.6	4.5	27.3		22.7		13.6	4.5	13.6				100.0
10～24人	12.1	5.2	34.5		5.2		20.7		17.2	3.4	1.7		100.0
25～49人	17.1	17.1	32.9		7.9	1.3	15.8	2.6	2.6	1.3	1.3		100.0
50～99人	24.4	13.3	28.9	4.4	2.2	2.2	6.7		15.6			2.2	100.0
100人以上	27.8	11.1	38.9				5.6		11.1	5.6			100.0
採用者履歴													
海技教育機構	18.2	9.9	36.4	1.7	6.6	0.8	12.4	1.7	9.9	0.8	0.8	0.8	100.0
その他	16.9	10.8	27.7		9.2		21.5	1.5	6.2	4.6	1.5		100.0

問10 第2位 分類	採用での重視事項											合計 %	
	積極性	忍耐強さ	協調性	快活さ	責任感	努力	まじめさ	理解力	資格	体力	学業成績		その他
地域													
北海東北	21.1	15.8	26.3		21.1			10.5	5.3				100.0
関東北信越	10.2	22.4	30.6	4.1	6.1	2.0	4.1	4.1	4.1	10.2	2.0		100.0
中部近畿	13.6	29.5	22.7	4.5	18.2	2.3	4.5	4.5					100.0
中国	12.1	12.1	27.3		9.1	6.1	18.2	9.1	6.1				100.0
四国	20.0	20.0	20.0	2.9	2.9	2.9	8.6	14.3	2.9	5.7			100.0
九州沖縄	10.5	13.2	18.4	7.9	21.1		7.9	13.2	2.6	5.3			100.0
業種													
運送業	10.0	12.5	37.5	5.0	12.5		7.5	5.0	2.5	5.0	2.5		100.0
貸渡業	19.6	23.9	17.4	4.3	8.7	2.2	4.3	8.7	6.5	4.3			100.0
兼業	5.6	22.2	27.8	11.1	5.6	5.6	5.6		5.6	11.1			100.0
フェリー旅客	19.2	17.3	19.2	1.9	9.6	3.8	9.6	17.3	1.9				100.0
曳船等	12.8	23.1	25.6	2.6	17.9		2.6	10.3	2.6	2.6			100.0
管理・派遣		26.7	20.0		20.0		20.0			13.3			100.0
その他	12.5	12.5	25.0		25.0	12.5	12.5						100.0
主船型													
700総トン未満	13.7	16.7	21.6	3.9	19.6	2.0	7.8	8.8	2.0	3.9			100.0
700総トン以上	13.9	21.7	27.0	3.5	6.1	2.6	7.0	8.7	4.3	4.3	0.9		100.0
主船種													
貨物	12.2	17.1	22.0	7.3	12.2	2.4	9.8	2.4	7.3	7.3			100.0
タンカー	14.3	19.6	26.8	3.6	8.9	1.8	7.1	5.4	3.6	7.1	1.8		100.0
専用と大型	9.1	27.3	18.2	9.1	18.2		9.1	9.1					100.0
フェリー	19.3	17.5	19.3	1.8	10.5	3.5	8.8	17.5	1.8				100.0
曳船等	12.5	25.0	27.5	2.5	17.5		2.5	7.5	2.5	2.5			100.0
その他		8.3	41.7		16.7	8.3	8.3	8.3		8.3			100.0
雇用規模													
10人未満	13.6	18.2	4.5	4.5	27.3		13.6	4.5		13.6			100.0
10～24人	12.1	17.2	25.9	1.7	15.5	3.4	6.9	10.3	5.2	1.7			100.0
25～49人	17.1	19.7	25.0	3.9	10.5	2.6	6.6	9.2	2.6	2.6			100.0
50～99人	9.1	22.7	31.8	4.5	6.8		4.5	11.4	2.3	6.8			100.0
100人以上	16.7	22.2	22.2	5.6	5.6	5.6	11.1		5.6		5.6		100.0
採用者履歴													
海技教育機構	16.5	23.1	25.6	3.3	10.7	0.8	5.0	5.8	4.1	4.1	0.8		100.0
その他	10.8	13.8	24.6	3.1	12.3	4.6	9.2	16.9		4.6			100.0

問10 第3位 分類	採用での重視事項											合計 %	
	積極性	忍耐強さ	協調性	快活さ	責任感	努力	まじめさ	理解力	資格	体力	学業成績		その他
地域													
北海東北	5.3	10.5	21.1	5.3	10.5	10.5		5.3	21.1	5.3	5.3		100.0
関東北信越	18.4	6.1	14.3	2.0	30.6		14.3	8.2		4.1	2.0		100.0
中部近畿	9.1	4.5	20.5	9.1	18.2	2.3	9.1	6.8	11.4	9.1			100.0
中国	15.2	15.2	6.1	6.1	15.2	6.1	21.2	9.1	3.0	3.0			100.0
四国	5.7	5.7	20.0	8.6	22.9	2.9	17.1	2.9	8.6	2.9	2.9		100.0
九州沖縄	18.4	7.9	13.2	2.6	7.9	10.5	13.2	5.3	15.8	2.6	2.6		100.0
業種													
運送業	15.0	10.0	17.5	10.0	17.5		10.0	5.0	10.0	2.5	2.5		100.0
貸渡業	13.0	8.7	13.0	8.7	13.0	8.7	13.0	8.7	6.5	4.3	2.2		100.0
兼業	11.1	5.6	5.6	5.6	33.3	5.6	22.2	11.1					100.0
フェリー旅客	15.4	3.8	19.2	5.8	19.2	5.8	13.5	3.8	7.7	3.8	1.9		100.0
曳船等	7.7	7.7	20.5		10.3	2.6	10.3	10.3	17.9	10.3	2.6		100.0
管理・派遣	13.3	13.3	6.7		40.0		13.3		6.7	6.7			100.0
その他	12.5	12.5	12.5		25.0	12.5	25.0						100.0
主船型													
700総トン未満	13.7	9.8	16.7	3.9	16.7	5.9	10.8	3.9	10.8	5.9	2.0		100.0
700総トン以上	12.2	6.1	14.8	7.0	20.0	3.5	15.7	8.7	7.0	3.5	1.7		100.0
主船種													
貨物	12.2	4.9	7.3	7.3	24.4	9.8	7.3	9.8	9.8	4.9	2.4		100.0
タンカー	10.7	12.5	17.9	7.1	17.9	1.8	19.6	7.1	1.8	3.6			100.0
専用と大型	9.1	9.1	9.1	9.1	27.3		9.1		18.2		9.1		100.0
フェリー	14.0	8.8	15.8	5.3	17.5	5.3	14.0	3.5	10.5	3.5	1.8		100.0
曳船等	10.0	5.0	25.0	2.5	10.0	2.5	7.5	10.0	15.0	10.0	2.5		100.0
その他	33.3		8.3		25.0	8.3	25.0						100.0
雇用規模													
10人未満	4.5	18.2	27.3	4.5	13.6		4.5	13.6	9.1	4.5			100.0
10～24人	15.5	3.4	13.8	1.7	22.4	5.2	8.6	12.1	12.1	3.4	1.7		100.0
25～49人	13.2	10.5	14.5	10.5	13.2	6.6	13.2	2.6	6.6	6.6	2.6		100.0
50～99人	15.9	2.3	13.6	4.5	27.3		25.0	2.3	2.3	4.5	2.3		100.0
100人以上	5.6	11.1	16.7		16.7	11.1	11.1	5.6	22.2				100.0
採用者履歴													
海技教育機構	14.9	5.0	14.9	7.4	19.8	3.3	15.7	4.1	8.3	5.8	0.8		100.0
その他	10.8	13.8	16.9	3.1	18.5	6.2	7.7	6.2	9.2	4.6	3.1		100.0

表 B3-3-1・2 採用者に希望する海技免状

問11	海技免状	会社数 (%)	
採用時の希望免状	3級	71	32.1
	4級	119	53.8
	5級	14	6.3
	6級	7	3.2
	不要	6	2.7
	その他	2	0.9
	無回答	2	0.9
	合計	221	100.0
問12	甲機免状	会社数 (%)	
免状の希望	両方	58	26.2
	片方	155	70.1
	無回答	8	3.6
	合計	221	100.0

付表 B3-3-1・2 採用者に希望する海技免状のクラスと両用

分類	問11 採用時の希望免状					合計 %	問12 免状		合計 %
	3級	4級	5級	6級	不要		両方	片方	
地域									
北海東北	47.4	47.4		5.3		100.0	31.6	68.4	100.0
関東北信越	42.0	52.0	2.0	2.0	2.0	100.0	26.5	73.5	100.0
中部近畿	27.9	53.5	11.6	4.7	2.3	100.0	16.7	83.3	100.0
中国	27.3	57.6	15.2			100.0	25.8	74.2	100.0
四国	20.0	71.4	2.9	5.7		100.0	45.7	54.3	100.0
九州沖縄	35.1	45.9	5.4	2.7	10.8	100.0	21.6	78.4	100.0
業種									
運送業	35.0	50.0	12.5		2.5	100.0	25.0	75.0	100.0
貸渡業	26.1	67.4	4.3	2.2		100.0	26.7	73.3	100.0
兼業	38.9	50.0	5.6	5.6		100.0	33.3	66.7	100.0
フェリー旅客	42.3	44.2	5.8	1.9	5.8	100.0	28.0	72.0	100.0
曳船等	27.0	59.5	5.4	8.1		100.0	27.0	73.0	100.0
管理・派遣	26.7	73.3				100.0	28.6	71.4	100.0
その他	22.2	33.3	11.1	11.1	22.2	100.0	22.2	77.8	100.0
主船型									
700総トン未満	14.9	67.3	10.9	5.9	1.0	100.0	36.0	64.0	100.0
700総トン以上	47.8	44.3	2.6	0.9	4.3	100.0	19.6	80.4	100.0
主船種									
貨物	29.3	61.0	7.3		2.4	100.0	20.0	80.0	100.0
タンカー	28.6	60.7	7.1	3.6		100.0	32.1	67.9	100.0
専用と大型	45.5	54.5				100.0	30.0	70.0	100.0
フェリー	45.6	38.6	7.0	3.5	5.3	100.0	29.1	70.9	100.0
曳船等	23.7	63.2	5.3	5.3	2.6	100.0	28.9	71.1	100.0
その他	15.4	61.5	7.7	7.7	7.7	100.0	15.4	84.6	100.0
雇用規模									
10人未満	23.8	52.4	14.3	4.8	4.8	100.0	28.6	71.4	100.0
10～24人	27.6	63.8	5.2	3.4		100.0	33.3	66.7	100.0
25～49人	26.7	56.0	9.3	4.0	4.0	100.0	24.3	75.7	100.0
50～99人	37.8	55.6	2.2	2.2	2.2	100.0	29.5	70.5	100.0
100人以上	72.2	22.2			5.6	100.0	11.8	88.2	100.0
採用者履歴									
海技教育機構	32.2	57.9	3.3	3.3	3.3	100.0	31.4	68.6	100.0
その他	21.5	61.5	9.2	4.6	3.1	100.0	25.0	75.0	100.0

表 B4-1-1 重視する航海関係教科

問14	順位	海上技術学校			海上技術短期大			海技大学校		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
重視教科 (航海)	適切な見張り	33.9	7.2	5.0	30.3	6.3	4.1	29.0	5.9	5.0
	航海計器取り扱い	7.2	20.8	7.7	12.7	22.2	8.6	9.0	19.0	10.0
	操舵	13.1	16.3	15.4	13.6	14.0	15.8	11.8	11.3	14.5
	ロープワーク	3.2	7.2	7.2	2.7	6.3	4.5	1.8	4.5	3.6
	海事法規	8.1	8.6	7.7	9.0	11.8	10.9	10.4	13.6	11.8
	起床海象観測	1.8	2.7	4.5	1.8	5.0	4.5	1.8	3.6	4.5
	係船作業	3.6	10.0	10.4	4.1	9.5	8.1	3.6	8.6	6.3
	整備作業	3.2	5.0	10.4	1.4	4.5	12.2	0.9	4.5	9.5
	工具名称・使用法	0.5	4.5	9.5	0.5	3.6	8.6		3.6	6.3
	荷役	1.8	2.3	2.7	2.3	2.3	2.3	1.8	2.7	2.7
	安全管理	9.5	4.5	7.2	9.5	5.4	10.0	12.2	8.1	10.4
	その他	3.6	0.5	0.5	3.6	0.5	0.5	3.6	0.5	0.5
	無回答	10.4	10.4	11.8	8.6	8.6	10.0	14.0	14.0	14.9
合計	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

付表 B4-1-1a 重視する航海関係教科 (海上技術学校)

(1/3)

問14-1 第1位 分類	海上技術学校												合計 %		
	張り切 り 見	適 切 な 見	取 扱 い 計 器	航 海 操 舵	フ ロ ー ク プ	海 事 法 規	観 測 側 海 象	気 象 海 象	係 船 作 業	整 備 作 業	使 用 具 名 称	荷 役		安 全 管 理	そ の 他
地域															
北海東北	23.5	11.8	17.6	5.9	5.9	5.9	11.8				5.9	11.8			100.0
関東北信越	31.9	8.5	6.4	6.4	17.0	4.3	6.4	6.4			2.1	6.4	4.3		100.0
中部近畿	50.0	8.3	5.6	5.6	5.6		2.8				2.8	11.1	8.3		100.0
中国	41.9	12.9	22.6		6.5				3.2			12.9			100.0
四国	35.3	5.9	17.6	2.9	11.8	2.9	2.9	5.9	2.9			2.9	8.8		100.0
九州沖縄	39.4	3.0	24.2		3.0		3.0	3.0			3.0	21.2			100.0
業種															
運送業	45.0	10.0	12.5	2.5	5.0	5.0	5.0				5.0	7.5	2.5		100.0
貸渡業	48.8	7.0	18.6	2.3	4.7		2.3	2.3			2.3	7.0	4.7		100.0
兼業	47.1	5.9			35.3		5.9					5.9			100.0
フェリー旅客	34.8	4.3	15.2	4.3	6.5	2.2	4.3	6.5	2.2	2.2	2.2	10.9	6.5		100.0
曳船等	26.7	13.3	16.7		13.3	3.3	6.7					16.7	3.3		100.0
管理・派遣	23.1	15.4	15.4	15.4					15.4			15.4			100.0
その他	11.1		22.2	11.1	11.1				11.1			22.2	11.1		100.0
主船型															
700総トン未満	36.5	8.2	17.6	2.4	10.6	3.5	4.7	1.2			1.2	9.4	4.7		100.0
700総トン以上	39.3	8.0	12.5	4.5	8.0	0.9	3.6	4.5	0.9		2.7	11.6	3.6		100.0
主船種															
貨物	52.4	7.1	19.0		11.9						2.4	2.4	4.8		100.0
タンカー	44.2	11.5	9.6	7.7	7.7	3.8		1.9			1.9	9.6	1.9		100.0
専用と大型	30.0		10.0		10.0		20.0					30.0			100.0
フェリー	32.0	6.0	18.0	4.0	4.0	2.0	4.0	6.0	2.0	4.0	4.0	12.0	6.0		100.0
曳船等	25.8	12.9	9.7	3.2	19.4	3.2	9.7	3.2				9.7	3.2		100.0
その他	25.0		25.0				8.3	8.3				25.0	8.3		100.0
雇用規模															
10人未満	19.0		28.6		9.5	4.8	4.8	4.8			9.5	19.0			100.0
10~24人	40.8	8.2	16.3	6.1	8.2	6.1	4.1	2.0				8.2			100.0
25~49人	43.3	9.0	14.9	3.0	6.0		4.5	1.5				11.9	6.0		100.0
50~99人	35.7	9.5	9.5	2.4	14.3		2.4	4.8	2.4			9.5	9.5		100.0
100人以上	36.8	10.5	5.3	5.3	10.5		5.3	10.5			10.5	5.3			100.0
採用者履歴															
海技教育機構	36.8	5.7	12.3	3.8	10.4	1.9	5.7	5.7	0.9	0.9	0.9	9.4	6.6		100.0
その他	45.0	8.3	16.7	1.7	6.7	3.3	1.7				1.7	15.0			100.0

問14-1 第2位 分類	海上技術学校											合計 %					
	張 り 切 な 見	適 切 な 見	取 扱 い 器	航 海 計 器	操 舵	ワ ロ ー ク ブ	海 事 法 規	観 測 側	気 象 海 象	係 船 作 業	整 備 作 業		使 用 法 名 称	工 具 名 称	荷 役	安 全 管 理	そ の 他
地域																	
北海東北	11.8	17.6	17.6	11.8	17.6				17.6			5.9					100.0
関東北信越	10.9	13.0	15.2	10.9	10.9	4.3	15.2	6.5	8.7	2.2	2.2						100.0
中部近畿	5.6	38.9	16.7	8.3	8.3	2.8	8.3	5.6	2.8		2.8						100.0
中国	9.7	25.8	25.8	3.2	6.5			9.7	3.2	6.5	6.5				3.2		100.0
四国	8.8	17.6	14.7	11.8	5.9	2.9	8.8	8.8	2.9					17.6			100.0
九州沖縄	2.9	26.5	20.6	2.9	11.8	5.9	8.8	5.9	2.9	5.9	5.9						100.0
業種																	
運送業	5.0	17.5	20.0	5.0	10.0	2.5	10.0	10.0	15.0	2.5	2.5						100.0
貸渡業	14.0	30.2	20.9	4.7	11.6	4.7	4.7	2.3	2.3	2.3	2.3						100.0
兼業	11.8	47.1	5.9	11.8				5.9		5.9	11.8						100.0
フェリー旅客	8.5	19.1	19.1	8.5	4.3	2.1	14.9	2.1	6.4	2.1	12.8						100.0
曳船等	3.3	20.0	13.3	16.7	20.0	6.7	10.0	6.7							3.3		100.0
管理・派遣		7.7	23.1	7.7	15.4			23.1	15.4		7.7						100.0
その他	12.5	25.0	25.0					37.5									100.0
主船型																	
700総トン未満	5.8	30.2	14.0	5.8	12.8	2.3	12.8	3.5	1.2	2.3	8.1	1.2					100.0
700総トン以上	9.9	18.0	21.6	9.0	7.2	3.6	9.9	7.2	8.1	2.7	2.7						100.0
主船種																	
貨物	14.3	38.1	16.7		9.5	2.4	9.5			4.8	4.8						100.0
タンカー	5.8	23.1	25.0	5.8	5.8	3.8	7.7	9.6	11.5	1.9							100.0
専用と大型		10.0	10.0	30.0	10.0			10.0	10.0	10.0	10.0						100.0
フェリー	9.8	15.7	17.6	9.8	7.8	2.0	15.7	2.0	5.9	2.0	11.8						100.0
曳船等	3.2	25.8	9.7	12.9	19.4	6.5	9.7	9.7							3.2		100.0
その他	9.1	9.1	27.3		9.1		27.3	9.1			9.1						100.0
雇用規模																	
10人未満	4.8	19.0	14.3	14.3	9.5	9.5	14.3	4.8	4.8		4.8						100.0
10～24人	10.0	24.0	20.0	6.0	10.0		12.0	6.0	4.0	4.0	4.0						100.0
25～49人	7.5	26.9	13.4	6.0	6.0	3.0	13.4	6.0	4.5	3.0	9.0	1.5					100.0
50～99人	4.9	26.8	19.5	12.2	14.6	2.4	7.3	4.9	4.9	2.4							100.0
100人以上	15.8	5.3	31.6	5.3	10.5	5.3	5.3	5.3	10.5		5.3						100.0
採用者履歴																	
海技教育機構	7.5	19.6	18.7	9.3	10.3	2.8	12.1	7.5	6.5	1.9	3.7						100.0
その他	6.7	30.0	16.7	5.0	11.7	1.7	11.7	1.7	5.0		8.3	1.7					100.0

問14-1 第3位 分類	海上技術学校											合計 %				
	張 り 切 な 見	適 切 な 見	取 扱 海 計 器	航 操 舵	ワ ロ ー ク ブ	海 事 法 規	観 測 側 象 海 象	気 象 海 象	係 船 作 業	整 備 作 業	使 用 法 名 称		工 具 名 称	荷 役	安 全 管 理	そ の 他
地域																
北海東北			11.8	11.8	5.9	11.8	11.8	23.5	17.6	5.9						100.0
関東北信越	6.7	4.4	17.8	15.6	2.2	6.7	6.7	2.2	22.2				15.6			100.0
中部近畿	5.6	2.8	25.0	5.6	11.1	11.1	13.9	11.1	5.6				5.6	2.8		100.0
中国	13.3	16.7	6.7	6.7	6.7		20.0	13.3	6.7	3.3	6.7					100.0
四国	5.9	5.9	26.5		17.6	2.9	2.9	14.7	5.9	14.7	5.9		2.9			100.0
九州沖縄		15.2	12.1	12.1	6.1		12.1	18.2	12.1				12.1			100.0
業種																
運送業	7.7	7.7	17.9	15.4	2.6	5.1	12.8	12.8	2.6	2.6	12.8					100.0
貸渡業	4.8	14.3	19.0		11.9	2.4	4.8	16.7	14.3	7.1	4.8					100.0
兼業	11.8	5.9	23.5	5.9	17.6		17.6		11.8		5.9					100.0
フェリー旅客		6.5	23.9	4.3	15.2	8.7	13.0	13.0	6.5	4.3	4.3					100.0
曳船等	3.3	13.3	10.0	13.3	3.3	3.3	10.0	13.3	13.3				13.3	3.3		100.0
管理・派遣	23.1		7.7	23.1		7.7			30.8		7.7					100.0
その他						12.5	50.0	12.5	12.5		12.5		12.5			100.0
主船型																
700総トン未満	4.7	9.4	14.1	5.9	14.1	9.4	12.9	10.6	7.1			10.6	1.2			100.0
700総トン以上	6.4	8.3	19.3	10.1	4.6	1.8	11.0	12.8	13.8	5.5	6.4					100.0
主船種																
貨物	11.9	7.1	21.4	2.4	11.9	2.4	11.9	14.3	7.1	2.4	7.1					100.0
タンカー	7.7	11.5	13.5	11.5	5.8	3.8	7.7	9.6	15.4	5.8	7.7					100.0
専用と大型		11.1	33.3	11.1	11.1				22.2		11.1					100.0
フェリー		8.0	22.0	6.0	14.0	10.0	14.0	14.0	6.0	4.0	2.0					100.0
曳船等	3.3	10.0	10.0	10.0	3.3	6.7	16.7	10.0	10.0				16.7	3.3		100.0
その他	9.1			18.2			18.2	18.2	18.2		18.2					100.0
雇用規模																
10人未満	5.0	15.0	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0	30.0	10.0			5.0				100.0
10～24人	8.2	10.2	18.4	4.1	10.2	4.1	18.4	14.3	6.1			4.1	2.0			100.0
25～49人	6.1	6.1	21.2	12.1	12.1	6.1	4.5	7.6	12.1	3.0	9.1					100.0
50～99人	4.9	9.8	14.6	7.3	7.3	2.4	9.8	7.3	17.1	7.3	12.2					100.0
100人以上		5.3	15.8	10.5		5.3	31.6	10.5	5.3	5.3	10.5					100.0
採用者履歴																
海技教育機構	4.8	10.6	17.3	6.7	5.8	6.7	11.5	9.6	11.5	3.8	11.5					100.0
その他	5.0	6.7	15.0	11.7	16.7	5.0	10.0	16.7	8.3	3.3			1.7			100.0

付表 B4-1-1b 重視する航海関係教科 (海上技術短期大学校)

(1/3)

分類	海上技術短期大学校												合計		
	張 り 切 な 見	適 切 な 見	取 扱 海 計 器	航 海 操 舵	フ ロ ー ク ブ	海 事 法 規	観 側 象 海 象	気 象 海 象	係 船 作 業	整 備 作 業	使 用 法 名 称	荷 役		安 全 管 理	そ の 他
地域															
北海東北	18.8	12.5	25.0			6.3	6.3	18.8				6.3	6.3		100.0
関東北信越	32.7	12.2	12.2	6.1	18.4	4.1	2.0				2.0	6.1	4.1		100.0
中部近畿	36.6	12.2	9.8	4.9	7.3		2.4	4.9			2.4	12.2	7.3		100.0
中国	40.0	13.3	23.3		6.7						3.3	13.3			100.0
四国	34.3	17.1	14.3	2.9	8.6	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9		2.9	8.6		100.0
九州沖縄	29.0	16.1	12.9		6.5			9.7			3.2	22.6			100.0
業種															
運送業	38.5	15.4	10.3	2.6	5.1	5.1	7.7				7.7	5.1	2.6		100.0
貸渡業	45.5	15.9	15.9	2.3	4.5		2.3				2.3	6.8	4.5		100.0
兼業	47.1	11.8			35.3							5.9			100.0
フェリー旅客	29.8	12.8	12.8	4.3	8.5	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	14.9	6.4			100.0
曳船等	18.2	9.1	27.3		12.1	3.0	6.1	6.1				15.2	3.0		100.0
管理・派遣	21.4	21.4	14.3	14.3	7.1		7.1					14.3			100.0
その他	12.5	12.5	25.0		12.5		12.5					12.5	12.5		100.0
主船型															
700総トン未満	27.8	12.2	22.2	1.1	10.0	3.3	5.6	2.2			1.1	10.0	4.4		100.0
700総トン以上	37.8	14.4	9.0	4.5	9.9	0.9	3.6	0.9	0.9	0.9	3.6	10.8	3.6		100.0
主船種															
貨物	47.6	16.7	14.3		11.9						2.4	2.4	4.8		100.0
タンカー	39.6	15.1	9.4	7.5	7.5	3.8	3.8				3.8	7.5	1.9		100.0
専用と大型	30.0		10.0		10.0		20.0					30.0			100.0
フェリー	27.5	13.7	15.7	3.9	5.9	2.0	2.0	2.0	2.0	3.9	15.7	5.9			100.0
曳船等	17.6	8.8	20.6		17.6	2.9	11.8	5.9				11.8	2.9		100.0
その他	27.3	18.2	27.3		9.1							9.1	9.1		100.0
雇用規模															
10人未満	13.6	4.5	31.8		9.1	4.5	4.5				9.1	22.7			100.0
10～24人	31.4	9.8	17.6	3.9	7.8	5.9	7.8	3.9				11.8			100.0
25～49人	38.6	14.3	15.7	2.9	7.1		5.7				1.4	8.6	5.7		100.0
50～99人	34.1	22.0	4.9	2.4	17.1					2.4		7.3	9.8		100.0
100人以上	38.9	16.7	5.6	5.6	11.1			5.6			11.1	5.6			100.0
採用者履歴															
海技教育機構	31.6	13.2	14.0	3.5	10.5	1.8	5.3	2.6	0.9	0.9	1.8	8.8	6.1		100.0
その他	37.9	15.5	13.8	1.7	6.9	3.4	3.4				1.7	15.5			100.0

問14-2 第2位	海上技術短期大学校												合計	
分類	張り 適切 な見	取 扱 い 器	航 海 計 器	操 舵	フ ロ ー ク ブ	海 事 法 規	観 測 側 象 海 象	係 船 作 業	整 備 作 業	使 用 法 名 称	荷 役	安 全 管 理	そ の 他	合計
地域														
北海東北		18.8	18.8	12.5	12.5			18.8	6.3	6.3		6.3		100.0
関東北信越	8.3	14.6	12.5	8.3	16.7	8.3	12.5	6.3	8.3	2.1	2.1			100.0
中部近畿	4.9	34.1	17.1	7.3	12.2	7.3	7.3	2.4	2.4		4.9			100.0
中国	16.7	23.3	16.7		16.7			13.3		3.3	6.7		3.3	100.0
四国	5.7	20.0	11.4	11.4	8.6	5.7	8.6	8.6	2.9		17.1			100.0
九州沖縄	3.1	34.4	18.8	3.1	9.4	6.3	6.3	6.3		6.3	6.3			100.0
業種														
運送業	5.1	23.1	12.8	5.1	15.4	5.1	10.3	7.7	10.3	2.6	2.6			100.0
貸渡業	13.6	27.3	18.2	4.5	15.9	4.5	6.8	2.3	2.3	2.3	2.3			100.0
兼業	11.8	41.2	11.8	11.8	5.9					5.9	11.8			100.0
フェリー旅客	6.3	22.9	14.6	6.3	2.1	10.4	14.6		6.3	2.1	14.6			100.0
曳船等		18.2	12.1	15.2	27.3	3.0	12.1	6.1			3.0	3.0		100.0
管理・派遣	7.1	14.3	21.4		14.3	7.1	14.3	14.3		7.1				100.0
その他		28.6	28.6				14.3	28.6						100.0
主船型														
700総トン未満	3.3	28.6	14.3	5.5	15.4	4.4	12.1	3.3	1.1	2.2	8.8	1.1		100.0
700総トン以上	10.0	20.9	16.4	8.2	10.9	6.4	9.1	5.5	6.4	2.7	3.6			100.0
主船種														
貨物	11.9	33.3	11.9		16.7	4.8	11.9			4.8	4.8			100.0
タンカー	7.5	28.3	20.8	5.7	9.4	3.8	7.5	7.5	7.5	1.9				100.0
専用と大型	10.0	10.0	10.0	30.0	10.0				10.0	10.0	10.0			100.0
フェリー	7.7	19.2	13.5	7.7	5.8	9.6	15.4		5.8	1.9	13.5			100.0
曳船等		26.5	8.8	11.8	23.5	2.9	5.9	14.7			2.9	2.9		100.0
その他			40.0		20.0	10.0	20.0				10.0			100.0
雇用規模														
10人未満	4.5	18.2	13.6	9.1	4.5	13.6	13.6	13.6	4.5		4.5			100.0
10～24人	7.7	25.0	15.4	5.8	15.4	1.9	11.5	5.8	3.8	3.8	3.8			100.0
25～49人	5.7	25.7	12.9	4.3	12.9	4.3	11.4	4.3	2.9	2.9	11.4	1.4		100.0
50～99人	5.0	30.0	17.5	12.5	12.5	10.0	5.0	2.5	2.5	2.5				100.0
100人以上	16.7	11.1	22.2	5.6	16.7		11.1		11.1		5.6			100.0
採用者履歴														
海技教育機構	6.1	22.6	13.0	7.0	17.4	6.1	11.3	6.1	4.3	1.7	4.3			100.0
その他	5.2	25.9	20.7	3.4	8.6	6.9	10.3	3.4	5.2		8.6	1.7		100.0

問14-2 第3位 分類	海上技術短期大学校												合計	
	張 り 切 な 見	適 切 な 見	取 扱 海 い 計 器	航 操 舵	ワ ロ ー ク プ	海 事 法 規	観 側 象 海 象	係 船 作 業	整 備 作 業	工 具 名 称	荷 役	安 全 管 理		そ の 他
地域														
北海東北			12.5	18.8		31.3	6.3	6.3	18.8			6.3		100.0
関東北信越	4.3	4.3	14.9	12.8	2.1	6.4	8.5	4.3	21.3		21.3			100.0
中部近畿	9.8	7.3	19.5	4.9	14.6	4.9	12.2	14.6	4.9		4.9	2.4		100.0
中国	6.9	20.7	10.3		3.4	6.9	20.7	13.8	6.9	3.4	6.9			100.0
四国	2.9	5.7	31.4		17.1	2.9	2.9	17.1	5.7	11.4	2.9			100.0
九州沖縄		12.9	9.7	6.5	16.1	3.2	3.2	19.4	9.7		19.4			100.0
業種														
運送業	5.3	2.6	21.1	10.5	5.3	10.5	7.9	13.2	5.3	2.6	15.8			100.0
貸渡業	2.3	14.0	18.6		11.6	7.0	7.0	16.3	11.6	7.0	4.7			100.0
兼業	5.9	11.8	23.5		17.6		17.6		17.6		5.9			100.0
フェリー旅客	2.1	10.6	25.5	2.1	21.3	2.1	4.3	19.1	6.4	2.1	4.3			100.0
曳船等	3.0	15.2	6.1	9.1	6.1			12.1	15.2	6.1	24.2	3.0		100.0
管理・派遣	21.4			14.3		7.1	7.1	7.1	28.6		14.3			100.0
その他			14.3		28.6	14.3	28.6				14.3			100.0
主船型														
700総トン未満	3.3	11.1	12.2	4.4	16.7	6.7	12.2	13.3	3.3		15.6	1.1		100.0
700総トン以上	5.6	8.3	22.2	4.6	8.3	3.7	6.5	13.9	14.8	4.6	7.4			100.0
主船種														
貨物	9.5	9.5	19.0	2.4	14.3	7.1	7.1	16.7	4.8	2.4	7.1			100.0
タンカー	5.7	7.5	17.0	5.7	5.7	7.5	9.4	7.5	17.0	5.7	11.3			100.0
専用と大型		11.1	33.3		11.1			11.1	22.2		11.1			100.0
フェリー	2.0	11.8	23.5	3.9	19.6	3.9	5.9	19.6	5.9	2.0	2.0			100.0
曳船等	3.0	12.1	9.1	6.1	12.1	3.0	12.1	9.1	6.1		24.2	3.0		100.0
その他				10.0			30.0	20.0	10.0		30.0			100.0
雇用規模														
10人未満	4.8	14.3	4.8	9.5	9.5		9.5	33.3	9.5		4.8			100.0
10～24人	5.9	11.8	15.7	2.0	13.7	5.9	11.8	17.6	3.9		9.8	2.0		100.0
25～49人	7.2	5.8	21.7	7.2	13.0	5.8	5.8	8.7	10.1	2.9	11.6			100.0
50～99人		10.0	17.5	2.5	15.0	2.5	10.0	5.0	17.5	5.0	15.0			100.0
100人以上		11.1	22.2	5.6		11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	11.1			100.0
採用者履歴														
海技教育機構	3.6	8.9	15.2	5.4	7.1	8.0	9.8	12.5	11.6	3.6	14.3			100.0
その他	5.2	13.8	15.5	6.9	22.4	1.7	8.6	15.5	3.4	1.7	3.4	1.7		100.0

付表 B4-1-1c 重視する航海関係教科 (海技大学校)

(1/3)

問14-3 第1位 分類	海技大学校											合計 %		
	張り り切 いな 見	適 切 な 見	取 扱 海 計 器	航 海 操 舵	ワ ロ ー ク ブ	海 事 法 規	観 気 側 象 海 象	係 船 作 業	整 備 作 業	使 用 法 名 称	荷 役		安 全 管 理	そ の 他
地域														
北海東北	13.3	20.0	26.7				6.7	20.0			6.7	6.7		100.0
関東北信越	29.8	10.6	10.6	2.1	23.4	4.3	2.1	2.1		2.1	8.5	4.3	100.0	
中部近畿	35.1	13.5	5.4	5.4	13.5			2.7		2.7	13.5	8.1	100.0	
中国	42.9	14.3	21.4		10.7						10.7		100.0	
四国	41.2	8.8	11.8	2.9	8.8	2.9	5.9	2.9			5.9	8.8	100.0	
九州沖縄	31.0		17.2		3.4			3.4		3.4	41.4		100.0	
業種														
運送業	38.5	10.3	10.3	2.6	12.8	5.1	5.1			5.1	7.7	2.6	100.0	
貸渡業	47.5	12.5	12.5	2.5	5.0		5.0	2.5		2.5	5.0	5.0	100.0	
兼業	47.1	11.8			35.3						5.9		100.0	
フェリー旅客	29.5	6.8	13.6	4.5	9.1	2.3	2.3			2.3	22.7	6.8	100.0	
曳船等	17.2	10.3	20.7		17.2	3.4	6.9				20.7	3.4	100.0	
管理・派遣	23.1	23.1	15.4		7.7			7.7			23.1		100.0	
その他	12.5		37.5				12.5				25.0	12.5	100.0	
主船型														
700総トン未満	27.7	10.8	20.5	1.2	13.3	3.6	4.8			1.2	12.0	4.8	100.0	
700総トン以上	38.7	9.4	8.5	2.8	11.3	0.9	3.8	1.9		2.8	16.0	3.8	100.0	
主船種														
貨物	46.3	12.2	17.1		14.6					2.4	2.4	4.9	100.0	
タンカー	42.9	12.2	6.1	4.1	12.2	4.1	2.0	4.1		2.0	8.2	2.0	100.0	
専用と大型	30.0		10.0		10.0		20.0				30.0		100.0	
フェリー	27.1	10.4	14.6	4.2	6.3	2.1	2.1			4.2	22.9	6.3	100.0	
曳船等	16.7	6.7	20.0		20.0	3.3	13.3				16.7	3.3	100.0	
その他	27.3	9.1	18.2		9.1						27.3	9.1	100.0	
雇用規模														
10人未満	14.3	4.8	28.6		9.5	4.8	4.8			9.5	23.8		100.0	
10～24人	31.9	10.6	17.0	4.3	10.6	6.4	6.4				12.8		100.0	
25～49人	42.2	9.4	14.1	1.6	14.1		4.7				7.8	6.3	100.0	
50～99人	30.0	15.0	2.5		12.5		2.5	5.0			22.5	10.0	100.0	
100人以上	38.9	11.1	11.1	5.6	11.1					11.1	11.1		100.0	
採用者履歴														
海技教育機構	33.0	11.7	10.7	2.9	14.6	1.9	5.8	1.9		1.0	9.7	6.8	100.0	
その他	40.4	3.5	15.8	1.8	5.3	3.5	1.8			1.8	26.3		100.0	

問14-3 第2位 分類	海技大学校											合計 %			
	張 り 切 な 見	適 切 な 見	取 扱 い 器	航 海 計 器	操 舵 ワ ロ ー ク ブ	海 事 法 規	観 測 側	気 象 海 象	係 船 作 業	整 備 作 業	使 用 法 名 称		荷 役	安 全 管 理	そ の 他
地域															
北海東北			13.3	13.3	6.7	33.3		13.3	6.7	6.7		6.7			100.0
関東北信越	8.7	17.4	8.7	10.9	17.4	4.3	10.9	2.2	8.7	4.3	6.5				100.0
中部近畿	8.1	35.1	10.8	2.7	8.1	2.7	10.8	5.4	2.7		13.5				100.0
中国	14.3	21.4	17.9		14.3	3.6	10.7		3.6	7.1	3.6		3.6		100.0
四国	2.9	17.6	17.6	5.9	11.8	2.9	11.8	8.8	2.9		17.6				100.0
九州沖縄	3.3	23.3	13.3	3.3	20.0	10.0	3.3	10.0		6.7	6.7				100.0
業種															
運送業	5.1	20.5	12.8	5.1	10.3	7.7	10.3	7.7	10.3	2.6	7.7				100.0
貸渡業	12.5	22.5	17.5	2.5	15.0	10.0	7.5	2.5	5.0	2.5	2.5				100.0
兼業	11.8	41.2	5.9	11.8	11.8					5.9	11.8				100.0
フェリー旅客	6.7	24.4	15.6	2.2	6.7		13.3	4.4	4.4	2.2	20.0				100.0
曳船等		13.8	6.9	10.3	31.0	3.4	10.3	10.3			10.3		3.4		100.0
管理・派遣	7.7	15.4	15.4	7.7	23.1		15.4			15.4					100.0
その他		14.3	14.3		42.9		14.3	14.3							100.0
主船型															
700総トン未満	4.8	23.8	8.3	3.6	19.0	4.8	11.9	4.8	1.2	2.4	14.3		1.2		100.0
700総トン以上	8.6	21.0	17.1	6.7	12.4	3.8	8.6	5.7	6.7	3.8	5.7				100.0
主船種															
貨物	14.6	29.3	12.2		14.6	9.8	9.8			4.9	4.9				100.0
タンカー	4.1	26.5	18.4	6.1	8.2	6.1	10.2	6.1	10.2	2.0	2.0				100.0
専用と大型	10.0	10.0	10.0	30.0	10.0				10.0	10.0	10.0				100.0
フェリー	8.2	20.4	14.3	2.0	12.2		14.3	4.1	4.1	2.0	18.4				100.0
曳船等		20.0	3.3	10.0	30.0	3.3	3.3	16.7			10.0		3.3		100.0
その他			20.0		30.0		20.0			10.0	20.0				100.0
雇用規模															
10人未満	4.8	14.3	19.0	4.8	19.0	4.8	14.3	9.5	4.8		4.8				100.0
10～24人	8.3	16.7	10.4	4.2	22.9	4.2	10.4	6.3	4.2	4.2	8.3				100.0
25～49人	4.7	26.6	9.4	4.7	7.8	3.1	12.5	4.7	3.1	3.1	18.8		1.6		100.0
50～99人	5.1	25.6	15.4	7.7	20.5	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1					100.0
100人以上	16.7	22.2	22.2	5.6	11.1	5.6	5.6		5.6		5.6				100.0
採用者履歴															
海技教育機構	4.8	23.1	13.5	4.8	17.3	4.8	11.5	4.8	4.8	2.9	7.7				100.0
その他	5.3	22.8	14.0	3.5	17.5	5.3	8.8	5.3	5.3		10.5		1.8		100.0

問14-3 第3位 分類	海技大 海技大 海技大 海技大 海技大 海技大 海技大 海技大 海技大 海技大 海技大 海技大											合計 %					
	張 り 切 な 見	適 切 な 見	取 扱 い 計 器	航 海 計 器	操 舵	ワ ロ ー ク ブ	海 事 法 規	観 測	気 象 海 象	係 船 作 業	整 備 作 業		使 用 法 称	工 具 名 称	荷 役	安 全 管 理	そ の 他
地域																	
北海東北			20.0	20.0			20.0	6.7	6.7	13.3					13.3		100.0
関東北信越	8.9	8.9	13.3	11.1	4.4	6.7	6.7	6.7	6.7	15.6				17.8		100.0	
中部近畿	8.1	2.7	18.9	2.7	16.2	10.8	10.8	10.8	5.4					10.8	2.7	100.0	
中国	7.1	25.0	7.1		7.1			21.4	10.7	3.6	7.1	10.7				100.0	
四国	5.9	8.8	23.5		23.5	5.9			14.7	5.9	8.8	2.9				100.0	
九州沖縄		13.8	20.7	6.9	17.2				13.8	6.9	3.4	17.2				100.0	
業種																	
運送業	5.3	10.5	18.4	10.5	2.6	5.3	10.5	13.2	2.6	5.3	15.8					100.0	
貸渡業	5.1	12.8	20.5		15.4	5.1	2.6	12.8	10.3	7.7	7.7					100.0	
兼業	5.9	17.6	23.5		17.6			17.6		5.9	11.8					100.0	
フェリー旅客	4.4	8.9	17.8	2.2	28.9	4.4	4.4	15.6	4.4	2.2	6.7					100.0	
曳船等		17.2	10.3	6.9	3.4	6.9	10.3	6.9	10.3					24.1	3.4	100.0	
管理・派遣	30.8			7.7	7.7	7.7			15.4	23.1				7.7		100.0	
その他		14.3	28.6		14.3	14.3	14.3				14.3					100.0	
主船型																	
700総トン未満	2.4	13.3	14.5	3.6	16.9	8.4	10.8	8.4	3.6					16.9	1.2	100.0	
700総トン以上	8.7	10.6	19.2	4.8	11.5	2.9	4.8	12.5	10.6	5.8	8.7					100.0	
主船種																	
貨物	9.8	9.8	19.5	2.4	14.6	4.9	7.3	14.6	2.4	2.4	12.2					100.0	
タンカー	10.2	12.2	16.3	6.1	6.1	4.1	8.2	6.1	12.2	8.2	10.2					100.0	
専用と大型		11.1	33.3		11.1			11.1	22.2		11.1					100.0	
フェリー	4.1	10.2	16.3	4.1	26.5	6.1	6.1	14.3	4.1	2.0	6.1					100.0	
曳船等		17.2	13.8	3.4	6.9	10.3	10.3	3.4	10.3					20.7	3.4	100.0	
その他		10.0	10.0	10.0	10.0			10.0	20.0					30.0		100.0	
雇用規模																	
10人未満	5.0	15.0	10.0	5.0	15.0	5.0	5.0	30.0	5.0		5.0					100.0	
10～24人	6.3	16.7	12.5		12.5	4.2	12.5	12.5	6.3	4.2	10.4			2.1		100.0	
25～49人	7.9	12.7	25.4	7.9	12.7	7.9	1.6	6.3	6.3	3.2	7.9					100.0	
50～99人	2.6	7.7	12.8	2.6	20.5	2.6	7.7	5.1	12.8	5.1	20.5					100.0	
100人以上	5.6		16.7	5.6	5.6	5.6	16.7	16.7	5.6		22.2					100.0	
採用者履歴																	
海技教育機構	5.9	9.8	14.7	3.9	8.8	7.8	6.9	10.8	8.8	4.9	17.6					100.0	
その他	3.5	14.0	17.5	7.0	24.6	3.5	7.0	12.3	5.3	1.8	1.8			1.8		100.0	

表 B4-1-2 重視する機関関係教科

問15	順位	海上技術学校			海上技術短期大			海技大学校		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
重視教科 (機関)	機器の構造	45.2	10.9	7.7	42.1	10.4	6.8	37.6	7.7	6.3
	配管系知識	0.9	12.2	4.1	0.9	11.3	5.9	0.5	10.0	4.1
	機器の名称・役割	6.8	14.0	10.4	3.6	10.0	9.5	2.3	8.1	6.8
	機器取扱い	11.3	12.2	14.9	15.4	12.7	10.4	12.7	11.3	9.0
	機器保守・管理	4.5	17.2	12.7	6.3	19.9	13.1	6.8	19.9	12.2
	電気知識	2.3	7.7	11.8	3.2	10.9	15.4	3.6	10.9	14.9
	油圧知識		0.9	5.4	0.9	1.4	7.7	0.9	2.3	5.9
	工具名称・使用法	4.1	5.0	9.0	3.6	4.5	6.3	1.8	3.6	5.0
	計測器名称・使用法	0.5	3.2	3.2		2.3	4.1	0.5	1.4	4.1
	警報の処置	0.9	2.3	4.1	1.8	2.3	4.5	2.7	3.2	6.3
	安全管理	10.0	4.1	5.9	9.5	5.0	6.3	12.7	6.3	10.0
	その他	3.2		0.5	3.2			3.2	0.5	
	無回答	10.4	10.4	10.4	9.5	9.5	10.0	14.9	14.9	15.4
合計	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

付表 B4-1-2 a 重視する機関関係教科 (海上技術学校)

(1/3)

問15-1 第1位	海上技術学校											合計 %	
分類	機器の構造	配管系知識	機器の名称・役割	機器取扱い	機器保守・管理	電気知識	油圧知識	法工具の名称・使用	法計測機器名称使用	警報の処置	安全管理		その他
地域													
北海東北	72.2			5.6	5.6			5.6			11.1		100.0
関東北信越	46.8	2.1	12.8	6.4	10.6	4.3		6.4		2.1	4.3	4.3	100.0
中部近畿	48.6		10.8	8.1	5.4	5.4		5.4			10.8	5.4	100.0
中国	53.3	3.3		23.3		3.3		3.3			13.3		100.0
四国	47.1		8.8	17.6	2.9			5.9		2.9	5.9	8.8	100.0
九州沖縄	46.9		6.3	15.6	3.1				3.1		25.0		100.0
業種													
運送業	50.0	2.5	10.0	20.0	2.5	2.5		5.0			7.5		100.0
貸渡業	51.2		7.0	20.9	2.3	4.7			2.3		7.0	4.7	100.0
兼業	70.6		5.9		5.9			11.8		5.9			100.0
フェリー旅客	40.9		9.1	6.8	6.8	2.3		6.8		2.3	18.2	6.8	100.0
曳船等	59.4		6.3	6.3	6.3	3.1		3.1			12.5	3.1	100.0
管理・派遣	38.5	7.7		15.4	15.4			7.7			15.4		100.0
その他	44.4		11.1	11.1							22.2	11.1	100.0
主船型													
700総トン未満	51.1		4.5	18.2	6.8	1.1		1.1	1.1	1.1	11.4	3.4	100.0
700総トン以上	50.5	1.8	10.1	7.3	3.7	3.7		7.3		0.9	11.0	3.7	100.0
主船種													
貨物	54.8		4.8	23.8	2.4	7.1			2.4		2.4	2.4	100.0
タンカー	58.5	1.9	7.5	13.2	3.8			5.7			7.5	1.9	100.0
専用と大型	22.2	11.1	11.1					22.2			33.3		100.0
フェリー	43.8		8.3	6.3	6.3	2.1		6.3		2.1	18.8	6.3	100.0
曳船等	57.6		12.1	6.1	6.1	3.0		3.0			9.1	3.0	100.0
その他	33.3			16.7	16.7					8.3	16.7	8.3	100.0
雇用規模													
10人未満	38.1		4.8	23.8	9.5	4.8					19.0		100.0
10~24人	64.6			18.8		2.1		2.1			10.4	2.1	100.0
25~49人	40.0	2.9	11.4	11.4	7.1	2.9		4.3		1.4	14.3	4.3	100.0
50~99人	56.1		4.9	7.3	4.9			9.8	2.4	2.4	4.9	7.3	100.0
100人以上	55.6		22.2		5.6	5.6		5.6			5.6		100.0
採用者履歴													
海技教育機構	45.3	1.9	10.4	12.3	7.5	1.9		6.6		0.9	7.5	5.7	100.0
その他	54.8		4.8	11.3	3.2	1.6		1.6	1.6	1.6	19.4		100.0

問15-1 第2位 分類	海上技術学校											合計 %		
	機器の構造	配管系知識	割機器の名称・役	機器取扱い	機器保守・管理	電気知識	油圧知識	用法	工具の名称・使	計測機器名称使	警報の処置		安全管理	その他
地域														
北海東北		16.7	16.7	11.1	27.8	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6				100.0
関東北信越	10.9	10.9	8.7	10.9	17.4	17.4		13.0	4.3	2.2	4.3			100.0
中部近畿	21.6	16.2	5.4	18.9	24.3	2.7		5.4		2.7	2.7			100.0
中国	16.7	16.7	23.3	6.7	13.3	6.7	3.3			3.3	6.7	3.3		100.0
四国	2.9	11.8	14.7	14.7	23.5	11.8		2.9	2.9		14.7			100.0
九州沖縄	15.2	12.1	30.3	18.2	12.1	3.0		3.0	6.1					100.0
業種														
運送業	10.0	20.0	15.0	7.5	25.0	2.5		12.5	5.0		2.5			100.0
貸渡業	11.6	9.3	20.9	14.0	18.6	9.3		4.7	4.7	2.3	4.7			100.0
兼業	11.8	17.6	23.5	17.6		11.8					17.6			100.0
フェリー旅客	20.0	11.1	11.1	13.3	13.3	8.9	2.2	4.4	2.2	6.7	6.7			100.0
曳船等	12.5	15.6	3.1	21.9	31.3	9.4		3.1	3.1					100.0
管理・派遣		7.7	23.1	15.4	23.1	7.7		7.7	7.7	7.7				100.0
その他		12.5	37.5		12.5	25.0	12.5							100.0
主船型														
700総トン未満	10.1	16.9	7.9	16.9	28.1	6.7	1.1	3.4	3.4		5.6			100.0
700総トン以上	13.9	11.1	22.2	11.1	11.1	10.2	0.9	7.4	3.7	4.6	3.7			100.0
主船種														
貨物	11.9	19.0	14.3	9.5	19.0	4.8		7.1	4.8		9.5			100.0
タンカー	5.7	15.1	22.6	15.1	18.9	9.4		5.7	5.7	1.9				100.0
専用と大型	22.2		44.4					11.1		11.1	11.1			100.0
フェリー	18.4	10.2	10.2	10.2	20.4	10.2	2.0	4.1	2.0	6.1	6.1			100.0
曳船等	12.1	15.2	9.1	24.2	15.2	12.1	3.0	6.1	3.0					100.0
その他	9.1	9.1	9.1	18.2	36.4	9.1					9.1			100.0
雇用規模														
10人未満	4.8	4.8	14.3	9.5	38.1	9.5		9.5			9.5			100.0
10～24人	12.2	20.4	8.2	8.2	24.5	12.2	4.1	2.0	2.0	2.0	4.1			100.0
25～49人	12.9	8.6	14.3	14.3	15.7	8.6		8.6	7.1	4.3	5.7			100.0
50～99人	15.0	12.5	32.5	20.0	7.5	2.5		5.0	2.5		2.5			100.0
100人以上	11.1	27.8	5.6	16.7	22.2	11.1				5.6				100.0
採用者履歴														
海技教育機構	12.1	11.2	11.2	15.0	20.6	9.3	1.9	6.5	4.7	2.8	4.7			100.0
その他	12.9	14.5	16.1	14.5	22.6	6.5		4.8	1.6	1.6	4.8			100.0

問15-1 第3位 分類	海上技術学校											合計 %	
	機器の構造	配管系知識	機器の名称・役割	機器取扱い	機器保守・管理	電気知識	油圧知識	法工具の名称・使用	法計測機器名称使用	警報の処置	安全管理		その他
地域													
北海東北	16.7	5.6	16.7	22.2	5.6	22.2				5.6	5.6		100.0
関東北信越	4.3	6.5	10.9	10.9	8.7	17.4	8.7	15.2		2.2	13.0	2.2	100.0
中部近畿	2.7		13.5	21.6	18.9	13.5	2.7	10.8	2.7	5.4	8.1		100.0
中国	16.7		23.3	20.0	13.3	13.3	6.7	3.3			3.3		100.0
四国	5.9	8.8	2.9	2.9	17.6	5.9	11.8	20.6	11.8	11.8			100.0
九州沖縄	12.1	6.1	6.1	27.3	18.2	9.1	3.0	3.0	6.1	3.0	6.1		100.0
業種													
運送業	7.5	5.0	10.0	25.0	15.0	12.5	5.0	10.0	2.5	2.5	5.0		100.0
貸渡業	9.3	4.7	7.0	11.6	23.3	14.0	7.0	14.0	7.0	2.3			100.0
兼業		5.9	5.9	17.6	11.8	35.3		17.6		5.9			100.0
フェリー旅客	4.4	2.2	20.0	11.1	8.9	15.6	4.4	11.1	4.4	11.1	6.7		100.0
曳船等	6.3	6.3	12.5	18.8	15.6	3.1	15.6	3.1	3.1	3.1	12.5		100.0
管理・派遣	23.1	7.7	15.4	7.7		7.7		7.7			23.1	7.7	100.0
その他	37.5			37.5	12.5						12.5		100.0
主船型													
700総トン未満	12.4	3.4	9.0	16.9	16.9	12.4	6.7	6.7	1.1	5.6	9.0		100.0
700総トン以上	5.6	5.6	13.0	16.7	12.0	13.9	5.6	13.0	5.6	3.7	4.6	0.9	100.0
主船種													
貨物	11.9	4.8	11.9	19.0	16.7	19.0	2.4	4.8	4.8	2.4	2.4		100.0
タンカー	7.5	3.8	5.7	17.0	17.0	13.2	7.5	17.0	3.8	3.8	3.8		100.0
専用と大型	11.1	22.2	11.1	22.2		22.2					11.1		100.0
フェリー	6.1	4.1	16.3	12.2	8.2	16.3	4.1	12.2	4.1	10.2	6.1		100.0
曳船等	6.1	3.0	15.2	15.2	21.2	3.0	15.2	6.1	3.0	3.0	9.1		100.0
その他	18.2			27.3	9.1			9.1			27.3	9.1	100.0
雇用規模													
10人未満	19.0	9.5	14.3	9.5	19.0	4.8	4.8	9.5			9.5		100.0
10～24人	10.2	4.1	6.1	22.4	14.3	16.3	4.1	8.2	2.0	4.1	8.2		100.0
25～49人	5.7	5.7	11.4	15.7	14.3	14.3	11.4	4.3	4.3	10.0	2.9		100.0
50～99人	10.0	2.5	15.0	17.5	12.5	10.0	2.5	15.0	5.0		7.5	2.5	100.0
100人以上			16.7	11.1	11.1	16.7		27.8	5.6		11.1		100.0
採用者履歴													
海技教育機構	8.4	3.7	13.1	8.4	15.0	11.2	6.5	13.1	3.7	6.5	9.3	0.9	100.0
その他	11.3	6.5	8.1	22.6	11.3	21.0	6.5	4.8	3.2	3.2	1.6		100.0

付表 B4-1-2 b 重視する機関関係教科 (海上技術短期大学校)

(1/3)

問15-2 第1位 分類	海上技術短期大											合計	
	機器の構造	配管系知識	機器の名称・役割	機器取扱い	機器保守・管理	電気知識	油圧知識	法工具の名称・使用	計測機器の名称使用	警報の処置	安全管理		その他
地域													
北海東北	64.7			11.8	11.8					5.9	5.9		100.0
関東北信越	53.1	2.0	8.2	8.2	8.2	4.1		6.1		2.0	4.1	4.1	100.0
中部近畿	42.9		7.1	14.3	2.4	4.8	4.8	7.1			11.9	4.8	100.0
中国	46.4			28.6	7.1	3.6				3.6	10.7		100.0
四国	45.7		2.9	20.0	5.7	2.9		5.7		2.9	5.7	8.6	100.0
九州沖縄	31.0	3.4		24.1	10.3	3.4					27.6		100.0
業種													
運送業	46.2		7.7	23.1	10.3	2.6		5.1			5.1		100.0
貸渡業	48.8		2.3	25.6	4.7	7.0					7.0	4.7	100.0
兼業	70.6		5.9		5.9			11.8		5.9			100.0
フェリー旅客	36.2	2.1	4.3	14.9	4.3	4.3		4.3		6.4	17.0	6.4	100.0
曳船等	47.1		2.9	11.8	8.8	2.9	5.9	2.9			14.7	2.9	100.0
管理・派遣	41.7	8.3		16.7	8.3			8.3			16.7		100.0
その他	50.0			12.5	12.5						12.5	12.5	100.0
主船型													
700総トン未満	42.9		2.2	23.1	8.8	2.2	2.2	1.1		2.2	12.1	3.3	100.0
700総トン以上	50.0	1.9	5.6	11.1	5.6	4.6		6.5		1.9	9.3	3.7	100.0
主船種													
貨物	51.2		2.4	26.8	4.9	9.8					2.4	2.4	100.0
タンカー	55.8		3.8	17.3	9.6			5.8			5.8	1.9	100.0
専用と大型	22.2	11.1	11.1					22.2			33.3		100.0
フェリー	39.2	2.0	3.9	13.7	3.9	3.9		3.9		5.9	17.6	5.9	100.0
曳船等	48.6		5.7	11.4	8.6	2.9	5.7	2.9			11.4	2.9	100.0
その他	36.4			18.2	18.2					9.1	9.1	9.1	100.0
雇用規模													
10人未満	36.4		4.5	22.7	9.1	4.5	4.5				18.2		100.0
10～24人	47.1			25.5	5.9	2.0		2.0		3.9	11.8	2.0	100.0
25～49人	45.7	1.4	7.1	12.9	8.6	2.9	1.4	2.9		1.4	11.4	4.3	100.0
50～99人	47.5	2.5	2.5	15.0	2.5	5.0		10.0		2.5	5.0	7.5	100.0
100人以上	58.8		5.9	5.9	11.8	5.9		5.9			5.9		100.0
採用者履歴													
海技教育機構	48.2	0.9	5.3	16.7	8.8	1.8		5.3		1.8	6.1	5.3	100.0
その他	38.6	1.8	3.5	17.5	5.3	5.3	1.8	1.8		3.5	21.1		100.0

問15-2 第2位 分類	海上技術短期大										合計	
	機器の構造	配管系知識	割器の名称・役	機器取扱い	機器保守・管理	電気知識	油圧知識	工具の名称・使用法	計測機器の名称・使用法	警報の処置		安全管理
地域												
北海道	11.8	5.9	11.8	17.6	23.5	11.8	5.9	5.9		5.9		100.0
東北	8.3	12.5	10.4	10.4	14.6	20.8	2.1	12.5	4.2		4.2	100.0
関東	19.0	16.7	4.8	16.7	26.2	9.5		2.4			4.8	100.0
北信越	10.7	14.3	17.9	10.7	17.9	7.1			3.6	10.7	7.1	100.0
中部近畿	2.9	14.3	8.6	20.0	28.6	8.6		2.9			14.3	100.0
中国	16.7	6.7	16.7	10.0	23.3	10.0	3.3	3.3	6.7	3.3		100.0
四国												
九州												
沖縄												
業種												
運送業	5.1	17.9	10.3	7.7	28.2	7.7		12.8	5.1	2.6	2.6	100.0
貸渡業	9.3	7.0	16.3	16.3	27.9	7.0		4.7	2.3	4.7	4.7	100.0
兼業	11.8	17.6	23.5	17.6		11.8					17.6	100.0
フェリー旅客	18.8	8.3	2.1	20.8	20.8	10.4		4.2	2.1	2.1	10.4	100.0
曳船等	17.6	17.6	2.9	14.7	20.6	26.5						100.0
管理・派遣		8.3	33.3		25.0	8.3		8.3	8.3	8.3		100.0
その他		14.3	14.3		14.3	14.3	42.9					100.0
主船型												
700総トン未満	14.1	14.1	6.5	13.0	25.0	13.0	3.3	2.2	2.2	1.1	5.4	100.0
700総トン以上	9.3	11.2	15.0	15.0	18.7	11.2		7.5	2.8	3.7	5.6	100.0
主船種												
貨物	9.8	17.1	12.2	9.8	24.4	2.4		7.3	4.9	2.4	9.8	100.0
タンカー	1.9	13.5	17.3	15.4	25.0	13.5		5.8	3.8	3.8		100.0
専用と大型	22.2		44.4									100.0
フェリー	17.3	7.7	1.9	17.3	26.9	11.5		3.8	1.9	1.9	9.6	100.0
曳船等	17.1	17.1	5.7	17.1	11.4	22.9	5.7	2.9				100.0
その他	10.0	10.0	10.0	10.0	20.0	20.0	10.0				10.0	100.0
雇用規模												
10人未満	4.5	13.6	4.5	9.1	40.9	9.1		9.1			9.1	100.0
10～24人	17.3	11.5	7.7	9.6	23.1	17.3	1.9	1.9	1.9	1.9	5.8	100.0
25～49人	8.6	7.1	12.9	17.1	18.6	11.4	2.9	7.1	4.3	2.9	7.1	100.0
50～99人	12.8	15.4	20.5	17.9	10.3	10.3		5.1	2.6	2.6	2.6	100.0
100人以上	11.8	29.4		11.8	35.3	5.9					5.9	100.0
採用者履歴												
海技教育機構	10.4	12.2	10.4	14.8	22.6	12.2	1.7	6.1	2.6	0.9	6.1	100.0
その他	14.0	10.5	7.0	14.0	26.3	12.3	1.8	3.5	1.8	3.5	5.3	100.0

問15-2 第3位 分類	海上技術短期大											合計	
	機器の構造	配管系知識	機器の名称・役割	機器取扱い	機器保守・管理	電気知識	油圧知識	工具の名称・使用	計測機器の名称使用	警報の処置	安全管理		その他
地域													
北海東北	11.8	5.9	5.9	23.5	11.8	17.6	5.9			5.9	11.8		100.0
関東北信越	4.2	6.3	14.6	8.3	8.3	16.7	10.4	10.4	6.3	2.1	12.5		100.0
中部近畿	4.8	7.1	7.1	14.3	19.0	21.4	4.8	4.8	2.4	4.8	9.5		100.0
中国	14.8		18.5	14.8	11.1	22.2	7.4	7.4			3.7		100.0
四国	5.7	8.6	2.9	5.7	17.1	11.4	14.3	14.3	8.6	11.4			100.0
九州沖縄	10.0	10.0	13.3	10.0	20.0	13.3	6.7		6.7	6.7	3.3		100.0
業種													
運送業	7.7	5.1	7.7	17.9	12.8	17.9	5.1	10.3	5.1	5.1	5.1		100.0
貸渡業	7.0	7.0	7.0	9.3	23.3	20.9	7.0	11.6	4.7	2.3			100.0
兼業		5.9	17.6	17.6	11.8	35.3		5.9		5.9			100.0
フェリー旅客	2.1	4.3	17.0	2.1	14.9	19.1	8.5	6.4	8.5	10.6	6.4		100.0
曳船等	8.8	11.8	5.9	11.8	11.8	5.9	23.5		2.9	2.9	14.7		100.0
管理・派遣	25.0	8.3	16.7	16.7				8.3			25.0		100.0
その他	28.6			28.6	14.3	14.3					14.3		100.0
主船型													
700総トン未満	10.9	7.6	6.5	13.0	15.2	14.1	9.8	4.3	2.2	5.4	10.9		100.0
700総トン以上	4.7	5.7	13.2	10.4	14.2	19.8	7.5	9.4	6.6	4.7	3.8		100.0
主船種													
貨物	9.8	7.3	9.8	12.2	19.5	24.4	2.4	2.4	7.3	2.4	2.4		100.0
タンカー	7.7	3.8	7.7	15.4	13.5	17.3	7.7	15.4	1.9	5.8	3.8		100.0
専用と大型	11.1	22.2	11.1	22.2		22.2					11.1		100.0
フェリー	3.9	5.9	13.7	3.9	13.7	19.6	7.8	7.8	7.8	9.8	5.9		100.0
曳船等	8.6	8.6	8.6	8.6	17.1	5.7	22.9	2.9	2.9	2.9	11.4		100.0
その他	10.0		10.0	30.0	10.0	10.0					30.0		100.0
雇用規模													
10人未満	18.2	9.1	13.6	4.5	27.3	9.1	4.5	4.5			9.1		100.0
10～24人	7.8	7.8	3.9	13.7	9.8	17.6	5.9	7.8	7.8	5.9	11.8		100.0
25～49人	5.7	7.1	5.7	15.7	14.3	21.4	14.3		2.9	10.0	2.9		100.0
50～99人	7.7	5.1	25.6	7.7	15.4	10.3	7.7	10.3	2.6		7.7		100.0
100人以上			11.8	5.9	11.8	23.5		29.4	11.8		5.9		100.0
採用者履歴													
海技教育機構	7.0	5.3	10.5	7.0	15.8	16.7	7.9	7.9	4.4	7.0	10.5		100.0
その他	10.5	8.8	10.5	15.8	10.5	21.1	10.5	3.5	3.5	3.5	1.8		100.0

付表 B4-1-2 c 重視する機関関係教科 (海技大学校)

(1/3)

問15-3 第1位 分類	海技大学校											合計 %		
	機器の構造	配管系知識	機器の名称・役割	機器取扱い	機器保守・管理	電気知識	油圧知識	法	工具の名称・使用	計測機器の名称使用	警報の処置		安全管理	その他
地域														
北海道	62.5			6.3	12.5		6.3				6.3	6.3		100.0
関東北信越	53.2	2.1	6.4	6.4	10.6	4.3		4.3			2.1	6.4	4.3	100.0
中部近畿	47.2		2.8	8.3	5.6	8.3	2.8	5.6				13.9	5.6	100.0
中国	42.3			26.9	7.7	3.8					3.8	15.4		100.0
四国	41.2		2.9	26.5	5.9	2.9					5.9	5.9	8.8	100.0
九州沖縄	20.7			17.2	6.9	3.4				3.4	3.4	44.8		100.0
業種														
運送業	46.2		5.1	20.5	7.7	5.1		5.1				10.3		100.0
貸渡業	38.5		2.6	28.2	7.7	7.7				2.6		7.7	5.1	100.0
兼業	70.6		5.9		5.9			11.8			5.9			100.0
フェリー旅客	34.9		2.3	9.3	9.3	2.3					11.6	23.3	7.0	100.0
曳船等	46.7			6.7	10.0	6.7	6.7					20.0	3.3	100.0
管理・派遣	41.7	8.3		16.7	8.3							25.0		100.0
その他	50.0			12.5								25.0	12.5	100.0
主船型														
700総トン未満	42.2		1.2	19.3	10.8	2.4	2.4			1.2	2.4	14.5	3.6	100.0
700総トン以上	46.2	1.0	3.8	10.6	5.8	5.8		3.8			3.8	15.4	3.8	100.0
主船種														
貨物	47.5		2.5	25.0	7.5	10.0				2.5		2.5	2.5	100.0
タンカー	53.1		2.0	18.4	8.2	2.0		4.1				10.2	2.0	100.0
専用と大型	22.2	11.1	11.1					22.2				33.3		100.0
フェリー	36.2		2.1	8.5	8.5	2.1	2.1				10.6	23.4	6.4	100.0
曳船等	51.6		3.2	6.5	9.7	6.5	3.2					16.1	3.2	100.0
その他	27.3			18.2	9.1						9.1	27.3	9.1	100.0
雇用規模														
10人未満	33.3		4.8	23.8	9.5	4.8						23.8		100.0
10～24人	48.9			20.0	6.7	2.2	2.2				4.4	13.3	2.2	100.0
25～49人	43.1	1.5	4.6	13.8	6.2	4.6	1.5	1.5			3.1	15.4	4.6	100.0
50～99人	40.0		2.5	12.5	7.5	2.5		7.5	2.5		5.0	12.5	7.5	100.0
100人以上	58.8				17.6	11.8						11.8		100.0
採用者履歴														
海技教育機構	44.7	1.0	3.9	15.5	9.7	3.9	1.0	2.9			1.9	9.7	5.8	100.0
その他	36.8		1.8	12.3	7.0	3.5	1.8	1.8	1.8		7.0	26.3		100.0

問15-3 第2位 分類	海技大学校										合計 %		
	機器の構造	配管系知識	割機器の名称・役	機器取扱い	機器保守・管理	電気知識	油圧知識	用工具の名称・使	計測機器の名称	警報の処置		安全管理	その他
地域													
北海東北		6.3	12.5	6.3	18.8	25.0	6.3	6.3		12.5		6.3	100.0
関東北信越	8.7	10.9	8.7	13.0	19.6	19.6	4.3	8.7	2.2		4.3		100.0
中部近畿	8.3	16.7	2.8	19.4	30.6	5.6	2.8	2.8		5.6	5.6		100.0
中国	15.4	15.4	19.2	3.8	15.4	15.4				7.7	7.7		100.0
四国	2.9	11.8	5.9	14.7	32.4	11.8		2.9			17.6		100.0
九州沖縄	16.7	6.7	13.3	16.7	20.0	3.3	3.3	3.3	6.7	3.3	6.7		100.0
業種													
運送業	7.7	15.4	10.3	7.7	28.2	10.3	2.6	7.7	5.1	2.6	2.6		100.0
貸渡業	10.3	7.7	12.8	12.8	30.8	10.3		5.1		2.6	7.7		100.0
兼業	11.8	17.6	23.5	17.6		11.8					17.6		100.0
フェリー旅客	13.6	6.8		20.5	22.7	6.8	2.3	4.5	2.3	2.3	15.9	2.3	100.0
曳船等	6.7	16.7	3.3	13.3	20.0	30.0	3.3			6.7			100.0
管理・派遣		8.3	25.0		41.7	8.3		8.3		8.3			100.0
その他		14.3	14.3	14.3		14.3	28.6			14.3			100.0
主船型													
700総トン未満	8.3	13.1	7.1	11.9	23.8	14.3	3.6	2.4	2.4	4.8	7.1	1.2	100.0
700総トン以上	9.7	10.7	11.7	14.6	22.3	11.7	1.9	5.8	1.0	2.9	7.8		100.0
主船種													
貨物	10.0	15.0	12.5	10.0	22.5	2.5	2.5	7.5	2.5	2.5	12.5		100.0
タンカー	4.1	14.3	14.3	12.2	30.6	18.4		2.0	2.0	2.0			100.0
専用と大型	22.2		44.4						11.1		11.1	11.1	100.0
フェリー	12.5	6.3		16.7	27.1	10.4	2.1	4.2	2.1	2.1	14.6	2.1	100.0
曳船等	6.5	16.1	6.5	19.4	9.7	22.6	9.7	3.2		6.5			100.0
その他	10.0	10.0		10.0	30.0	20.0				10.0	10.0		100.0
雇用規模													
10人未満	4.8	4.8	4.8	14.3	38.1	9.5		9.5		4.8	9.5		100.0
10～24人	10.9	15.2	8.7	8.7	19.6	17.4	2.2	2.2	2.2	4.3	6.5	2.2	100.0
25～49人	7.7	6.2	12.3	12.3	26.2	12.3	3.1	4.6	1.5	6.2	7.7		100.0
50～99人	12.8	12.8	12.8	17.9	15.4	10.3		5.1	2.6		10.3		100.0
100人以上	5.9	29.4		17.6	23.5	11.8	11.8						100.0
採用者履歴													
海技教育機構	7.7	11.5	8.7	13.5	26.0	13.5	3.8	4.8	1.9	1.9	6.7		100.0
その他	12.3	10.5	7.0	14.0	21.1	12.3	1.8	3.5	1.8	3.5	10.5	1.8	100.0

問15-3 第3位 分類	海技大学校										合計 %			
	機器の構造	配管系知識	機器の名称・役割	機器取扱い	機器保守・管理	電気知識	油圧知識	法	工具の名称・使用	計測機器の名称使用		警報の処置	安全管理	その他
地域														
北海道	12.5	6.3	6.3	18.8		12.5					6.3	37.5		100.0
関東北信越	4.3	4.3	10.9	4.3	10.9	23.9	10.9	10.9	4.3	2.2	13.0			100.0
中部近畿	5.6		8.3	13.9	25.0	19.4	2.8	2.8		5.6	16.7			100.0
中国	16.0		20.0	20.0	4.0	16.0	8.0	4.0		8.0	4.0			100.0
四国	5.9	11.8		2.9	14.7	17.6	11.8	11.8	8.8	14.7				100.0
九州沖縄	6.7	6.7	3.3	13.3	23.3	10.0	3.3		13.3	10.0	10.0			100.0
業種														
運送業	7.7	5.1	7.7	20.5	12.8	12.8	5.1	7.7	5.1	5.1	10.3			100.0
貸渡業	7.7	7.7	5.1	5.1	20.5	23.1	7.7	10.3	5.1	7.7				100.0
兼業		5.9	5.9	17.6	17.6	35.3	5.9	5.9		5.9				100.0
フェリー旅客	2.3	2.3	11.6	4.7	14.0	25.6	4.7	4.7	7.0	14.0	9.3			100.0
曳船等	10.0	6.7	6.7	6.7	13.3		16.7		3.3	3.3	33.3			100.0
管理・派遣	25.0		16.7	8.3		16.7		8.3			25.0			100.0
その他	14.3			28.6	14.3				14.3	14.3	14.3			100.0
主船型														
700総トン未満	11.9	3.6	6.0	11.9	16.7	9.5	7.1	4.8	2.4	7.1	19.0			100.0
700総トン以上	3.9	5.9	8.8	9.8	12.7	24.5	6.9	6.9	6.9	7.8	5.9			100.0
主船種														
貨物	10.0	5.0	7.5	12.5	20.0	25.0	2.5	2.5	5.0	2.5	7.5			100.0
タンカー	8.2	4.1	6.1	14.3	10.2	16.3	10.2	12.2	4.1	10.2	4.1			100.0
専用と大型	11.1	22.2	11.1	22.2		22.2					11.1			100.0
フェリー	4.3	4.3	8.5	4.3	12.8	25.5	4.3	6.4	6.4	12.8	10.6			100.0
曳船等	6.5	3.2	9.7	6.5	19.4		16.1	3.2	3.2	6.5	25.8			100.0
その他	10.0			20.0	20.0	10.0			10.0		30.0			100.0
雇用規模														
10人未満	14.3	9.5	9.5	9.5	23.8	4.8	9.5	4.8		4.8	9.5			100.0
10～24人	8.9	4.4	4.4	13.3	8.9	15.6	4.4	8.9	8.9	6.7	15.6			100.0
25～49人	6.2	6.2	3.1	12.3	12.3	20.0	12.3		4.6	12.3	10.8			100.0
50～99人	7.7	2.6	15.4	7.7	20.5	15.4	2.6	7.7	5.1	5.1	10.3			100.0
100人以上			17.6	5.9	11.8	35.3		17.6			11.8			100.0
採用者履歴														
海技教育機構	7.8	4.9	7.8	4.9	14.6	19.4	6.8	6.8	2.9	8.7	15.5			100.0
その他	8.8	7.0	5.3	15.8	12.3	17.5	7.0	3.5	7.0	8.8	7.0			100.0

表 B4-2-1 航海士・機関士両用教育

問16 両用教育	(人)	(%)
従来通り	87	39.4
片方に重点	81	36.7
片方のみ	42	19.0
無回答	11	5.0
合計	221	100.0

表 B4-2-2 海技教育機構関係学校定員

問17 養成定員	(人)	(%)
十分	114	51.6
多い	2	0.9
少ない	86	38.9
無回答	19	8.6
合計	221	100.0

付表 B4-2-1・2 海技教育機構の学校の定員と両用教育

分類	問16 両用教育					問17 養成定員			
	従来どおり	片方に重点	片方のみ	その他	合計%	十分	多い	少ない	合計%
地域									
北海東北	42.1	42.1	15.8		100.0	72.2		27.8	100.0
関東北信越	38.8	44.9	16.3		100.0	58.3	4.2	37.5	100.0
中部近畿	31.0	42.9	26.2		100.0	72.5		27.5	100.0
中国	51.5	27.3	18.2	3.0	100.0	69.0		31.0	100.0
四国	55.9	29.4	11.8	2.9	100.0	28.6		71.4	100.0
九州沖縄	30.6	38.9	27.8	2.8	100.0	43.8		56.3	100.0
業種									
運送業	45.0	37.5	15.0	2.5	100.0	52.6		47.4	100.0
貸渡業	52.2	26.1	19.6	2.2	100.0	36.6		63.4	100.0
兼業	29.4	47.1	23.5		100.0	52.9	5.9	41.2	100.0
フェリー旅客	34.7	44.9	18.4	2.0	100.0	59.2	2.0	38.8	100.0
曳船等	31.6	42.1	26.3		100.0	75.0		25.0	100.0
管理・派遣	42.9	28.6	28.6		100.0	76.9		23.1	100.0
その他	55.6	44.4			100.0	50.0		50.0	100.0
主船型									
700総トン未満	43.0	41.0	16.0		100.0	60.9		39.1	100.0
700総トン以上	39.3	34.8	23.2	2.7	100.0	52.3	1.8	45.9	100.0
主船種									
貨物	38.1	38.1	23.8		100.0	45.0		55.0	100.0
タンカー	58.2	25.5	12.7	3.6	100.0	46.0	2.0	52.0	100.0
専用と大型	20.0	60.0	20.0		100.0	70.0		30.0	100.0
フェリー	34.0	43.4	20.8	1.9	100.0	62.3	1.9	35.8	100.0
曳船等	30.8	43.6	25.6		100.0	69.4		30.6	100.0
その他	53.8	30.8	15.4		100.0	58.3		41.7	100.0
雇用規模									
10人未満	22.2	51.1	24.4	2.2	100.0	55.0	5.0	40.0	100.0
10～24人	49.1	35.1	14.0	1.8	100.0	56.6		43.4	100.0
25～49人	39.2	37.8	20.3	2.7	100.0	55.7		44.3	100.0
50～99人	34.9	46.5	18.6		100.0	50.0		50.0	100.0
100人以上	29.4	29.4	41.2		100.0	73.7	5.3	21.1	100.0
採用者履歴									
海技教育機構	38.7	39.5	20.2	1.7	100.0	54.8	0.9	44.3	100.0
その他	39.1	42.2	17.2	1.6	100.0	60.3		39.7	100.0

表 B5-1-1 海技教育機構関係学校新卒者の採用

問6-1・2		海上技術 学校	海上技術 短期大学 校	海技大学 校	合計(人)
	採用年度				
	H24	27	50	3	80
	H25	31	56	10	97
	H26	31	71	10	112
	H27	30	72	11	113
	H28	20	79	7	106
	合計	139	328	41	508

表 B5-1-2・3 海技教育機構関係学校新卒採用者の職務・海技資格免状

問6-1	海上技術	海上技術	海技	合計 (人)	海上技術	海上技術	海技	合計 (%)
	学校	短期大学 校	大学校		学校	短期大学 校	大学校	
船長	1	5	2	8	0.7	1.5	4.9	1.6
一等航海士	2	5	1	8	1.4	1.5	2.4	1.6
二等航海士	7	5	1	13	5.0	1.5	2.4	2.6
三等航海士	5	12	15	32	3.6	3.7	36.6	6.3
甲板長	17	48	4	69	12.2	14.6	9.8	13.6
甲板手	61	129	8	198	43.9	39.3	19.5	39.0
機関長		4	1	5		1.2	2.4	1.0
一等機関士	4	11		15	2.9	3.4		3.0
二等機関士	10	10		20	7.2	3.0		3.9
三等機関士	3	9	5	17	2.2	2.7	12.2	3.3
操機長	4	19	2	25	2.9	5.8	4.9	4.9
操機手	22	69	2	93	15.8	21.0	4.9	18.3
司厨長・手 事務長・員 サービス								
無回答	3	2		5	2.2	0.6		1.0
合計	139	328	41	508	100.0	100.0	100.0	100.0
1, 2級(航海)		1	1	2		0.3	2.4	0.4
3級(航海)	3	2	19	24	2.2	0.6	46.3	4.7
4級(航海)	89	291	13	393	64.0	88.7	31.7	77.4
5級(航海)	1	3		4	0.7	0.9		0.8
6級(航海)								
1, 2級(機関)								
3級(機関)	1	6	4	11	0.7	1.8	9.8	2.2
4級(機関)	72	248	9	329	51.8	75.6	22.0	64.8
5級(機関)		1		1		0.3		0.2
6級(機関)								
合計	166	552	46	764	119.4	168.3	112.2	150.4

表 B5-2-1・2 海技教育機構関係学校新卒採用者の在職・退職別

問 6 - 1 ・ 2		海上技術 学校	海上技術 短期大学 校	海技大学 校	合計(人)
H24-H28 新卒退職者	1年未満	5	14	1	20
	1年	9	20	10	39
	2年	2	4	1	7
	3年		2		2
	4年				
	合計	16	40	12	68
新卒採用 退職者	1年未満	6	17	2	25
	1年	16	31	10	57
	2年	15	28	3	46
	3年	5	13		18
	4年	4	8	1	13
	5年～	15	18	5	38
	10年～	9	6	2	17
	合計	70	121	23	214

表 B5-3-1 反対の職部就労の実施

問13	反対職実施	(人)	(%)
	1.しない		160
2.する		50	22.6
3.将来する		7	3.2
無回答		4	1.8
合計		221	100.0

付表 B5-3-1 甲板部または機関部と反対の職部就労の実施

問13 分類	反対職			合計 (%)
	実施しない	実施する	将来 実施する	
地域				
北海東北	78.9	21.1		100.0
関東北信越	79.6	18.4	2.0	100.0
中部近畿	74.4	23.3	2.3	100.0
中国	72.7	24.2	3.0	100.0
四国	54.3	40.0	5.7	100.0
九州沖縄	81.6	13.2	5.3	100.0
業種				
運送業	70.0	22.5	7.5	100.0
貸渡業	71.7	21.7	6.5	100.0
兼業	72.2	27.8		100.0
フェリー旅客	74.5	23.5	2.0	100.0
曳船等	73.7	26.3		100.0
管理・派遣	100.0			100.0
その他	55.6	44.4		100.0
主船型				
700総トン未満	61.4	36.6	2.0	100.0
700総トン以上	84.3	11.3	4.3	100.0
主船種				
貨物	76.2	23.8		100.0
タンカー	71.4	19.6	8.9	100.0
専用と大型	100.0			100.0
フェリー	71.4	25.0	3.6	100.0
曳船等	73.7	26.3		100.0
その他	61.5	38.5		100.0
雇用規模				
10人未満	72.7	22.7	4.5	100.0
10～24人	62.1	34.5	3.4	100.0
25～49人	73.3	22.7	4.0	100.0
50～99人	81.8	15.9	2.3	100.0
100人以上	94.4	5.6		100.0
採用者履歴				
海技教育機構	70.3	26.3	3.4	100.0
その他	77.3	21.2	1.5	100.0

表 B5-3-2 反対の職部就労までの経

問13-2	経験年数と	(人)	(%)
	1.無関係	28	56.0
	2.経験後	1	2.0
	無回答	21	42.0
	合計	50	100.0

表 B5-3-3 反対の職部就労までの経験年数

問13-2	経験年	甲板(人)	機関(人)	甲板(%)	機関(%)
	1年	2	1	66.7	100.0
	2年				
	3年	1		33.3	
	4年				
	5年以上				
	合計	3	1	100.0	100.0

表 B5-3-4 反対の職部就労の期間(年間あたり)

問13-3	反対職(月)	甲板(人)	機関(人)	甲板(%)	機関(%)
	～2カ月	4	3	80.0	75.0
	3カ月～				
	6カ月～				
	1年	1	1	20.0	25.0
	合計	5	4	100.0	100.0

問7 採用理由 (1/2)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貨渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②カカ③専用と大型その他④フェリ⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①無採用②未定③退職者補充④高齢化対策⑤後継者育成⑥船員確保⑦その他

2	5	1	5	2	2	1	3隻の定員を満たしている
4	5	1	5	3	2	1	退職者の予定なし
4	4	2	4	2	2	1	定員達成
1	5	1	5	2	2	1	当分は退職予定者なし
2	1	1	2	1	2	1	閉鎖
4	4	2	4	2	1	1	満定員
4	2	2	3	4	2	2	状況に応じ
2	4	1	4	2	2	3	2名退職、1名傷病
6	5	1	5	4	1	3	急な退職があれば対応
5	4	1	4	2	2	3	欠員があれば
5	4	2	4	5	1	3	欠員補充
5	5	1	5	1	2	3	退職者(定年)がでるため
3	5	1	5	2	1	3	退職者(定年)がでるため
2	1	2	1	2	1	3	退職者の補充
3	3	1	1	4	1	3	退職者補充
3	4	1	4	2	2	3	中堅社員退職による欠員補充
3	4	1	4	1	2	3	定年、高齢化による人員不足
6	2	1	1	3	0	3	定年者有
2	6	2	0	4	1	3	定年者がいるため
6	1	1	1	3	2	3	定年者の補充
6	4	2	4	4	2	3	定年退職者
6	4	2	4	4	2	3	定年退職者
5	4	1	4	3	1	3	定年退職者4名
6	5	1	5	2	2	3	定年退職者あり
2	4	2	4	3	1	3	定年退職者がある
3	2	2	1	3	1	3	定年退職者がある為
6	1	2	2	4	1	3	定年退職者がいる
5	2	2	2	3	1	3	定年退職者がいる為
3	5	1	5	3	1	3	定年退職者がいる為
1	4	2	4	3	1	3	定年退職者がいないため
6	2	2	1	3	1	3	定年退職者対策
2	3	2	0	4	1	3	定年退職者に新卒、自己都合退職者に中途採用
3	4	2	4	5	1	3	定年退職者に伴う採用
5	4	1	4	3	1	3	定年退職予定者
5	4	2	4	3	1	3	定年退職予定と自己都合退職者の為
5	1	1	0	2	1	3	定年退職者有
3	4	1	4	2	0	4	60歳超の交代要員
5	2	2	2	3	1	4	60代の船員が多いため
5	2	2	2	3	1	4	高齢船員の退職に対する経験者と新卒者の雇用を計画的に行う
4	2	1	2	2	2	4	高齢化解消
4	1	1	5	5	1	4	高齢化信仰の為若年船員募集
4	2	1	2	2	2	4	高齢化による離職を考慮した事前準備
6	1	2	2	2	1	4	高齢者の交代要員

問7 採用理由 (2/2)

①北海道②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貨渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②カー③専用と大型その他④フェリ⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①無採用②未定③退職者補充④高齢化対策⑤後継者育成⑥船員確保⑦その他

2	2	2	2	3	1	4	高齢船員の退職者発生の為
4	2	1	2	3	0	4	高齢船員の退職に備えて
3	5	1	5	2	2	4	年齢のバランス
2	4	1	4	2	1	5	継続的に新卒者を採用し、後継者を育成する
5	2	2	2	3	1	5	後継者の育成
2	6	1	2	3	2	5	若年船員育成
5	2	2	2	3	1	5	昇格者に対する未経験者補充
3	1	1	1	4	2	5	新卒者と高齢者の入れ替えの経験者
4	4	2	4	1	2	5	世代交代
5	4	2	4	3	2	5	退職者との世代交代の為
3	1	1	1	2	1	5	中間層採用困難で新人を育てる
3	2	2	1	3	1	5	特に理由なく毎年4名ほど新卒採用しています
5	2	2	2	3	1	5	若手育成
2	1	2	2	5	1	6	雇用計画による
5	2	2	2	4	1	6	将来を考えての補充
1	1	2	3	3	0	6	補充
2	4	1	4	2	1	6	慢性的な船員不足の為
6	4	1	4	2	1	6	要員増強
6	4	2	4	5	0	6	要因補充及び残休日消化
3	4	1	4	2	1	6	予備員補充
5	2	2	2	4	1	7	海技学校からの卒業者と給与が折り合わない
4	3	2	2	4	0	7	純増船に対応するため
2	3	2	1	5	1	7	新造船対応
1	4	1	4	2	2	7	船員休日消化のため
5	1	2	2	3	1	7	船員の休暇確保
3	1	1	2	2	2	7	増船のため
6	1	1	2	1	1	7	同族者が水産大学卒業
5	4	2	4	4	1	7	内定
2	1	2	2	3	1	7	内定通知済
5	2	1	1	1	1	7	身内で乗っている

問8 新規学卒者への希望 (その他)

3	4	1	4	2	0	悪しき慣例に染まっていない
5	4	1	4	3	1	学校とのパイプ
5	4	1	4	3	1	学校とのパイプ維持する
5	4	2	4	3	1	学校は付き合い
5	1	2	2	3	1	勤勉さ
4	1	1	1	1	2	新卒不可
2	5	1	5	2	2	先輩後輩の関係
5	4	2	4	4	1	中途者がいない
3	5	1	5	4	1	定年退職者
3	4	2	4	4	1	要員不足

問14 航海関係 (その他)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貨渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②カク③専用と大型その他④フェリ⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

3	5	1	5	4	1	BRM
2	7	2	0	4	0	基礎知識
3	2	1	1	3	1	航海当直
3	5	1	5	2	2	乗船実習
5	4	1	4	3	1	責任感
5	4	2	4	3	1	責任感
5	4	1	4	3	1	責任感
3	4	1	4	2	0	船員の前に社会人であること
3	5	1	5	4	1	全般的にできていない、10年前と比べてかなり低いレベル
2	1	2	2	4	1	礼儀

問15 機関関係 (その他)

3	5	1	5	4	1	BRM
3	5	1	5	4	1	海技免状にあった能力はない、もう少しがんばって欲しい
2	7	2	0	4	0	基礎知識
5	4	1	4	3	1	責任感
5	4	2	4	3	1	責任感
5	4	1	4	3	1	責任感
2	2	2	2	2	1	溶接

問16 両用教育 (その他)

5	4	2	4	3	2	一括公認で甲機どちらでも運用できるようにしてほしい
6	1	2	2	2	1	現状は一方に片寄り、もう一方を使うには履歴限定解除の必要があり使いづらい、若いうちにバランスをとって乗船すると使いやすくなる。
4	2	2	2	3	1	小型船には両方持っている人も有用と思う

問12 両方・片方海技免状の理由 (1/4)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貸渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②タンカー③専用と大型その他④フェリー⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①能力拡大②少数化対策③配乗有利⑤専門職
⑥中途半端⑦甲・機分離⑧他理由で片方

3	5	1	5	2	1	1	あれば両方の方が良い、適性によってどちらかにあてられるから
5	2	1	2	3	1	1	多くの人が片方しか使わないが知識を得られる
6	1	2	2	2	1	1	現状は片方仕様だが、今後臨時的乗組としてもう一方の活用方策を検討したい。
3	5	1	5	2	1	1	航海、機関と行く方向を決め、その免状があればよい、どちらの部門に適性があるか決まるまでは必要
6	5	1	5	4	1	1	甲板、機関の適性判断の為
5	2	2	2	3	1	1	最終的に航機どちらかになるので
2	5	1	5	3	1	1	採用時に甲板、機関別に募集している
2	6	2	2	4	1	1	採用時の適性がわからない為
3	1	1	2	3	1	1	使用側は必要ないが本人にはよいかもしい
5	2	2	2	3	1	1	乗船後変更する方もいるため
4	2	1	2	2	2	1	将来進むべき職が決まっているなら片方だけでよいと思うが、そうでない場合は両方必要なのでは？
5	2	1	1	3	2	1	性格による向き不向きが大きい
5	4	2	4	3	2	1	船舶運航にあたって甲板部、機関部隔たりなく相互理解できる為
2	3	2	2	2	0	1	勉強は航機両方した方がよい
4	2	2	1	3	1	1	本人希望尊重
5	2	2	2	3	1	1	本人の可能性が広がる
6	5	1	5	2	2	1	本人の希望する免状だけでよい
6	1	1	3	1	2	1	本人の就職後の進路変更希望に会社に対応できず退職されたケースがある
5	2	2	2	3	1	1	本人の選択肢を広げるめりったるが、両方の免状の力量をつけるのは無理がある
2	7	1	5	3	1	1	本人の能力により航海、機関いずれにもシフトしやすい
2	4	1	4	2	2	1	免除所有だけでは船務できない、適性を見て勤務するのがやる気や成長につながる
2	6	2	2	4	1	1	両科における知識が、船内作業で活かせる協調性につながる
3	1	2	3	4	1	1	両方とは思わないが、両方あれば本人のフィールドが広がる
3	1	1	1	2	1	1	両免状所持しても実際には使用できない、ただし実社会に出て選ぶことができる面もある
5	4	2	4	3	1	2	今後、少数精鋭での運航が余儀なくされるので、若干でも知識を持っていて欲しい
5	4	1	4	3	1	2	今後、少数精鋭での運航が余儀なくなるので、知識を持っていて欲しい
1	4	1	4	2	1	2	船員数に余裕がない
2	3	2	2	1	0	2	定員減少、又、ハイテク化に対応が求められる
6	1	1	2	1	1	3	一括雇用公認のため必要
4	1	1	2	1	0	3	一括雇い入れて甲・機両方やってもらうため
6	4	1	4	2	1	3	会社の都合により反対職の勤務に従事させる事が可能になるため
5	2	2	2	1	2	3	欠員があった場合の対応
5	4	1	4	2	2	3	欠員になったときに充当できるから
4	5	1	5	2	2	3	兼務する場合在り

問12 両方・片方海技免状の理由 (2/4)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貸渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②タカ③専用と大型その他④フェリー⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①能力拡大②少数化対策③配乗有利⑤専門職
⑥中途半端⑦甲・機分離⑧他理由で片方

2	6	2	3	3	1	3	航機雇い入れが可能になったとき片方だけでは困る
1	5	1	4	2	1	3	航機両用
3	4	1	4	2	1	3	甲板部、機関部変更可能
6	6	1	2	3	2	3	職務上の変更がきくので
4	4	2	4	1	2	3	職務上の利点
5	2	1	1	1	1	3	船員が辞めた時に対応できる
5	1	1	0	2	1	3	全員の年間休日を均等にさせるため
2	4	1	4	2	1	3	船長と機関長の両方の職務に従事可能にする
5	2	2	2	3	2	3	使いやすい
2	1	1	5	1	1	3	どちらでも雇い入れできるから
4	1	2	1	2	0	3	配乗計画上
2	5	1	5	3	1	3	汎用性がある
5	5	1	5	1	2	3	便利である
4	2	1	2	3	0	3	両方あればよいが必須ではない
2	1	1	2	3	1	3	両方所持に越したことはない
4	2	1	2	2	2	3	ローテーションが組みやすい
4	2	2	2	2	2	4	急な退職の場合に補える
5	2	2	2	3	1	4	緊急時に活用できる為
3	3	1	1	4	1	4	航海、機関の応援ができる
6	2	1	1	4	2	4	甲板、機関不具合の時
6	4	2	4	4	2	5	機関は職員採用の為、経験が必要である
2	3	2	1	2	1	5	基本的に職種に応じて採用するため
6	4	2	4	3	2	5	経験が重要な世界なので片方を際股方が良い
6	2	1	1	3	0	5	経験が必要
3	5	1	5	3	2	5	航・機共の免状を持っていると会社としては便利だが本人は甲板部をしたり機関部をしたりと入れ替わりがあると、一人前になるのに時間がかかるし、いずれは船長か機関長どちらかになるので。
1	1	2	3	3	0	5	航機の交互配乗は考えていない、できるだけ早期にスペシャリストになって欲しい
2	4	2	4	3	1	5	航機両方の知識は必要だが片方の上を目指してほしい
2	6	1	2	3	2	5	航機両用は理想ですが、本人の得意分野を成長させたい
5	4	1	4	3	1	5	今後少数う精鋭での運航が余儀なくされるため若干でも知識があった方がよい
3	6	2	1	2	1	5	最終的内はどちらかになるので、スペシャリストとして最初から片方で教育したい
2	3	2	3	4	1	5	船員という専門的な職制を考慮すると、航機新卒船員のレベルを下げていると思う
2	1	2	2	3	1	5	船員として乗船するのであれば片方だけで十分、現実的に片方のスペシャリストを目指す方がよいのでは。
1	2	2	3	2	2	5	専門職として育成する
2	3	2	0	4	1	5	専門職としてレベルアップしてほしい
5	4	2	4	5	1	5	専門職の為

問12 両方・片方海技免状の理由 (3/4)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貸渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②タカ③専用と大型その他④フェリー⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①能力拡大②少数化対策③配乗有利⑤専門職
⑥中途半端⑦甲・機分離⑧他理由で片方

6	2	2	3	3	1	5	専門的に学業に集中し3級を取得してほしい、入社乗船しても航・機必要ありません
3	2	1	1	3	1	5	専門のみで現実性を要求します
2	6	2	1	3	1	5	デッキとエンジンのどちらか片方に専念してもらいたいで片方でかまわない
5	2	2	2	3	1	5	どちらかに決め極めて欲しい
3	5	1	5	3	2	5	どちらかに専任したほうがよい
4	2	2	2	3	1	5	早く一人前になってほしい
5	3	2	3	3	2	5	方向性を定めて育成したい
3	4	2	4	3	1	6	過去に航海士と機関士の併用を試したが概ね良い結果ではなかった
1	7	1	5	2	0	6	航・機両方の資格はどちらにもグレーである
3	5	1	5	3	1	6	将来に育成するのに両方では無理
6	4	2	4	4	2	6	新卒者の場合、海技免状を受有していても実力が伴っていない
6	4	2	4	4	2	6	新卒者の場合、海技免状を受有していても実力が伴っていない
5	2	2	2	4	1	6	即戦力として望んで採用するので、余裕がない
1	5	1	5	2	2	6	中途半端に作業に従事してほしくない
6	2	2	1	3	1	6	中途半端になりがち
6	6	1	0	1	2	6	どちらのパートも浅く薄い経験となるので採用しにくくなる
3	5	1	5	3	2	6	どっちつかず、中途半端な船員が見受けられた
3	1	1	2	2	2	6	なかなか航海・機関の併用は困難、どちらかに固定して育てるのが理想
3	2	2	1	3	1	6	勉強するに越したことはないが仕事レベルでは航機両方は必要ない
3	5	1	5	2	2	6	両方の資格を持つと本人の適性がわからない、2年間在校で両方は中途半端
4	6	2	2	3	2	6	両方持っても一度に使えない
3	4	2	4	4	1	7	運用上、航機両用は難しい
6	1	2	1	3	1	7	大型船には対応できない。片方だけでも長い期間を要する、3年間以上必要
2	1	2	2	4	1	7	基本的に職務(甲板部⇄機関部)がない為
2	5	1	5	5	1	7	基本的には航機いずれか専従となる、採用時決定
4	2	2	3	4	2	7	基本的に反対職を執らせることはない
4	5	1	5	3	2	7	業務上同時に両方はさせない
5	2	1	1	2	0	7	結局どちらかしか使えない
2	4	2	4	5	1	7	現状では職種変更する方がおらず、採用時に航海、機関の確認を行っている
1	4	2	4	3	1	7	現職と反対の職務を執らせることがない為
2	5	1	5	4	1	7	原則的に入社時、甲板、機関の職種別が決まり、以降ほぼ変更されない
5	1	2	2	3	1	7	航⇄機として乗ることがない
3	4	2	4	5	1	7	航機両用でない為
4	3	2	2	4	0	7	航機両用で使用することはない
6	1	1	1	3	2	7	採用後、本人の特性や上長の評価でどちらかに特化するのがいいのでは
3	2	2	1	3	1	7	採用後変更しない、両方の免状を特に使う場がない
2	3	2	1	5	1	7	採用時に航・機に分け、その変更しない
5	2	2	2	4	1	7	採用時に航海、機関どちらかに決める
2	5	1	5	4	1	7	採用時はその職が不足の状況なので反対職に就かせることは考えていない

問12 両方・片方海技免状の理由 (4/4)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貸渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②カク③専用と大型その他④フェリ⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①能力拡大②少数化対策③配乗有利⑤専門職
⑥中途半端⑦甲・機分離⑧他理由で片方

6	1	2	1	5	1	7	社内では完全に独立しているため
1	5	1	5	2	2	7	その職務にて採用する
3	4	2	4	3	1	7	当直において、現在パートを決めているため
3	2	2	1	4	1	7	入社後反対職を執らせることはない
2	1	2	2	3	1	7	入社時に希望した職種で育成するため
2	5	1	5	2	2	7	入社時に甲板と機関を分けて採用
2	4	1	4	2	1	7	反対の職務を執らせる事を考えていない為
2	2	2	2	3	1	7	二つのパートの兼務が発生していない為
2	1	2	1	1	2	7	二つのパートの兼務をしない
1	5	1	5	4	1	7	雇い入れが甲板か機関のどちらかになる為
3	2	2	1	1	0	7	両方使うことはない
2	1	2	1	2	1	7	両方に就かせることはない
2	6	2	0	4	1	7	両方持っていたとしても、甲板部が合わなかったとって、機関へ切り替えることは現状の体制では難しいため
3	4	2	4	5	1	8	運航航路の特殊性から併用は難しい
3	5	1	5	4	1	8	曳船で4名乗り組みで稼働
4	3	1	1	2	2	8	家族船員はメリットあるが会社組織はない
6	4	2	4	5	0	8	兼任者はいない
2	1	1	2	1	2	8	双方に介入せず信頼をもって任せる
2	1	2	2	4	1	8	両方で乗ると休暇が消化できない
3	3	1	1	1	0	9	ただし両方は歓迎する
5	1	2	2	3	1	9	定年退職対応
6	5	1	5	3	1	9	保有船から3級が必要なため

問17 海技教育機構の定員 (1/2)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貸渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②カカ③専用と大型その他④フェリ⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①船員不足②高齢化③定着率④入学倍率⑤その他

6	4	2	4	4	2	1	未だ船員の減少が止まらない
6	4	2	4	4	2	1	船員の減少が止まらない
2	3	2	1	2	1	1	カボタージュが堅持され、人口が徐々に減少していくことが想定される中で、今後の船員を確保す為、船員養成機関出身の船員が増加していくことが不可欠であるとする。
2	4	2	4	2	0	1	求職者が少ない
1	5	1	5	4	1	1	求人数に対して卒業生の人数が少ない
5	2	2	2	1	2	1	求人出しても応募者ゼロ
3	3	1	1	4	1	1	求人に応える人数を養成して欲しい
3	2	1	1	4	0	1	求人に対し応募が少ない(無い)
3	5	1	5	2	2	1	求人倍率が高く小規模またはローカルの会社が求人困難
2	6	2	2	4	1	1	業愛全体での求人を見ると少ない
5	2	2	1	2	1	1	供給不足
5	1	2	2	2	1	1	競争倍率が高いため定員拡大すればよい
6	5	1	5	4	1	1	現在抱えている船員不足の問題解決の為に、より多くの船員が求められると思
2	7	2	0	4	0	1	現状の人手不足を緩和できるくらいの人材が必要
5	2	2	2	3	1	1	現状も将来も全く不足
2	6	2	3	3	1	1	航機両用は一見無駄のように思われるが、気づかないところで役に立っているのではないのでしょうか、また、視野が広くなり、どちらに行くか自分で選べるのも良い、先生方の負担も大きいですが頑張ってください。
5	2	2	2	3	1	1	雇用できない
2	4	2	4	5	1	1	今後の船員不足、とくに機関部関係をもっと増やしてもらいたい
4	1	1	2	1	0	1	今後の船員不足への対応
4	2	1	2	2	2	1	今後の船員不足を考慮すると現状定員では不足感が否めない
6	1	1	1	3	2	1	今後の退職(定年)者に不足
2	3	2	1	5	1	1	今後の内航船需要に間に合わないのでは?
6	1	2	1	3	1	1	今後不足する
5	2	2	2	3	1	1	今後ますます船員が不足するため
1	4	1	4	2	1	1	採用したときに生徒数が不足している
2	2	2	2	2	1	1	実際に足りていない
5	5	1	5	1	2	1	若年船員が欲しい
2	1	2	1	2	1	1	需要と供給があっていない
5	2	2	1	4	0	1	将来的な船員ニーズに対して不十分
5	2	1	2	3	1	1	将来の人手不足
3	4	2	4	3	1	1	新卒船員は昔に比べて辞める率が高い
3	4	1	4	2	0	1	世界的に船員が少ない現状、バス運転手などではコンビニ店長などが安定した収入を求めて転職する時代、法律で高額な収入が保証されている船員をもっと拡大すべき。
6	7	1	0	3	2	1	絶対的な船員不足
2	1	2	2	3	1	1	船員の高齢化にまたまた必要である。このままですれ混乗船になるのでは
6	4	2	4	2	1	1	船員不足
4	4	2	4	1	2	1	船員不足、後継者不足
5	4	2	4	5	1	1	船員不足、特に甲板部部員及び機関部職員が不足している為
4	1	1	5	5	1	1	船員不足解消に至っていない
5	4	1	4	2	2	1	船員不足である
2	6	2	1	3	1	1	船員不足なので、もう少し定員を増やしてほしい
6	2	2	1	3	1	1	船員不足の現状

問17 海技教育機構の定員 (2/2)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貨渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②カカ③専用と大型その他④フェリ⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①船員不足②高齢化③定着率④入学倍率⑤その他

6	5	1	5	3	1	1	船員不足を補うには不十分である
6	2	2	2	3	0	1	船員不足を少しでも補うため
5	2	2	2	4	1	1	船員を増やすためにできる限り増やすべき
3	3	2	2	3	2	1	定員に対し3倍の求人があるため
6	2	2	3	3	1	1	できるだけ多く入校させて、多くの船員を養成してほしい
3	2	2	1	3	1	1	特に海上技術学校、内航は未だ人材不足が続いている
4	2	2	2	2	2	1	内航小型船には乗ってこない
3	4	2	4	5	1	1	日本全体で考えればまだ少ないかも
5	2	2	1	1	2	1	入学希望者、海事従事者の人口が少ない
3	7	1	0	2	0	1	弊社を含め業界は求人難ですが、水産高校の定員も削減され、大変と思います が海上輸送能力確保のため必要と思います
2	4	1	4	2	2	1	募集しているが応募者がなかなか見つからない
6	6	1	2	3	2	1	毎年船員を募集しているが一人も面接できていない
6	2	2	2	4	1	1	まだまだ船員不足
2	3	2	2	1	0	2	海上職の人員確保を確実にしていきたい。交代で乗れるものが老人ばかりでは、この先休暇がいつ回らなくなるか大変心配である。
1	1	2	3	3	0	2	現在は何とか新卒を採用できているが、今後、定年離職者分を補う人数が採用できるか不安です
6	1	2	2	2	1	2	高齢者が引退していくと現状では少ないのではないかと。
5	2	2	2	3	1	2	高齢者が多く、退職者が年々増加するので益々若年船員が必要になる
2	5	1	5	3	1	2	将来に後継者不足の不安がある
4	2	2	1	3	1	2	船員減少に伴っていない
5	1	1	0	2	1	2	船員不足問題解決には足りない
3	4	1	4	3	2	2	団塊世代の退職により求人難
4	5	1	5	2	2	2	ベテラン船員が退職していく中で船員不足
3	1	1	1	4	2	2	若者及び新規船員を入れても高齢化が止まらない
5	1	2	2	3	1	3	必ずしも全員が海上に残るとは考えにくい
5	4	2	4	3	1	3	今後、船員不足が懸念される中、応募者数は定員の何倍もいると確認している
5	4	1	4	3	1	3	船員不足が懸念され、応募者数は定員の何倍もいる
5	4	1	4	3	1	3	応募者数は定員の何倍もいるそうである
1	5	1	5	2	2	3	就職しても転職者が多い
3	4	1	4	2	1	3	新船員で一社継続が難しい人が多い
5	4	2	4	4	1	3	船員不足なのに倍率が高い
6	1	2	2	4	1	3	船員不足のため
4	1	2	1	4	1	3	船員不足の為
2	1	2	2	4	1	3	船員を辞める人を考慮して
6	1	1	3	1	2	3	卒業・修了人数の船員就職率（歩留まり）を考慮されているとは思えない
5	2	2	2	3	1	4	船員になり手がいるのに学校には入れない、船員不足を解消しないと業界が成り立たない
2	4	2	4	3	1	4	船員を希望しても入学できない事がある
5	2	2	2	3	1	4	倍率が高いので落ちた人の進路が気になる
2	5	1	5	4	1	5	再活動する中、求職者情報及び教育機関の就職担当教諭の情報から機関員数の不足が強く感じられ、業界に排出する機関員数自体を増加する必要があると思われる
6	2	1	1	4	2	5	将来の乗組員の減少
5	2	2	2	3	1		高齢船退職に伴う船員補充は喫緊の課題、船員育成には評もかかるが拡充していかねばと思います。

問18 海技教育機構教育への要望

(1/4)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貸渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②カク③専用と大型その他④フェリー⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①教育内容②高齢化③定着率④入学倍率⑤その他

6	1	1	1	3	2	1	船舶（商船）の現状にマッチした実践的な教育
2	3	2	1	2	1	1	ECDISの限定解除を満足できるカリキュラムを実施して頂きたい。
6	1	2	1	3	1	1	教育年数が短いのに双方教育は無理、片方にして、年数を増やし、3級取得が望ましい。部員教育では徹底して実務教育を願う。
4	2	2	2	3	1	1	ECDIS対応の教育、消防実習（ブリッジのコンセントから出火、配電盤からの出火があったので）
4	5	1	5	3	2	1	当部署は、主にタグボートでの運用により業務を行っております。小さい船舶ではありますが、将来タグボートに乗船する生徒もいると思いますので、専門的な知識（タグ作業）も与えて頂ければと思います。
6	4	2	4	4	2	1	航海実習を増やし、実務経験を積んでいただきたい。
2	5	1	5	2	2	1	今のままでよい（10月に海技免状を得て、即戦力として乗船経験を積むことで一人前になるのが短期間で済む）
6	4	2	4	4	2	1	海上技術学校等で教育している甲機教育について、免状は所有しているが、どちらも中途半端なので使用しにくい。
5	2	2	2	3	1	1	ECDIS取り扱えるのに免状に反映していないので養成に困る
6	5	1	5	2	2	1	練習船での教育・訓練で即戦力になると思います。
4	5	1	5	2	2	1	新卒者の場合、海技免状に限定がついているので即戦力にならない。どうしても経験のある中途採用にならざるを得ない。在学中に実習等を増やして限定免状をなくしてほしい。
3	2	2	1	3	1	1	免状の教育だけでなく技術を教えて欲しい、高専より劣っている。
6	4	2	4	4	2	1	海技技術学校などで教育している航機教育について免状を受有しているけれど、どちらも中途半端なので使用しにくい
1	1	2	3	3	0	2	甲板部は、内航船社へ入社する方の多くは部員から始めると思うので、見張りや航海計器も重要であるが、即戦力となる人材育成という点ではロープワーク、係船作業、整備作業、工具の使用法、バラスト注排水作業等の荷役知識の方が重要であるので、そちらに重点を置いた教育をお願いします。機関は、海技免状（4級）がない者は採用できないので、海技試験の為の教育は必須です、即戦力という点では機関・機器の知識はもちろんの事、工具の使用法や溶接技術等も身に付けてもらいたい。
2	5	1	5	4	1	2	機関関係教育で特に、機関の構造知識と電気に関する知識を身に付けて欲しい。
3	2	2	1	1	0	2	知識が浅い、乗船中にどのような作業をするか教えておいて欲しい、メンテナンス、青図の見方、電気やPCなど、免状だけでは仕事にならない。
2	4	1	4	2	2	2	海員学校高等科を卒業し、外航海運を経て離島航路に移り、諸先生方の参考書を独学で学び苦勞して免状取得しましたが、過去問だけでも合格できるが、じっくり勉強した方がよいと、この経験談を話しています、教育者の健闘を祈ります。
6	5	1	5	3	1	3	入社後、短期間で辞める人が多くいますが、学校においても船員としての精神的な教育も必要ではと思います
6	2	2	3	3	1	3	危険度の高い作業（係船作業等）より教育してほしい。法令遵守の教育も。
2	1	1	5	1	1	3	勉強、資格より、社会学を教え込んでほしい。まずは先生がしっかりと人生経験から指導していくべきではないか。仕事は自然に覚えていく
2	6	2	2	4	1	3	船内生活における協調性がある人柄を望みます。また、年齢層が幅広い乗組員構成のため、コミュニケーションをしっかりとれ、技術の継承ができる作業への好奇心のある人物の育成を望みます。

問18 海技教育機構教育への要望

(2/4)

①北海道②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貨渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②カカー③専用と大型その他④フェリー⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①教育内容②高齢化③定着率④入学倍率⑤その他

2	6	2	1	3	1	3	内航海運全体が船員不足で高齢化しているので、毎年新卒は採用しておりますが、定着率が低いです。一度の乗船で辞めてしまう者もいるので、もう少し忍耐力を付けて入社してきて欲しいと思っております。
3	1	2	3	4	1	3	士官を目指す教育もよいが船員としての基本的な教育をお願いしたい。
2	6	2	2	3	0	3	すぐに辞めてしまう人が多く非常に困っている。船内で上官に怒られた、彼女に振られそう、など社会人としての心構えができていないのではないのでしょうか、学校でマナー教育を行ってもらえると助かります。
3	4	2	4	4	1	3	専門知識・技術は当然必要であるが、社会人としての知識も必要ではないでしょうか、特に船東空間での共同生活について知識に欠けた者もいます。
5	4	2	4	5	1	3	船員教育以外での社会人としての「一般樹脂期」の習得、専門科目での実践に適した学習、船員の仕事について業種による違いを教育者にもわかってもらいたい。
3	4	1	4	2	2	3	上級免状を持ち（筆記）学力があっても協調性がなくd q nたい生活になじめない新人船員が多い、学生生活の中で集団生活を習慣づけて欲しい。
5	2	1	1	2	0	3	船主として航機両用はありがたいが、本人たちとしては会社に利用されるだけの懸念がある。近年、大手に新卒が採用されるが、ネームバリュー等でしかたないが、組合船でも休暇が回ってこないなどの現実を教えるべき。大手に入った新卒者が船乗りを辞めてしまうケースが多いので、船員として市就職を促すフォローが大切と思う。
6	4	2	4	3	2	3	航機は各学校設けられ問題ないが司厨部がなく確保に頭を悩ませている。陸上の調理師学校卒は海上希望者がなく、海上の特殊性があって採用が難しい。長時間の離島航路では給食が必要でアルバイトなどでは無理なので、できれば司厨科を設けて頂ければと希望します。
2	5	1	5	3	1	3	若い人間が狭い船の中で生活することになるので、特に社会人としての人間形成の教育を重視して頂きたい。
2	5	1	5	5	1	3	航法や信号の見方など、実務部分についての予備知識が乏しいと感じるため、十分な試験勉強と自信が入社したいと考える地域の関連法規などについても触れて頂きたい。ドラフトの見方、気象の変化など4級試験程度の内容で試験を実施しても得点が乏しい。
3	3	1	1	1	0	3	モラルの向上をお願いします。
4	2	1	2	3	0	3	内航船の実務に合わせた教育をお願いしたい（例えば、国内主要航路の航行ルール、漁労従事者に対する知識、漁労従事者に対する海上マナーなど）
5	1	2	2	3	1	4	司厨部教育機関を立ち上げて欲しい。海上技術学校（乗船実習科）修了と同時に、海技免状が取得できるカリキュラムにして欲しい、9月30日～10月定期受験までの間にブランクができてしまう。
3	5	1	5	2	1	4	市場のニーズ、船員不足などにより、離職率が高く、きちんと技術を教える時間もなく、また、ベテランがどうせすぐに辞めるからと考え、若い船員に技術を教える情熱が無くなってきている事は非常に懸念すべき問題であります。船員として、今後生活をしていくという事は、やはり陸の仕事よりも特殊性があり、若い船員はその現実とのギャップに苦しんで退職する事が非常に多いので、学校等の教育プログラムにもその旨も宜しく御願いたします。

問18 海技教育機構教育への要望

(3/4)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貸渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②カー③専用と大型その他④フェリー⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①教区内容②高齢化③定着率④入学倍率⑤その他

2	3	2	2	1	0	4	この1, 2年で内航大型船においても配乗が回らなくなり半年乗船が珍しくなってきたり、いよいよ降るべきものが来たという感じがしている。就職難の2000年ころと様変わりしている。言語、海上ぎじゅ学校の定員を増やし、+2年の海大で3級免状を取得できる学生も増やしてほしい。実際、海大卒と海上技術学校卒を採用したところ、知識、意欲、人間性、社会人ついて、職業人としての自覚の差が大きいと感じる。船舶の定員も減り、ISM等、ソフトハード面とも高レベルへの対応が求められており、増員した配乗も予算上困難です。3級海技
5	2	2	2	4	1	4	弊社では、ここ10年間でも相当数の未経験者を受け入れ、履歴をつくり海技免状を取得させています。教育機関への要望ということではなく、そういう船員を養成した会社に対して、SECOJの助成金のような簡素化した奨励金制度が欲しい。昨今、ベテラン船員たちから「全般に船員の技量が落ちてる」という言葉をよく耳にしますが本当にそうでしょうか？「ゆとり世代だから」ということも言われますが、その世代の人達だけに問題があるのではなく、自分を含め、周りの親や大人たちに一番問題があるのではないかとそう思っています。技量が落ちた要因
5	2	1	2	3	1	4	業界で実際に使っている船舶での実習などより、社会に出た時を想定して訓練して頂きたい。司厨部のいない船の乗船もあるので調理が得意でない人が多く頭を悩ませます。学校は寮生活の集団行動ばかりでなく、一人暮らしで自分のことは自分でできるように教育してください。
5	2	2	2	3	1	4	船員教育機関が国の養成機関として存続していることに、内航業界の未来は明るい信頼しています。中途採用をしていますが、船員教育機関の倍率が高く働きながらの入学困難というものが増えています。定員と奨学金を増やせば自立心のある社会人にチャンスが広がると思います。船員養育機関卒業生は責任当直できるまで2、3年かかりますので、シミュレータの充実と練習船で一人当直能力向上の訓練をしていただきたいです。航空や鉄道業界の訓練施設のように船舶も施設を充実していただきたいです。
3	3	2	2	3	2	4	学校の定員、航海訓練所の定員増に努力してください。
3	7	1	0	2	0	4	海運界維持のためにも今後ともよろしく願いいたします。
4	3	1	1	2	2	4	船員教育の充実は今後も必要、最近の若者は価値観の多様化で船員職業を魅力あるとみていないようです、私たちは船員職業の価値を高め魅力ある内航海運にする責任があります。教育としてもそのような取り組みをしてほしい。
5	4	1	4	3	1	4	指導者数・実習乗船隻数の減少等、問題が山積していますが、少しでも定員数を増やしていただきたい。増やせるよう頑張ってください。よろしく願いします。
5	4	2	4	3	1	4	指導者数、実習乗船隻数等の減少など問題山積していますが、少しでも定員を増やしていただきたい。増やせるよう頑張ってください。

問18 海技教育機構教育への要望

(4/4)

①北海東北②関東北信越③中部近畿④中国⑤四国⑥九州沖縄

①運送業②貸渡業③兼業④フェリー旅客⑤曳船港湾⑥管理・派遣⑦その他

①700総トン未満②以上

①貨物②観光③専用と大型その他④フェリー⑤曳船と防災と港湾⑥小型その他

①10人未満②10人～③25人～④50人～⑤100人～

①採用あり②採用なし

①教育内容②高齢化③定着率④入学倍率⑤その他

5	4	1	4	3	1	4	指導者数、実習乗船隻数等の減少など問題ありますが、少しでも定員を増やしていただきたい。増やせるよう頑張ってください。
3	4	2	4	5	1	5	若手船員の早期離職を大きな問題として捉えています。当社としての対策はもちろんですが、就職指導によって就職のミスマッチ（就職してから、こんなはずでは無かった的な）を出来るだけ防止して頂けるように、指導、対策を講じて頂ければと思います。
5	2	2	1	1	2	5	内航業界の魅力をもっと若者に発信するようお願いします。
5	2	2	2	4	1	5	航海士希望者が多いようですが、機関士の魅力を伝えて欲しい。機関士希望者が増えることを期待したい。
3	4	2	4	3	1	5	会社側はできるだけ即戦力を期待しているし、長く働いて欲しい、そういった各社の事情も学生に伝えてください。
2	6	1	2	3	2	5	最近では定員以上の入学希望者があると聞いています、今後も優秀な学生を育成し、船員として働ける若手を期待しています。
2	4	2	4	3	1	5	水産学校は統廃合などで船員としての選択肢が少ない、やはり船員になるには海上技術系の学校が良いと思うので期待しています。
5	4	2	4	4	1	5	若年人口減等により船員不足が顕著となっているが、地方の水産高校は船の経費等から定員の現象や廃校となっている。その影響を受け当地域の専攻科に他県の学生を受け入れ地元の学生がはじかれている。船員養成には5～10年かかるので、今後船員不足はひどくなる。海上技術学校に専修科を新設していただきたい。
6	1	1	3	1	2	5	船員という特殊技能者を目指す、将来ある若者たちが働ける職場であることを生徒たちに伝えて頂きたい。機会を作って内航商船を実際に見学してほしい。
4	2	1	2	2	2	5	一度就職された後に離職を余儀なくされた元学生の方々の再就職までの間、情報の場を多く設けて頂きたい。

資料C 若年船員調査集計表及び記述回答

表 C1-1-1 年齢分布

問1	年齢	(人)	(%)
	20歳未満	22	4.3
	20～21歳	83	16.1
	22～23歳	106	20.5
	24～25歳	109	21.1
	26～27歳	98	19.0
	28～29歳	98	19.0
	無回答	1	0.2
	合計	517	100.0

表 C1-1-2 出身学校

問2	卒業学校	(人)	(%)
	1.中学校	5	1.0
	2.高等学校	35	6.8
	3.水産高校(本科)	36	7.0
	4.水産高校(専攻科)	88	17.0
	5.海上技術学校	89	17.2
	6.海上技術短大	161	31.1
	7.海技大学校	21	4.1
	8.商船高専	38	7.4
	9.商船系大学	17	3.3
	10.その他	27	5.2
	無回答	0	0.0
	合計	517	100.0

付表 C1-1-1・2 年齢分布・出身学校

問1	最終学歴	中学校	高等学校	水産高校 (本科)	水産高校 (専攻科)	海上技術学校	海上技術短大	海技大学校	商船高専	商船系大学	その他	全体
	年齢											
人数	20歳未満	1	2	9		8				2		22
	20～21歳		6	4	15	16	37		4		1	83
	22～23歳	1	3	3	23	20	40	3	9	2	2	106
	24～25歳	1	10	8	15	15	39	4	7	3	7	109
	26～27歳	2	5	7	17	15	25	6	11	2	8	98
	28～29歳		9	5	18	14	20	8	7	8	9	98
	無回答					1						1
	合計(人)	5	35	36	88	89	161	21	38	17	27	517
構成比 (%)	20歳未満	20.0	5.7	25.0		9.0				11.8		4.3
	20～21歳		17.1	11.1	17.0	18.0	23.0		10.5		3.7	16.1
	22～23歳	20.0	8.6	8.3	26.1	22.5	24.8	14.3	23.7	11.8	7.4	20.5
	24～25歳	20.0	28.6	22.2	17.0	16.9	24.2	19.0	18.4	17.6	25.9	21.1
	26～27歳	40.0	14.3	19.4	19.3	16.9	15.5	28.6	28.9	11.8	29.6	19.0
	28～29歳		25.7	13.9	20.5	15.7	12.4	38.1	18.4	47.1	33.3	19.0
	無回答					1.1						0.2
	合計(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 C1-2-1 海技免状

問3	海技免状	免状 1		免状 2	
		(人)	(%)	(人)	(%)
	3級(航海)	110	21.3	0	0.0
	3級(機関)	62	12.0	0	0.0
	4級(航海)	220	42.6	5	1.0
	4級(機関)	37	7.2	186	36.0
	5級(航海)	7	1.4	0	0.0
	5級(機関)	8	1.5	1	0.2
	6級(航海)	4	0.8	1	0.2
	6級(機関)	0	0.0	1	0.2
	無所有	69	13.3	323	62.5
	合計	517	100.0	517	100.0

付表 C1-2-1 海技免状

問3	最終学歴 海技免状	中学校	高等学校	水産高校 (本科)	水産高校 (専攻科)	海上技術学校	海上技術短大	海技大学校	商船高専	商船系大学	その他	全体
		免状 1	3級(航海)		0.8	0.6	8.7	1.0	0.8	1.9	3.7	1.9
%	3級(機関)		0.2	0.2	5.6	0.6	0.6	1.0	3.1	0.4	0.4	12.0
	4級(航海)	0.2		1.2	1.0	11.2	27.5	0.8	0.2	0.2	0.4	42.6
	4級(機関)		0.6	1.2	0.6	2.5	2.3					7.2
	5級(航海)		0.2	0.6	0.4						0.2	1.4
	5級(機関)	0.2	0.6	0.4		0.2					0.2	1.5
	6級(航海)		0.2	0.2				0.2			0.2	0.8
	6級(機関)											
	無所有	0.6	4.3	2.7	0.8	1.7		0.2	0.4	0.8	1.9	13.3
	合計	1.0	6.8	7.0	17.0	17.2	31.1	4.1	7.4	3.3	5.2	100.0
免状 2	3級(航海)											
%	3級(機関)											
	4級(航海)						0.6	0.4				1.0
	4級(機関)					9.5	26.1		0.2	0.2		36.0
	5級(航海)											
	5級(機関)						0.2					0.2
	6級(航海)							0.2				0.2
	6級(機関)							0.2				0.2
免状 1	3級(航海)		4	3	45	5	4	10	19	10	10	110
人	3級(機関)		1	1	29	3	3	5	16	2	2	62
数	4級(航海)	1		6	5	58	142	4	1	1	2	220
	4級(機関)		3	6	3	13	12					37
	5級(航海)		1	3	2						1	7
	5級(機関)	1	3	2		1					1	8
	6級(航海)		1	1				1			1	4
	6級(機関)											
	無所有	3	22	14	4	9		1	2	4	10	69
	合計	5	35	36	88	89	161	21	38	17	27	517
免状 2	3級(航海)											
人	3級(機関)											
数	4級(航海)						3	2				5
	4級(機関)					49	135		1	1		186
	5級(航海)											
	5級(機関)						1					1
	6級(航海)							1				1
	6級(機関)							1				1

表 C1-2-2 乗船船種

問4	乗船船種	(人)	(%)
	乗船船種	(人)	(%)
	貨物船	71	13.7
	セメント専用船	25	4.8
	自動車専用船	17	3.3
	砂利・石材運搬船	5	1.0
	油送船	93	18.0
	特殊タンク船	18	3.5
	タグボート・曳船	107	20.7
	旅客船・フェリー	157	30.4
	漁船	2	0.4
	その他	21	4.1
	無回答	1	0.2
	合計	517	100.0

付表 C1-2-2 乗船船種

問4	乗船船種	最終学歴										全体
		中学校	高等学校	水産 （本科 高校）	水産 （専攻 科）	海上 技術 学校	海上 技術 短大	海技 大学 校	商船 高専	商船 系大 学	その他	
人 数	貨物船	1	4	6	8	16	24	3	4	1	4	71
	セメント専用船		1		3	4	10	1	5		1	25
	自動車専用船		1	2	5	2	4	2	1			17
	砂利・石材運搬船			1	1	2	1					5
	油送船	4	5	6	9	17	33	6	7	4	2	93
	特殊タンク船		3	3	1		3		4	1	3	18
	タグボート・曳船		4	4	25	30	32	1	8	2	1	107
	旅客船・フェリー		14	11	32	17	47	4	9	8	15	157
	漁船						1	1				2
	その他		3	3	4	1	6	2		1	1	21
無回答							1				1	
	合計(人)	5	35	36	88	89	161	21	38	17	27	517
構 成 比 (%)	貨物船	20.0	11.4	16.7	9.1	18.0	14.9	14.3	10.5	5.9	14.8	13.7
	セメント専用船		2.9		3.4	4.5	6.2	4.8	13.2		3.7	4.8
	自動車専用船		2.9	5.6	5.7	2.2	2.5	9.5	2.6			3.3
	砂利・石材運搬船			2.8	1.1	2.2	0.6					1.0
	油送船	80.0	14.3	16.7	10.2	19.1	20.5	28.6	18.4	23.5	7.4	18.0
	タグボート・曳船		8.6	8.3	1.1		1.9		10.5	5.9	11.1	3.5
	旅客船・フェリー		11.4	11.1	28.4	33.7	19.9	4.8	21.1	11.8	3.7	20.7
	漁船		40.0	30.6	36.4	19.1	29.2	19.0	23.7	47.1	55.6	30.4
	その他						0.6	4.8				0.4
	無回答		8.6	8.3	4.5	1.1	3.7	9.5		5.9	3.7	4.1
	合計(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 C 1 - 2 - 3 職種

問5	職 務	(人)	(%)
	甲板部職員	137	26.5
	機関部職員	114	22.1
	甲板部部員	161	31.1
	機関部部員	82	15.9
	司厨部部員	9	1.7
	その他	10	1.9
	無回答	4	0.8
	合 計	517	100.0

付表 C 1 - 2 - 3 職種

問5	最終 学歴 職 務	中	高	水	水	海	海	海	商	商	そ	全
		学	等	産	産	上	上	技	船	船	他	
		学	学	(本	(専	上	上	大	高	系	他	
		校	校	科	攻	学	学	学	専	大		体
)	科	校	校	校				
人 数	甲板部職員	1	5	13	19	23	35	9	15	8	9	137
	機関部職員		6	4	19	20	44	5	10	4	2	114
	甲板部部員	2	12	8	34	30	53	4	6	3	9	161
	機関部部員	1	9	10	15	12	26	3	5	1		82
	司厨部部員		2	1			1				5	9
	その他		1			4	1		1	1	2	10
	無回答	1			1		1		1			4
	合 計	5	35	36	88	89	161	21	38	17	27	517
構 成 比 (%)	甲板部職員	20.0	14.3	36.1	21.6	25.8	21.7	42.9	39.5	47.1	33.3	26.5
	機関部職員		17.1	11.1	21.6	22.5	27.3	23.8	26.3	23.5	7.4	22.1
	甲板部部員	40.0	34.3	22.2	38.6	33.7	32.9	19.0	15.8	17.6	33.3	31.1
	機関部部員	20.0	25.7	27.8	17.0	13.5	16.1	14.3	13.2	5.9		15.9
	司厨部部員		5.7	2.8			0.6				18.5	1.7
	その他		2.9			4.5	0.6		2.6	5.9	7.4	1.9
	無回答	20.0			1.1		0.6		2.6			0.8
	合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 C 2 - 1 - 2 転職者の転職順番毎の職種

問6-2 転職職業	1番目	2番目	3番目	4番目	5番目
転職職業					
(人) 内航船	102	30	14	2	1
漁船	18	2	1	0	0
陸上	36	20	8	1	1
その他	13	3	0	0	0
無回答	1	0	0	0	0
合計	170	55	23	3	2
(%) 内航船	19.7	5.8	2.7	0.4	0.2
漁船	3.5	0.4	0.2	0.0	0.0
陸上	7.0	3.9	1.5	0.2	0.2
その他	2.5	0.6	0.0	0.0	0.0
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	32.9	10.6	4.4	0.6	0.4

表 C 2 - 1 - 3 転職者の在籍年数（無回答を含む比率）

問6-2 転職回数	1番目	2番目	3番目	4番目	5・6番目
在職年数					
(人) 2年未満	87	41	19	4	1
2年～	48	9	3	1	3
4年～	32	4	0	0	0
合計	167	54	22	5	4
平均年数	2.3	1.4	1.1	1.3	2.0
(%) 2年未満	16.8	7.9	3.7	0.8	0.2
2年～	9.3	1.7	0.6	0.2	0.6
4年～	6.2	0.8	0.0	0.0	0.0
合計	32.3	10.4	4.3	1.0	0.8

表 C 2 - 2 - 1 職業継続意識

問7-1 継続希望	(人)	(%)
ずっと続ける	234	45.3
続けるだろう	162	31.3
変わりたいと思う	93	18.0
ぜひ変わりたい	25	4.8
無回答	3	0.6
合計	517	100.0

付表 C 2 - 2 - 1 職業継続意識

問7-1	最終学歴 継続希望	中学校	高等学校	水産高校 (本科)	水産高校 (専攻科)	海上技術学校	海上技術短大	海技大学	商船高専	商船系大学	その他	全体
		人数	1. ずっと続ける	2	21	10	49	35	70	13	18	8
	2. 続けるだろう		3	18	23	30	56	6	11	5	10	162
	3. 変わりたいと思う	3	6	7	12	18	29	2	7	3	6	93
	4. ぜひ変わりたい		5	1	3	5	5		2	1	3	25
	無回答				1	1	1					3
	合計	5	35	36	88	89	161	21	38	17	27	517
構成比 (%)	1. ずっと続ける	40.0	60.0	27.8	55.7	39.3	43.5	61.9	47.4	47.1	29.6	45.3
	2. 続けるだろう		8.6	50.0	26.1	33.7	34.8	28.6	28.9	29.4	37.0	31.3
	3. 変わりたいと思う	60.0	17.1	19.4	13.6	20.2	18.0	9.5	18.4	17.6	22.2	18.0
	4. ぜひ変わりたい		14.3	2.8	3.4	5.6	3.1		5.3	5.9	11.1	4.8
	無回答				1.1	1.1	0.6					0.6
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 C2-2-2 転社・転職希望の理由

問7-2 変わる理由	(人)	(%) *	(%) **
1. 収入	48	40.7	9.3
2. 休暇	45	38.1	8.7
3. 職務	39	33.1	7.5
4人間関係	36	30.5	7.0
5家庭事情	27	22.9	5.2
6その他	24	20.3	4.6
転社・転職希望者	118	100.0	22.8

注) *: 転社・転職希望者数に対する比率

** : 全体に対する比率

付表 C2-2-2 転社・転職希望の理由

最終 学歴	卒業学校										全 体
	中 学 校	高 等 学 校	水 産 高 校 (本 科)	水 産 高 校 (専 攻 科)	海 上 技 術 学 校	海 上 技 術 短 大	海 技 大 学 校	商 船 高 専	商 船 系 大 学	そ の 他	
人 数	3	5	3	8	10	11	1	2	1	4	48
1. 収入											
2. 休暇		6	1	6	10	13		3	1	5	45
3. 職務		4	2	6	8	12	1	1	2	3	39
4人間関係	1	4	1	7	6	11	1	2		3	36
5家庭事情	1	2	1	3	5	9	1	3	1	1	27
6その他		1	2	3	4	9			2	3	24
転社希望者	2	24	28	72	65	126	19	29	13	18	396
該当者 *	5	35	36	88	89	161	21	38	17	27	517
構 成 比 (%)											
1. 収入	60.0	14.3	8.3	9.1	11.2	6.8	4.8	5.3	5.9	14.8	9.3
2. 休暇		17.1	2.8	6.8	11.2	8.1		7.9	5.9	18.5	8.7
3. 職務		11.4	5.6	6.8	9.0	7.5	4.8	2.6	11.8	11.1	7.5
4人間関係	20.0	11.4	2.8	8.0	6.7	6.8	4.8	5.3		11.1	7.0
5家庭事情	20.0	5.7	2.8	3.4	5.6	5.6	4.8	7.9	5.9	3.7	5.2
6その他		2.9	5.6	3.4	4.5	5.6			11.8	11.1	4.6
転社希望者	40.0	68.6	77.8	81.8	73.0	78.3	90.5	76.3	76.5	66.7	76.6
該当者	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注) *: 各卒業学校別人数、 **: 「該当者」に対する比率

表 C 2 - 2 - 3 職場での改善希望

問8	改善要望	第1位	第2位	第3位	第1位	第2位	第3位
		(人)			(%)		
	収 入	227	118	93	43.9	22.8	18.0
	乗船期間の長さ	141	121	97	27.3	23.4	18.8
	荷役時間の長さ	13	28	36	2.5	5.4	7.0
	作業時間の長さ	8	25	42	1.5	4.8	8.1
	休暇の長さ	58	143	117	11.2	27.7	22.6
	社会的評価	25	37	79	4.8	7.2	15.3
	7.その他	30	14	15	5.8	2.7	2.9
	無回答	15	31	38	2.9	6.0	7.4
	合計	517	517	517	100.0	100.0	100.0

付表 C 2 - 2 - 3 職場での改善希望 (%)

問8	最終 学歴	改善希望										全 体
		中 学 校	高 等 学 校	水 産 高 校 (本 科)	水 産 高 校 (専 攻 科)	海 上 技 術 学 校	海 上 技 術 短 大	海 技 大 学 校	商 船 高 専	商 船 系 大 学	そ の 他	
第 1 位	1.収 入	80.0	60.0	52.8	44.3	40.4	39.8	52.4	39.5	35.3	44.4	43.9
	2.乗船期間の長さ		20.0	19.4	23.9	32.6	32.9	28.6	13.2	23.5	33.3	27.3
	3.荷役時間の長さ			2.8	2.3	5.6	1.9	4.8	2.6			2.5
	4.作業時間の長さ		2.9		2.3		1.9		5.3			1.5
	5.休暇の長さ		8.6	13.9	13.6	6.7	11.8		18.4	11.8	14.8	11.2
	6.社会的評価		2.9	2.8	4.5	5.6	1.9	14.3	13.2	11.8	3.7	4.8
	7.その他	20.0	5.7		4.5	5.6	7.5		7.9	11.8	3.7	5.8
	無回答			8.3	4.5	3.4	2.5		5.9			2.9
第 2 位	1.収 入	20.0	17.1	19.4	21.6	25.8	21.7	23.8	26.3	29.4	25.9	22.8
	2.乗船期間の長さ	60.0	20.0	19.4	17.0	22.5	21.7	33.3	42.1	29.4	22.2	23.4
	3.荷役時間の長さ		11.4	2.8	2.3	6.7	8.1			11.8		5.4
	4.作業時間の長さ		8.6		8.0	2.2	3.7	19.0	2.6	5.9	3.7	4.8
	5.休暇の長さ	20.0	31.4	38.9	34.1	23.6	28.0	14.3	15.8	11.8	37.0	27.7
	6.社会的評価		8.6		5.7	7.9	10.6	4.8	7.9		3.7	7.2
	7.その他		2.9		2.3	4.5	3.1		2.6	5.9		2.7
	無回答			19.4	9.1	6.7	3.1	4.8	2.6	5.9	7.4	6.0
第 3 位	1.収 入		20.0	8.3	19.3	15.7	21.1	14.3	21.1	23.5	11.1	18.0
	2.乗船期間の長さ	20.0	20.0	22.2	22.7	11.2	20.5	9.5	21.1	23.5	14.8	18.8
	3.荷役時間の長さ	20.0	5.7	5.6	3.4	5.6	8.1	19.0	13.2		3.7	7.0
	4.作業時間の長さ		11.4	5.6	6.8	7.9	9.3	4.8	10.5	11.8	3.7	8.1
	5.休暇の長さ	40.0	28.6	13.9	19.3	27.0	23.0	19.0	18.4	17.6	29.6	22.6
	6.社会的評価		8.6	22.2	15.9	21.3	13.0	23.8	7.9	11.8	14.8	15.3
	7.その他		5.7	2.8	1.1	4.5	1.2	4.8	2.6	5.9	7.4	2.9
	無回答	20.0		19.4	11.4	6.7	3.7	4.8	5.3	5.9	14.8	7.4
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

表 C 2-2-3 職場での改善希望

問8	改善要望	第1位	第2位	第3位	第1位	第2位	第3位
		(人)			(%)		
	収入	227	118	93	43.9	22.8	18.0
	乗船期間の長さ	141	121	97	27.3	23.4	18.8
	荷役時間の長さ	13	28	36	2.5	5.4	7.0
	作業時間の長さ	8	25	42	1.5	4.8	8.1
	休暇の長さ	58	143	117	11.2	27.7	22.6
	社会的評価	25	37	79	4.8	7.2	15.3
	7.その他	30	14	15	5.8	2.7	2.9
	無回答	15	31	38	2.9	6.0	7.4
	合計	517	517	517	100.0	100.0	100.0

付表 C 2-2-3 職場での改善希望

(%)

問8	最終学歴	改善希望										全体
		中学校	高等学校	水産 （本科 高校）	水産 （専攻 高校）	海上 技術 学校	海上 技術 短大	海技 大学 校	商船 高専	商船 系大 学	その他	
第1位	1.収入	80.0	60.0	52.8	44.3	40.4	39.8	52.4	39.5	35.3	44.4	43.9
	2.乗船期間の長さ		20.0	19.4	23.9	32.6	32.9	28.6	13.2	23.5	33.3	27.3
	3.荷役時間の長さ			2.8	2.3	5.6	1.9	4.8	2.6			2.5
	4.作業時間の長さ		2.9		2.3		1.9		5.3			1.5
	5.休暇の長さ		8.6	13.9	13.6	6.7	11.8		18.4	11.8	14.8	11.2
	6.社会的評価		2.9	2.8	4.5	5.6	1.9	14.3	13.2	11.8	3.7	4.8
	7.その他	20.0	5.7		4.5	5.6	7.5		7.9	11.8	3.7	5.8
	無回答			8.3	4.5	3.4	2.5		5.9			2.9
第2位	1.収入	20.0	17.1	19.4	21.6	25.8	21.7	23.8	26.3	29.4	25.9	22.8
	2.乗船期間の長さ	60.0	20.0	19.4	17.0	22.5	21.7	33.3	42.1	29.4	22.2	23.4
	3.荷役時間の長さ		11.4	2.8	2.3	6.7	8.1			11.8		5.4
	4.作業時間の長さ		8.6		8.0	2.2	3.7	19.0	2.6	5.9	3.7	4.8
	5.休暇の長さ	20.0	31.4	38.9	34.1	23.6	28.0	14.3	15.8	11.8	37.0	27.7
	6.社会的評価		8.6		5.7	7.9	10.6	4.8	7.9		3.7	7.2
	7.その他		2.9		2.3	4.5	3.1		2.6	5.9		2.7
	無回答			19.4	9.1	6.7	3.1	4.8	2.6	5.9	7.4	6.0
第3位	1.収入		20.0	8.3	19.3	15.7	21.1	14.3	21.1	23.5	11.1	18.0
	2.乗船期間の長さ	20.0	20.0	22.2	22.7	11.2	20.5	9.5	21.1	23.5	14.8	18.8
	3.荷役時間の長さ	20.0	5.7	5.6	3.4	5.6	8.1	19.0	13.2		3.7	7.0
	4.作業時間の長さ		11.4	5.6	6.8	7.9	9.3	4.8	10.5	11.8	3.7	8.1
	5.休暇の長さ	40.0	28.6	13.9	19.3	27.0	23.0	19.0	18.4	17.6	29.6	22.6
	6.社会的評価		8.6	22.2	15.9	21.3	13.0	23.8	7.9	11.8	14.8	15.3
	7.その他		5.7	2.8	1.1	4.5	1.2	4.8	2.6	5.9	7.4	2.9
	無回答	20.0		19.4	11.4	6.7	3.7	4.8	5.3	5.9	14.8	7.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

表 C2-2-4 職場で重視する事項

問9	職場の重要事項	第1位	第2位	第3位	第1位	第2位	第3位
		(人)			(%)		
	仕事に生き甲斐	67	33	47	13.0	6.4	9.1
	上司と同僚	196	126	64	37.9	24.4	12.4
	職場の施設設備	14	26	50	2.7	5.0	9.7
	能力発揮	20	24	36	3.9	4.6	7.0
	同世代の仲間	18	40	37	3.5	7.7	7.2
	楽しい職場	101	92	85	19.5	17.8	16.4
	その他	3	1	1	0.6	0.2	0.2
	無回答	4	6	8	0.8	1.2	1.5
	合計	517	517	517	100.0	100.0	100.0

付表 C2-2-4 職場で重視する事項

問9	最終 学歴 職場の 重視事項	中学校	高等 学校	水産 高校 (本科)	水産 高校 (専攻 科)	海上 技術 学校	海上 技術 短大	海技 大学 校	商船 高専	商船 系大 学	その 他	全 体	
第 1 位	1.仕事に生き甲斐		8.6	16.7	14.8	12.4	13.7	9.5	5.3	11.8	22.2	13.0	
	2.上司と同僚	60.0	42.9	36.1	35.2	36.0	41.6	52.4	36.8	23.5	22.2	37.9	
	3.職場の施設設備		2.9		3.4	5.6	1.9		5.3			2.7	
	4.能力発揮			5.6	6.8	5.6	0.6			11.8	14.8	3.9	
	5.同世代の仲間		5.7	2.8		4.5	3.7		7.9	11.8		3.5	
	6.楽しい職場	20.0	17.1	13.9	21.6	18.0	23.6	14.3	18.4	11.8	14.8	19.5	
	7.労働時間と休暇		8.6	11.1	6.8	5.6	6.8	4.8	15.8	11.8	18.5	8.3	
	8.収入	20.0	14.3	11.1	9.1	6.7	7.5	19.0	7.9	17.6	7.4	9.3	
	9.携帯の圏外					3.4							0.6
	10.その他					2.2			2.6				0.6
	無回答			2.8	2.3		0.6					0.8	
第 2 位	1.仕事に生き甲斐		8.6	11.1	5.7	4.5	5.6	14.3	7.9	11.8		6.4	
	2.上司と同僚		20.0	19.4	22.7	24.7	24.8	19.0	31.6	23.5	37.0	24.4	
	3.職場の施設設備		8.6	2.8	2.3	6.7	3.7	9.5	7.9	5.9	7.4	5.0	
	4.能力発揮		5.7	2.8	4.5	7.9	3.7	4.8	7.9			4.6	
	5.同世代の仲間		11.4	11.1	8.0	6.7	9.3		5.3		7.4	7.7	
	6.楽しい職場	20.0	14.3	22.2	13.6	19.1	18.6	19.0	18.4	23.5	14.8	17.8	
	8.収入	20.0	17.1	5.6	17.0	15.7	18.0	9.5	7.9	17.6	11.1	15.1	
	9.携帯の圏外	60.0	11.4	19.4	20.5	12.4	14.3	23.8	10.5	11.8	18.5	15.9	
	10.その他		2.9		3.4	2.2	1.2		2.6				1.7
		無回答								5.9			0.2
第 3 位	1.仕事に生き甲斐		8.6	11.1	5.7	4.5	5.6	14.3	7.9	11.8		6.4	
	2.上司と同僚		20.0	19.4	22.7	24.7	24.8	19.0	31.6	23.5	37.0	24.4	
	3.職場の施設設備		8.6	2.8	2.3	6.7	3.7	9.5	7.9	5.9	7.4	5.0	
	4.能力発揮		5.7	2.8	4.5	7.9	3.7	4.8	7.9			4.6	
	5.同世代の仲間		11.4	11.1	8.0	6.7	9.3		5.3		7.4	7.7	
	6.楽しい職場	20.0	14.3	22.2	13.6	19.1	18.6	19.0	18.4	23.5	14.8	17.8	
	7.労働時間と休暇	20.0	17.1	5.6	17.0	15.7	18.0	9.5	7.9	17.6	11.1	15.1	
	8.収入	60.0	11.4	19.4	20.5	12.4	14.3	23.8	10.5	11.8	18.5	15.9	
	9.携帯の圏外		2.9		3.4	2.2	1.2		2.6				1.7
	10.その他									5.9			0.2
	無回答			5.6	2.3		0.6			3.7		1.2	
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

表 C3-1 教科の有効性

問10	役立つ科目						不足科目					
	海上技 術学校	海上技 術短期 大学校	全体	海上技 術学校	海上技 術短期 大学校	全体	海上技 術学校	海上技 術短期 大学校	全体	海上技 術学校	海上技 術短期 大学校	全体
1 航法	31	39	70	34.8	24.2	28.0	8	3	28	9.0	1.9	11.2
2 航海計器	21	36	57	23.6	22.4	22.8	4	5	37	4.5	3.1	14.8
3 運用	21	20	41	23.6	12.4	16.4	6	6	17	6.7	3.7	6.8
4 海洋気象	17	28	45	19.1	17.4	18.0	4	12	31	4.5	7.5	12.4
5 海事法規	24	45	69	27.0	28.0	27.6	6	8	18	6.7	5.0	7.2
6 海運実務	6	2	8	6.7	1.2	3.2	2	2	16	2.2	1.2	6.4
7 海事英語	8	5	13	9.0	3.1	5.2	7	20	47	7.9	12.4	18.8
8 情報技術	9	4	13	10.1	2.5	5.2	3	4	16	3.4	2.5	6.4
9 船用機関	17	36	53	19.1	22.4	21.2	7	15	16	7.9	9.3	6.4
10 機械工作	18	32	50	20.2	19.9	20.0	6	14	22	6.7	8.7	8.8
11 海上実習	33	40	73	37.1	24.8	29.2	15	29	38	16.9	18.0	15.2
12 航海実技	30	51	81	33.7	31.7	32.4	13	29	49	14.6	18.0	19.6
13 機関実技	26	26	52	29.2	16.1	20.8	11	35	43	12.4	21.7	17.2
14 総合訓練	6	6	12	6.7	3.7	4.8	4	3	11	4.5	1.9	4.4
15 電気工学	8	10	18	9.0	6.2	7.2	7	22	28	7.9	13.7	11.2
16 その他	5	6	11	5.6	3.7	4.4	1	11	7	1.1	6.8	2.8
合計(延べ数)	280	386	666	314.6	239.8	266.4	104	218	424	116.9	135.4	169.6

表 C4-1-1 反対職就労の実施

問11	反対職経験	(人)	(%)
	経験ない	168	84.0
	経験有る	32	16.0
	無回答	0	0.0
	合計*	200	100.0

注) *: 海上技術学校と海上技術短期大学校

付表 C4-1-1 反対職経験

問11 経験	学校			合計 (人)	学校			合計 (%)
	海上技 術学校	海上技 術短期 大	海技 大学校		海上技 術学校	海上技 術短期 大	海技 大学校	
1. 反対職経験ない	51	118	2	171	57.3	73.3	9.5	9.5
2. 反対職経験ある	7	25	1	33	7.9	15.5	4.8	4.8
無回答	31	18	18	67	34.8	11.2	85.7	85.7
合計	89	161	21	271	100.0	100.0	100.0	100.0

表 C 4 - 1 - 2 反対職までの経験

問11-2	経験年数との関係	(人)	(%)
	無関係	15	46.9
	機関から	1	3.1
	甲板から	2	6.3
	無回答	14	43.8
	合計 *	32	100.0

注) *: 海上技術学校と海上技術短期大学校

表 C 4 - 1 - 3 反対職までの経験年数

問11-2	経験年	甲板(人)	機関(人)	甲板(%)	機関(%)
	1年	1	3	3.1	9.4
	2年	1	2	3.1	6.3
	3年	0	1	0.0	3.1
	4年以上	1	3	3.1	9.4
	合計 *	32	32	100.0	100.0

注) *: 反対職経験者

表 C 4 - 1 - 4 反対職への従事期間

問11-3	副職従事(月)	甲板を(人)	機関を(人)	甲板を(%)	機関を(%)
	1カ月	2	1	33.3	11.1
	2カ月	1	1	16.7	11.1
	3カ月～	1	1	16.7	11.1
	6カ月～	1	5	16.7	55.6
	通年	1	1	16.7	11.1
	合計	6	9	100.0	100.0

表 C 4 - 2 両用教育の必要性

問12	両用教育	(人)	(%)
	従来どおり	133	25.7
	片方に重点	91	17.6
	片方のみ	38	7.4
	その他	3	0.6
	無回答	252	48.7
	合計	517	100.0

付表 C 4 - 2 両用教育

問 12	学校 経験	海上 技術学校	海上 技術短期大	海技 大学校	合計 (人)	海上 技術学校	海上 技術短期大	海技 大学校	合計 (%)
		問 1. 従来どおり	47	76	3	126	52.8	47.2	14.3
12 2. 片方に重点	30	52	5	87	33.7	32.3	23.8	23.8	
3. 片方のみ	10	24	1	35	11.2	14.9	4.8	4.8	
4. その他			2	2		1.2			
無回答	2	7	12	21	2.2	4.3	57.1	57.1	
合計	89	161	21	271	100.0	100.0	100.0	100.0	

表 C 5-1 練習船実習熟達度 (平均値)

問13	実習内容	海上 技術 学校	短海 期上 大技 術校	海技 大学 校	商 船 高 専	商 船 系 大 学	全 体
航 海 系	1. 航海当直見張り	2.9	2.9	1.8	2.7	2.3	2.9
	2. 単独航海と直	2.2	2.5	1.6	2.2	1.5	2.4
	3. 船位決定	2.6	2.7	1.6	2.8	2.2	2.7
	4. 航海計器取扱い	2.6	2.7	1.6	3.0	2.5	2.7
	5. 甲板機器操作	2.5	2.7	1.7	2.3	2.4	2.6
	6. 索扱い荷役準備	2.8	2.7	1.8	2.3	2.2	2.7
機 関 系	7. プラント運転維持	2.3	2.5	1.7	2.1	2.9	2.4
	8. 設備・配置の知識	2.6	2.7	1.7	2.4	3.2	2.6
	9. 機器指導・停止	2.8	2.6	1.7	2.5	3.1	2.7
	10. 機器開放・組立て	2.6	2.4	2.4	2.0	1.9	2.3
	11. バンカー作業	2.2	2.0	1.6	2.2	1.4	2.1
共 通	12. 安全対策・管理	2.5	2.5	1.8	2.5	2.3	2.5
	13. 船体コンディション	1.9	1.9	1.4	1.7	1.2	1.9
	14. 工具名称・使用法	2.9	2.7	1.7	2.1	5.7	2.7
	15. 整備作業	2.7	2.5	1.7	2.2	2.6	2.5
	16. 救命設備取扱い	2.7	2.5	1.5	2.8	2.8	2.6
	17. 消火設備取扱い	2.7	2.5	1.5	2.7	2.6	2.6
	18. 海洋汚染防止	2.5	2.5	1.8	2.8	2.8	2.6
	19. 船内生活	3.1	3.0	1.7	3.1	3.2	3.0

表 C 5-2 練習船実習重要度 (平均値)

問13	実習内容	海上 技術 学校	短海 期上 大技 術校	海技 大学 校	商 船 高 専	商 船 系 大 学	全 体
航 海 系	1. 航海当直見張り	3.6	3.5	2.1	3.7	3.3	3.6
	2. 単独航海と直	3.4	3.3	2.1	3.7	3.6	3.4
	3. 船位決定	3.4	3.0	2.1	3.4	3.5	3.1
	4. 航海計器取扱い	3.6	3.4	2.1	3.5	3.6	3.5
	5. 甲板機器操作	3.7	3.4	2.1	3.6	3.6	3.5
	6. 索扱い荷役準備	3.6	3.5	2.1	3.3	3.3	3.5
機 関 系	7. プラント運転維持	3.4	3.3	2.2	3.2	3.7	3.4
	8. 設備・配置の知識	3.5	3.5	2.2	3.5	3.8	3.5
	9. 機器指導・停止	3.6	3.5	2.2	3.2	3.5	3.6
	10. 機器開放・組立て	3.5	3.4	3.5	3.4	3.8	3.4
	11. バンカー作業	3.1	3.0	1.9	3.2	2.6	3.1
共 通	12. 安全対策・管理	3.3	3.1	2.1	3.5	3.6	3.3
	13. 船体コンディション	3.3	3.0	2.1	3.4	2.9	3.2
	14. 工具名称・使用法	3.7	3.5	2.1	3.5	3.1	3.6
	15. 整備作業	3.7	3.5	2.1	3.6	3.4	3.6
	16. 救命設備取扱い	3.5	3.1	2.1	3.6	3.4	3.3
	17. 消火設備取扱い	3.6	3.1	2.0	3.7	3.4	3.3
	18. 海洋汚染防止	3.4	3.2	2.1	3.6	3.3	3.3
	19. 船内生活	3.8	3.5	2.1	3.9	4.0	3.0

表 C5-3 練習船実習 熟達—重要度格差

問13 実習内容	海上 技術 学校	短期 大 学 技 術 学 校	海 技 大 学 校	商 船 高 専	商 船 系 大 学	全 体	
航海系	1. 航海当直見張り	-0.8	-0.6	-1.0	-1.0	-1.0	-0.7
	2. 単独航海と直	-1.1	-0.9	-1.1	-1.5	-2.0	-1.0
	3. 船位決定	-0.7	-0.4	-1.0	-0.6	-1.2	-0.5
	4. 航海計器取扱い	-1.0	-0.7	-1.1	-0.5	-1.2	-0.8
	5. 甲板機器操作	-1.1	-0.7	-1.0	-1.3	-1.2	-0.9
	6. 索扱い荷役準備	-0.9	-0.8	-0.7	-0.9	-0.9	-0.8
機関系	7. プラント運転維持	-1.1	-0.9	-0.9	-1.2	-0.6	-1.0
	8. 設備・配置の知識	-1.0	-0.9	-1.0	-1.1	-0.4	-0.9
	9. 機器指導・停止	-0.8	-0.9	-0.8	-0.8	-0.2	-0.9
	10. 機器開放・組立て	-0.9	-1.0	-1.1	-1.4	-1.8	-1.1
	11. パンカー作業	-0.9	-1.1	-0.8	-1.0	-1.2	-1.0
共通	12. 安全対策・管理	-0.8	-0.6	-0.9	-1.0	-1.3	-0.7
	13. 船体コンディション	-1.3	-1.1	-1.4	-1.7	-1.8	-1.3
	14. 工具名称・使用法	-0.8	-0.8	-0.9	-1.4	1.4	-0.9
	15. 整備作業	-1.0	-1.1	-1.0	-1.3	-0.9	-1.1
	16. 救命設備取扱い	-0.7	-0.6	-1.2	-0.8	-0.6	-0.7
	17. 消火設備取り扱い	-0.8	-0.6	-1.2	-0.9	-0.9	-0.7
	18. 海洋汚染防止	-0.9	-0.7	-0.9	-0.8	-0.6	-0.8
	19. 船内生活	-0.7	-0.5	-1.0	-0.8	-0.8	0.1

付表 C 5 実習習熟度・重要度

問13-1		評価内容	習熟度 (A)					重要度 (B)					差		
ランク			1	2	3	4	回答人数	平均	1	2	3	4	回答人数	平均	A-B
人数	航海系	1 航海当直見張り	11	66	120	55	252	2.9	6	19	47	177	249	3.6	-0.7
		2 単独航海当直	49	89	85	26	249	2.4	11	22	73	139	245	3.4	-1.0
		3 船位決定	15	91	110	35	251	2.7	15	36	83	112	249	3.1	-0.5
		4 航海計器取扱い	22	72	116	40	250	2.7	6	19	69	153	247	3.5	-0.8
		5 甲板機器操作	34	79	98	40	251	2.6	8	21	63	157	249	3.5	-0.9
		6 索扱い荷役準備	22	84	89	51	246	2.7	8	22	56	159	245	3.5	-0.8
	機関係	7 プラント運転維持	34	87	74	23	218	2.4	13	20	56	123	212	3.4	-1.0
		8 設備・配置の知識	22	74	93	33	222	2.6	7	16	50	143	216	3.5	-0.9
		9 機器指導・停止	25	66	90	41	222	2.7	9	13	56	140	212	3.6	-0.9
		10 機器開放・組立て	43	94	57	26	221	2.3	11	15	62	129	217	3.4	-1.1
		11 バンカー作業	75	75	50	21	221	2.1	24	34	61	99	218	3.1	-1.0
	共通	12 安全対策・管理	39	94	97	41	271	2.5	14	35	85	134	268	3.3	-0.7
		13 船体コンテナ	103	99	51	12	265	1.9	22	35	85	122	264	3.2	-1.3
		14 工具名称・使用法	27	77	117	51	273	2.7	7	20	59	186	268	3.6	-0.9
		15 整備作業	49	78	107	40	274	2.5	4	14	77	177	272	3.6	-1.1
		16 救命設備取扱い	26	91	120	36	273	2.6	12	38	86	134	270	3.3	-0.7
		17 消火設備取り扱い	24	96	117	36	273	2.6	10	35	87	139	271	3.3	-0.7
		18 海洋汚染防止	37	87	110	39	273	2.6	13	27	95	136	271	3.3	-0.8
		19 船内生活	17	52	107	95	271	3.0	5	12	0	192	269	3.0	0.1
%	航海系	1 航海当直見張り	4	26	48	22	100	2.9	2	8	19	70	99	3.6	-0.7
		2 単独航海当直	20	36	34	10	100	2.4	4	9	29	56	98	3.4	-1.0
		3 船位決定	6	36	44	14	100	2.7	6	14	33	45	99	3.1	-0.5
		4 航海計器取扱い	9	29	46	16	100	2.7	2	8	28	61	99	3.5	-0.8
		5 甲板機器操作	14	31	39	16	100	2.6	3	8	25	63	99	3.5	-0.9
		6 索扱い荷役準備	9	34	36	21	100	2.7	3	9	23	65	100	3.5	-0.8
	機関係	7 プラント運転維持	16	40	34	11	100	2.4	6	9	26	56	97	3.4	-1.0
		8 設備・配置の知識	10	33	42	15	100	2.6	3	7	23	64	97	3.5	-0.9
		9 機器指導・停止	11	30	41	18	100	2.7	4	6	25	63	95	3.6	-0.9
		10 機器開放・組立て	19	43	26	12	100	2.3	5	7	28	58	98	3.4	-1.1
		11 バンカー作業	34	34	23	10	100	2.1	11	15	28	45	99	3.1	-1.0
	共通	12 安全対策・管理	14	35	36	15	100	2.5	5	13	32	50	100	3.3	-0.7
		13 船体コンテナ	39	37	19	5	100	1.9	8	13	32	46	100	3.2	-1.3
		14 工具名称・使用法	10	28	43	19	100	2.7	3	7	22	69	100	3.6	-0.9
		15 整備作業	18	28	39	15	100	2.5	1	5	28	65	100	3.6	-1.1
		16 救命設備取扱い	10	33	44	13	100	2.6	4	14	32	50	100	3.3	-0.7
		17 消火設備取り扱い	9	35	43	13	100	2.6	4	13	32	51	100	3.3	-0.7
		18 海洋汚染防止	14	32	40	14	100	2.6	5	10	35	50	100	3.3	-0.8
		19 船内生活	6	19	39	35	100	3.0	2	4	0	71	100	3.0	0.1

問7 継続意思 (その他)

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

① 3級(航海)、② 3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤ 4級(機関)、
⑥ 5級(機関)、⑦ 6級(航海)、⑧ 6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①労働条件②労働環境③希望④その他

3	5	3	4	8	1	船員保険でない
2	2			8	1	労働時間
4	9	1		8	2	上の人が詰まっているため船長まで上がれない
4	6	3	4	7	2	外国人船員の雇用の可能性があり、10年以上先の海運界の安定を信用できない
2	3	4		8	2	会社(船内)の空気が悪い、船員の扱い(会社)
4	5	3	4	7	2	会社に対する不満
4	10	1		8	2	会社の体制
4	5	3	4	7	2	業務内容
4	6	3	4	8	2	乗船中のプライベートがない、また極端に人権を守られない
3	10			8	3	将来店を出す
2	10			8	3	他の仕事も見てみたい
4	6	3	4	8	3	他の船にも乗りたい
4	4	1		7	3	長期航海をしたい
4	6	3	4	5	3	他の船も見てみたい、自分の知識を広げたい
4	6	3	4	2	3	もっと勉強したいと思ったら
4	3	4		10	3	やりたいことがある
4	6	3	4	8	3	夢
3	6	3	8	5	3	船員以外の職も経験したい
3	9			8	3	やりがい・技術向上
3	4			8	4	地元に帰る
3	5	4		5	4	船員続けるかわからない

問8 継続のための改善

(1/2)

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

① 3級(航海)、② 3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤ 4級(機関)、
⑥ 5級(機関)、⑦ 6級(航海)、⑧ 6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①労働条件②労働環境③人間関係④その他

2	6	3	4	8	1	乗船中の上陸日
2	5	3	4	5	1	乗船中の休み、仮バース、労働時間に見合った休息
4	2	2		8	1	全日本海員組合に加盟
4	8	2		5	1	年間休日の多さ
4	5	2		1	1	非組合船は会社によって賃金に差がありすぎる
5	3	6		4	1	陸上並みの年間休日
4	6	3	4	7	1	労働時間、労働者の発言力
4	4	2		7	2	行き過ぎた体育会系的な職場環境 (パワハラ)
4	6	3	4	1	2	会社の規模
4	10	1		8	2	会社の体制 (船員に対する会社の理解)
2	6	3	4	7	2	休暇などのスケジュールがはっきりしている事
2	5	3	4	1	2	下の人間が仕事をさせてもらえる環境
6	9	1		8	2	若年船員が働きやすい環境
4	9	1		7	2	スケジュールが安定する事
3	6	3	4	6	2	船員全体数の多さ
5	10	7		1	2	船員全体の質
2	6	3	4	8	2	船員の質 (いじめ、人間性)
2	6	3	4	5	2	船内環境・人間関係
4	4	2		8	2	船内生活のしやすさ
3	8	1		2	2	船内での仕事しやすい環境
5	6	1	4	1	2	船内の雰囲気、環境が良好であること
3	8	2		5	2	定期的な仮バース
6	5	4		5	2	定期的な仮バース
4	6	3	4	8	2	福利厚生
5	6	3	4	3	2	福利厚生
4	5	3	4	5	2	本社に船乗りがない事
4	6	3	4	8	3	社内の人間関係
3	5	3	4	8	3	職場での人間関係
4	8	1		8	3	船内のコミュニケーション
6	10	1		6	3	人間関係
6	5			8	3	人間関係
5	7	1		5	3	人間関係
4	2			5	3	人間関係
	6	3	4	8	3	人間関係
6	6	3	4	1	3	人間関係
4	6	3	4	4	3	人間関係
5	2			6	3	人間関係
5	6	2	3	8	3	人間関係
6	2	4		7	3	人間関係
6	2	4		5	3	人間関係
4	5	4		7	3	人間関係
5	4	2		7	3	人間関係
3	1	6		1	3	人間関係

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①労働条件②労働環境③人間関係④その他

3	9			8	3	人間関係
1	5	2		8	3	人間関係
5	6	3	6	8	3	人間関係
2	6	4		8	3	人間関係
5	5	3		7	3	人間関係
4	6	3	4	5	3	人間関係
5	5	4		7	3	人間関係
5	5	3		7	3	人間関係
2	8	2		8	3	人間関係
2	6	3	4	8	3	人間関係
6	9	9		6	3	人間関係の対人力・人間力
5	4	4		6	3	人間づきあい、コミュニケーション
3	4	1		5	4	彼女ができないから
3	5	4		5	4	自分の休暇の使い方
3	4	4		3	4	他県で観光ができる為

問9 職場生活改善 (その他)

6	9	1		10		職位を問わず互いを認め合える環境であること
4	8	1		5		職場環境、人間関係
3	5	3	4	7		毎日家に帰れること
4	5	2		1		労働時間・職務に対する賃金

問10-1 役だった科目

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(1/8)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩.その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5.海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

1. 航法					2. 航海計器	
3	6	3	8	5	位置入れ	計器の使用法
3	6	3		8	位置入れ	レーダ使用法
1	5	3		5	位置入れ、灯火	
6	6	3	4	1	海図	レーダーの特性
2	6	3	4	5	海図図式、灯標	偽像
2	6	3	4	2	基礎知識	使用法
3	5	3	4	7	基本	使用法や見方
3	6	3	4	10	基本	
2	5	3	4	1	クロスベアリング等の位置入れの方法	航海中に使い計器の名称
6	6	1	4	10	航行の知識	
4	5	3	4	7	港則法での航法	
5	6	3	4	3	航法の基本	計器の使い方
3	6	3	4	1	航路航行の信号旗	レーダの使用法
5	5	4		7	航路標識等	大体同じ
5	6	3	4	7	航路名	
6	6	3	4	1	避航法	レーダ等
3	6	3	4	5	避航法	
4	6	3		3	時間や距離の計算	
4	6	3	4	8	水路図誌、海図	
2	5	3	4	5	全て	
2	6	3	4	7	全てにおいての基本	レーダーなど
4	6	3	4	5	瀬戸内海	
6	5	3		5	瀬戸内海の航法	
1	5	2		8	船首目標の決定	レーダ等の計器取り扱い
4	5	3	4	5	操船の基本知識	レーダーの基本知識
6	6	3	4	5	他船との見合い関係	
4	6	3	4	8	地文航法	
4	6	4		5	着離岸作業	
2	5	3	4	5	潮汐	
2	6	3	4	7	灯火	
2	6	3	4	2	当直	当直
3	5			8	見張りの報告	レーダーの使用法
6	6	3	4	7	波、風、うねりなど基本的なこと	
4	6	2	3	8		各機器の重要性と性質
4	6	3	4	8		舵
	6	3	4	5		計器取り扱い
6	6	3	4	7		計器の使い方
2	6	3	4	5		計器の使い方
2	5			8		船橋でやること
2	6	3	4	5		使い方
1	5	3	4	2		レーダ
6	6	3	4	6		レーダ
4	5	4		7		レーダ、無線機

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(2/8)

①中学校、②、高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩、その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5.海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

1. 航法					2. 航海計器	
3	6	3	4	5		レーダー扱い
5	6	1	4	8		レーダー扱い
2	6	3	4	8		レーダーなどの使用法
3	5	3	4	1		レーダ使用法
6	7	1				レーダ等
5	6	3	4	8		レーダの使用法
4	6	3	4	10		レーダの使い方
4	5	3		1		レーダの使い方など

3. 運用					4. 海洋気象	
5	6	3	4	3	運用の基本	海事法規の基本
3	6	3	8	5	各部の名称	
4	6	3	4	8	各部名称	天気予報
2	5	3	4	5	全て	
5	5	3		7	船員に必要な知識	
5	6	1	4	8	船体各部名称	
2	6	3	4	8	船体各部名称	
3	6	3	4	8	船体か久米師匠	
2	5	3	4	5	船体構造	天気図
4	6	3	4	8	船体構造	
6	5	3	4	7	船体構造	
	5	3	4	8	船体構造	
1	5	2		8	船体構造等	気象の仕組み
4	6	2	3	8	船体の構造	
3	5	3	4	8	船体の構造など	
2	6	3	4	8	船体の部位	
4	6	3	4	8	船体の名称	
5	5	4		7	船体名称	
2	5	3	4	3	操船全般	
6	6	3		1	ドラフト計算	
1	5	3	4	2	船の構造	
5	6	2	3	8		一般的基礎知識
6	6	3	4	7		気圧など
6	5	1		8		気象全般
5	6	3	4	7		気象のこと
4	6	3	4	8		気象の見方
3	5	3	4	7		基本知識
6	6	3	4	2		霧とかの気象
4	5	4		7		荒天対策、日常動向
3	6	3		8		台風関連
4	6	3	4	10		天気図
6	6	3	4	1		天気図
	6	3	4	5		天気図、気圧配置
1	5	3		5		天気図、風向・風力
3	6	3	4	1		天気図の見方
6	6	3	4	5		天気図の見方
3	6	3	4	1		天候の変化による見張り強化

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(3/8)

①中学校、②高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5.海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

5. 海事法規

6. 海運実務

3	6	3	4	8	3法	
6	5	3	4	7	3法	
1	9	3	4	5	海域の航法など	
	5	3	4	8	海交法	
6	6	3	4	7	海上交通3法	
5	5	1	4	7	海上交通三法	
3	6	3	4	6	海上交通法	
3	6	3	4	5	海上衝突予防法	
4	5	3	4	7	各種海域の規則	
6	6	1	4	10	各種航海法規	
2	6	3	4	8	狭水道の航法	
1	5	2		8	交通法	
3	5	3	4	1	航法	
5	6	3	4	7	航法の基本	
3	6	3	4	1	航路の法規	
2	6	3	4	1	航路の法規	
2	6	3	4	8	避航法	
3	5	3	4	1	様々な法律	
6	6	3	4	1	衝突予防法	
2	6	3	4	5	衝突予防法・交通安全法・港則法	
2	5	3	4	1	衝突予防法等の基礎	
2	5	3	4	5	全て	内航タンカーの概要
6	6	3	4	8	全体的に	
2	6	3	4	2	船舶安全法	
4	6	3	4	10	全部	
5	6	1	4	8	灯火	
4	6	3	4	7	特定航路の航法	
6	6	3	4	1	避航船、保持船、見合い関係	
6	6	3		1	法規	
3	6	3	4	5	法規	
3	6	3		5	法規内容	
3	6	3	4	8	法律	
3	6	3	4	8	見合い関係	
4	6	3	4	8	港・航路のルール	
1	5	3		5	横切り・追い越し・行き会い	
2	5	3	4	5		法律

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(4/8)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

7. 海事英語

8. 情報技術

5	5	3	4	7	VHF	
	6	3	4	5	VHFに関する英会話	
1	5	3		5	英語でのVHF交信	
5	5	3		7	外船とのVHFの英語	
4	6	3	4	7	外船との交信	
	5	3	4	1		エンジンの構造
2	6	3	4	2		書類作成
3	6	3	4	8		デスクワーク等
3	5	3	4	7		パソコン
4	5	3	4	7		パソコン扱い
5	5	3	4	7		パソコン処理
6	5	3	4	7		パソコンでの書類作成
2	5	3	4	1		ワード。エクセル等の使用法

9. 船用機関

10. 機械工作

6	6	4		7	エンジンの構造	工具の名称
6	6	3	4	5	エンジンの仕組み	工具の名称・使用法
4	6	4		5	機関整備	
5	6	4		8	機関の基礎	各種工具の取り扱い
6	6	3	4	2	機関の基礎知識	
5	6	3	4	7	機関のこと	
3	6	3	4	6	機関の仕組み	工具、機器、部品の名称
3	5	3	4	4	機関の仕組み	工具の名称使用法
4	6	3	4	8	機関の仕組み	
6	6	1	4	10	機関の役割と連動	
2	5	3	4	5	機器の構造	
2	6	4		8	機器の役割	道具の名称
4	6	2	3	8	基本知識全般	全般
2	6	4		5	構造など	
3	6	3	4	10	構造の理解	
2	6	3	4	8	作業知識	
3	6	3	4	5	主機のしくみ	
2	5	3	4	10	全体	
2	6	3	4	8	全体的	
6	5	3	4	7	全般	
6	5	3	4	7	ディーゼル機関	
5	5	3	4	7	ディーゼル機関の基礎	
3	6	4		2	動作原理	
6	6	3	4	7	船用機関の構造	
5	5	3	4	3	部品名称、基礎知識	基本的な工具の名称
2	6	3	4	2	弁や荷役機器整備	
3	5	4		8		アーク・ガス溶接
3	5	4		1		各所の補修など
3	6	3	4	8		ガス、アーク溶接
2	5	3	4	1		ガス溶接等

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(5/8)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

① 3級(航海)、② 3級(機関)、③ 2級航海、④ 5. 海技大学校、⑤ 4級(機関)、
⑥ 5級(機関)、⑦ 6級(航海)、⑧ 6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

9. 船用機関

10. 機械工作

	6	3	4	8		工具
	6	3	4	5		工具取り扱い
5	5	1	4	7		工具について
3	5	3	4	8		工具の扱い方など
6	6	3	4	7		工具の使い方
4	6	3	4	8		工具の使い方
4	6	3	4	8		工具の名前や使い方
1	9	3	4	5		工具の名称 (以下、同様12名)
1	5	6		7		溶接
5	5	3	4	1		ロープワーク

11. 海上実習

12. 航海実技

3	6	3	4	8	S/B作業、操船	ロープワーク
3	6	3	4	8	アンカー、ロープワーク	ロープワーク
1	9	3	4	5	位置入れ、操舵、テレグラフ操作	ロープワーク
	6	3	4	5	航海技術	
2	6	3	4	7	航海中の当直	
4	6	3	4	8	航海当直	ロープワーク
	5	3	4	8	小型船操船	ロープワーク
5	6	3	4	7	実技的なこと	
3	6	3	4	8	実際に船を動かしたこと	
6	6	3	4	7	実際の操作	ロープワーク
3	6	3	4	1	実習船での作業	ロープワーク
3	5			8	実践力	ロープワーク
1	5	3	4	2	出入港の流れ	
4	5	3	4	1	出入港の流れ	
2	5			8	船首・船尾でやること	
3	6	3	4	7	船上作業	
2	6	3	4	5	船内生活	
4	6	2	3	8	全般	全般
4	5	3	4	7	操船	ロープワーク
5	6	1		8	操船	ロープワーク
3	6	3	4	1	操船	
2	5	3	4	5	操舵	ロープワーク等
2	6	3	4	5	操舵号令	ロープワーク
3	6	3	4	6	離着岸作業安全	
5	6	3	4	1	ロープ結び	
2	6	3	4	2	ロープワーク (以下、同様8名)	ロープワーク
4	6	3	4	10	ロープワーク	ロープワーク
4	5	3	4	7	ロープワーク等船内作業	
5	5	3	4	1	ログブック	
5	5	1	4	7		アイズプライス
5	6	3	4	7		乗船実習
6	6	3		1		船舶整備
4	5	3	4	7		操船法

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(6/8)

①中学校、②高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5.海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

11. 海上実習

12. 航海実技

6	6	3	4	1		入出港S/B等
2	5	3	4	1		練習船等での航海のの練習
6	6	3	4	1		ロープ等
3	6	3	8	5		ロープのアイズプライス
4	6	3	4	5		ロープの刺し方
2	6	3	4	8		ロープの結び方
3	6	3	4	5		ロープワーク(以下、同様27名)
6	6	3	4	7		ロープワーク、錆うち
5	6	1	4	8		ロープワーク、ペンキ
2	5	3	4	5		ロープワークエンジンきつと
5	5			4		ワイヤー、ロープの刺し方

13. 機関実技

14. 総合訓練

2	5	3	4	5		アーク溶接
2	5	3	4	3		アーク溶接
2	5	3	4	10		アーク溶接等
5	6	4		8		各種工具の取り扱い
4	5	3	4	5		機関開放実習
6	6	3	4	7		機関の構造理解
3	6	3	4	6		機関の仕組み
3	5	4		1		機関の整備
4	5	3	4	5		工具の使用
3	6	3	4	8		工具の使用法
6	5	3	4	7		小型円銀の分解・組立
3	5	4		8		清浄機、空圧機
4	6	3	4	10		整備作業
4	6	2	3	8		全般
3	5	4		5		全部
4	5	3	4	7		燃料弁の整備作業
5	5	3	4	3		溶接
5	3	4		1		溶接
3	5	3	4	7		溶接
3	6	3	4	8		溶接
6	5	2		8		溶接
4	6	3	4	8		人命、船体保安

15. 電気工学

16. その他

4	6	2	3	8		学校以上の知識
3	5	4		8		シーケンス制御
5	6	3	4	7		電動工具の修理
2	5	3	4	5		結線図
6	6	3	4	1		計測機器の使用法
3	6	3	4	1		シーケンス
6	6	4		7		シーケンス
5	6	1	4	8		センサ、スイッチの仕組み

内容の詳細

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(7/8)

①中学校、② 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①航海②機関③運用④実務⑤その他

4	6	3	4	8	1	運用：船体・船内の名称・しくみ、操舵号令等、海洋気象：風向・風力を予想しての係船、台風避難のタイミング、航海実技：ロープの結び方、三つ編み・四つ編ロープの愛スプラライス等
5	5	1	4	7	1	海上交通三法は基本だと思う。ルールを知らないと航海することはできない。工具の名称を知らないと仕事にならない。ホーサー、ワイヤー等のアイスプライス。
4	6	3	4	1	1	海図はすべての基本になるので読む、使うがシッカリやれるようにしてよかった
5	6	3	4	7	1	基本がわかりある程度の避航はできる
6	6	3	4	1	1	甲板部の職に就くならロープ、ワイヤーロープなどのアイのさし方はもっと授業を増やしてウ良いと思った。
2	5	3	4	5	1	全て役だったが特に海運実務、海上実習、航海実技で操舵やロープワークなど応用できました。
2	6	3	4	5	1	底質や周囲の状況を的確に判断するために海図図式の理解は役立っています、夜間の船位確認のために東大は重要なので糖質の理解も同様。偽像の知識のおかげで無用の混乱が防げた。航海当直に最も基本となる考えだと思っています。知っていることが大前提で船長は号令を出すので、知らないと仕事にならない知識でした。
	5			1	1	灯火や灯浮標などが見て分かる
3	6	3		10	1	当直に役立つ
2	6	3	4	7	1	夜航海時に灯火が大変役立った
2	6	3	4	1	1	ロープワーク、天気図の味方、灯火の味方、航路航行時のルール
5	5	3	4	3	2	アーク溶接、ガス溶接は高専、水産は全くスキルのない状態で入社してくるが、海上技術学校は基本をしっかりとやっていることで役に立ちました。
5	6	3	4	7	2	アース等の修理
2	6	3	4	2	2	機器の大まかな構造、役割について知ることによって役立った部分はあります。
3	6	3	4	8	2	工具の使い方を学び現場ですぐにできた
1	5	3	4	2	2	工具の名称を知っておくと得する
	6	3	4	8	2	仕事内容は後からどうにかなるが工具の知識がないと困る
5	6	4		5	2	電気的なトラブルが発生した際に図面の読み方あるとご不具合箇所の特定に役立つ
3	6	3	4	7	3	海上での危険性や不便さを経験し心構えができた
4	6	3	4	8	3	火災や海難時の人命、船体を守るすべを学んだ
6	6	3	4	7	3	巨大船の警戒を要しマーチスとのやり取りに直ぐに対応できた。機関の構造知識で故障やトラブルに対応できた。
	6	3	4	5	3	航海中に外国船にVHFで呼び出され更新したとき学校や練習船で習った通りで自分の意思を伝えることができた
2	6	3	4	3	3	航路航行時、機関整備など
4	5	3	4	7	3	すべての書類の処理をパソコンでやっていることでエクセル等の作成は役立っている
4	5	2		1	3	総合訓練は就職してあまりしないが、学校でやっていたことがそのまま反映されている
2	6	3	4	2	3	できて当たり前のように「アイ」を作るように言われる
	6	3	4	5	3	ロープワークは同じなので役立ちまし茶
4	6	3	4	8	3	ロープワークは大事でもっと勉強すればよかった
3	6	3	4	5	4	頭で覚えるよりも、体で覚える実技、実習の方が社会に出て、役に立ったと思う。
3	5	3	4	8	4	受けた授業内容が現在行っている作業などに深くかかわっている

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(8/8)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

① 3級(航海)、② 3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤ 4級(機関)、
⑥ 5級(機関)、⑦ 6級(航海)、⑧ 6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①航海②機関③運用④実務⑤その他

6	6	3	4	5	4	航法、計器、運用、気象、法規、機関、工作、実習、実技ができなければ仕事にならない
3	5	4		8	4	実技は良く役立ちます
2	6	3	4	5	4	実際に海に出て船舶間の関係等を体験できた
3	6	3	4	1	4	実際に海上で実習し達ことが「役立った
4	6	3	4	8	4	実際に働いてから座学を勉強したら理解がより深まった
5	6	3		7	4	実際に見て学ぶこと
2	5	3	4	5	4	実際にやらないとわからない
2	6	3	4	1	4	実際にやらないとわからないので実習が一番役立った
6	6	3	4	1	4	実習船に乗るのが良い
1	5			8	4	実習や実技、訓練をとして実際の現場での動きをイメージできたり、他にも仕事で責任をもって取り組むことができた、情報技術ではPC作業の基礎を教わられてのと教材もあるので事務作業に役立つと思う。
6	6	3	4	5	4	操船する機会が多いため
5	5	3		7	4	特に実技実習が役立った
3	6	3	4	7	4	法規の知識、景気の基本操作を学び、すぐに仕事をする事ができた、
4	6	3	4	2	4	法規を知らないと走れない
4	5	3	4	1	4	法律と実際航路を走ったこと
2	6	3	4	7	5	苦手と思ったところも丁寧に教えてくれた
4	6	3	4	10	5	乗組員が少ない船だと甲板部も機関部の手伝いすることがある
4	6	3	4	8	5	役立つものはほとんどない、2年間では無理がある

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(1/6)

①中学校、②.高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学院校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩.その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5.海技大学院校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

1. 航法

2. 航海計器

2	5	3	4	1	全体的に	
2	5	3	4	5	天文航法	
	5	3	4	8		計器取り扱い
2	6	3	4	5		最新計器
4	6	3	4	8		レーダ

3. 運用

4. 海洋気象

2	5	3	4	3	船体設備・構造	
5	5	4		7	船体名称	
3	6	3	4	1	船舶のGMの重要性	
2	6	3	4	7	操船	
5	5	3	4	1	積み付けなど	
3	6	3	4	8	二軸船の操船法	
4	6	3	4	8	荷役、トリム	
5	6	3	4	7		全般
6	6	3	4	6		全部
4	6	3	4	8		天気

5. 海事法規

6. 海運実務

2	5	3	4	3	海上交通安全法	
6	6	3	4	6	港則法	
3	6	3	4	1	航路の法規	
2	5	3	4	1	国際信号旗等	
1	5	3		5	全般	
4	6	3	4	8	労安則	

7. 海事英語

8. 情報技術

2	6	3	4	2	VHF での対応	エクセル
6	6	3	4	5	VHFでのやり取り	
3	6	3	4	5	VHFでリスニングが必要	
4	6	3		3	VHF等、リスニングも重要	
6	7	1			VHF等への対応	
3	6	3	4	1	英会話	
3	6	3	4	5	英会話	
4	5	2		1	英語の取説	
4	5	3		1	外国人とのVHFでの通信	
6	6	3	4	7	外国船とのVHF通信	
6	6	3		1	外人からVHFで呼び出される	
5	5	3		7	外船と対応できるレベル	
6	6	3	4	1	外船との交信	
3	6	3	4	5	外船の言葉を聞き取れない	
4	6	3	4	7	実用能力	
6	6	3	4	8	授業時間が少ない	
	5	3	4	8	全般	ワード、エクセル
5	5	3	4	7	日常英会話	
6	6	3	4	7	外船との交信	
5	5	1	4	7		文書作成等
2	6	3	4	8		ワープロなど使用法

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(2/6)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤4級(機関)、

⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、

⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

9. 舶用機関

10. 機械工作

5	5	3	4	7	Zペラ	
2	5	3	4	10	油清浄機等	旋盤等
6	6	3	4	6	機器全般	
5	6	3	4	7	教科書が古い	溶接
2	6	4		5	構造	
4	5	3	4	7	実物を見ないと理解するのが難しい	
4	6	3	4	8	トラブルシューティング	
3	6	3	4	8	ボイラー運用知識	
1	5	3		5		工具の名称
4	5	2		1		ものづくり

11. 海上実習

12. 航海実技

2	6	3	4	1	錨作業、船体整備	ロープワーク
2	6	3	4	2	行き会い状況	
4	5	3	4	7	ウインチ等係船機器取り扱い	エイトロープ
4	6	3	4	8	危険動作	
6	6	3	4	6	現場的でない	よく使うロープワークをもっと多く
1	5	2		8	甲板機器の操作法	実技
2	5	3	4	5	錆うち、ペン塗り	
6	5	1		8	実習時間を多くとる	
3	5	3	4	8	狭水道実習	
3	6	3	4	5	操船技術	
4	6	3	4	5	操船経験の少なさ	
3	6	3		5	着離岸作業	ロープワーク
2	6	3	4	5	当直	ロープワーク
4	6	3	4	8	塗装、ドック	
4	6	3	4	8	内容がうすい	
6	5	3	4	7	入出港スタンバイ作業、航海中の作業	ロープワーク
3	6	3	4	1	ヒービングラインやアンカー実習	整備作業、ロープワーク
3	6	3	4	8	もっと実習を多く	
4	6	3	4	1	ロープワーク	
4	6	3	4	2		VHFでの交信技術
5	6	3	4	3		クロスロープ
3	6	3	4	1		錆うち、ペンキの知識
1	9	3	4	5		実技全般
2	6	3	4	5		ドック作業
3	6	3		8		ペンキ塗り
	6	3	4	5		ロープワーク (以下、同様9名)

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(3/6)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

① 3級(航海)、② 3級(機関)、③ 2級航海、④ 5. 海技大学校、⑤ 4級(機関)、
⑥ 5級(機関)、⑦ 6級(航海)、⑧ 6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

13. 機関実技

14. 総合訓練

2	6	3	4	7	開放実習	
3	6	3	4	8	機器の分解・保守点検	
4	6	4		5	緊急時における対応	
2	6	3	4	2	工具取り扱い	
2	5	3	4	5	実技	
6	6	3	4	5	実際に後組員が行う作業	
5	6	2	3	8	整備	
2	6	3	4	5	整備作業	
4	6	3	4	8	整備点検	
2	6	3	4	8	全体的	
5	6	3	4	7	人数が多い	
5	6	3	4	1	メンテナンス	
2	6	4		5	溶接	
5	5	3	4	3	シーケンス	
6	6	3	4	8	実技が少ない	
5	6	4		8	実際の回路図の読み取り	
3	5	3	4	4	全般	
3	6	3	4	8	電気・電子知識	
4	5	3	4	5	電気回路	
4	5	2		1	電気トラブルが多い	
4	5	3	4	7	配電盤の扱い	

内容の詳細

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(4/6)

①中学校、②.高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学院校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩.その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5.海技大学院校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①航海②機関③運用④実務⑤その他

2	6	3	4	7	1	エンジンを使った時の船の動き
3	6	3	4	8	1	海上実習ではサブワッチの時間が短くもう少し増やしてほしい
5	6	2	3	8	1	解放整備実習
	5			1	1	計器類のことがよく分からない
5	6	3	6	8	1	操船は小型船でもっと連取させた方が良い
2	5	3	4	5	1	天文航法は時間が足りずに不完全燃焼でした
1	5	3	4	2	1	船の法規をくわしく教えた方が良かった。
6	6	3	4	1	1	本船の場合499トンの船でも波高5～6mで航行することがある、気象を即座に読み、行動することが大切と学んだ。
2	6	3	4	1	1	ロープワーク、天気図の味方・気象全般、灯火の味方、航路航行時のルール
4	6	4		8	2	機械工作、機関実技ともに全然不足している、全体的に実技を増やさないと就職してもなにもかも一からのスタートになる
4	6	3	4	8	2	機械工作と機関実務は実際の作業に非常に大切な項目であるため
4	6	3	4	2	2	機関実技は役立った多と感じた分もっとやりたかった
6	6	3	4	7	2	機関部として就職し、もっと深い内容を学びたかった、海上実習ももっと回数を増やし、触って覚えることができるようにしてほしい
2	6	3	4	2	2	船内工作するうえで、その方法や技術をもっと学んだ方が良かったと感じた
3	6	3	4	8	2	テスター、メガーの使い方、アース除去のやり方など実際に実習するべきで、現場で使えないものは学ぶ必要ない
2	6	3	4	8	2	電気系統が以上になったときの対応、必要な部品
3	6	3	4	6	2	電気に関する故障が多く、電気推進器も増えるのでもっと勉強と実習がしたかった
5	6	3	4	7	2	溶接の時間が少なすぎる
3	6	3	4	1	3	荷役・バラスト
2	6	3	4	8	3	ペンキ塗り
2	6	3	4	8	3	ペンキ塗り、整備作業
3	6	3	4	1	3	VHFで使う英語
6	6	3	4	5	3	外船も多いのでコミュニケーション力をもっとつけた方が良かった
4	6	3	4	8	3	学生の頃想像していたより外船との発信が多いので実際に使う海事英語をもっとまなべたらと思いました
	6	3	4	5	3	学校ではローラー塗りしかしていなかったために怒られた、刷毛塗りなど塗装の基礎も教育した方が良かったと思う
4	5	3	4	1	3	気象・海象や船の走り方
6	6	3	4	5	3	荷役作業に関する事、各船種毎の荷役の流れ等を授業で習っておけば就職してから力になると思う
3	6	3	4	1	3	船で使うような太いロープで実習、スパイキの使用法など。浦賀水道など後方の機あつていところについてもっと詳しく教えてもらいたかった
4	6	3	4	2	3	ロープワークの時間を増やした方が良かった
2	6	3	4	2	3	ワイヤー扱い

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(5/6)

①中学校、②.高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩.その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5.海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①航海②機関③運用④実務⑤その他

3	6	3	8	5	4	各商船の仕事内容
6	6	3	4	1	4	体で覚えるのが良い
3	5	3		2	4	座学も必要だが、身に作ることとなれば実習、実技だと思う！
6	6	3	4	1	4	船の種類や内容
6	6	3	4	7	4	A I S搭載で外船との交信が増えておるため英語に力を入れるべき
5	5	1	4	7	4	PCで文書を作成することが多くなっているので、エクセル、ワード等を使えないのは仕事にならない。報告書を書くスキルを必要です。
4	6	3	4	8	4	頭で考えなくと良いほどロープワークを身に付ける必要あると感じた
4	6	3	4	7	4	英語は日常会話では使わない言い回しや決まり文句など専門用語が多くその学習が不足
4	6	3	4	7	4	学校でのシミュレータなどを使って航海の実習をする時、船橋に複数人いることを前提で練習しているが、実際は内航船は一人ワッチなので一人ワッチの練習をするべきだと思う。
2	6	3	4	7	4	カリキュラム上仕方ないと思ったが、もう少し実技、実習の時間を増やしてほしい
6	5	2		8	4	机上と現場のギャップが大きい、船・機長は3級を要するので学校でバックアップしてほしい
2	6	3	4	5	4	教科書の計器の船は少ない、歴史を知るより使い方。ロープワークばかりでなく錆うちなど実践的なこと
5	6	4		8	4	訓練所で行う実技系の授業と実際に現場で行う仕事との違いが大きすぎる
5	6	3	4	7	4	現場と座学ではまったく違う
4	5	3	4	7	4	航行中、学校では法規に沿って決めるが、そんなこと言っていられない事しかない。いかに最短コースを行けるかという感じも体に覚えさせた方が良い。電氣的なことは学校の授業では全く足りない。
4	6	3	4	8	4	最初に現場を見てから座学にひればスムーズに知識を覚えられる
3	6	3	4	10	4	雑用がほとんどで工具の名称と使用法がわからないと仕事にならない
	5	3	4	8	4	試験問題が多く実践が少ないと感じた
4	6	3	4	5	4	実技の時間が少なすぎる
3	5	4		1	4	実技の時間を多く取り入れる
4	6	4		5	4	実際の機器の故障等をいろいろな場面で体験してみたかった
3	6	3	4	5	4	実習が一番大事と思うが、もっと強めに指導するのも有りかと、でも、実習と仕事は全く違う。
3	6	3	4	7	4	実践的な時間を多くする
2	6	3	4	3	4	就職してすぐ使える技術
5	5	3		7	4	全て不足しているとは言わないが、実施に働くと違うことが多く、大変
5	5	4		7	4	船体名称の知識はドックに行くときや実際に整備に当たるときにわかっていた方が作業がスムーズに行く
3	6	3		10	4	もっと海上実習を行うべき
2	6	3	4	1	4	もっと回数を増やした方が良い

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(6/6)

①中学校、②.高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩.その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5.海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①航海②機関③運用④実務⑤その他

4	6	3	4	8	5	船内生活
2	6	3	4	2	5	掃除
2	6	3	4	5	5	調理実習
3	6	3	4	8	5	調理実習
5	5			4	5	忍耐力
4	6	3	4	8	5	マナー
3	5	3	4	8	5	海上実習は生徒教によっては教えきれないところがある、人数が多いほどサボる生徒がいるが先生も把握しきれないと思う
5	6	1	4	1	5	学校で勉強して知識を得ることは大事だが、入社して一から勉強する取り組みが大事
4	6	2	3	8	5	現在ほとんどの船が職員化しているにも関わらず、授業内容が部員レベルでしかなく、又、2年だけでは必要な知識が得られない。機関も内容も不十分過ぎる。
5	6	3	4	7	5	仕事に就いて、全てにおいて勉強しなおさなければいけないと思った。
3	5	4		8	5	全体的に足りない
4	6	3	4	8	5	人が多くてあまり当直ができなかった、訓練所ではあまりレーダーを見てダメだったので船に乗ってから覚えた

問14-1 役だった選択実習 (航海系)

- ①20歳未満、②20~21歳、③22~23歳、④26~27歳、
⑤28~29歳

- ①中学校②、高等学校③水産高校④水産高校専攻科
⑤海上技術学校⑥海上技術短大⑦海技大学校
⑧商船高専⑨商船系大学、⑩、その他
①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、
④5. 海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)
①貨物船②セメント専用船③自動車専用船
④砂利・石材等専用船⑤油送船⑥特殊タンク船
⑦タグボート・曳船⑧旅客船・フェリー⑨漁船⑩その

4	6	3		3	BRM	2	6	3	4	2	単独航海当直
3	8	2		8	MO当直	3	8	1		7	単独航海当直
5	6	1	4	8	アイズプライス、投錨・抜錨、クレーン	2	6	3	4	1	単独航海当直
6	7	1		3	揚投錨実習	2	6	3	4	8	単独航海当直
6	10	1		6	揚投錨実習 (Anchor Up から let Go まで行う実習)	2	6	3	4	8	単独航海当直
4	6	3	4	8	狭水道見学、VHF取り扱い	2	6	3	4	7	単独航海当直
2	6	3	4	5	係船策、ワイヤー取り扱い実習	5	8	1		6	単独航海当直
3	8	1		7	係留索	4	6	3	4	7	単独航海当直
3	6	3	4	7	係留索	2	8	1		1	単独航海当直
	6	3	4	5	係留索	2	5	3	4	5	単独航海当直、機関開放実習
4	5	3	4	5	係留索	3	6	3	4	5	単独航海当直、操船シミュレー
2	5	3	4	2	係留索、ワイヤー取り扱い	3	6	3	4	7	単独航海当直、操船シミュレー
4	7	2		8	係留索、ワイヤー取り扱い、機器開放実	4	6	3	4	8	単独航海当直、操船シミュレー
6	6	3	4	7	係留索・ワイヤー実習	4	6	3	4	8	単独効果当直
3	6	3	4	8	航海計画	4	6	3	4	5	単独効果当直
2	6	3	4	5	航海当直	2	6	3	4	5	単独当直
2	6	3	4	5	航海当直	2	6	3	4	5	単独当直
3	6	3	4	1	航海当直	4	6	3	4	8	通常の航海当直 (回数重ねる)
6	6	3	4	1	航海当直 (見張り、航海計器)	4	6	3	4	1	当直 (マーチス応答など)
6	6	1	4	10	航海当直、ロープワーク		5			1	当直中、一人で針路や避け航動
5	5	3		7	航海当直、ロープワーク	3	6	3	4	7	夜航海
3	6	3	4	1	錆うち、ホサーのアイ入れ、	3	6	3		8	レーダARPAによる実習
6	9	1		8	操船実習	2	6	3	4	1	ロープワーク
5	7	1		5	操船シミュレータ	2	6	3	4	7	ロープワーク
6	6	3	4	5	操船シミュレータ	4	5	3	4	1	ロープワーク
4	5	3		1	操船シミュレータ実習	4	6	4		8	ロープワーク
3	6	3	4	5	操船シミュレータ実習	3	8	1		5	ロープワーク
6	7	1			操船シミュレータ実習	5	6	3		8	ロープワーク
5	6	3	4	1	操船シミュレータ実習	4	6	3	4	5	ロープワーク、ポンプ開放実
4	8	1		8	操船シミュレータ実習	2	5	3	4	1	ロープワーク・ピストン抜き出
6	6	3	4	1	操船シミュレータ実習	4	6	3	4	8	ロープワーク実習
2	5	3	4	5	操船シミュレータ実習	6	8	1		2	ワイヤー取り扱い実習、操船シ
1	5	3		5	操船シミュレータ実習						
4	6	3	4	8	操船シミュレータ実習						
6	6	3	4	5	操船シミュレータ実習、機器開放実習						
5	5	1	4	7	操船シミュレータ実習、係留実習、ワイ ヤー取り扱い実習						
6	6	3	4	6	単独航海登頂						
5	6	3	4	1	単独航海当直						
2	5	3	4	2	単独航海当直						
2	6	3	4	5	単独航海当直						
6	6	3	4	3	単独航海当直						
	6	3	4	5	単独航海当直						
2	6	3	4	5	単独航海当直						

問14-1 役だった選択実習 (機関係)

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、
⑤28～29歳

①中学校②. 高等学校③水産高校④水産高校専攻科
⑤海上技術学校⑥海上技術短大⑦海技大学校
⑧商船高専⑨商船系大学、⑩. その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、
④5. 海技大学校、⑤4級(機関)、
⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船②セメント専用船③自動車専用船
④砂利・石材等専用船⑤油送船⑥特殊タンク船
⑦タグボート・曳船⑧旅客船・フェリー⑨漁船⑩その
他

4	6	3	4	10	機関開放実習	3	6	3	4	8	清浄機解放整備、F O V整備圧力テスト
5	5	3	4	7	機関開放実習	2	6	3	4	2	清浄機の解放整備
2	6	3	4	3	機関開放実習	6	7			5	清浄機の開放点検
6	5	3	4	7	機関開放実習	2	6	3	4	8	配管図
2	6	3	4	7	機関開放実習	3	6	3	4	8	配管チェック
4	5	3	4	5	機関開放実習	6	8	2		8	配管調査
6	6	3	4	2	機関開放実習	3	5	4		8	配管調査
3	5	3	4	1	機関室見回り	6	6	2	3	8	配管調査
4	6	3	4	2	機関実務	6	6	4		7	配管調査、ロープワーク
5	6	4		8	機関発停作業、機関開放実習	2	6	3	4	5	発電機開放
4	6	3	4	8	機器開放実習	2	6	4		5	発電機開放、組み立て
6	6	3	4	8	機器開放実習	2	5	3	4	#	発電機の同期投入
6	6	3	4	1	機器開放実習	2	6	4		5	発電機ピストン抜き
3	6	3	4	1	機器開放実習	2	6	3	4	8	発電機並列運転
4	5	3	4	7	機器開放実習	4	8	2		8	ピストン抜き、機器開放実習
4	5	4		7	機器開放実習	6	9	2		5	プラント操作
2	6	3	4	8	機器開放実習	4	6	4		5	ポンプ解放整備、ドック研修
4	5	3	4	1	機器開放実習 (油清浄機)	5	8	2		6	ポンプ等の開放 (構造が実際に見れた)
2	6	3	4	8	サウンディングとタンクテーブルの見	5	7	2	3	8	ポンプの整備作業
3	6	3	4	8	主体当直、ポジション入れ		5	3	4	8	ディーゼル始動・停止、清浄機整備
2	5	3	4	5	ストレーナ掃除	3	6	3	4	8	工具取り扱い
3	5	3	4	4	清浄機開放	2	6	3	4	1	甲板機器取り扱い

問14-1 改善要する選択実習

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、

⑤28～29歳

①下子以以、同守子以、小生同以、小生同以等以件

⑤海上技術学校⑥海上技術短大⑦海技大学校

⑧商船高専⑨商船五大学 ⑩その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、

④5.海技大学校、⑤4級(機関)、

⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船②セメント専用船③自動車専用船

④砂利・石材等専用船⑤油送船⑥特殊タンク船

⑦タグボート・曳船⑧旅客船・フェリー⑨漁船⑩その

他

(航海系)

6	7	1			係留索	3	8	1	2	単独航海当直		
3	6	3	4	1	係留索	4	8	1	8	単独航海当直		
6	6	3	4	5	係留索、ワイヤー取り扱い	3	6	3	4	8	単独航海当直	
2	6	3	4	8	係留索、ワイヤー取り扱い	4	9	1	7	単独航海当直 (沿海でのい実習の方が実践的)		
4	6	3	4	7	係留索、ワイヤー取り扱い	2	6	3	4	2	単独航海当直 (時間が短い)	
5	6	3	4	7	係留索、ワイヤー取り扱い実習		6	3	4	5	単独航海当直 (帆船の不十分な公開設備では実施すべきでない)	
1	5	3		5	係留索・ワイヤー、ロープワーク	6	6	3	4	6	単独航海当直、係留索・ワイヤー取り扱い実習	
4	5	3	4	1	航海実習 (ロープ入れをしっかりと)	2	6	3	4	1	単独航海当直、操船シミュレータ実習	
4	6	3	4	2	航海実務	2	6	3	4	5	単独航海当直、福直2人レーダ1人見張り兼そうだが2人と記憶しているが、レーダと見張りを少なくしてもよい	
6	5	3		5	航海当直	3	6	3	4	5	単独航海当直。ワイヤー取り扱い、係留索	
5	8	1		2	航海当直	2	6	3	4	7	単独船橋当直	
6	6	3	4	1	航海当直 (ログブックの書き方)	2	5	3	4	2	単独当直	
6	6	3	4	1	荒天航海時の航海当直、夜間の単独当直		5	3	4	8	単独当直	
4	6	3	4	8	甲板機器操作、出入港作業、アンカー	6	6	3	4	7	天測	
2	6	3	4	5	サブワッチの引継ぎ	3	6	3	4	8	当直後退の余分な引き継ぎ	
							5	6	3	6	8	当直最後の暗記大会は非常に無駄だったと思われ、無意味に怒る士官やと学校で態度を変える士官がいるのは非常に残念でした。
3	6	3	4	8	船橋当直 (人数多く集中できない)	2	6	3	4	1	当直実習	
6	9	1		8	操船実習 (士官が口挟まず生徒に考えさせる)	5	6	1	4	8	当直実習	
4	6	4		5	操船シミュレータ実習		5	3	4	1	当直中の作業	
2	6	3	4	1	操船シミュレータ実習	4	6	3	4	8	当直引継ぎの面倒くささ	
4	6	3	4	1	操船シミュレータ実習	2	6	3	4	2	ロープワーク	
5	5	3	4	7	操船シミュレータ実習前に、授業でその海域の海図を学ぶ	3	6	3	4	7	ロープワーク	
2	6	3	4	2	暖機作業	6	6	3	4	5	ワイヤー実習	
3	6	3	4	5	単独航海実習	3	6	3	4	5	ワイヤー等ロープ全般	
4	5	3		1	単独航海当直	3	8	1	7	ワイヤー取り扱い		
4	5	3	4	7	単独航海当直	3	8	1	7	ワイヤー取り扱い実習		
6	8	1		2	単独航海当直							

(機関系)

4	6	3	4	8	機関開放実習	4	6	3	4	1	機関開放実習
6	6	1	4	10	機関当直人数が多く役割不明瞭	2	6	3	4	8	機関開放整備
3	6	3	4	8	機関開放組み立て実習	4	6	3	4	1	計測機器等の実験
4	6	3	4	8	機関開放実習	3	8	2	8	清浄機解放整備を多く	
6	9	2		5	機関開放実習	3	6	3	4	8	テスター、メガ、電気回路図
5	6	3	4	1	機関開放実習	3	5	4	8	発電機・主機・ボイラ・油水分離機などの構造	
4	6	2	3	8	機関開放実習	2	5	3	4	#	ボイラーのバーナー掃除
3	6	3	4	8	機関開放実習	6	8	2	8	ポンプ等、機関開放実習	

問No15 海技教育に関する自由記述

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(1/5)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤4級(機関)、⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①学校教育、②練習船教育・訓練、③個別教科、④実践教育、⑤就職、⑥その他

6	10	1		6	1	GMDSS機器 (INM や MF/HF) に関して、実習が不足しているように感じます
5	6	3	4	8	1	学生時代にそんなに覚えられません、働いて実際に機器に触れて覚えていくと思います。座学でまともに理解できる学生はなかなかいないと思う、座学より実習を。
6	6	3	4	7	1	学生時代に学んだことで忘れていることが多く、もう少し絞って必要最小限を繰り返し教える方が役立つ。
3	6	3	4	5	1	座学も大事だと思うが、操船、ロープワーク等、社会に出て必要なことをもう少しメインにあげてもいいと思う。学生、個人個人の船員に対する意識の向上が大切。
4	6	4		5	1	知識を与えるという形ではいまのままでよいと思います。しかし現場で実際に行動できるかは、まだわからない点が多い分、遅くなりがちなどところがあるので、一人でどれくらいできるか試してみる場があればいいと感じました。
6	7	1		10	1	どうしてこいつに免状を出したのか？なぜこの程度の知識しかもたないやつを卒業させたのか疑問に思うような後輩が目立ち、とても残念です。人の命をあずかる仕事をするのだという意識を実習でもっと教え、そのためには技術も知識も必要だと認識させるべきだと思います。
5	6	3	4	7	1	内航船員になる教育をして頂いたがタグに就職して分からないことが多かった、もう少しタグの説明があっても良い。テストの暗記問題も必要だが実習やKYTを増やすとよいと思います。
4	7	2		8	1	勉強面も大事ですが実技実習がもっと増えればと思います。
4	5	3	4	5	1	免許を取得する資格勉強と現場ですぐに使える技術両立は難しいと思う。
4	5	2		1	2	1隻の船に実習生が多すぎる、できる人とできない人との差がわかるような教育をしてほしい。エンジンレブなどの実例をあげ、実施におこったときの対処法を教えてください。
2	6	3	4	1	2	意味のない実習が多い
4	5	4		7	2	俺も外国に行きたかった、燃料高騰の理由ならまだわかる、危険とか、心配とかなら、そもそも船に乗らずな、バカと思う
5	6	1	4	1	2	学生時代に乗船することで船の設備、船内生活に慣れるところは身に就くので、引き続きやっていくのが良いと思う。ただ、学生時代のことがすべてではないので、入社した際は、その環境に適應できる人材を育てることに重点を置き、練習船実習を行っていくと良いと思う
4	6	2	3	8	2	機関系の授業内容の改善、開放整備実習の取り入れ、教育機関の延長必須。特に電気、制御関係の授業と実習の強化。内航船で行うような作業の知識や実技をもっと取り入れた方がよいと思う。
6	6	3	4	7	2	機関の当直やワッチ時に暇になることが多かったので何か改善してあげてください。
6	9	9		6	2	教育内容自体は申し分なし、しかし最近訓練所の若手の離職者が異常に高く思われる。教官が減ることで、練習船共感ひとりひとりの船務、負担が大きくなっていないだろうか。悪循環に陥っているように見えるが、船員確保といいながら旧訓練所の人員確保にも大きな課題を感じる。もう少し処遇をよくすること、上の人間が人を育てる意識を以前より強く持つ必要があると思う。
3	6	3	4	8	2	教官の機嫌で対応を変えているように感じる。
4	9	1		8	2	航海時間を長くしてほしい (シングルワッチの時間が欲しい)、停泊訓練所を辞めてもらいたい。冬場の素足での掃除を辞めてもらいたい。けがしたり、赤くはれるなど負傷した人が数名いました。ワッチ交代の引き継ぎに関して、学生の時は長くて不要だと思っていましたが、会社での引き継ぎが短く感じられるため良かったと思います。訓練所引き継ぎができれば、どこでも通じると感じています。

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(2/5)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤4級(機関)、⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①学校教育、②練習船教育・訓練、③個別教科、④実践教育、⑤就職、⑥その他

6	8	1		2	2	航海当直は人数を減らして実施した方が良いと思う
5	5	3		7	2	航海より停泊が多く実践体験が少ないと感じたので航海多くしてはと思います。
4	6	3	4	4	2	航海をもっとした方が良いと思う。
6	6	3	4	1	2	航訓で実習したことが、最近になって、いろいろ思い出し、今の仕事に役立っています。これからもたくさんの実機に触れた教育をしていただくことを望んでいます。
6	5	2		8	2	高専に比べて実習に差がありすぎる、海校卒と見下されて苦勞することのないよう少しでも改善してほしい。
5	6	3	4	10	2	冊子の持ち物欄に不要なものが多すぎる、荷物は最小限というのに矛盾する、生徒にアンケートとかしてみたらどうか、書いてあって必要なもの不要なもの、書いてなくても必要で後で買ったものなど。
6	6	1	4	10	2	士官と部員とで発言が違うことが多くあり、実習生が面食らうケースが多い。
6	6	3	4	2	2	実際に社会に出たとき、職員だけでなく、部員の方が言われたことがすごくなるが多々ありました、あまり接点のない部員さんからの経験も大切です。
3	5	4		1	2	折角練習船に長期間乗船するので、なるべく会社の船に乗ったときに近い濃い実習になるように、一般的に就職策として多い小型の499～990のタンカーや貨物船の方を講師として実習を行った方が生徒の将来の為になると思います。現在多くおられる大型の外航船からの職員の方が教える船と内航船の中ではまったく異なった環境があるので、整頓は乗船実習の時にその生活を一番に教えた方が良いと思います。
5	6	3	4	5	2	瀬戸内海や狭水道など難しい航路を多く経験できたらと思います。
4	8	1		8	2	単独航海当直実習をもっとおおくしたほうがよいと思います。
3	6	3	4	8	2	当直交代の引継ぎは不要と思う、錆うちやペンキ塗り、ロープワークをもっとする、人との付き合い方
	6	3	4	5	2	投鐘まで学生にやらせるべき、仕事で乗船すると夜校時の投鐘は甲板員が行うため。単独航海当直の時間をもっと増やすべきと思う、内航船は一人または二人で当直に入らねば
4	8	1		8	2	内航船では帆船の知識は無意味、内航と外航を分けてするなど社会に向けた教育を考慮してほしい。
2	6	3	4	8	2	内航船でも大きさが違えば1日に配分できる仕事も変わってくる、内定が決まっているものには船の大きさ、電気推進などに分けて整備の練習をさせると良い、特にストレーナー類の掃除実習は徹底的に。
5	8	2		6	2	人数が多いので実習でも見学者者が出てしまう、実際に自分で行うのと見学では理解度が違うと思う。
4	6	3	4	8	2	帆船実習は必要でなかったが思い出になった、デッキの当直引継ぎでログコースやジャイロコースなど不必要なことまで覚えるのは無駄と思う、タンツを素足でやる必要がない
6	8	1		7	2	錨泊を減らしてほしい
6	6	3	4	3	2	費用面で難しいかもしれないが、出入港の回数を増やしてほしいと思った。
2	6	3	4	8	2	ペンキ塗り、ロープワーク、出入港作業等の一般作業をもっと実習に取り込むとよいと思います、そのなかでいろいろな工具や保護具等を使用して、実務に近い形での実習を多く取り入れると、卒業後に役立つと思います。
6	8	2		8	2	優しく指導してあげて欲しい
3	6	3	4	7	2	練習船実習では、上下関係をもう少し柔らかく行える環境を要望します、船内生活で圧迫感がある船が多いと思うので。

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(3/5)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

① 3級(航海)、② 3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤ 4級(機関)、
⑥ 5級(機関)、⑦ 6級(航海)、⑧ 6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①学校教育、②練習船教育・訓練、③個別教科、④実践教育、⑤就職、⑥その他

1	5			8	2	練習船実習は自分の人生に役立っており、船で接客あたっています。前向きに取り組んでいます。個々の学生を理解して頑張っている信頼していた先生が、もう1年いて欲しいという願いがかなわず転職となりました、もう少し現場の声を聞いてほしい。
3	6	3	4	10	2	練習船でテスト勉強で夜遅くまで勉強するので朝礼はなしにして欲しい。
2	6	4		5	2	練習船での実習は、すべて船に乗るうえで必要な知識や技術だったので、これから船に垂ろうとする方にしっかり学ばせてほしい。
2	6	3	4	2	2	練習船での勉強や実習も大事だが、人付き合いやコミュニケーションはもっと大雪と感じた。最低限身の回りの清掃は厳しくあった方がよい。学生時代に各船種のよいところばかりを聞いたが、悪いところも教えて欲しい(後で辞めるよりは良い)
2	6	3	4	5	2	練習船で走らせることしか身に就かず、もっと荷役など船について知りたかった。大卒の士官は部員などからしかられることもあり、どっちが実習生かわからない。多人数での実習で、特にエンジンなど、詳しいところまで理解できない。
3	8	2		1	2	練習船に乗船する人数が多ければ多いほど一人が行う作業が限られるので、人数が少なれば作業が増えるので良いと思う。
4	6	3	4	1	2	練習船のような大型の船だけでなく499GTクラスの小さな船も経験できていたらよかったです。
3	6	3	4	1	2	練習船は2人ワッチの練習で1人ワッチの船にはあまり向いていない。学校でロープワークやアイさしなど勉強したが、できる人と出来ない人の差が大きい、入社した後輩でできない人もいる。2年間でデッキとエンジンの2つを勉強しないといけないが、時間が少なく、もう少し基本を教えた方がよい。
6	4			8	2	練習船は人数も多いし時間も限られるので習得するのは難しい。
6	6	4		7	3	航海、機関関係なしにロープワークは教えた方がよい。
5	5	4		7	3	航海計器等の使い方は実践形式でしっかり覚えた方がよいと思います。
1	9	3	4	5	3	航海術はもちろんですが、錆うち、ペンキ塗りなど整備作業実習をもう少し取り入れた方が、実際職場に就いたときにすごく助かるのではないかと思います。
3	5	4		8	3	今後の若年船員の為にも知識と構造などをより厳しく行っていただければと思います
2	8	1		5	3	内航船向けの実習を行うのであれば着離れのホーサーの取り扱いにおいてスネークダウンではなくコイルダウンでの準備を取り入れるべきと思う。
1	5	3		5	3	まじでロープワークは大事
3	6	3		5	3	やっぱり掃除からだと思う。確かに実習も大事なことだけど、船員として、最初にもとめられるのは、そこだと思う。
2	8	1		1	3	ロープの取り扱い実習をもっとした方がよい
5	6	3	4	7	4	・ムダが多い、現場で役に立つことは何もない、もっと即戦力となる様なことを指導していけばよいと思う、元外航の職員等、人数が多い船にしか持ったことのない人間ばかりで、自分一人の船員としてのスキルははっきり言って低いと思う。
2	6	3	4	5	4	海技教育機構は「教育」としてはとても優れていると思うが、それゆえ「現場」とはどうしても異なるものがあると感じられる。私より優秀な学生がいましたが、数人は辞めたと聞きました。学生としての優秀さが現場に役立っているか疑問です。職場の人間関係や個人的事情かもしれませんが、私としては「教育」と「現場」との違いがあると感じるので、少しでも差が小さくなる授業や実習になればと切に願います。

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(4/5)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、
⑦海技大学院、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

① 3級(航海)、② 3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学院、⑤ 4級(機関)、
⑥ 5級(機関)、⑦ 6級(航海)、⑧ 6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、
⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①学校教育、②練習船教育・訓練、③個別教科、④実践教育、⑤就職、⑥その他

4	6	3	4	8	4	海交法適用海域での操船と操舵を多く、機関トラブルへの対応を取り入れて欲しい
6	6	3	4	7	4	機関部に関しては、解放整備をもっと沢山やりたかったです
6	9	2		5	4	機器開放実習では自分で図面を見て、工具をそろえるところから実習をしてほしい。教官の横で言われたとおりやるだけなら、あまり実習の意味がないと思う。
4	6	3	4	5	4	教育的にはいいと思う、ただ、本当に即戦力になる勉強及び実習があっても良いと思う。
5	6	4		8	4	訓練所と実際の仕事との違いが大きすぎるため全体的に意味のない授業が多い、もう少し実際の仕事に近い訓練内容にした方が良く考えます。
6	8			1	4	自身で作業計画を立て整備手順の立案、実施等の実質的な運航・整備を学べない
3	5	3		2	4	実習実技は本当に必要と思う。夜と昼の狭水道の高校は実習で必要(感覚が違うから少しでも身に付けさせる)。瀬戸内海を航海した方がよい。
3	8	1		2	4	実務と実習の違いに入社したころ戸惑いを感じた。実習で指導してくださった教官には出向の肩を除いて現場での経験が少ないのではないかと思った。もっと多く個々が考え行動する状況を作った方が良くと思う、実習生のころは指示されたことを支持されたとおりにすることが多かった。
5	8	1		2	4	社会に出て実際に当直に立てばいやでも勉強します、内航船の現状(当直体制等)を考慮した教育をお願いします。
2	5	3	4	5	4	社船実習をするか実習生に聞いてみた方が良く、自分は身に付けてことが多く良かったが、教える側になって大変さを感じている。練習船では質問したり学生同士相談できる面もあり、実習生の希望を聞くの良いと思います。
5	9	9		5	4	乗船して一番戸惑うのは荷役です、まったく知らないLPGのことを勉強するのが大変でした、社船からの出向者に説明があると良いのではないのでしょうか。
6	6	3	4	6	4	単独航海当直をもっと実践向きに改善して欲しい。乗船実習期間中に、一人一人に対する、海上で役に立つ知識を身に付けて、操船、航法をより詳しく勉強できたら良いと思います。
6	9	1		8	4	もっと実務に沿った実習を行うべき。教官を他船社へ研修に出すなどして教官のレベルを上げるべき、実際の商船を知らずに教育するなどありえない。新入社員で入ってくる者は実際に船舶運航を知らずに来るのでギャップが大きいようですすぐに退社する。航海計器も進化している中、教育方法が古すぎる。社船実習は会社にとっては人員を余計に配置しなければならないので、今後やめて頂きたい。
	5			1	4	もっと実用的な作業をやらせた方が良く思う
4	9	1		7	4	私の在籍する船では単独ワッチが当然であり、実習の際に学んだことだけでは困ることが多かった。主な狭水道の浅瀬や他の内航船との行き会いになれる為にも沿海での実習が望ましいと思われる。
	5	3	4	8	5	学校に入る時点で女子は就職が厳しいときちんと説明するべきだと思う、男子と同じに卒業しても会社が限られていたりするのを先輩の就活で知った。
4	4	2		7	5	船員教育の現場やネットでは船員の良い部分しか紹介されていない気がする、船員生活の特殊な環境の長所短所を教えるべきだと思います、逃げられず相談もできない環境で、順応できずに苦しんだ帆とを何人か知っています、教育機関は「就職させたら終わり」ではなく、生徒に正しい判断をさせるのも教育ではないのでしょうか。
	5	3		5	5	内航船のPRをもっとした方が良く、実際に働いている人の声を届けた方が良く、練習船の一般公開をただ見せるだけでなく、小さい子供や親に説明するなど、興味をもたせるPRをした方が良く思います。

①20歳未満、②20～21歳、③22～23歳、④26～27歳、⑤28～29歳

(5/5)

①中学校、②. 高等学校、③水産高校、④水産高校専攻科、⑤海上技術学校、⑥海上技術短大、⑦海技大学校、⑧商船高専9、⑨商船系大学、⑩. その他

①3級(航海)、②3級(機関)、③2級航海、④5. 海技大学校、⑤4級(機関)、⑥5級(機関)、⑦6級(航海)、⑧6級(機関)

①貨物船、②セメント専用船、③自動車専用船、④砂利・石材等専用船、⑤油送船、⑥特殊タンク船、⑦タグボート・曳船、⑧旅客船・フェリー、⑨漁船、⑩その他

①学校教育、②練習船教育・訓練、③個別教科、④実践教育、⑤就職、⑥その他

3	6	3	4	6	5	もっと広報活動をして、船の仕事に興味が向くような感じにして欲しい。(給料と休暇の長さが魅力とポスターに書いてあるが、それ以外にないか)
3	8	2			7	練習船の一般公開を増やし、一般の方々に知ってもらえる機会を増やすこと。高専出身者の船員が増えたら良いと思う。高専の認知度を上げて欲しい。
4	6	3	4	1	6	一番大事なのは人間関係だと思います。嫌いな人でも、ずっと一緒にいて(内航船)逃げ場がないので、ひととふれあう、そういう授業やクラブなどがあれば、社旗人になって役に立つのではないかと思います。
4	6	3	4	7	6	改善希望については業界全体や社会が環境や制度を整備する必要がある、外国人船員を雇用すれば日本人が失職するので雇用の保証や環境改善を希望します
5	6	3	4	3	6	技術面はもちろんの事、精神面においても学ぶことが多く、我慢、忍耐強さ等たくさんおことを教えて頂きました。
5	5	3	4	7	6	貴重品の管理、外国人と一緒に実習
3	6	3			8	仕事のやり方は、人それぞれ異なるので、これだと決めつけて教えない。少なくとも2、3種類の方法で教える。
4	3	6			8	食事、上司の考え方、船員の変った風習、収入、乗船に数の長さ
4	6	3	4	8	6	率直な意見ですが、帆船航海は協調性を養う面、思い出に残る面では有効ですが、将来に活かす面ではまったく意味のない航海。帆や各ロープの名前を憶えても使うことがない) 実際に仕事で乗船するような船で実習されると、なお望ましい。また厳しい士官に怒られないことを考えて本来の実習でやるべき、おべるべき事に集中できない事が多々あった。時代とニーズに合わせた教育をされたい。しかし練習船は絶対に必要な教育と考えるので、今後とも実りある実習を続けて欲しいと思います。
3	6	3	4	7	6	タグボートで4年、上司の指導を受けやる気と行動力を発揮しています、この気持ちは乗船実習で見に就いたと思います、ありがとうございました。
4	6	3	4	8	6	団体生活の大切さを学びました。今でもいい思い出です。ですが、実際に乗る社船とかけ離れているなどとも思います。
	6	3	4	8	6	どんな教育を受けても上司に恵まれなければ続けられないと思った。年齢の若い船員はやさしいが、年齢の高い船員は新人をつぶしにきている。とてもじゃないが続けられない。
4	6	3	4	8	6	どんな勉強しようとも、どんな実習しようとも、入社した会社の人間関係、自分の気持ち次第だと思います。
3	5	3	4	7	6	なぜ船員法ができたのか今一番思い返してほしい
3	5	3	4	7	6	船にはいろんな人がいる中で共に生活するので、個性的な人との接し方など
6	4	2			1	目上の人への言葉使い、一般常識などをしっかりと身に付けてきて欲しい。自分の仕事場にもうちょっと興味をもって欲しい。生徒に対して率直に認める心でいて欲しいです
2	6	3	4	2	6	もっと真剣に実習に取り組めばよかったと後悔しています。
4	6	3	4	2	6	練習船で不真面目だった分、会社に入ってもっと練習船でしっかり学習しておけばと航海したが、練習船は学生が勉強するには不向きだと思う、まず、一緒に学習する人が多すぎる、あれでは自分で触ってみることができない、次に錨泊が多すぎる、会社の船は走ってなんぼだと思う、しかし、船内生活を学ぶにはこの上ない機会と思う。